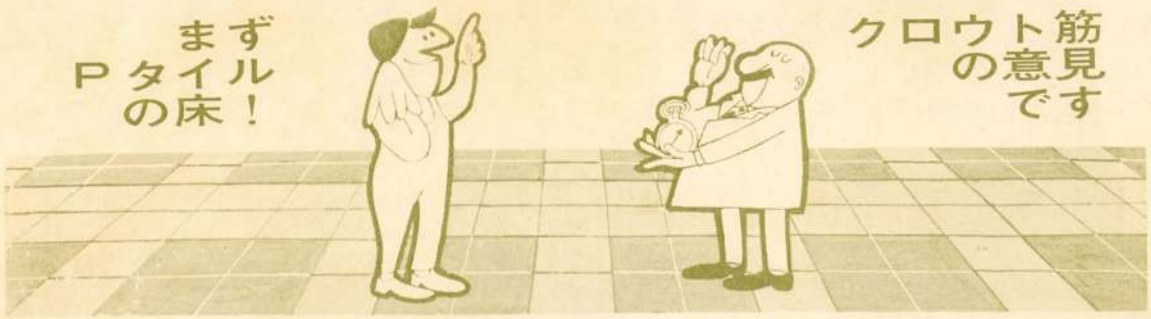
昭和24年3月19日　第3種郵便物認可　昭和41年1月20日印刷　昭和41年1月25日発行　第47輯第1号（毎月1回25日発行）

'66 1



日本建築協会

■304．8㎜×304．8㎜ 厚さ2㎜ ■一面坪￥3500→4000 ■カタログ進呈



美しい！はがれない！傷がつきにくい――Pタイルに関しての一致した意見です 玄人筋からは『柔軟性で木やコンクリートの床にも馴み易く仮敷もいらぬスピーディな施工性』といわれます。Pタイルはどんな場所でも明るい環境をつくる床材〔製法特許品〕です！

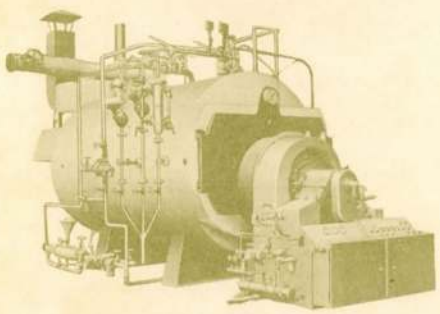
三星プラスタイル"P"

田島応用化工KK★

東　京／東京都千代田区岩本町3―11　TEL(866)代6101
大　阪／大阪市西区京町堀1ノ74　TEL(441)代5951
名古屋／名古屋市西区桜木町3丁目8番地　TEL(571)6361
広　島／広島市鉄砲町5番16号　TEL(21)2281
博　多／福岡市万行寺前町14　TEL(28)2807

UR

MPボイラ



★特　長★

1．1㎡当り100kg／hも蒸気を発生
2．50%も多く蒸気が出るので、数多くのボイラが不要
3．3Tバーナの組合せで、燃焼負荷20%から100%まで、何れの負荷でも、ボイラ効率は、いつでも87%以上
4．ウーターバックですから、ボイラ背面からの熱の放散や後部鏡板の過熱はない。従って断熱材の脱落もなく、補修費も節約できる

《新開発》

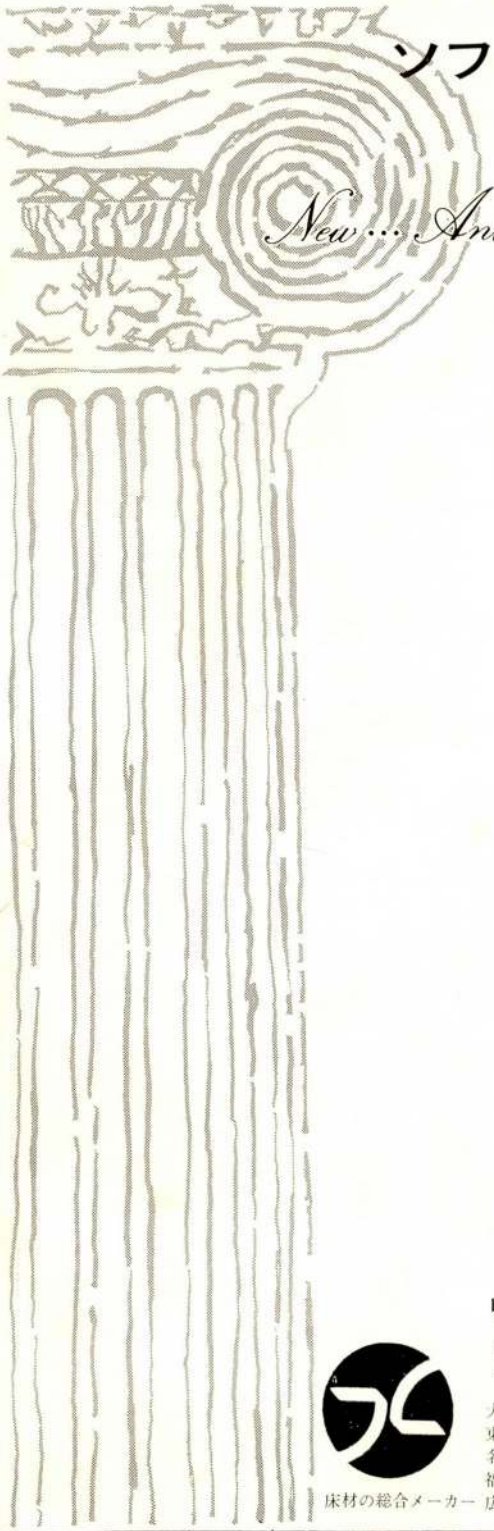
■MPボイラ　UR型
1.5t／hから10.0t／hまで9機種
例えば　UR# 50……49.9m²で 5t/h
UR# 100……99.6m²で 10t/h

株式会社 平川鉄工所

本社・工場　大阪市大淀区大淀町北1の11　TEL(458)8681(代)
東　京・名古屋・九　州・滋賀工場

MATICO

ソフトステップ・ソフトタッチ



マチコソフト

軟質ビニルアスベスト系タイル
２．０×３００×３００㎜１２色

マチコソフトはギリシヤ古典美を現代感覚にアレンジした高級床タイルです。天然大理石の感じそのままの絶妙な色合いと、豪華な色彩の渦巻柄は一枚一枚のタイルにデリケートな変化を与え、芸術的な味わいのある立派な床をつくりあげます。模様は練り込みになっていますので美しさはいつまでも消えません。材質はビニルアスベスト系ですが特殊樹脂を多量に配合して軟質とし、弾力性にすぐれ歩行中に足をすべらせることがなく大変快適です。また摩耗や汚れにもよく耐え、掃除も容易です

リノリューム・リノタイル・ビニラートタイル・マチコタイル

東洋リノリューム株式会社

床材の総合メーカー

大阪市南区順慶町通４の25 三和ビル　TEL 大阪(252) 2921
東京都中央区銀座４丁目三和ビル　TEL 東京(567) 8341
名古屋市中区菅原町２の11 名古屋センタービル　TEL 名古屋(231) 5380
福岡市今泉町４丁目１２６の２　TEL 福岡(75) 0425
広島市東観音町７番４号　TEL 広島(31) 6139

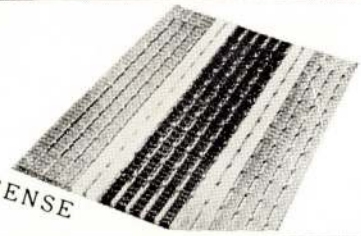


JEWELRY COLORS
IN
6

グッドセンスを
敷こう
ストレートで
行こう

ビニール

ストレート ライン マット



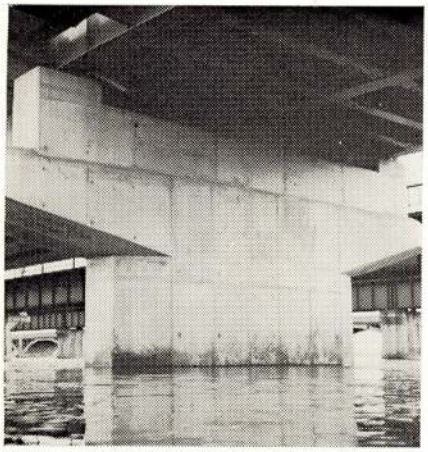
WAKE A GOOD SENSE

PAT. PENDING

ミツシマ

近代おそうじ百貨
ミツシマ工業株式会社

本社久世工場／京都分工場
営業所・東京都中央区日本橋芳町一の５・(671) 4714
・名古屋市昭和区車田町２の２２・(73) 5138
・京都市中京区蛸薬師通烏丸西入・(22) 5363
・大阪市西区北堀江上通一丁目・(531) 3514
・福岡市下対馬小路一二八・(３) 2706



レオパノールＢＡシートにより
防水された新幹線／浜名橋梁

完全な防水に……

レオパノールBA

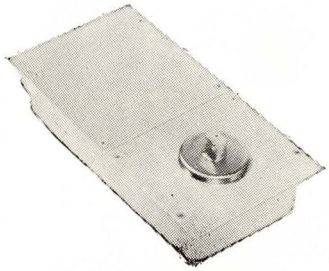
特長
・酸素や紫外線に不活性で間接光線のもとでは永久に老化しない。
・吸水せず完全不透水性でそれ自身腐蝕されない。
・大きな伸長性を有し構造物に生ずるヘヤークラック並びに温度伸縮に完全に対応出来る。
・－30°C＋60°Cの温度範囲で性状に変化を生ぜず安全に使用出来る。
・シートの重ね合せは冷工材で完全に溶接され、理想的な防水層が形成される。

用途 一般陸屋根・地下街・地下道・地下室・水泳プール・高架橋・ずい道・Ｐ．Ｓ桁等の防水

・薬液注入工事
M·I 並びに L·W 工法
・ブチルゴムシートによる防水
ネオルーフィングシート
詳細に関しては弊社営業部にお問合せ下さい。

日本綜合防水株式会社
取締役社長　山崎慎二
本　社　東京都千代田区神田猿楽町1の9(大平舎ビル2階)　電話(292)代表 2661
大阪営業所　大阪市東区道修町１－４(松井ビル)　電話(202) 6884
工事々務所　東京都板橋区加賀２－18－３　電話(962) 2581

NHN



ニッカナ フロアヒンジ

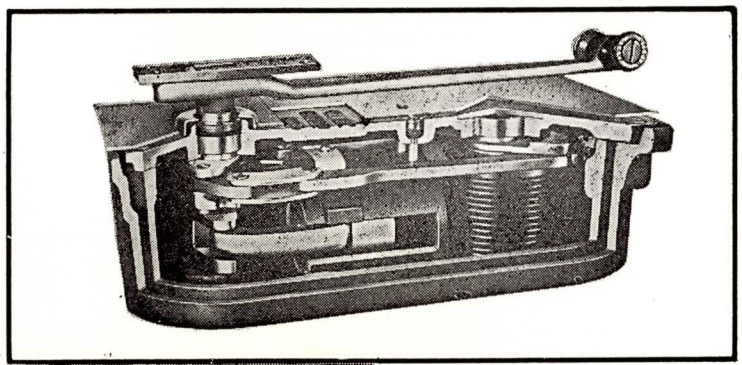
発売元 株式会社 ニッカナ
東京都中央区日本橋本町2～7(信和ビル)
TEL (241) 1301 代表
大阪営業所
大阪市西区新町通4－39
TEL (531) 4776 代表

製造元 ダイハツ工業株式會社

新発売の
遅れた理由が
わかった！

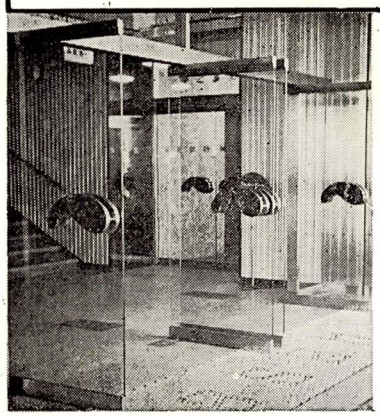


フロアヒンジの限界を越えた超薄型……市場に出揃ったこのタイプ・両開用ダブルシリンダー型では最も薄い。業界随一の超薄型に、驚くべき耐久力をそなえ、画期的な性能と機能をもっている。
埋込み作業、据付作業も簡単に出来た！ニッカナ製品を見て、使って見て新発売の遅れた理由がわかった。
この優れた製品に要した研究期間の成果が、新発売の遅れを取り戻すことであろう。待っていた超薄型！フロアヒンジも矢張りニッカナである。



S.K

ユートピア印 フロアヒンジ ピボットヒンジ



専門家が推奨する

金属製扉、木製扉、強化硝子扉
合成樹脂扉、何れの扉にも使用出来ます。

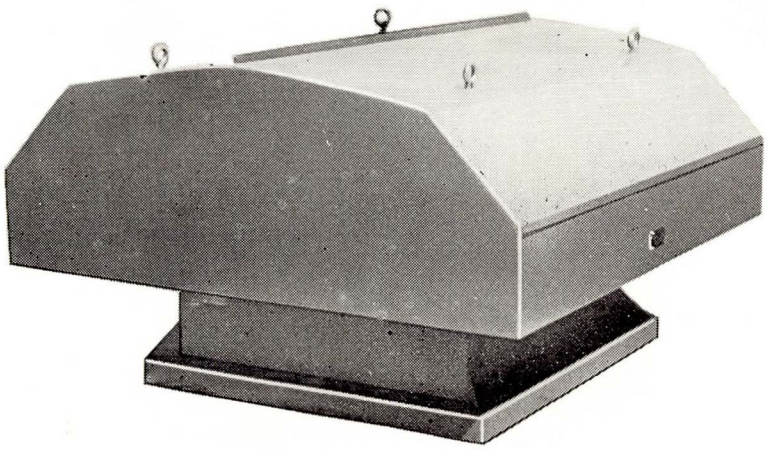
諸官庁御指定品　旭硝子御採用品

製造元
敷島金物株式会社
大阪府布施市横沼町1の46
電話 布施 (721) 7713～4
東京都千代田区神田三崎町2の26
電話 東京 (262) 5310・0403

よりよい作業環境をつくる

栗田屋上換気扇

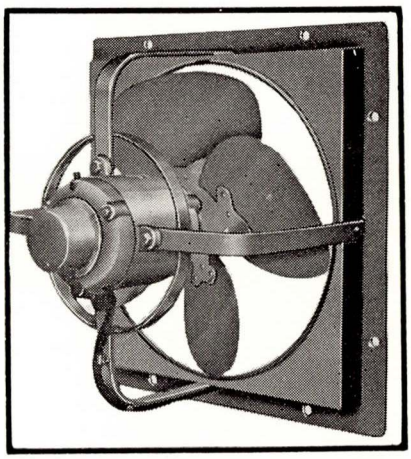
KURITA ROOF VENTILATING FANS



RV—S型

栗田圧力扇

KURITA PRESSURE FAN



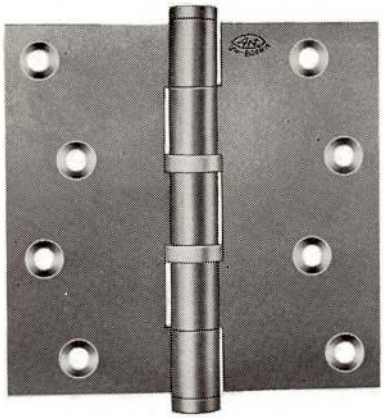
関西地区総代理店 湊商事株式会社

大阪市福島区上福島北3丁目94番地(一字ビル) 電話大阪(458)8761(代表)～8

●ドアーを大切にしハウスキーパーの役目をはたす

アート ドアーヒンジ

RAシステム

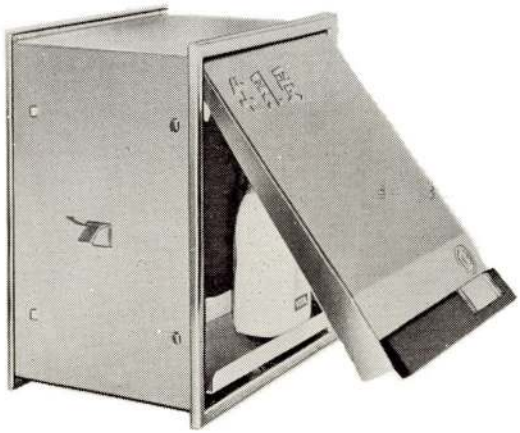


●RAシステム（90°抜け芯装置付）です
●耐蝕性・耐熱性にすぐれ、錆びたり変色したりすることはありません
●高精度を誇り●音を立てない●磨耗がない●注油がいらない●衝撃に強い……など数多くの特長をもっています

●鉄筋住宅・アパート・マンションにマッチする機械性
——牛乳の安全と盗難防止の

ミルク チェスト

近代建築にふさわしいスタイル！ステンレスにヘヤーライン・ラッカー焼付加工し内部は完全防錆下地メラミン焼付塗装



■牛乳の安全性…盗難を防止します
■牛乳が配達される場合…表蓋が自動的に施錠されます
■牛乳が取出す場所…裏蓋はかんたんに開きます（表蓋は施錠されたままです）
■空瓶を入れる場合…空瓶を受台に置くと、表蓋が自由に開けられるようになります
■受台には180cc瓶3本が置けます
■取付けはかんたんです
■ミルクチェストの壁厚は 100㎜、150㎜、180㎜ の3種があり、ご要求に応じて製作しております

●JIS規格表示許可工場　日本住宅公団指定メーカー

永和工業株式会社

本　社　大阪市生野区巽矢柄町128　TEL 大阪(751)1271～5
工　場　大阪府枚岡市布市町50　TEL 枚岡(81)5566
東　京　東京都中央区日本橋本町4—4　TEL 東京(663)6748
営業所　（クラウンビル内）

日本アスファルト防水工業協同組合

● 建設省認可／東計第240号　● 資本金 920万円

防水工事の
コンサルタント！

年限保証と責任施工の日アス防水工業協組の組合員は全国に配置されております。
信頼される施工技術と、たゆまぬ研究と努力でお客様方の御要望にお応へしたいと念じております。防水工事の事なら　下記の日アス組合員に、御相談下さい。

■組合員名簿

近畿地区

日新工材株式会社	大阪	(541) 3785
マルエス工業株式会社	大阪	(458) 4841
株式会社新光商店	大阪	(261) 7195
清水興業株式会社	大阪	(371) 0251
マサル瀝青工業株式会社大阪営業所	大阪	(481) 7355
中村瀝青工業株式会社	神戸	(34) 5884
棚田建材有限会社	神戸	(22) 9182
日新建工株式会社京都出張所	京都	(69) 4676
石橋建材株式会社	福井	(3) 0775

東海地区

株式会社三非工業所	静岡	(85) 9151
協和建材工業株式会社	清水	(2) 5665
中央建材工業株式会社	名古屋	(25) 3541
日本建材興業株式会社	名古屋	(57) 5541
宮崎建材店	名古屋	(32) 1331

中国地区

豊永建材株式会社	広島	(61) 6371
東中国防水工業有限会社	岡山	(23) 1181
株式会社三洋技建	大竹	(2) 2231

四国地区

株式会社山本商会	松山	(3) 6261
大三工業株式会社	高松	(2) 8697
株式会社高知アスファルト工業	高知	(3) 2330
大三工業所	徳島	(2) 9243

九州地区

日新興業株式会社	延岡	4305
株式会社工材社	北九州	(38) 1468
株式会社大二商会	宮崎	5001
株式会社北原建材商会	鹿児島	(2) 8859
安藤工事株式会社	福岡	(2) 5207
日建工材株式会社	福岡	(75) 7752

関東地区

伊藤建材株式会社	東京	(871) 5646
北条瀝青工業株式会社	東京	(551) 2676
有限会社金岡興業	東京	(963) 4341
瀝青建材株式会社	東京	(541) 6945
日新建工株式会社	東京	(803) 2411
マサル瀝青工業株式会社	東京	(842) 6311
藤井工業株式会社	東京	(941) 0271
鶏田工業株式会社	東京	(261) 3468
木下工業株式会社	東京	(634) 0821
野口工材株式会社	東京	(441) 3751
大和工業株式会社	東京	(891) 7973
協立工業株式会社	東京	(731) 0358
株式会社奈良屋商店	水戸	(3) 0171
石田建材工業株式会社	高崎	(2) 3301
同和建材株式会社	新潟	(5) 2251

北陸地区

合名会社島屋建設	金沢	(2) 0085
有限会社折橋政次郎商店	富山	(2) 0999
大和工業株式会社富山営業所	富山	(3) 4385

東北地区

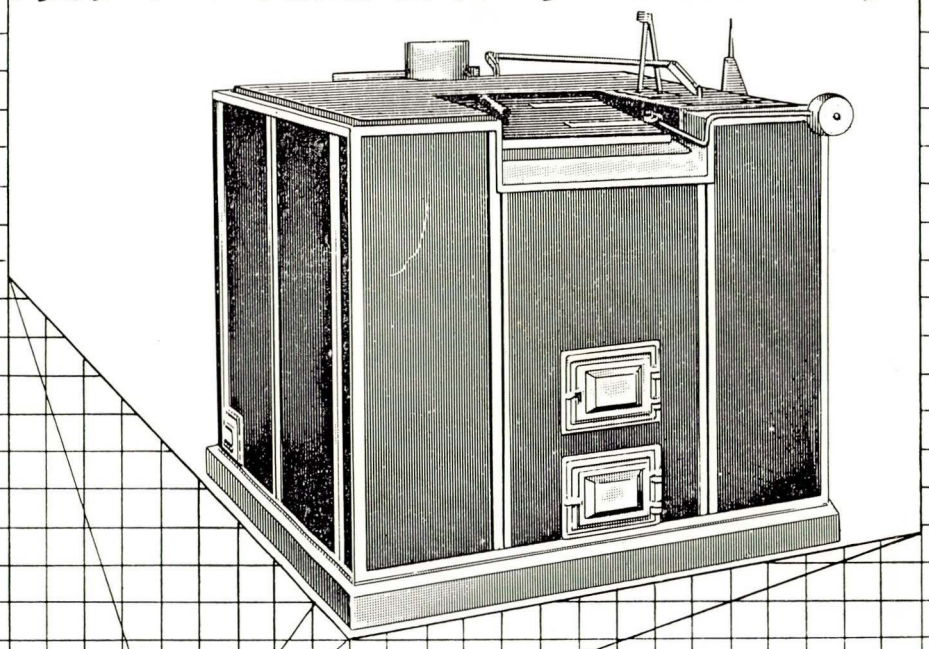
日新建工株式会社仙台出張所	仙台	(25) 5431

北海道地区

日本スレート株式会社	札幌	(23) 8016
日新建工株式会社札幌出張所	札幌	(2) 5015

本　部　東京都足立区千住東町93（日新工業内）　電話（888）2101～9
関西支部　大阪市西区新町北通1～40（日新工業内）　電話（531）5281～3
九州支部　福岡市大手門1の16（日新工業内）　電話（74）3461～3

最小のスペースを——
最大の燃焼効率で活かす



TYPE C	間口 1.15～2.40	奥行 1.15～2.40	高さ 1.08～	
TYPE E	0.95～1.22	0.70～0.93	0.75～0.90(m)	

インシナーの塵芥炉は、
ご家庭から大工場まで、
巾広いご愛顧をいただ
いております

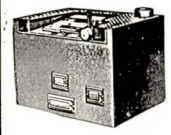
C TYPE 定置式

特殊耐火保熱板、独特の貯芥箇、放熱板、ムダのない空気利用……新しいアイデアがいっぱいの本格的塵芥炉
工場・学校・病院・ホテル・ビルなどでの多量のゴミ処理におすすめします

E TYPE ポータブル

ゴミ箱がわりに設置できるコンパクトタイプ。水っぽいゴミも完全焼却する高性能。火災の心配がない完全密閉式。臭気も出ず、煙も少ないので衛生的。広い構内では分散設置が便利です。銀行・寮・社宅・食品店・一般家庭に——

特許番号
248182・583503
486791・486824
517838・655818
特許出願
38－63138・38－82085
35－45735・37－12522
37－15794・38－63138
38－18667・37－20123



カタログご請求ください

塵芥炉
インシナー

インシナー工業
本社／東京都渋谷区桜ヶ丘41〈カスヤビル〉電461・1141　大阪支店／大阪市北区牛丸町55〈東洋ビル〉電312・7481
名古屋営業所／名古屋市昭和区恵方町2－8電841・5874　福岡営業所／福岡市春吉3〈春野ビル〉　電 76・1880

“鉄をつくり 未来をつくる”住友金属



Vを生かした
新しいプレハブ骨組み

住友のスミフレームVは、高性能ジュニアV形鋼を主体に、規格量産されています。部材断面の剛性が高いワイドフランジなのでボルト結合も容易。あなたの目的にピッタリの工場・倉庫・事務所体育館などの標準設計も完備しています。ご相談くださると、お望みの建物が、半ば完成。数段も手間がはぶける経済的なプレハブ骨組みです。札幌から福岡まで各地に販売サービス体制を確立。ご利用をお待ちしています。

カタログ請求券
スミフレーム V

スミフレームV
住友金属

住友金属工業株式会社
本社/大阪市東区北浜5の15(新住友ビル) 電話(203)2201
支社/東京都千代田区丸の内1の8(新住友ビル) 電話(211)2211
営業所/福岡・広島・岡山・高松・名古屋・静岡・新潟・仙台・札幌

◀新年午餐会開催

新年午餐会を下記のとおり開催いたします。恒例により昨年叙勲ならびに褒章を受けられた会員諸氏をお招きしてお祝辞を申し上げたいと存じます。何卒お誘い合せの上，多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日　時　1月13日（木）11時半～1時
会　場　大阪建設会館6階集会室（東区京橋3丁目）
会　費　¥1,000円
お申込

・1月11日までに会費を添えて事務局までお申込下さい。
・準備の都合により当日の新規お申込受付はいたしませんのでご諒承下さい。
・お申込者ご欠席の場合でも11日までにお知らせがないと会費のご負担を願います。

◀会員の受賞

下記会員諸氏は建設関係功労者としてそれぞれ顕彰されました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

藍綬褒章

神谷新一氏（竹中工務店専務取締役）
（建築技術の開発に対する功績……通産省関係）

黄綬褒章

芹生幹二氏（竹中工務店大阪本店指導役）
（技術の向上に努め，後進の指導，災害の防止に尽くした功績……労働省関係）

大阪府知事表彰

（建築基準法，建築士法施行15周年記念）

（順不同）

竹腰健造氏（双星社竹腰建築事務所長）
鴻池藤一氏（鴻池組取締役社長）
大林芳郎氏（大林組取締役社長）
玉置豊次郎氏（大阪工業大阪教授）
吉田信武氏（吉田建築事務所長）
徳永正三氏（三座建築事務所長）
若木望太郎氏（倉敷レイヨン㈱嘱託）
小川正氏（竹中工務店開発計画本部長）
高橋慶夫氏（大阪建築事務所長）
増井敏克氏（新工務所常務取締役）
佐久間逸治氏（佐久間建築事務所長）
沖田誠一氏（日本建築学会近畿支部事務局長）
田村史郎氏（日本建築材料協会常務理事）
駒敬三氏（駒建築事務所長）
村岡正義氏（竹中工務店設計部員）
彦谷邦一氏（彦谷建築設計事務所長）
桐本楠雅氏（大阪市監査委員）
銭高輝之氏（銭高組取締役社長）
竹中錬一氏（竹中工務店取締役社長）
中沢誠一郎氏（中沢建築事務所長）
塚本猛次氏（日建設計工務㈱社長）
元良勲氏（大阪工業大学教授）
鷲尾健三氏（大阪大学教授）
菅田豊重氏（大林組技術研究所次長）
堀口甚吉氏（大阪工業高等専門学校教授）
尾崎久助氏（日建設計工務㈱相談役）
中村昌作氏（大阪府建築士会常務理事）
手島政男氏（前日本建築協会常務理事）
清水和弥氏（清水和弥設計事務所長）
西島勇氏（大阪建築事務所員）
岩本博行氏（竹中工務店設計部長）

（関係団体）

大阪府建築士会	会長	渡辺節氏
日本建築学会近畿支部	支部長	前田敏男氏
日本建築家協会関西支部	支部長	伊藤鉱一氏
日本建築材料協会	会長	中村文夫氏
大阪建築設計協会	会長	橘春重氏

なお，同時に日本建築協会会長東畑謙三も受賞いたしました。

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

青盛繁男
青盛建材株式会社　取締役社長
広島市鉄砲町5番16号　電話代(21)2281

青柳不折
株式会社　岡本組　取締役社長
大阪市西成区玉出本通4—1　電話(651)7775代
自宅・大阪市西成区玉出本通5—113　電話(661)3370

赤崎尚信
赤崎建築事務所　所長
大阪市北区南森町29の1新南森町ビル
電話(361)8388・0982

明石一夫
高岡建設株式会社　取締役社長
大阪市西区新町通1—77　電話(532)4951代

浅沼猪之吉
株式会社　浅沼組　取締役社長
大阪市天王寺区東高津町8の1　電話(762)0251
自宅・奈良市菅原町990の13　電話奈良(5)0681

浅野重太郎
第一工業株式会社　大阪支店　取締役　支店長
大阪市北区富田町30　電話(341)0977
自宅・豊中市千里園3—97　電話豊中(52)5600

浅海正雄
浅海電気株式会社　取締役社長
大阪市北区老松町1—22　電話(362)8701～8
自宅・宝塚市切畑字長尾山2—161　電話(0727)(5)3162

蘆立精一
株式会社　大丸　常務取締役事業部長
大阪市南区心斎橋筋1—118屋敷　電話(271)1231

東輝夫
株式会社　三国タイル　代表取締役
大阪市東淀川区十八条町3—7　電話(393)1951代
自宅・大阪市東淀川区西三国町2—97　電話(391)3341

網野栄
株式会社　研文社　代表取締役
大阪市北区堂山町66　電話(361)2091代

荒木芳邦
株式会社　荒木造園設計事務所　代表取締役
池田市鉢塚町2—8—21　電話池田(6)1298
自宅・池田市鉢塚町2—9—8　電話池田(6)8874

荒田芳夫
麻生商事株式会社　大阪支店　取締役支店長
大阪市東区釣鐘町2-46　電話(941)1652

安藤芳雄
大日本土木株式会社　専務取締役

井上鴻太朗
株式会社　鴻池組　常務取締役
大阪市此花区伝法町北3—67　電話(462)1631
自宅・豊中市桜塚本通り1—32　電話豊中(52)2820

井上福蔵
株式会社　井上組　代表取締役
大阪市都島区東野田町2—15　電話(351)0530・(352)4031～4

井手新太郎
日本合成化学工業株式会社　取締役社長
大阪市東区安土町2—11　電話(261)0171
自宅・尼崎市西富松字新林217の27　電話(401)5582

井手正雄
社団法人　日本建築協会京都支部　支部長
京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町645　京都建築会館内　電話(21)2857

井藁政市
日邦工業株式会社　取締役社長
大阪市西区南堀江通1—3　電話(531)8461～5

五十嵐芳雄
株式会社　大林組　取締役副社長

伊勢谷圭作
株式会社　伊勢谷特殊硝子製作所　代表取締役
大阪市西区靱本町4—83　電話(541)9161～2・9181～2
自宅・大阪市西区京町堀5—11　電話(441)1966

伊丹久吉
株式会社　藤木工務店　専務取締役
大阪市東区両替町1—13　電話(941)0451代

謹賀新年　昭和41年元旦　（50音順）

伊東正也
伊東建築設計事務所　所長
大阪市浪速区幸町通2—6
電話(562)4343(代)4344
自宅・西宮市松生町129　電話西宮(2)3598

池田宮彦
株式会社　池田宮彦設計事務所
代表取締役
大阪市南区瓦屋町三番丁36　電話(761)0360
自宅・堺市上野芝向ケ丘町4丁1405
電話堺(78)0034

今西壽雄
株式会社　今西組　取締役社長
大阪市天王寺区上本町7—2—1　上六ビル内

伊藤鑛一
日建設計工務株式会社
大阪市東区横堀2丁目　電話(203)2361
自宅・芦屋市山手町69　電話芦屋(2)2163

諫早信夫
不動建設株式会社　常務取締役
大阪市南区餌谷仲之町　電話(271)4771
自宅・東京都世田谷区烏山町453
電話(300)3905

岩佐直則
有限会社　岩佐建築設計事務所
代表取締役
尼崎市西本町7—268　電話(411)3094
自宅・西宮市上甲子園2—115
電話西宮(4)5753

伊藤政惠
大鐵工業株式会社　取締役社長
大阪市北区茶屋町38　電話(361)0171代

石川寛三
石川建築事務所　所長
自宅・宝塚市切畑長尾山2—317

岩崎甚太郎
株式会社　大林組　工務監督
大阪市東区京橋3—75　電話(941)0861代

飯田精次郎
共同設計株式会社　取締役社長
大阪市北区富田町9　電話(341)　5836
自宅・豊中市本町2—56　電話(068)(52)5775

石川幸一
日本冷熱工産株式会社　常務取締役
大阪市西区土佐堀通1—16(石川ビル)
電話(443)3661～5
自宅・堺市上野芝向ケ丘町5丁1245
電話堺(78)0072

宇賀一郎
宇賀一郎建築設計技術研究所
大阪市北区若松町28　尾崎ビル12号室
電話(341)5178代

猪飼幸次郎
江東電気工業株式会社　取締役社長
大阪市生野区勝山通9—72　電話(716)代4035～8

石橋信夫
大和ハウス工業株式会社
取締役社長
大阪市西成区西萩町40—1　電話(632)3121

内田成之
須賀工業株式会社

生島道春
日本建築積算研究所　代表者
大阪市南区大宝寺東之町20　宇野ビル
電話(251)3195

石原季夫（通称達偉）
石原建築設計事務所　所長
大阪市北区宗是町大ビル　電話(441)7826
東京都千代田区内幸町2—5新日比谷ビル
電話(502)8921
自宅・神戸市生田区中山手通6—38
電話(34)2073

梅本良三
梅本石油株式会社　取締役社長
大阪市東淀川区新高南通1—28　電話(392)0531

生田重政
日本建設株式会社　取締役社長
大阪市東区安土町4—5　電話(261)7591～6

今西茂雄
株式会社　今西建築デザインルーム
大阪市西区北堀江通2—47　電話(541)3051～2

浦辺鎮太郎
株式会社　倉敷建築事務所　所長
大阪市北区梅田8　新阪急ビル7階
電話(361)1351・(341)1680

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

江川好巳
山下寿郎設計事務所　大阪事務所
所長
大阪市東区北浜5—11　新立川ビル
電話(231)4217・7321

尾崎久助
日建設計工務株式会社
取締役　相談役
自宅・京都府向日町上植野南開34の14
電話京都西山920579

大須賀矢薙
株式会社　大須賀設計事務所
取締役会長
東京都千代田区九段2—6
電話(261)7136・0670
自宅・千葉市幕張町3—884　電話千葉(3)8207

蛯原逸雄
西松建設株式会社　関西支店
常務取締役　支店長
大阪市東区釣鐘町2—41　電話(941)代8431

尾崎博一
旭化工板製造株式会社　取締役社長
尼崎市下坂部久々知前235　電話(401)6781代
自宅・大阪市北区茶屋町38　電話(371)5068

大林芳郎
株式会社　大林組

遠藤巌
株式会社　間組　大阪支店
取締役支店長
大阪市東区横掘2—70　電話(203)代2821

置塩章
置塩光
置塩建築事務所
大阪市北区堂島上1—2　新山本ビル
神戸市生田区京町70　松岡ビル

大森久司
近畿電気工事株式会社　取締役社長
大阪市北区南扇町11　電話(312)1281

遠藤修
日本化成株式会社　関西支社
支社次長
大阪市北区浪花町13　新天六ビル
電話(371)0115・7051
自宅・芦屋市川西町21　電話(2)2770

大井弘治郎
株式会社　大井建築設計事務所
代表取締役
大阪市北区宗是町44　第一ビル2階
但大阪大学理学部正門前
電話(444)4521〜2
自宅・箕面市百楽荘4—4の11　電話(21)4113

岡三郎
株式会社　岡組　取締役社長
大阪市北区堂山町89　電話代(312)0776・0456
自宅・箕面市桜ケ丘205　電話(21)2264

小川勝
ゆたか木材工業株式会社
代表取締役
大阪市西成区橋通9—10　電話(651)6812〜4
自宅・奈良市二名町1346　電話奈良(5)0016

大木末次
大木建設株式会社　大阪支店
常務取締役支店長
大阪市西区南堀江通り3—3　電話(531)7158〜9
自宅・大阪市東住吉区山坂町4—19
電話(692)1844

岡本行善
株式会社　昭和設計事務所
取締役社長
大阪市西区阿波座南通2—58　電話(532)0415
自宅・芦屋市打出大東町74　電話(2)7102

小河吉之助
株式会社　小河建築設計事務所
代表取締役社長
大阪市南区瓦屋町4番町8　電話(761)6957代
自宅・寝屋川市郡1100の3
電話寝屋川(3)2609

大澤幸平
大幸建設株式会社　取締役社長
大阪市東区今橋5—2　電話(203)0065
自宅・豊中市玉井町1—8の18　電話(52)3237

沖口生二
株式会社　沖口電機工業所
代表取締役
大阪市西区京町堀1—138　電話代(441)1862
自宅・吹田市千里青山台1—2C24 204
電話(716)4105

尾亀清四郎
株式会社　三晃商会　会長

大下順三郎
平和建設株式会社　取締役社長
大阪市城東区関目町1—40
電話(931)3734代〜6

沖田誠一
日本建築学会　近畿支部　事務局長
大阪市西区靱1—118　大阪科学技術センター
電話(443)0538
自宅・大阪市住吉区苅田町9の21 公住3号204
電話(691)2368

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

奥村太四郎
株式会社 奥村組社長
大阪市阿倍野区松崎町1—51 電話(621)1101

神谷新一
株式会社 竹中工務店 専務取締役
大阪市東区本町4—27 電話(252)1201

菅野栄
株式会社 大阪城口研究所
常務取締役
大阪市北区高垣町1 電話(371)7575

加藤太郎
加藤建築設計事務所
神戸市葺合区熊内町5—126
電話(22)2460・1971

柄谷吉太郎
株式会社 柄谷工務店 取締役社長
尼崎市玄番南之町4 電話(411)1451

木下国男
株式会社 内外写真 取締役社長
大阪市北区堂島北町16 電話代(361)9055

海上静一
株式会社 海上静一建築事務所
大阪市南区鰻谷仲之町62(市川ビル)

川崎敬三
株式会社 近畿建設 代表取締役
大阪市西区靭本町4—103 電話(532)0081
自宅・大阪市浪速区新川2—666 電話(632)7369

木下光雄
株式会社 木下謹三商店
取締役社長
大阪市西区江戸堀5—5 電話(443)代0115
自宅・豊中市上野6—12
電話豊中(068)(52)7284

柏原国光
柏原瀝青株式会社 取締役社長
大阪市西淀川区御幣島東2—5

河井覚弘
株式会社 河井建築設計事務所
所長
大阪市北区兎我野町15 電話(341)代3339
自宅・奈良市登美ケ丘4 電話奈良(5)4378

木戸口信義
大洋建設工業株式会社 取締役社長
大阪市天王寺区北河堀町54 電話(771)代2672
自宅・堺市浜寺元町6—807 電話堺(6)1370

梶本秀尾
八千代電設工業株式会社
取締役社長
大阪市東区森之宮東之町392 電話(941)6531代

河津喜之助
河津装飾株式会社 社長
大阪市北区堂島上1 電話(341)1351〜3
自宅・豊中市服部本町1 電話(62)6865

木村謹次
株式会社 木村工務所 取締役社長
大阪市南区南炭屋町38

勝田頼春
鉄建建設株式会社 大阪支店
常務取締役 大阪支店長
大阪市大淀区天神橋筋6—5 阪急ビル
電話(358)代0321〜5
自宅・吹田市藤ケ丘町10—5 電話(381)3377

河東義方
大和ハウス工業株式会社 東京支社
取締役副支社長
東京都渋谷区上通4—19
電話(461)6161(462)0311
自宅・東京都練馬区下石神井1—358の9
電話(997)2488

岸間脩
株式会社 桂商会 取締役社長
大阪市大淀区国分寺町1 電話(351)8677代
自宅・箕面市牧落714 電話(21)7120

鼎秀夫
株式会社 カナヱ商会 代表取締役
大阪市北区空心町1—30 電話(352)3412代

神田正平
株式会社 日本シャッター製作所
代表取締役
大阪市東淀川区田川通6—38 電話(301)3656〜9

久保幸一
株式会社 久保商店 代表取締役
大阪市北区真砂町5
電話(341)207〜8・4836〜7
自宅・宝塚市字武庫山99 電話(6)6167

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

黒川徳一
旭リフト株式会社　代表取締役社長
守口市大久保町1—28　電話(993)2877～9

古林義敦
日本建築協会　中国支部長
自宅・広島市翠町1488　電話(51)2570

佐野正一
株式会社　安井建築設計事務所
代表取締役社長
大阪市東区淡路町2—34　電話(202)3836

小泉善重
株式会社　栄和設計事務所
代表取締役
大阪市福島区堂島浜通4—14
電話(451)2175・(458)1727

鴻池藤一
株式会社　鴻池組　取締役社長
大阪市此花区伝法町北3—67　電話(462)1631
自宅・京都市北区平野鳥居前町86
電話京都(44)1526

齋藤博
株式会社　三晃商会　取締役社長
大阪市北区富田町16　電話(341)7031

小島栄
三精輸送機株式会社　取締役社長
大阪市城東区今福中2—36　電話代(931)6221

駒敬三
駒日出男
株式会社　駒建築設計事務所
大阪市天王寺区椎寺町46

雑賀孝夫
株式会社　雑賀建築設計事務所
代表取締役
和歌山市八番丁3—4　県信ビル
電話(22)1036・5459
大阪市西区土佐堀船町15　新肥後橋ビル
電話(443)7018
自宅・和歌山市小松原通5—1　電話(23)5888

小西岬
株式会社　田中小西建築事務所
取締役社長
大阪市西区阿波座南通2—60
電話大代(532)4051

近藤郷次郎
近藤金属工業株式会社　代表取締役
大阪市西区土佐堀通3—55

坂本承明
阪神建鉄株式会社　取締役社長
大阪府河内市中野214　電話(781)0054
自宅・大阪市生野区大友町1—56
電話(752)5608

小早川美武
美工装飾株式会社　代表取締役
大阪市西成区姫松通1—30　電話代(651)0105

近藤春男
龍建設工業株式会社　代表取締役
大阪市城東区古市南通5—5
電話代(931)5331～4
自宅・枚方市大字中振2111の2
電話(0720)(31)1372

酒井辰三
三光金属工業株式会社　代表取締役
大阪市南区饅谷仲ノ町80　電話(271)6234代
自宅・豊中市本町10—98　電話(52)3888

小林得志
小林得志建築事務所　所長
大阪市北区堂島北町20
電話(362)5658代・(341)6251代
自宅・西宮市丸橋町31　電話(6)2394

佐々木新一
株式会社　佐々木建築事務所
代表取締役
大阪市西区京町堀1—15(東亜ビル)

桜井正美
関東電気工事株式会社　大阪支社
支社長
大阪市東区今橋1—10　朝日生命ビル
電話代(203)0321
自宅・西宮市天道町186　電話(2)5518

小林三甫朗
小林住宅株式会社　社長
大阪市東区御堂筋難波神社前
電話(251)1134～6・8371～9
自宅・大阪市西区阿波座中通り3—12
電話(531)1189

佐藤太
近畿電気工事株式会社　取締役会長
大阪市北区南扇町11　電話(312)1281
自宅・箕面市桜ケ丘341　電話箕面(21)2167

清水和彌
株式会社　清水和彌設計事務所
代表取締役
大阪市北区神山町26(富国信用ビル)
電話(312)7278・4616
自宅・豊中市桜塚東通5—8
電話豊中(068)(52)7056

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

清水愛明
株式会社　清水工業所　取締役社長
大阪市北区堂山町58　電話代(361)2691

杉本裕
株式会社　松田平田設計事務所
大阪出張所　所長
大阪市北区堂島上3—10　電話(341)3468

高須洪一郎
株式会社　朝日工業社
代表取締役社長
大阪市東淀川区加島町357　電話(302)2271

芝地光
戸田建設株式会社　大阪支店
常務取締役支店長
大阪市北区真砂町32　電話(361)5951代
自宅・芦屋市大原町15　電話芦屋(3)2012

錢高輝之
株式会社　錢高組　取締役社長
大阪市西区阿波座上通3—2
電話(531)6431大代

高野徳男
山陽電気工事株式会社　大阪支社
取締役支社長
大阪市北区木幡町3　電話代(312)3051

庄野勝
不動建設株式会社　取締役社長
大阪市南区綾谷仲之町57　電話(271)4771〜7
自宅・大阪市住吉区帝塚山西5—18
電話(671)5014

田阪朋美
株式会社　田阪建築設計事務所
代表取締役
大阪市東区森の宮東之町545
(大阪紙器会館ビル)　電話(941)9648

高橋進
田辺工業株式会社　代表取締役
大阪市西区江戸堀2—79　電話(441)7437〜9

白井徳蔵
三建設備工業株式会社　大阪支店
取締役支店長
大阪市都島区都島本通り6—14　電話(922)6251
自宅・宝塚市下面字下の池北13

田中照雄
田中風呂製作所
大阪市浪速区元町1—747　電話(641)5313・8128
自宅・吹田市青山台3—6の4

高橋誠義
株式会社　大林組　取締役設備部長
大阪市東区京橋3—75　電話(941)0861
自宅・松原市上田町818　電話松原(8)1020

城口庸平
株式会社　大阪城口研究所
取締役社長

田中政二
大島応用化学工業株式会社
取締役社長
大阪市城東区野江東ノ町4—104
電話(931)7071〜5
自宅・大阪市城東区野江東ノ町4—99
電話(931)3506

高橋慶夫
株式会社　大阪建築事務所
取締役社長
大阪市西区京町堀2—75　電話(441)9351

須賀豊治郎
須賀工業株式会社　取締役社長

田村巍
亀井株式会社　取締役社長
大阪市東区南久宝寺町4—47
電話(251)1353〜6・2341〜3
自宅・西宮市高松町63

財田文夫
財田工務店　店主
芦屋市業平町20　電話芦屋(2)0072

菅谷三郎
大阪電気暖房株式会社　取締役社長
大阪市西区江戸堀1—60　電話(441)8231大代

高木幹祐
八幡エコンスチール　株式会社
大阪営業所　技術サービス課長
大阪市西区阿波座上通1—27　新松岡ビル
電話(531)0871
自宅・枚岡市石切町1872

竹中錬一
株式会社　竹中工務店　社長
大阪市東区本町4—27　電話(252)1201大代

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

千原大五郎
株式会社　大阪建築事務所東京支所
常務取締役　東京支所長
東京都港区赤坂溜池東急ビル　電話(583)8160代

徳永正三
株式会社　三座建築事務所
代表取締役
大阪市北区中之島4—33　電話(443)0051代
東京支社　東京都中央区日本橋兜町2—38
共同ビル　電話(668)3056代

中原茂
安宅エンヂニヤリング株式会社
取締役建築部長
大阪市東区今橋5—14(安宅ビル)
電話(231)8461大代

地頭政人
小俣シヤッター工業株式会社
大阪支店　取締役支店長
大阪市北区若松町30
電話(341)9004・9016・4825

栃木政昭
株式会社　矢橋大理石商店
大阪出張所　取締役所長
大阪市東区高麗橋2丁目　野村ビル5階
電話(231)4257～9
自宅・芦屋市打出春日町24　電話芦屋(2)7983

中村金三
中村金三商店
京都市下京区楊梅通烏丸西入　電話(35)1184

津村芳一
オリエンタルメタル製造株式会社
取締役社長
尼崎市長洲字稲川新田44　電話(481)8085～9

伴野龍太
本田工業株式会社　常務取締役
大阪市北区芝田町65の1　電話(341)0831～5
自宅・京都市伏見区深草開土町2の1
電話(64)0393

永谷光男
大日本硝子工業株式会社　大阪支店
取締役支店長
大阪市北区玉江町2—4の1　三菱倉庫ビル
電話(441)1389・3389・3218

塚本猛次
日建設計工務株式会社
大阪市東区横堀2—38　電話大代(203)2361

内藤一真
株式会社　竹内建築事務所
代表取締役
大阪市浪速区元町1—742　藤本ビル
電話(641)5089・1156

長井策一郎
鹿島建設株式会社　大阪支店
常務取締役　大阪支店長
大阪市東区瓦町5—71　電話(202)7461

恒成一訓
合名会社　つねなり・すたじお
代表者
大阪市東区北浜3—40　電話(231)0141・7781
自宅・豊中市玉井町2—8　電話(52)6435

内藤資忠
株式会社　内藤建築事務所　社長
京都市左京区田中大堰町189　電話(78)6196代
自宅・京都市左京区北白川山ノ元町38
電話(78)3353

長尾正大
日本エレベータ工業株式会社
代表取締役
大阪市大淀区天神橋筋6 天六阪急ビル
電話(351)4927代
自宅・池田市城南町3—33　電話池田(5)5579

土居一雄
新建築事務所　所長
大阪市西区千代崎町2—24　電話(541)8425

中川真佐吉
アポロ印刷株式会社　代表取締役
大阪市東区北新町2—23　電話(942)2951～4
自宅・布施市森河内本通3—17　電話(781)7995

西島修吉
協同金属工業株式会社　代表取締役
大阪市東成区大今里北4—127　電話(971)8731

東畑謙三
株式会社　東畑建築事務所
代表取締役
大阪市東区伏見町5—19　電話(202)0391
自宅・神戸市東灘区住吉町親手下1680
電話神戸(85)5043

中野順次郎
株式会社　中野建築事務所
代表取締役所長
大阪市北区堂島上2—39　(毎日産業ビル内)
電話(341)3561
自宅・豊中市岡町南7—10　電話(068)(52)4145

西嶋徳太郎
株式会社　大阪建築事務所
専務取締役
大阪市西区京町堀2—75　電話(441)9351

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

西田義郎

株式会社　西田工務店　取締役社長
岸和田市加守町626の1　電話(0724)(3)2881
自宅・岸和田市別所町503　電話(0724)(2)8048

日景一郎

高砂熱学工業株式会社　大阪支店
常務取締役大阪支店長
大阪市北区梅田8(新阪急ビル)
電話(312)4521代

福田万亀雄

学校法人　大阪工業技術専門学校
理事長　校長
大阪市北区川崎町43　電話(351)7463・4684
自宅・枚方市中振2589　電話(0720)(31)2568

能勢次郎

能勢建築設計事務所　所長
大阪市西区京町堀通1—125　東洋ビル
電話(443)6430
自宅・茨木市戸伏229の2　住宅公団総持寺団地18の303　電話茨木(2)0129

比石英二

比石英二建築事務所　所長
大阪市西区京町堀1—55(ヤヨイビル)
電話(441)3369・(443)7816
自宅・大阪市東住吉区長吉出戸町1
電話(791)6541

福田好雄

ダイケンサッシ　株式会社
取締役社長
堺市松屋町1—6　電話堺(38)1141
自宅・大阪市住吉区帝塚山東3—37
電話(671)3254

浜口幹三郎

株式会社　淺沼組　専務取締役
大阪市天王寺区東高津町8—1　電話(762)0251

樋口勝栄

三機工業株式会社　大阪支店
取締役支店長
大阪市東区北浜2—22　電話(202)代3071
自宅・豊中市曽根西町2—84の2
電話豊中(52)4801

福中定三郎

社団法人　日本建築協会　常務理事
大阪市東区北浜3—37

原正太郎

アスニュー工業株式会社
取締役社長
大阪市東淀川区西中島町1—125
電話(301)9081～4

平田作太郎

株式会社　平田タイル　副社長
大阪市西区阿波座中通1—5　電話(532)代1234
自宅・京都市下京区綾小路通大宮東
電話(81)1203

福永薫

株式会社　福永建築設計事務所
代表取締役
大阪市南区順慶町通4—61　電話(251)3102
自宅・大阪市南区順慶町通4—61
電話(251)5189

原田富一

昭和アルミニウム株式会社
取締役社長
堺市海山町6—224　電話堺(3)1181大代
自宅・堺市浜寺昭和町3—404　電話堺(6)1258

平山京平

平山工業株式会社　取締役社長
大阪市西区江戸堀2—12　電話(441)代1994

福頼圭蔵

株式会社　新興建材工業所
取締役社長
大阪市西区西長堀南通1—5　電話(541)5757代
自宅・大阪市住吉区住吉町242の22
電話(671)1705

原田守蔵

株式会社　原田商店　専務取締役
大阪市西区北堀江通5—57　電話(541)6551～7
自宅・大阪市西区北堀江通2—1
堀江アピタシヲン　電話(538)2029

廣野悦二

日亜金属興業株式会社　社長
大阪市北区木幡町82　電話(312)2771～6
自宅・芦屋市岩園町299の11　電話(2)9101

藤井明

新晃工業株式会社　取締役社長
大阪市東区大川町1(勧銀ビル)
電話代(202)4761

伴秀雄

株式会社　西原衛生工業所　大阪店

深尾実郎

大阪府建築部長
大阪市東区大手前之町

藤木正一

株式会社　藤木工務店　取締役社長
大阪市東区両替町1—13　電話(941)0451代

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

藤田邦昭
RIA建築綜合研究所
大阪市西区靱本町2—80　飾大ビル
電話　東京(270)5861　大阪(441)9226
名古屋(231)5511

藤本庄之助
株式会社　工盛社　代表取締役
大阪市城東区西鴫野6—43
電話(961)4460・(962)1288

藤本久次
株式会社　藤本組　取締役社長
大阪市生野区猪飼野中1—5　電話(716)0607～9

宝来佐市郎
株式会社　大林組

星廣文
平和建設株式会社
大阪市城東区関目町1—40
電話代(931)3734～7
自宅・門真市上島頭288の1
電話(0720)(8)0667

堀田源一郎
安藤建設株式会社　専務取締役
名古屋市中区菅原町4—1　電話(231)8785
自宅・名古屋市東区白壁町2—9　電話(941)2490

本庄弘樹
株式会社　三晃商会　常務取締役
大阪市北区富田町16　電話(341)7031代
自宅・箕面市桜丘375　電話(21)2655

本田令三
千代田工芸株式会社　取締役社長
大阪市浪速区恵美須町3—14　電話(631)代4416
自宅・奈良市二名町2909　電話奈良(5)1971

馬島一郎
日軽アルミニウム工業株式会社
大阪営業所　所長
大阪市東区高麗橋5—1　大阪興銀ビル
電話(203)6831～5
自宅・茨木市大字中穂積101

前野慶太郎
株式会社　あめりか屋　取締役社長
大阪市北区堂島上2丁目
電話(344)8231代(344)8234代(2月初より)

政岡基次
日新ビルダーズ株式会社
取締役会長
大阪市南区久左衛門町60　電話(211)6843

桝谷好一
株式会社　建材社　大阪支店
取締役支店長
大阪市北区中之島2丁目　新朝日ビル
電話(203)3721

松井邦彦
耐酸化学工業株式会社　取締役社長
大阪市北区高垣町80
電話(361)代0178・(341)代4957
自宅・豊中市本町5—82　電話(068)(52)3951

松尾陽三雄
内外アスベスト株式会社　大阪支店
取締役支店長
大阪市都島区都島北通り1—14
電話(922)1371～4
自宅・大阪市阿倍野区阪南町中3—40
電話(621)8640

松岡織江
株式会社　アイエム商会　社長
大阪市浪速区芦原町1183　電話(561)3901～3

松田昌平
松田順吉
株式会社　松田設計事務所
福岡市下西町2　明治屋ビル
電話(29)2497・(28)0982

松村雄吉
株式会社　松村組　取締役社長
大阪市北区空心町1—70　電話(352)1131
自宅・豊中市曽根東町2—7　電話豊中(62)4280

松本大平
田島応用化工　大阪営業所　所長
大阪市西区京町堀1—74　電話(441)5951

松本六郎
松本金物株式会社　取締役社長
大阪市南区西賀町16　電話(762)代5851
自宅・大阪府松原市向井町358　電話松原(8)158

萬田齋
株式会社　荏原製作所　大阪支社
取締役支社長
大阪市北区堂島浜通1—25　新大阪ビル
電話(363)1301大代

南長吉
斎久工業株式会社
代表取締役支店長
大阪市北区常安町11　電話(443)5041～8
自宅・尼崎市塚口町6—20　電話(481)5136

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

宮飼克二

自宅・明石市人丸町亀ノ水　電話明石(91)2298

宮後健

株式会社　宮後建築事務所
代表取締役
大阪市天王寺区上汐町6−35
電話(771)0393・9281
自宅・大阪市東住吉区山坂町1−5
電話(622)5130

村石秋吉

浪速合板株式会社　代表取締役
大阪市浪速区幸町通3−20

村島良雄

株式会社　藤田組　大阪支店
常務取締役支店長
大阪市北区堂島中2−38　電話(362)7671

村田正

村田大旗建築事務所　代表取締役
広島市小町2番26号　共電ビル内
電話(41)0825・7570
自宅・広島市舟入川口町1002　電話(31)6763

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役社長
大阪市北区絹笠町50(堂ビル)
電話(312)2031〜4
自宅・神戸市生田区山本通4−161
電話(22)5050

元吉勇太郎

株式会社　大末組　専務取締役
大阪市南区大和町1　電話(211)0555

盛道雄

株式会社　盛工務店　代表取締役
大阪市旭区赤川町2−8　電話(921)3471代

森忠一

村野・森建築事務所
大阪市阿倍野区阿倍野筋2−31　電話(622)0926
自宅・西宮市霞町45の2　電話西宮(2)8617

藪本芳一

和歌山市東長町10−13　電話(22)9930

山内嘉兵衛

社団法人日本建築協会　兵庫支部長
社団法人兵庫県建築士会　会長
神戸市生田区下山手通5　兵庫建設会館内
電話神戸(34)1603代
自宅・神戸市東灘区住吉町宮の前住宅112

山下密男

合同特許建材工業株式会社
代表取締役社長
大阪市東住吉区駒川町3−54
電話(791)代7814〜6
自宅・大阪市東住吉区田辺東ノ町3−193
電話(621)9086

山口吾郎

不二建設株式会社　取締役社長
大阪市西区阿波座上通4−8
電話(541)5534代〜9
自宅・宝塚市切畑字長尾山2−788
電話(0727)(5)2018

山田新治郎

株式会社　山田建築事務所
代表取締役
大阪市北区神山町26　富国信用ビル
電話(312)0937〜8

山本潔

山本窯業化工株式会社　取締役社長
大阪市東淀川区西淡路町3−176
電話(322)4851〜4
自宅・豊中市東豊中町3−209　電話(52)4387

山本義樹

西日本建設業保証株式会社
専務取締役
大阪市東区京橋3−68 北浜ビル　電話(941)8441

山邑励二

鹿島建設株式会社　大阪支店
専務取締役
大阪市東区瓦町5　電話(202)8166

勇内英次

佐藤工業株式会社　大阪支店
取締役　大阪支店長
大阪市東区北浜1−25　電話(203)7221
自宅・西宮市松園町39−18　電話西宮(3)5923

横田喜一郎

株式会社　工英社　代表取締役
大阪市西成区橋通9−24　電話(661)8861〜2
自宅・大阪市住吉区万代西2−28
電話(671)3306

吉田信武

株式会社　吉田建築事務所
取締役社長
大阪市西区北堀江上通3−22　電話(538)2991
自宅・大東市三箇1140　電話(0720)(72)0406

吉田広助

株式会社　ナニワ商会　代表取締役
大阪市天王寺区烏ケ辻町61　電話(771)9126〜8
自宅・大阪市天王寺区烏ケ辻町60
電話(771)9125

謹賀新年　昭和41年元旦　(50音順)

吉嶺一徳

吉嶺汽缶工業株式会社　取締役社長
大阪市北区芝田町99　芝田町ビル
電話代(312)7791
自宅・神戸市東灘区本山町岡本梅ノ谷5
電話神戸(85)7774

和田真一

株式会社　東和組　代表取締役
大阪市北区梅ヶ枝町175　電話(363)4051代

和田治郎市

株式会社　和田組　取締役社長
大阪市北区高垣町61
電話代(361)2536・代(312)3537
自宅・芦屋市西山町52　電話芦屋(2)2860

和田村太郎

浪速建材工業株式会社　取締役社長
大阪市城東区茨田横堤町41　電話(931)1171
自宅・大阪市旭区新森小路南1—439
電話(951)8250

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社
取締役社長
大阪市大淀区本庄川崎町2—6
電話(371)3321～3
自宅・京都市東山区清水2—232
電話京都(56)6283

脇山ふく

内外工業株式会社　社長
大阪市阿倍野区旭町1—51　電話(641)3434～6

鷲尾健三

大阪大学工学部構築工学教室

渡邊勇

株式会社　間組　大阪支店
理事　営業課長
大阪市東区横掘2—70　電話(203)代2821

渡邊節
渡邊道輝

渡邊建築事務所
大阪市東区本町2—26

渡邊恵

東洋シヤッター株式会社
代表取締役
大阪市西淀川区佃町4—33
電話(471)8331～6
自宅・大阪府豊中市蛍ヶ池西町2—45
電話豊中(52)8384

以下追加分

河内義就

有限会社　河内義就設計事務所
代表取締役
広島市上幟町2番37号　電話(28)2271

使って安心
近代建築材！
40年の歴史と最新技術の産物

特許● 耐酸・耐アルカリひふく鉄板
オリエンタルメタル

ガスにも
熱にも
酸・薬品にも
大丈夫です

●永久建材の超ひふく鉄板
スーパーオリエンタルメタル (SPM)
カラースーパーオリエンタルメタル (CSPM)

新時代にマッチした
各種のカラー製品があります

法定不燃焼

責任施工・型録送呈

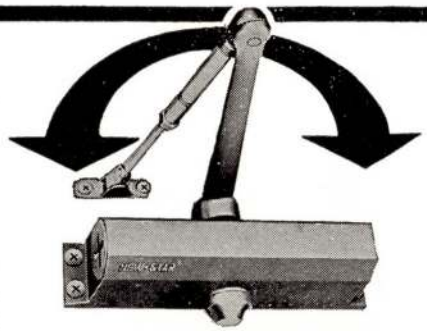
オリエンタルメタル製造株式会社

本社・大阪支店及尼崎工場
兵庫県尼崎市長洲字稲川新田44 電話 大阪（481）代表 8085～9

東京支店並工場 埼玉県蕨市大字塚越1620 電話 蕨（32）3115～7
支店・出張所 郡山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・教育・三原・徳島・徳山

●ドア　を閉めるのは
ボクの役目です

■建築様式の著しい発達に伴いドア　の軽量化、簡美化される現代、勢いドア　チェックもこれらに適応したものを要求されます。
創立40余年を誇る最古の経験と、最新の特殊専用機設備から生れるニュースター・ドア　チェックは、構機の合理化、確実な作動、耐久力、斬新なデザイン、これらを完全に満たした絶対信頼いただける理想的な製品です。



NEW★STAR



ニュースター製品

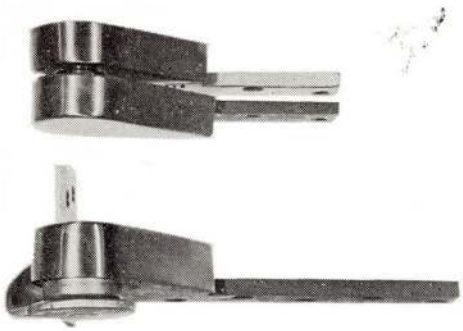
●フロア　ヒンジ	●ピボット　ヒンジ
●ドア　チェック横型	●ラバトリ　ヒンジ
●　〃　　縦型	●押　板　メラミン樹脂
●　〃　　隠蔽式	●押　板　クリスタル硝子

日本ドアーチエック製造株式會社

本社工場　大阪市生野区巽矢柄町222　電話(758) 1251(代表)
東京支店　東京都千代田区神田小川町2－12　信愛ビル　電話(293)4831(代表)～5
福岡出張所　福岡市天神4丁目4－24　電話 (74) 2372・3312
名古屋出張所　名古屋市東区高岳町1丁目11　電話(961)5771(代表)～3
札幌出張所　札幌市月寒中央通314－1　電話 (86) 8052・8433

サンエイ 立枠付 ピボットヒンジ

●回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品



■ 本品は特に各部品の材料を吟味し、表面が錆びないようボンデライジング加工を施した上に防錆塗装をしております。
■ 焼付塗装仕上製品の他に、他の持出し吊の腕部（吊込後扉から露出する部分）にSUS27（18.8）ステンレス製ヘアーライン仕上の化粧カバーを付けてあります。
■ 回転部分にナイロンベアリング及びスラストベアリングを嵌入してあります。
■ 別製の設計製作をも歓迎致します。

■弊社製立枠付ピボットヒンジは……
実用新案登録第517316号の立枠には何んら抵触致しておりません。

555 三榮建材工業株式会社 ■ 大阪市生野区巽矢柄町一五一番地
大阪（751） 3653～5

きんきのサッシ



＊営業品目
■スチールサッシ・ドア・アルミサッシ・ドア
ステンレスサッシ・ドア・カーテンウオール
■冷暖房・給排水・衛生設備工事
■電気設備工事
■建設用機械

製造元 近畿車輌株式会社
工場/大阪・東京

発売元
近畿工業株式会社

本社 大阪市北区梅ケ枝町108（新梅ケ枝町ビル）
電話大阪（363）3371（代表）
東京支店 東京都千代田区神田岩本町2（共同ビル）
電話東京（254）2051（代表）
名古屋支店 名古屋市中村区平池町4丁目48の2
電話名古屋（551）2522・8655番

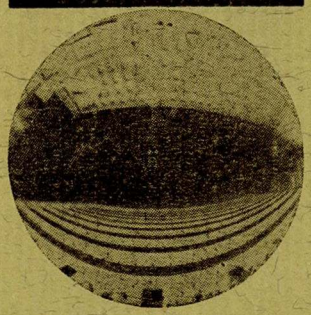
建築と社会

©

都市住居特集

Architecture & Society

1966年・第47集・1月号・目次



表紙のことば：ひかり

輝やくステンレスの窓枠，大きな磁器の壁面に映える太陽，路地におちる光の縞模様に，幼き日の石けりを思う。これからの都市の生活を考え，生きる喜びを〝ひかり〟に託して……。

本号より1年間，この表紙デザインの統一テーマとして，「都市環境とその要素」をとりあげていきます。

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 菅谷 淳

海外写真　モンマルトルの丘にて（パリ）……撮影：恒成 一訓……25

年頭のことば　大波小波のくる年……東畑謙三……27

委員会のことば　日本建築協会常設委員会本年の抱負（事業委員会・建材委員会・出版委員会・住宅委員会・法規委員会・教育委員会・編集委員会）……28

スケッチブック　第11回工高生デザインコンクール入選作
課題：「明日の住宅」入選10点……30
最近竣工の新建築9点……62

建築の眼　担当：白石博三・高橋慶夫・山田義行・中村文夫……34

昭和40年中に竣工した新建築（PR）……38

本文

1都市住居の歴史　町屋の変遷 —— とくに大阪の町屋の歴史私観……玉置豊次郎……64

2現段階の都市住居　都市住居の型 —— 文化住宅・マンション・パンション・etc ——……野々村五四男……70
大阪市内にある借家例について……政岡基次……77
建築行政と都市住居——行政側の意見を聞く……答える人：吉村卯一……82
都市環境と住居……石堂正三郎……85

3都市住居の今後の方向
今後の都市住居の方向——郊外社会の否定——……住田昌二……89
未来の都市住居……西沢文隆……93

4コラム　住宅の建設資金……大橋孝則……98
「住宅よろず相談展」を開催して……住宅委員会……99
福岡の市街地住宅2点：1.福岡市大濠市街地住宅……102
2.福岡市大名市街地住宅……104

新らしい技能工シリーズ・第10回
火災報知機工（友田正太郎氏）……宮脇毅……106

読者の頁　新刊紹介……107

クラスメート　8.日大昭和10・11年卒（西村栄一・野々村五四男・森口清ほか）……108

技術の頁　41.材料部門：コンクリートの亀裂と硬化乾燥収縮 …下鳥正孝…113

座談会　若い建築家は語る（工高生デザインコンクール10周年記念・座談会）…116

月報　日本建築協会月間の動き（昭和40年11月分）……121

編集人　松井昭光
印刷　昭和41年1月20日
発行　昭和41年1月25日
発行人　福中定三郎
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜3—37
電 大阪231—9648
振替口座 大阪39975
印刷者　網野栄
印刷所　（株）研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361—2091
売価　1部 200円・送料共

建物の洗ひと管理の店

住宅美素工事の創始者

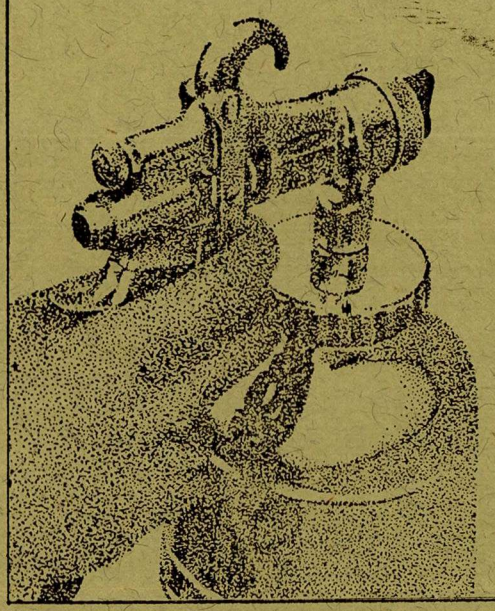
- ビルディングの洗浄工事
- 木造建築洗浄・美素仕上工事
- ビルディングの清掃・一般管理

（登録商標）

美素工業(株)
美素建物管理(株)

本　社　大阪市東区瓦町三和ビル
電話(231)5888・4938
営業所　大阪市東区本町二丁目五
電話(261)4070・4079・617

常備色 **40** 色に増加 値下げ



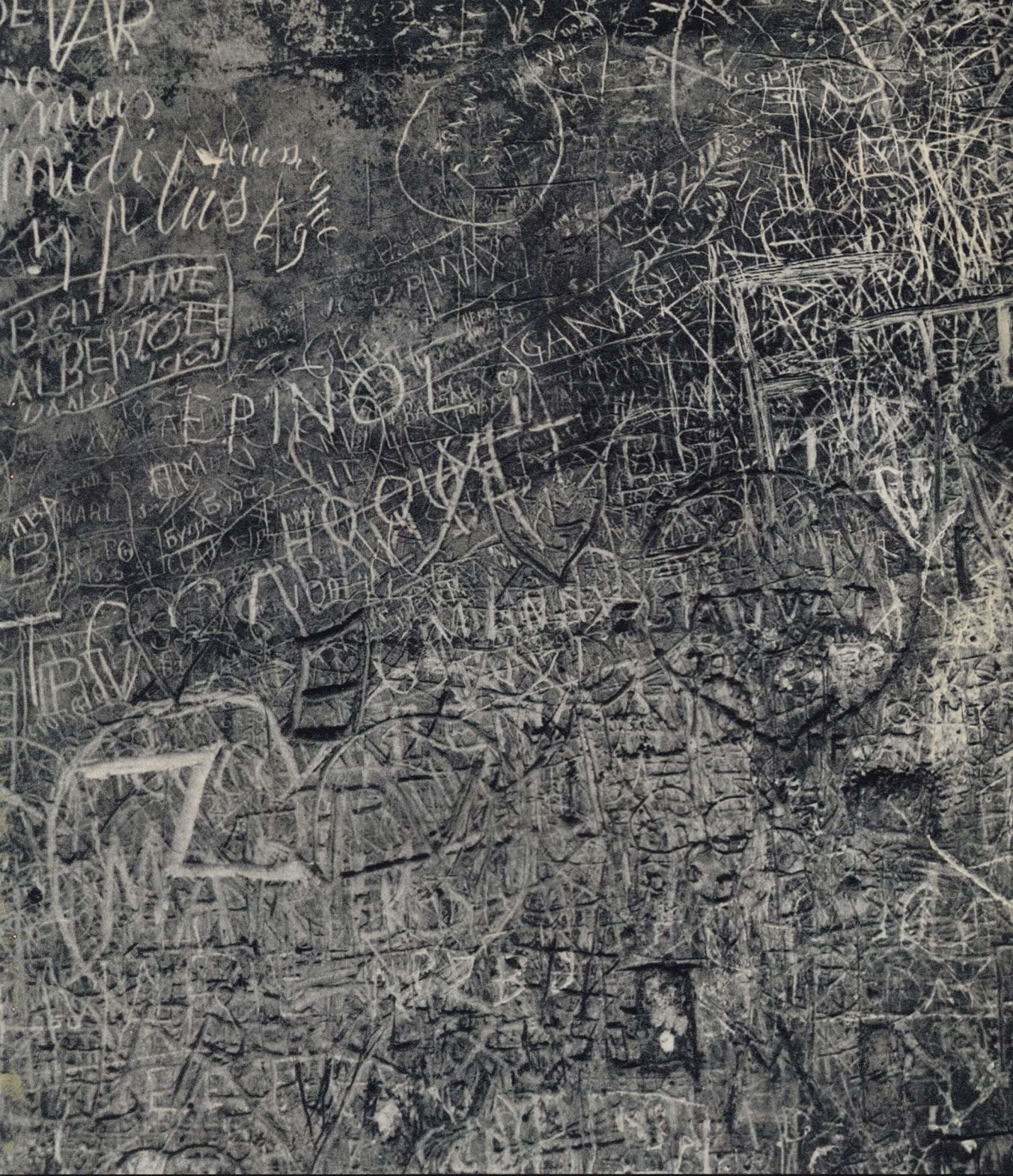
常備色が40色に増えました。そして大量生産によるコストダウンの結果、次表のとおり一般色よりも安くなりました。

容　量	1ℓ	4ℓ	16ℓ
一般色	530円	2,000円	7,500円
常備色	520円	1,950円	7,200円

特許多彩模様塗料

ゾラコート

関西ペイント株式会社
大阪市東区伏見町5・東京都中央区宝町3
●色見本帳・カタログご希望の方は宣伝課Z係まで



モンマルトルの丘にて（パリ）　撮影：恒成一訓



モンマルトルの丘にて（パリ）　撮影：恒成一訓

謹賀新年

昭和41年

年頭のことば

大波小波のくる年

日本建築協会会長　東畑謙三

新しき年を迎えて想を新たにすることは毎年の繰り返しになることだが，建築界にとって今年ほど多様な波をうける年も少ないのではなかろうか。

まず第一に建築界全体の問題である。戦後ここまでのびるとは信ぜられなかった経済界の大発展の後をうけ，戦後始めてといわれる不況に出会った昨年度は，わが建築界にとってもまた受難の年であった。ただ建築界におしよせる波は，その産業の性質上他に比していくらかずれがある。またその波は急にはおしよせない代りに，引くときもまた徐々である。したがって昨年度はわが建築界は他の産業に比すれば，まだまだ繁栄を持続していたといえよう。しかし，そのずれた波の低部がいよいよ見えだしたのが今年度である。こう考えれば全く暗い新年である。

ところが政府は不況対策として，大量な公共事業の実施にふみきった。公共事業すなわち道路の新設，住宅の建設，都市の再開発，いずれもわが建築界に直接結びつくところ，否むしろ建築界の活況を通じて産業界を発展させようというのであるから，この高い波はわが建築界が他の産業に比して真先きにうける恩恵の波である。波の最低部がまだやって来ない間に早くも高い波がおしよせてくる。かく考えれば全く希望にみちた新年ともいい得られよう。

もう一つうれしい波がやってくる。待望久しき万国博の着手の年である。関連事業もいれて1兆2千億にものぼるといわれる大事業はこの4年間に遂行せなければならぬ。その中の大半は建築界につながる波である。いよいよみち汐ともいうべき持続した波である。

建築界は今年度はこの大波小波を直接かぶる年である。従来あわただしきままに，ややもすれば怠り勝ちだった建築界内部の体制の反省，またその構造的な改革，あるいは新しき波に対する技術的な受入れ研究，これらが本年度にわが建築界に課せられた問題である。

日本建築協会も本年は創立49年を迎える年である。団体，個人を問わず，会員諸君の新しき大波小波を受けて立つ覚悟と努力を願い，そうして光栄ある創立半世紀の有終の美を発揮する年としたいものである。

事業委員会本年度の抱負

事業委員長 **増井敏克**

昭和40年もにぎにぎしく開かれた当協会恒例の忘年懇親会で棹尾をかざり，ここに昭和41年の新春を迎えることになりました。

年々発展をつづける当協会の事業も年がふえるにつれて，新しい企画のもとに進めなければなりません。当協会員の構成は，官公庁・学校・設計事務所関係を始め，建設業界・建材業界・電気工事・配管工事などと非常に広く全建築界にわたっている上に，協会の趣旨が会員相互の親睦機関でもあり，研修機関あるいは社会に対する啓蒙機関でもあるので，事業委員会の企画も勢い多目標とならざるを得ないのです。

本年度の事業も見学会・材料説明会・講演映画の会・若き人の集いなどと盛大に企画し実行していただく積りですが，これにともなって関係される委員のご協力も大抵のものではなく，しかも協会の性格上手弁当同様の社会奉仕であるが，将来の建築界の発展のために，更に多くの各界の層を結集して前進して行く必要がありますから，甚だ申しわけないことながらなおこの上とものご尽力を願わねばなりません。

会員の皆さまにもこれらの点をよくご諒察の上，どしどしご希望なりご批判を提示していただいて，当協会の目標達成にご協力方を切望する次第であります。

建材委員会

建材委員長 **政岡基次**

建築物の設計・施工・維持管理に関して，建材の受け持つ役割の大きいことは贅言を要さない。本協会が創立の当初からこのことを重要視して来たことは，初代会長の片岡安博士が夙に大正10年に材料委員会を設置して，自ら委員長として采配を揮るわれたことによっても明らかである。

建材の進歩発展は文字通り日進月歩であり，それが設計・施工と同一歩調で進んでいるどころか，最近ではむしろ独自で一歩を先んずるやに見受けられるものさえある。古来からの天然産のものの加工法の発達の他に新に生まれた素材とそれの2次・3次と高度の加工品が誕生し，更には多数のそれらを工場で組みたてたものにまで進展している。これらの中には，元来建築材料として生まれたものの他に，他の要求から誕生し発達したものもあり，それが従来解決できなかった建築技術の解明に華々しい役割を演じているものもあるが，他方その中には，初生児として直に厳しい世間の荒波に耐えて行くためには，衆知を集めて温く育てあげる手を必要とするものもある。

多方面に，多年の貴い経験を持った委員で構成されている本建材委員会は，これらのものを真剣にとりあげてまず自らが勉強するとともに，メーカーと一身同体となって，正しい建材の一層の発展に寄与を続けたい覚悟である。

出版委員会

出版委員長 **田中良太郎**

出版委員会もいろいろと計画を述べるだけで，実質的には，あまり実現もせずに暮れてしまったことになる。しかし，委員会内部では，四部会の部会長を中心に，またすでに計画にのった企画はその編集委員長を中心に，豊醇な内容が旺に成熟しつつある。本年はそれらが次々と世に出るはずである。また『協会選書』もようやく軌道にのった。すぐ役にたつ，いわゆるポケッタブルな坐右の書として，みなさんのお手元にとどく。

しかし，出版事業が拡大してくると，また未解の問題が起ってくる。執筆料，売価，広告のあり方あるいは有無など，協会出版の立場を明らかにしなければならない時が来ている。それから，いかにして現実に，全会員に出版物の存在を知ってもらうかということ。たとえば「建築と社会」に『出版だより』の頁を設けてもらう。適切なご人に，きたんのない書評を書いてもらう。読書から読後感を寄せてもらう。そういうことなどでまず本のあることを周知してもらうように努めたいと思う。具体的な書名については，そのつど知っていただくこととして，ここではふせておく。運営についての今年度の仕事のことを述べた。

住宅委員会

住宅委員長 **海上静一**

今日の日本においては，もはや衣・食に関する限り大きく戦前を凌駕しており，ひとり住宅の問題のみがとり残されたかたちとなっている。

公営住宅，公団住宅の賃貸申込は相変らず，数十倍の競争率を示しており，民間による賃貸，分譲住宅，自力建設も，地価の高騰などにより延びなやんでいるのが現状である。

この住宅難から生ずる様々の「住まい」に関する悩みについて相談に応じようと，住宅委員会では，一昨年，昨年と引続き「住宅よろず相談所」を定期的に開設してきたのであるが，本年も過去２カ年の経験を生かして更に規模を拡大し，資材の展示，各種相談コーナーを充実するほか，住宅設計コンクールなども実施して，対社会的により一層日本建築協会をＰＲしたいと考えている。

法規委員会今年の抱負

法規委員長 **佐野正一**

法規委員会の仕事は，法規の普及啓蒙と立法についての建議であるが，このところ建築士法改正問題が課題となり，これが建築という仕事の今後のあり方に深くつながるだけに論議も慎重複雑となり，昨年は設計監理ということがらに問題をしぼって建築関係各団体の一致意見をまとめようという方向づけができたところで終った。今年はこれを受けて具体的な立案段階になり，論議は更に活発化すことと思う。かねてから本会でも関心のある建築基準法改正の動きも今年はいよいよ本格的検討段階になる。

この二ついずれも建築の基幹法律なので委員会で突っこんだ審議が期待される。もう一つ万国博を迎えてそのために必要な建築法規を準備しておかねばならぬ問題がある。この問題にどんなタッチをするか，昨年末にひととおり委員会で意見交換をした程度であるが，今年早々にも更に問題の焦点をさぐって論議してみたい。

今年の教育委員会の指標

教育委員長 **岩下久哉**

毎年継続して開催している「現場実務講習会」，「現場主任講習会」，「工高生デザインコンクール」，「工高生施工教育」は一層内容の充実を昨年の反省から進めていきたい。

本年は，大阪から出発して，全国各地で講習会を実施したい。「左官工事講習会」，「鉄骨構造講習会」，「建築技術者のための設備講習会」，「設備技術者のための建築講習会」など出版委員会の出版物を教材により一層建築技術者の向上，発展に本会独自な企画で貢献していくことにしたい。また新しい企画として「中堅技術者教育」を本年から継続した企画で実施したい。

会員各位からの建築教育についての提案を本委員会まで寄せていただきたい。それらを企画に採り上げて研究を進めたい。

編集委員会のこと

編集委員長 **長谷川　哲之助**

新しい年を迎えるに当って，思いを新たにして「建築と社会」の一層の充実に努力してゆく所存でおります。今年は，日本建築協会の会員構成を考え，若い層ならびに実際に役立つ施工と設計面，および協会の事業との結びつきに力を入れてゆきたいと考えております。

編集委員会には「作品作風小委員会」，「表紙デザイン小委員会」，「技術の頁小委員会」，「新らしい技能工シリーズ小委員会」の小委員会と，特集に応じてそのつど開く「幹事会」があり，編集の企画をしております。ただ，どこも同じでしょうが，最近の不況が反映してか，広告収入が少なくなりつつあり，広告料により雑誌費をまかなう原則を守ることが困難となってきました。そこで事業委員会初め皆さまのご協力をえるため，新たな角度から「広告企画小委員会」を新設しました。風格を落すことなく増収を計るべく努力しておりますので，今年も皆さまの一層のご協力をお願いいたします。

なお私，前編集委員長の片山光生氏が，昨年６月に関東地建に栄転されましたので，その後任委員長という大任をおおせつかりました。さいわい，編集理事，委員，および事務局の方々のご協力により，何かとその任を努めさしてもらっております。今年も一層のご鞭撻とご指導のほどお願い申しあげます。

第11回工高生デザインコンクール入選作

設計課題：明日の住宅　　主催：日本建築協会

総　評：＜郊外の住宅地で地形・形状並びに道路などは自由＞これは第11回工高生デザインコンクールの設計課題「明日の住宅」の敷地条件であったが，敷地と環境を自由に想定し住宅を設計してそのまま実現できたならば，それは，設計者の夢であってすばらしいことである。

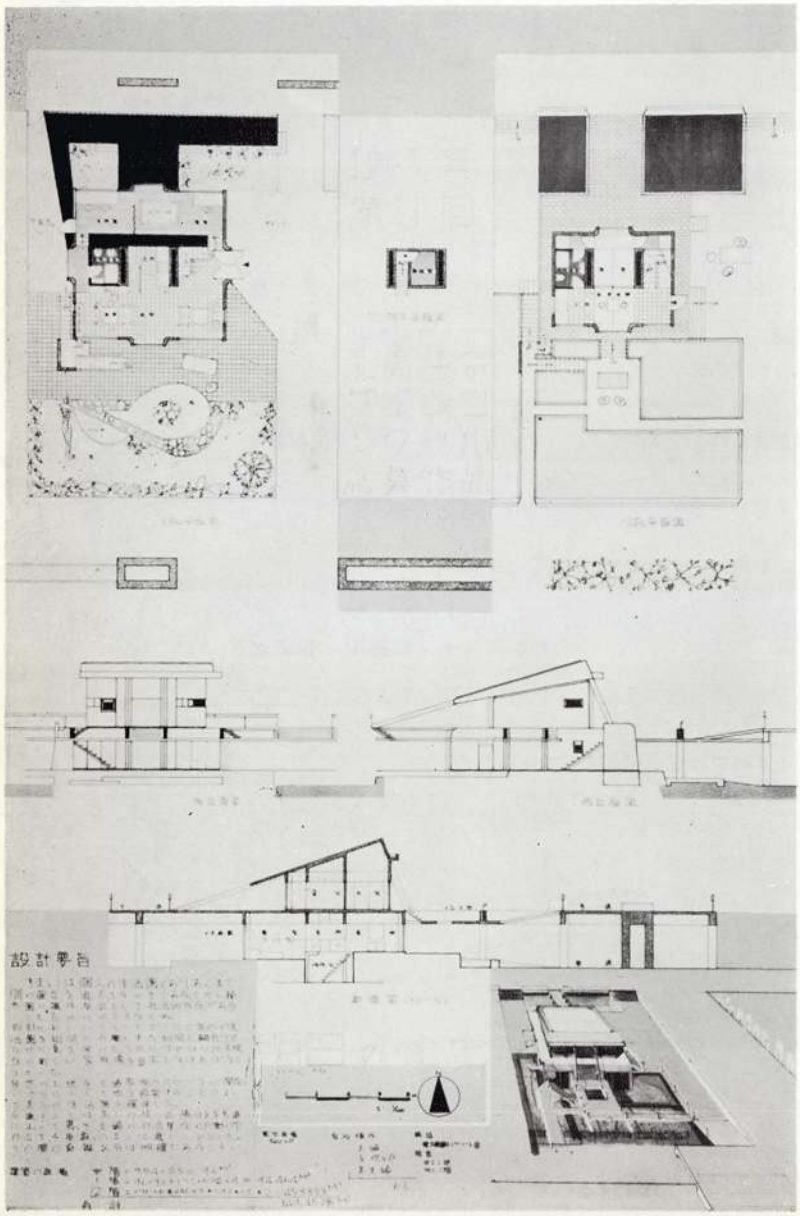
住宅熱の最頂点とも見られている現時点での住宅デザインコンクールに，こんな自由な敷地条件が組込まれたことは若い学生の応募意欲をそそるためにも喜ばしいことであった。

住まいかたについての新提案とか新しい素材や新しい工法によった飛躍した作品を多く期待したのであるが，初級学生の基礎勉強の中からは無理な期待であろうとも思われていたのである。

入選作に，人工土地からスタートして，2住居を組合せた住宅のあった他には，特筆する強いイメージを持った作品のなかったことはさびしいが，製図と表現技法に着目できる作品が多くあって，その進歩と努力にほのぼのとした若さを感じとることができた。

なお選外となったが，下記諸君の案は，候補として最後まで残ったことを付記する。

大分工業高校：3年・増村　誠一，　静岡工業高校：2年・紅林　　満
静岡工業高校：3年・鞍智　紀子，　大阪市立工芸高校：3年・前波　恵治
東京工業高校：2年・吉田　　清・山口　光雄・船津　秀樹・佐藤　　憲・先崎　勇一



審査経過：審査会は，昭和40年10月7日午後2時より6時にわたって開催された。出席者は，海上静一委員長，荒堀宇三郎・伊藤知二・亀井晃治・上林博雄・徳岡昌克・山口吾郎・吉岡吉雄審査員であった。審査は，本会4階集会室に応募作品(29校・147点)を掲示した会場で，書面投票による第1次審査をおこない，得票のあった作品35点を第2次審査の対象とした。対象作品についての審査員の自由討議があった後，第2次審査と書面投票でおこない，得票上位の作品15点が次の審査に残った。その内上位最多得票の作品7点を入選作品に決定した。後3点の入選作品は自由討議→投票で決定した。最優秀賞作品は全員の一致で決定した。

設計要件

a. 敷　地
500㎡（郊外の住宅地で地形・形状並びに道路などは自由）

b. 建築の面積
独立住宅で，約150㎡以内（ただし，カーポートの面積を除く）

c. 所要室および設備
任意とする。（ただし，カーポートをもつこと）

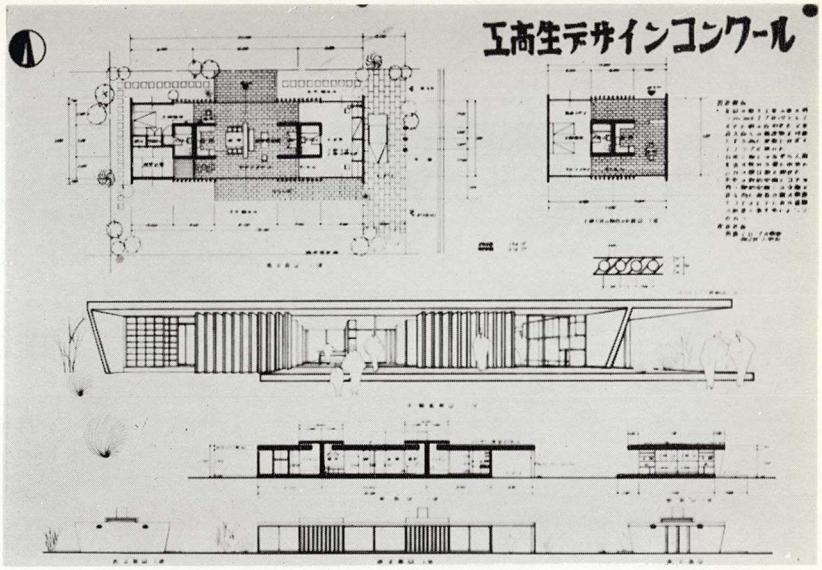
d. 家族数
老人および夫婦と子供2～3名

e. 構　造
任意とする。

最優秀賞

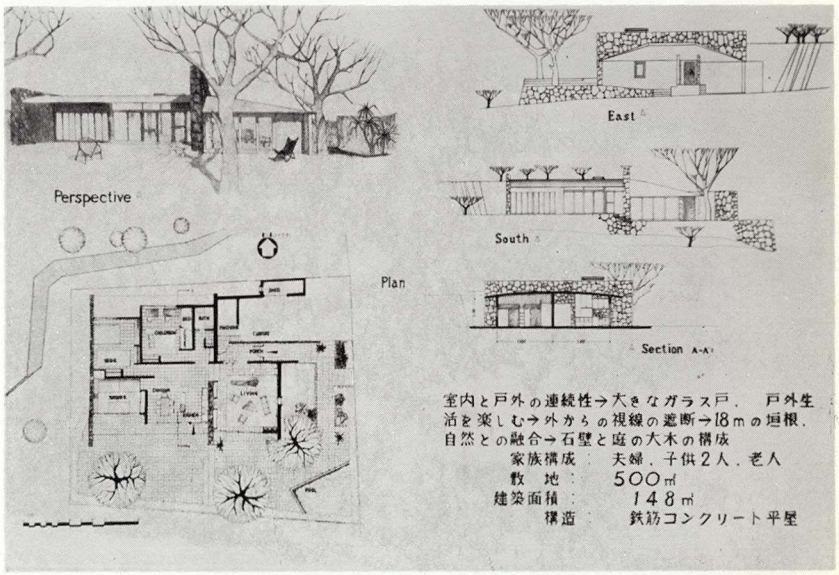
大分県立大分工業高校
3年・高　橋　一　生

明日の住宅として課題をとらえ，家族構成による生活圏の分離・集団住宅として人工土地の構想を導入したことが，現実から飛躍した野心的なアイデアとして，最優秀賞が贈られた。アイデアの消化，表現については突込み方が足りない。



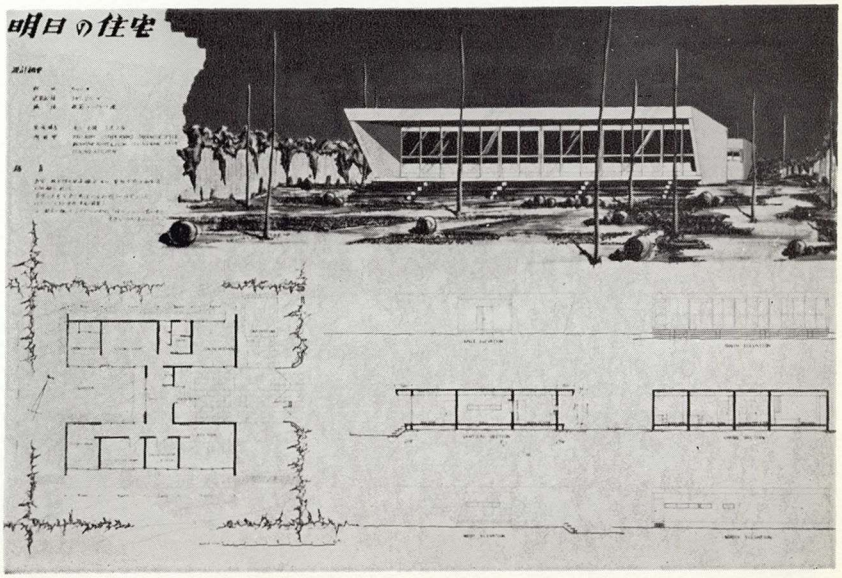
大阪府立西野田工業高校
3年・真　野　秀　雄

コアーにH型の主柱を配した構造的に最もシンプルな，アイデアに賛意をおくる。表現も優良と思われるが，構造にもう少し注意が行届いていたら，さらによい作品となろう。



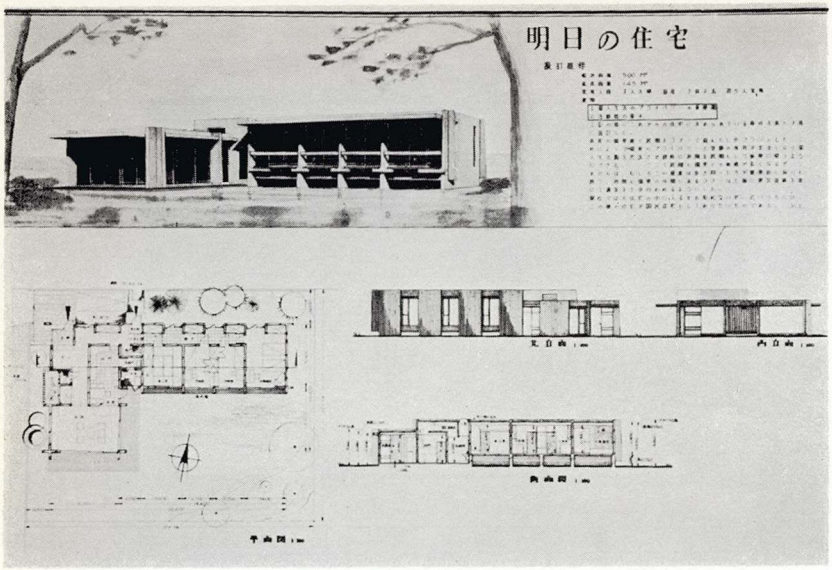
愛知県立愛知工業高校
3年・大　島　種　良

自然にとけこむような，ユニークな作品である。表現も独自のスタイルをもって優秀であるが，同時に野心的な試みをもつことも必要。



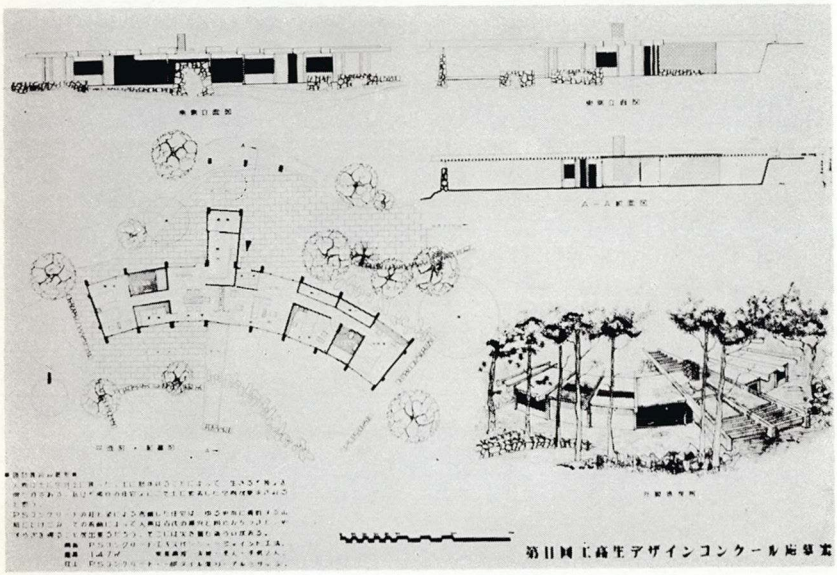
大阪市立都島工業高校
3年・鹿　島　雅　雄

RC，壁式のI型プランは構造上すなおな設計となっている。明日の住宅として定形的にならないよう，飛躍が望まれる。ガレーヂも一工夫ほしいところ。



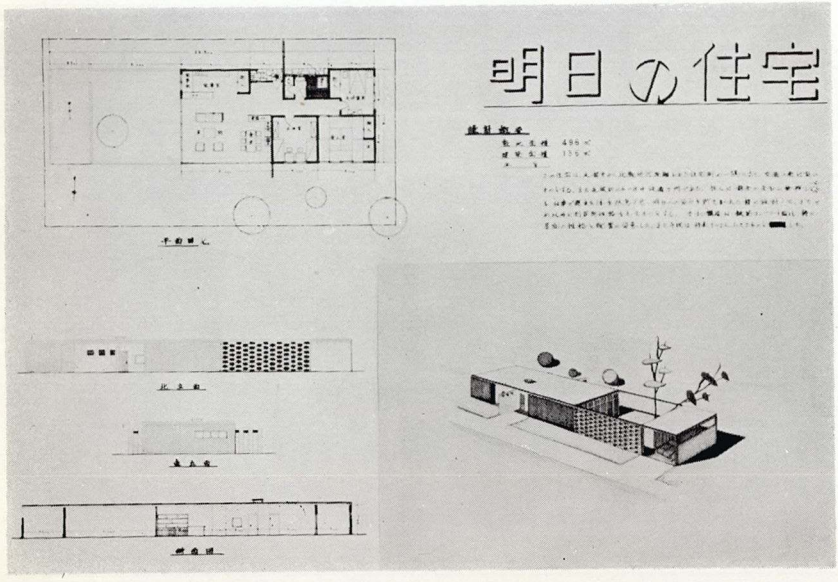
名古屋市立工芸高校
3年・小 森 博 重

おなおな設計であって，技法も優秀であるが，計画の焦点が確立されていないのが，弱点となっている。



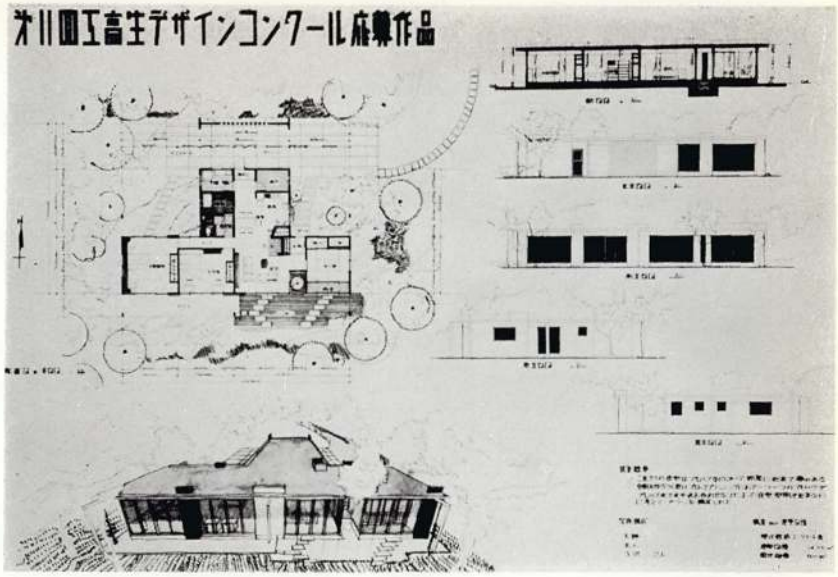
横須賀市立工業高校
3年・惣 道 和 昭

地形に調和させた扇状のプランで，選に入ったが，類型的である。創造的な方向に進まれることを期待する。



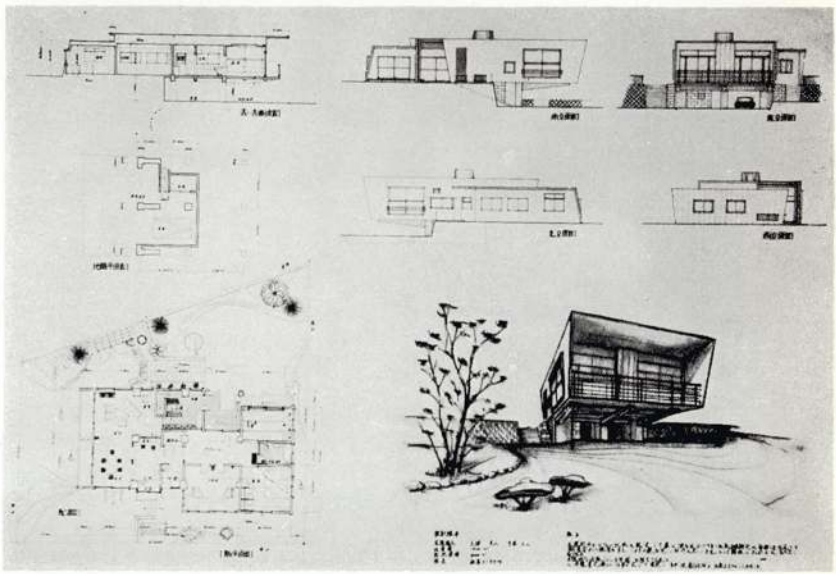
大阪市立都島工業高校
3年・吉 井 利 博

プランが比較的，難なく纏っているが，それだけにもの足りない。構造，表現に工夫がほしい。



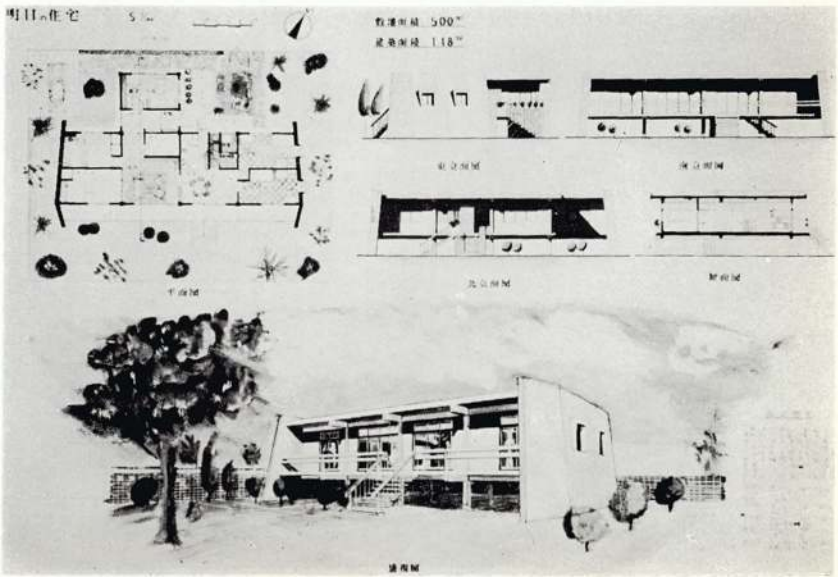
大阪府立西野田工業高校
3年・川　島　章　好

多少，類型的な平面と思われるが，各室面積のプロポーションがよい。プレハブの意図が表現されていないのが残念である。



岐阜県立岐南工業高校
3年・宮　崎　一　一

マツスのコンポジションが意図されている。計画にはなお統一された調和も大切である。



京都市立伏見工業高校
3年・西　村　健　史

図面の効果をねらった作品である。努力は認められるが，計画にはもっと夢のある，のびのびとした設計を望む。

建築の眼

白石博三
京都工芸繊維大学
高橋慶夫
大阪建築事務所
山田義行
KK竹中工務店
中村文夫
日本板硝子KK

■ 建 築 の 眼

私は近頃，建築がだんだん嫌いになってきた。日本の風景を破壊しつつある元兇は，われわれ建築家だと思うからだ。
風光明媚なところには，観光のために人が集る。すると，道路をつけ，ホテルを建てることになる。その結果，景色はだいなしとなる。東尋坊の海岸は，みやげ物産とバカ高い塔で，無惨なことになった。洛西高尾の清流は，料理屋の下水と化しつつある。観光地には，一切の建築を禁止せよ。不便でもかまわない。不便なのが嫌な人は，行かなければよろしい。
岩波茂雄は自宅を建てるとき，敷地内にあった櫟の老樹を惜んで切ることを承知せず，ために設計者が困ったという。その通りならば，建築家の心掛けがよくない。人間の造る建築などは，しょせん1本の老樹には及ばない。 (A)

■ す じ か い

木造の建築にすじかいを入れることがやかましくいわれ，ようやく常識となったのはそれ程古い話ではない。しかし，すじかいが壁に使われたのは鎌倉時代にもあったことで，法隆寺舎利殿絵殿や，その頃修理された伝法堂などに見られるのである。すじかいの効用はその頃の工人にも経験上知られていたのであろう。
ところがそれは広く用いられるに至らなかった。真壁造りの日本建築では，水平と垂直の構成をすじかいがぶちこわすことになる。そこですじかいは小屋組の中にかくれ，軸部を固めるものとしては貫（ぬき）が登場した。ラーメンに通じるものが感じられるのである。
最近の鉄骨の建物には窓があろうがやたらとすじかいを入れたものが目立つ。
安くするにはこれしか手がないといった風である。
しかし，すじかいを目立たせたくないという考えは日本の建築の底に生きているはずである。 (B)

■「な ぜ」 そ の 一

建物で一番不愉快な思いをするのが雨洩りである。いかに内部，外観の仕上が立派でも，天井・壁の斑点，バケツに落ちる雨洩りの音は不愉快極まるものである。
風雨をしのぐものが家である。いかなる台風にも，大雨にも安らかに働き，愉快に住う場所が家であり家の生命である。古い瓦葺きの家は破損を生じない以外は雨洩りが少ない。しかし，昨今の新建築といわれる建物に多いのは「なぜ」だろう。その原因は設計上の欠陥，施工上の不完全，防水剤の欠点，防水法の選定の誤等々にある。このような原因によって生じる雨洩りを防ぐことは建築に携わるわれわれの責任であるが，なかなか跡をたたない。私はそのつど「なぜ」防止できないのかと思うのである。その欠陥を防止するには設計者も真剣に考慮すべき問題である。新しいスタイルの建物，新建材，施工の機械化等々日進月歩の建築界に「なぜ」雨洩りのみが跡をたたないだろうか。 (C)

■ 建 築 の 立 場 で ガ ラ ス を

「窓は建築の眼」であるとはよくいわれる。これは，窓がデザイン的にも，また機能的にもきわめて重要な要素をもっていることをいっているのであろう。このコラムの表題も，その意味と解している。
最近の建築の発達には目覚しいものがある。窓にたいする要求もひどく変わってきている。この意味では，ガラスは窓材料から壁材料へと変わってきているといってよい。永い間，ガラスは窓材料として単体で使用されてきたが，今や他の材料，あるいは他の技術と組み合せて新らしい面の開発時代に入っているといえよう。これからも建築の要求に応じて新らしい種類のガラスが出て来るであろうし，新らしい使い方も考えられるだろう。
今まで，われわれガラスメーカーはどちらかというと，ガラスの立場でガラスを扱ってきたといえる。しかし，時代の波は建築の立場でガラスを考えることを要求している。このようにして他部門との Cooperation はますます多角化し，複雑になってきた。しかし，このような傾向は少なくとも建築におけるガラスの可能性を増大するものとして，むしろ歓迎している。 (D)

上記執筆者でこの「建築の眼」欄を6月号まで担当してもらいます。

GOAL® 鋼をつくって50年



只今
耐久力のテスト中
20万回突破で
精密
堅牢
安全性
実証

近代建築にマッチした錠（ゴールロック）
その格調あるロックは
50年の経験と技術を積み重ね
今日の〈ニード〉に適応する
精密・堅牢・安全性を誇っています
貴方の建築の〈鍵（キーポイント）〉に
ゴールとご指名下さい。

日本住宅公団・建設省・各府県市庁建築設計事務所御指定

GOAL IS THE FINEST NAME IN LOCKS AND HARDWARE



ユニロック UH シリーズ
ホテル・ビル・高級住宅向・重量扉・重厚扉用

株式会社ゴール

本社工場 大阪市東淀川区三津屋北通り4の30・TEL（302）1771～5
東京支店 東京都港区東新橋2丁目9番9号（鈴木ビル）TEL（431）3742
九州工場 佐賀県神崎郡三田川町 TEL（神崎）3177
営業所 札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

第2の生産設備を！

カマクラ
ルーフファン®
キュービックタイプ
強力電動換気装置



■空気には《粘り》がある——
空気は、意外に重く、粘りがあるもの。このため、排気だけを考えた換気対策では、室内の汚染空気は、なかなか動きません。とくに大エリアの事業所では、排気と同時に、新鮮な外気を内部に吹きおろすことが大切！カマクラは、排気と吸気の理想のコンビネーションで、事業所換気の悩みを一挙に解決しました

■雨滴の侵入も
シャットアウト！
もうひとつの悩み、それが雨仕舞です。ルーフファンは、カマクラ独自の〈逆流防止フラップ〉をそなえ、暴風雨時の雨滴の吹きこみを完全に防ぎます。台風・豪雪……にも、実証済みの安全機構です。

■経験と実績で磨かれた
換気プランニング！
機械とともに大切なのが、換気の〈方式〉です。カマクラは、工場レイアウト、業種・人員など、あらゆる条件を深く分析。効率設計にもとずく換気プランをお届けしています。
これまで全国二千をこえる事業所換気をてがけた実績と経験をご信頼ください。

PATENT
216962　232776
216963　232777
232774　233079-1
232775　233078

カタログ御請求下さい。

近畿中部総代理店
小田正株式会社
大阪市東区紀伊国町946
Tel (761) 5265～8・4147・0168
名古屋市中川区外新町3の28
Tel (361) 6691～3

製造元
株式会社鎌倉製作所
東京都港区東麻布1の12
Tel (582) 6861～4

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス



（日本専売公社 大阪北支局）

軽　　量（比重 0.5コンクリート¼の重量）

断　　熱（コンクリートの１０倍の断熱性）

耐　　火（法　定　耐　火　材　料）

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまで
あらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被
覆に使用されますが次の建物には特に最適です

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

SIPOREX

シポレックス販売株式会社

本　　社　東京都千代田区岩本町２ノ１ノ16(森川ビル)
　　電話　東　京（861）代　表　７　２　４　１
大阪支店　大阪市西区京町堀通１ノ125(東洋ビル)
　　電話　大　阪（443）代　表　７　７　４　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３ノ２(大商ビル)
　　電話　名古屋（581）代　表　７　４　２　１

昭和40年中に竣工した新建築

(PR)

目　　次　　(順不同)

東梅田ビル……大日本土木KK大阪支店……39
毎日新聞社西部本社・毎日西部会館……KK大林組……40
東芝大阪ビル……KK竹中工務店……41
日本経済新聞大阪本社新館……戸田建設KK大阪支店……42
ホテルながやま……戸田建設KK大阪支店……43
大丸スカイビル（市街地改造ビル）……KK銭高組……44
新宇治電ビル……鹿島建設KK……45
岩井産業KK北浜分室……不二建設KK……46
新家工業KK本社ビル……KK藤田組……47
太地町庁舎……村上建設KK大阪支店……48
大東市庁舎……KK松村組……49
労働福祉事業団和歌山労災病院……KK浅沼組……50
京都市立病院……大成建設KK大阪支店……51
立命館大学以学館……清水建設KK大阪支店……52
奈良地方・家庭・簡易裁判所合同庁舎……KK奥村組……53
帝塚山大学……KKA・R・I建築事務所……54
千里丘陵ふじしろ幼稚園……KK竹内建築事務所……55
大阪合同ビルディング……KK田中小西建築事務所……56
広島商工会議所……日建設計工務KK……57
黄桜酒造醸造工場……小林得志建築事務所……58
辰巳ビルディング……KK東畑建築事務所……59
播磨カントリークラブ　クラブハウス……KK大阪建築事務所……60
広島ステーションビル……KK安井建築設計事務所……61



東　梅　田　ビ　ル

企画監理	彦谷建築設計事務所
所在地	大阪市北区神山町40番地
建築面積	683.17㎡
延面積	6,843.14㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階，地上9階，塔屋2階
工期	昭和39年7月～昭和40年9月

設計施工　大日本土木株式会社大阪支店



毎日新聞社西部本社・毎日西部会館

設　計	日建設計工務株式会社
所在地	北九州市小倉区紺屋町7丁目207番地の1
敷地面積	4,943㎡
建築面積	4,108㎡
延面積	35,929㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下3階，地上9階，塔屋3階
工　期	昭和38年10月～昭和40年10月

施　工　株式会社　大　林　組



所在地	大阪市東区本町4丁目29の1
敷地面積	1,312.56㎡
建築面積	1,215.03㎡
延面積	15,781.74㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下4階，地上9階，塔屋4階
工期	昭和36年6月～昭和40年10月

東芝大阪ビル

設計施工　株式会社 竹中工務店



日本経済新聞大阪本社新館

設　計	日建設計工務株式会社
所在地	大阪市東区高麗橋1丁目1番地
敷地面積	1,776.88 ㎡
建築面積	1,475.82 ㎡
延面積	13,481.395㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下2階，1部3階，地上7階塔屋3階
工　期	昭和39年4月～昭和40年9月

施　工　戸田建設株式会社大阪支店

所在地	石川県加賀市片山津温泉	
敷地面積		16,265.924㎡
建築面積	ホテル 3,312.760㎡ ボーリング場 1,150.665㎡	4,463.425㎡
延面積	ホテル 13,140.980㎡ ボーリング場 1,180.482㎡	14,321.462㎡
構造規模	ホテル 鉄骨鉄筋コンクリート造，6階建，1部半地下 ボーリング場 鉄骨造，平家建	
工期	昭和39年3月～昭和40年8月	



ホテルながやま

設計 戸田建設株式会社

施工 戸田建設株式会社大阪支店

設　計	日建設計工務株式会社
所在地	神戸市長田区大橋町6丁目4の1
敷地面積	1,650㎡
建築面積	958㎡
延面積	8,044㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階，地上10階，塔屋2階
工　期	昭和39年6月～昭和40年10月



大橋スカイビル（市街地改造ビル）

施　工　株式会社　錢　高　組



所在地	大阪市北区曽根崎上1丁目59
敷地面積	982.687㎡
建築面積	888.277㎡
延面積	10,520.249㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下3階，地上9階ペントハウス3階付
工期	昭和39年1月～昭和40年11月

新宇治電ビル

設計施工　鹿島建設株式会社



設　計	東畑建築事務所
所在地	大阪市東区北浜4丁目15番地
敷地面積	902.879㎡
建築面積	775.291㎡
延面積	5,679.367㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階地上7階，塔屋1階付
工　期	昭和39年10月～昭和40年11月

岩井産業株式会社北浜分室

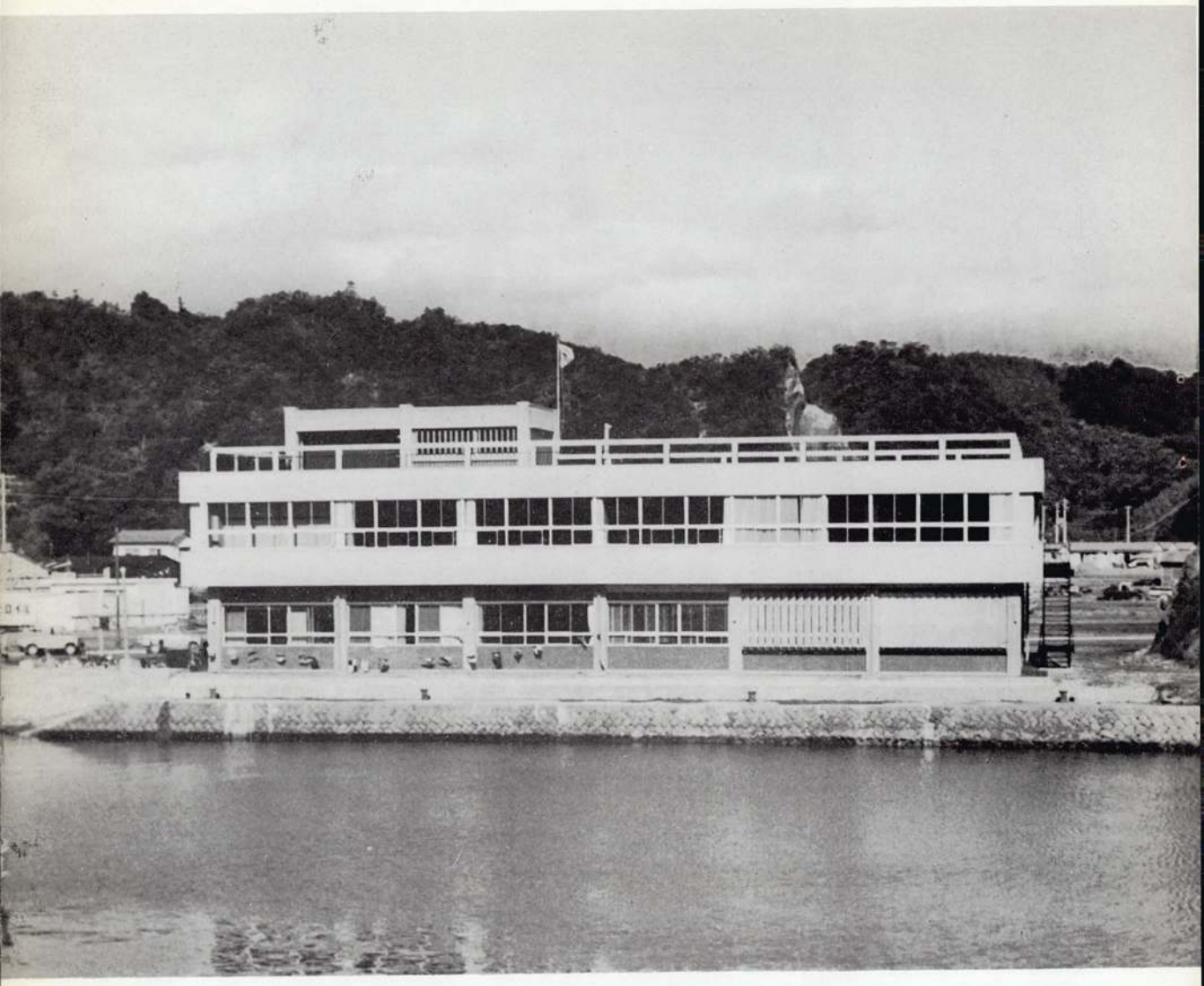
施　工　不二建設株式会社



設　計	東京前田建築設計事務所
所在地	大阪市南区末吉橋通3の5
建築面積	468.9㎡
延面積	5,257.8㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地上8階，塔屋付
工　期	昭和39年5月～昭和40年7月

新家工業株式会社本社ビル

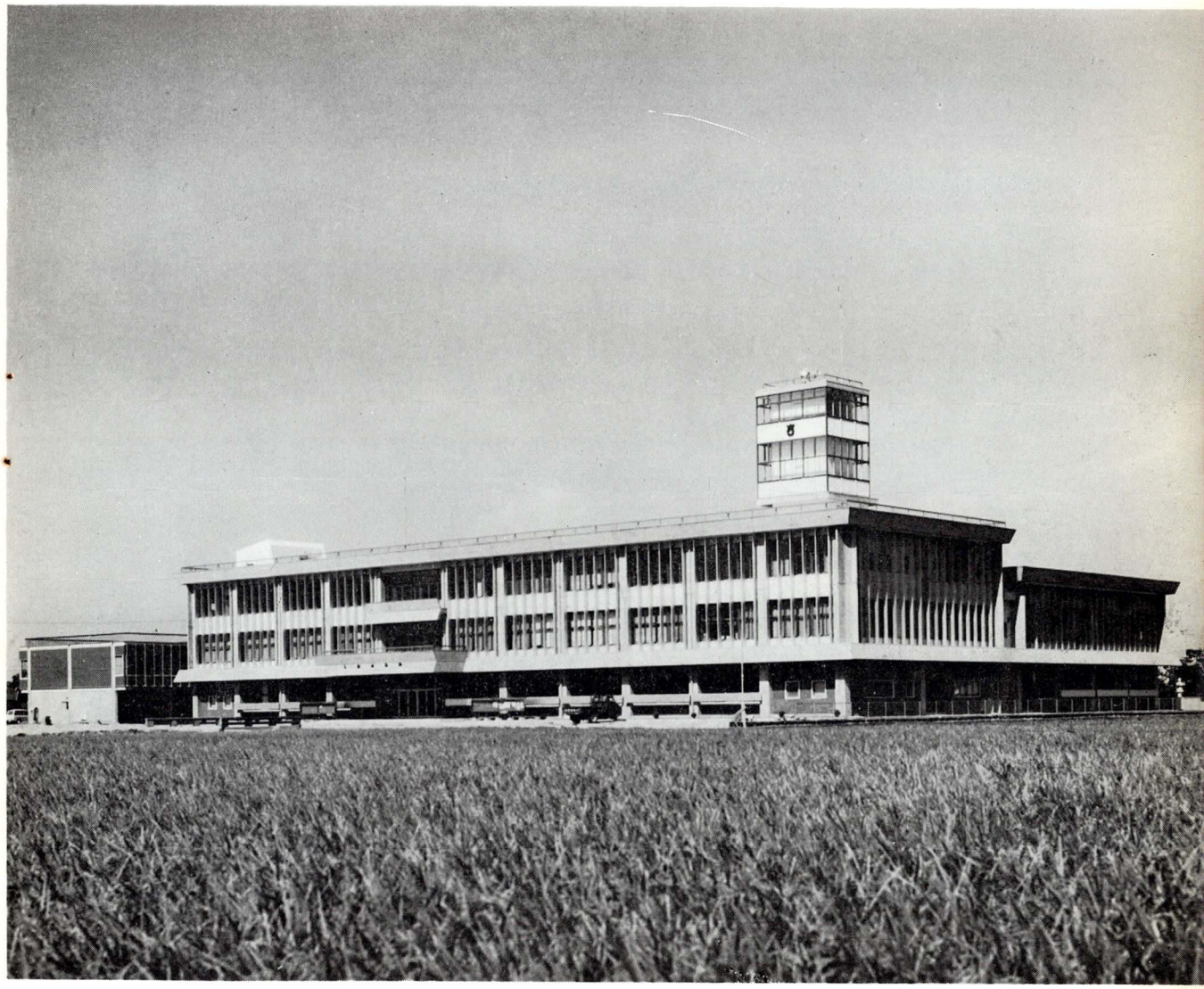
施　工　株式会社　藤　田　組



太地町庁舎

設計	富松建築設計事務所
所在地	和歌山東牟婁郡太地町
敷地面積	1,370㎡
建築面積	548.02㎡
延面積	1,070.795㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造，3階建
工期	昭和40年6月～昭和40年11月

施工　村上建設株式会社大阪支店



大　東　市　庁　舎

設　　計	株式会社 吉田建築事務所
所 在 地	大東市大字深野南2番地
敷地面積	5,336.100㎡
建築面積	2,368.435㎡
延 面 積	5,387.009㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造，地上3階，地下1階，塔屋3階
工　　期	昭和39年10月～昭和40年9月

施　工　株式会社　**松　村　組**

設　計	株式会社 久米建築事務所
所在地	和歌山市古屋435
建築面積	3,092.425㎡
延面積	9,362.739㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造，地下1階，地上5階，塔屋3階建
工　期	昭和39年9月～昭和40年5月



労働福祉事業団和歌山労災病院（第1期）

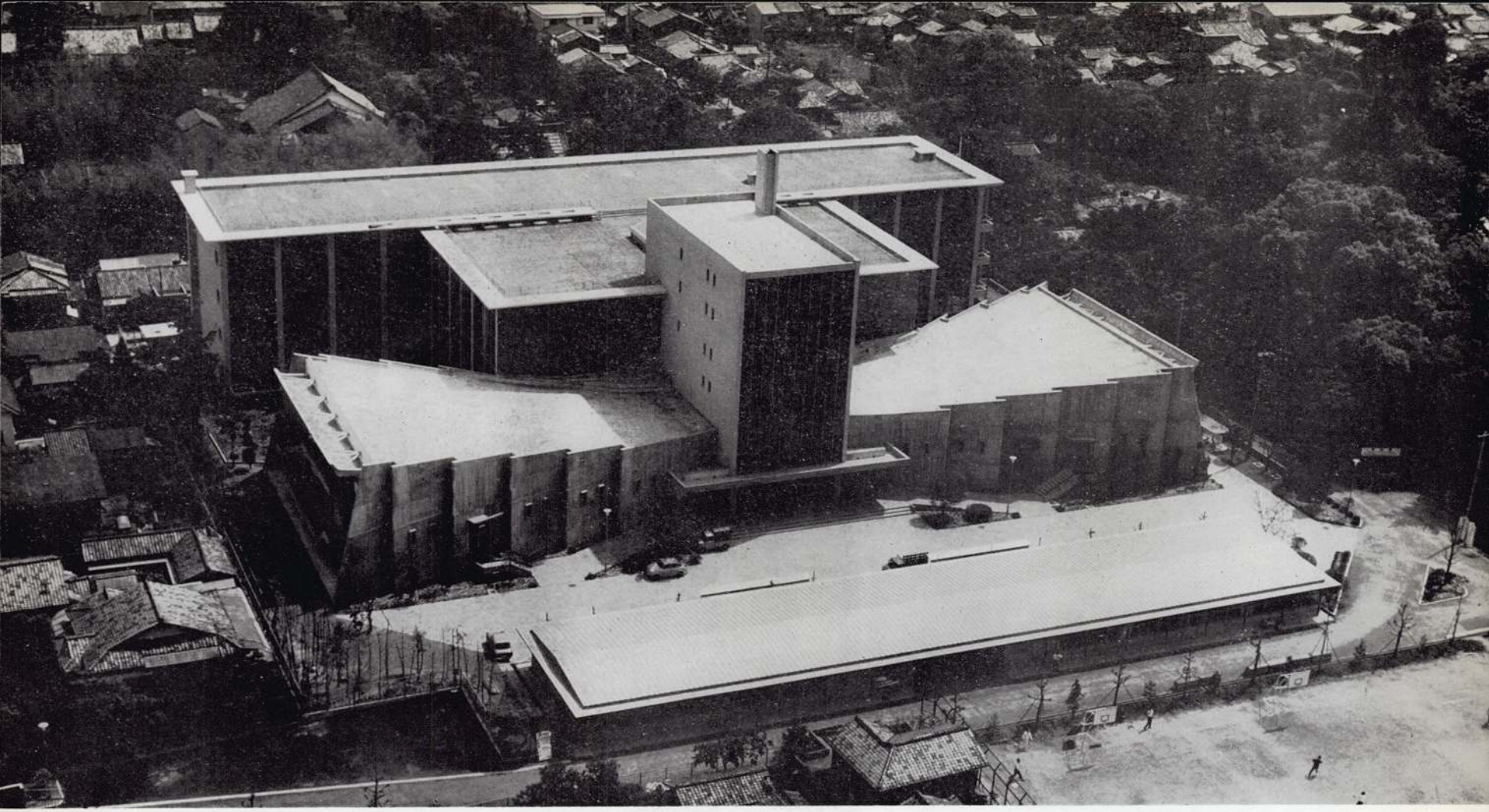
施　工　株式会社　**淺　沼　組**

基本計画	小川健比子・京都市
実施設計	日建設計工務株式会社
所在地	京都市中京区壬生東高田町1の2
敷地面積	41,966㎡
建築面積	4,217.57㎡
延面積	13,389㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造，地下1階，地上5階，塔屋2階
工期	昭和39年6月～昭和40年11月



京都市立病院

施工　大成建設株式会社大阪支店



立命館大学以学館

昭和40年中に竣工した新建築

施　工　清水建設株式会社大阪支店

設　計	富家建築設計事務所
所在地	京都市北区等持院北町27番地
敷地面積	77,409.62㎡
建築面積	3,831.16㎡
延面積	14,327.38㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階，地上4階，塔屋2階
工　期	昭和39年6月～昭和40年4月

昭和40年中に竣工した新建築

奈良地方・家庭・簡易裁判所合同庁舎

施　工　株式会社　奥　村　組

設　計	最高裁判所経理局営繕課
所在地	奈良市登大路町35
敷地面積	9,788.43㎡
建築面積	2,176.46㎡
延面積	5,104.64㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造，2階建 一部4階建
工　期	昭和38年12月～昭和40年9月

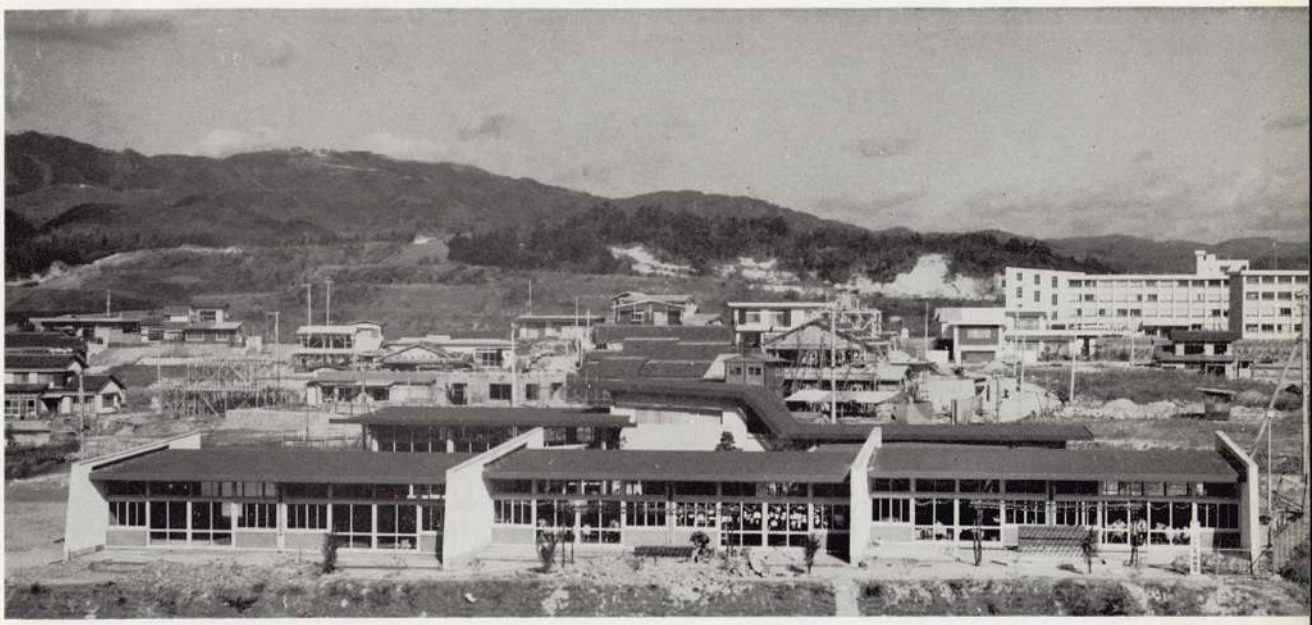


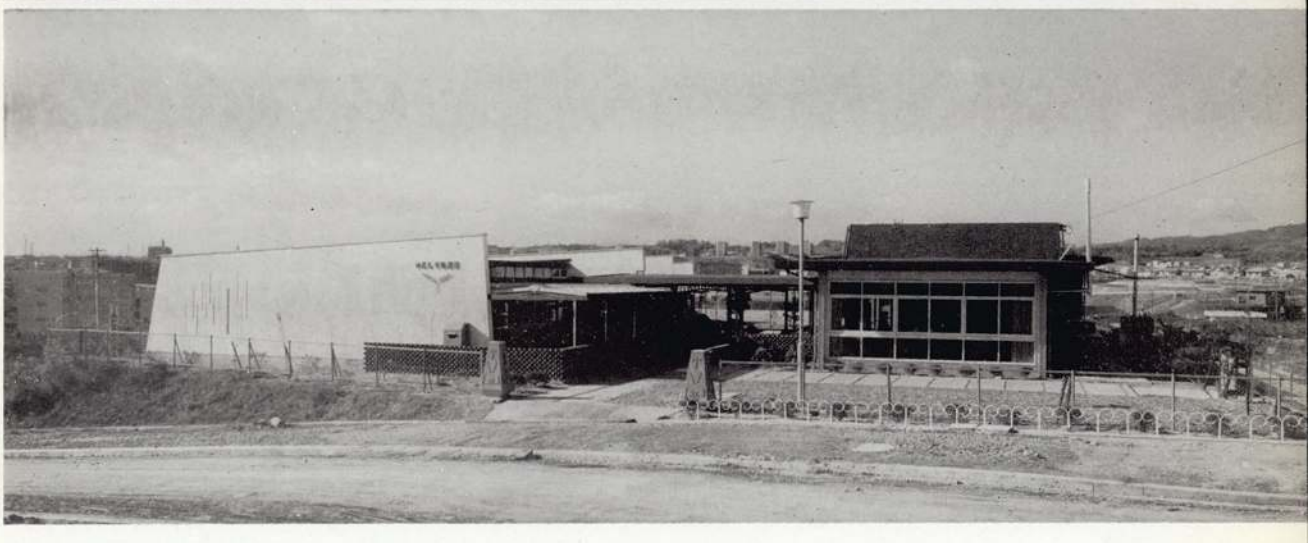


帝塚山大学（第1期）

施工	大成建設株式会社
所在地	奈良市三碓町
敷地面積	100,000㎡
建築面積	2,454㎡
延面積	7,842㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階，地上9階，塔屋2階
工期	昭和39年9月～昭和40年8月

設計　一級建築士事務所 株式会社 A.R.I 建築事務所





千里丘陵ふじしろ幼稚園

所在地	千里ニュータウン　藤白台4丁目
建築面積	823.47㎡
延面積	804.71㎡
構造規模	鉄骨H鋼，平家建，一部2階建
工期	昭和39年10月～昭和40年3月

設計　株式会社　竹内建築事務所



大阪合同ビルディング

施　工	株式会社 松　村　組
所在地	大阪市北区太融寺町33番地
敷地面積	2,006.257㎡
建築面積	1,751.158㎡
延面積	21,376.076㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造，地下2階，地上9階，塔屋3階
工　期	昭和38年8月～昭和40年7月

設　計　株式会社 **田中小西建築事務所**



施　工	株式会社 藤　田　組
所在地	広島市基町5番44号
敷地面積	1,785.19㎡
建築面積	1,247.38㎡
延面積	13,858.57㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下2階，地上9階
工　期	昭和39年1月～昭和40年10月

広島商工会議所

設　計　日建設計工務株式会社



黄桜酒造醸造工場

施　工	新菱建設株式会社大阪支店
所在地	京都市伏見区横大路下三栖梶原町
敷地面積	15,593.280㎡
建築面積	1,571.977㎡
延面積	5,312.573㎡
構造規模	軸組・鉄筋コンクリート造，シャーレ屋根，コンクリート杭打，醸造工場4階建，塔屋2階建，事務所3階建
工　期	昭和39年6月～昭和40年2月

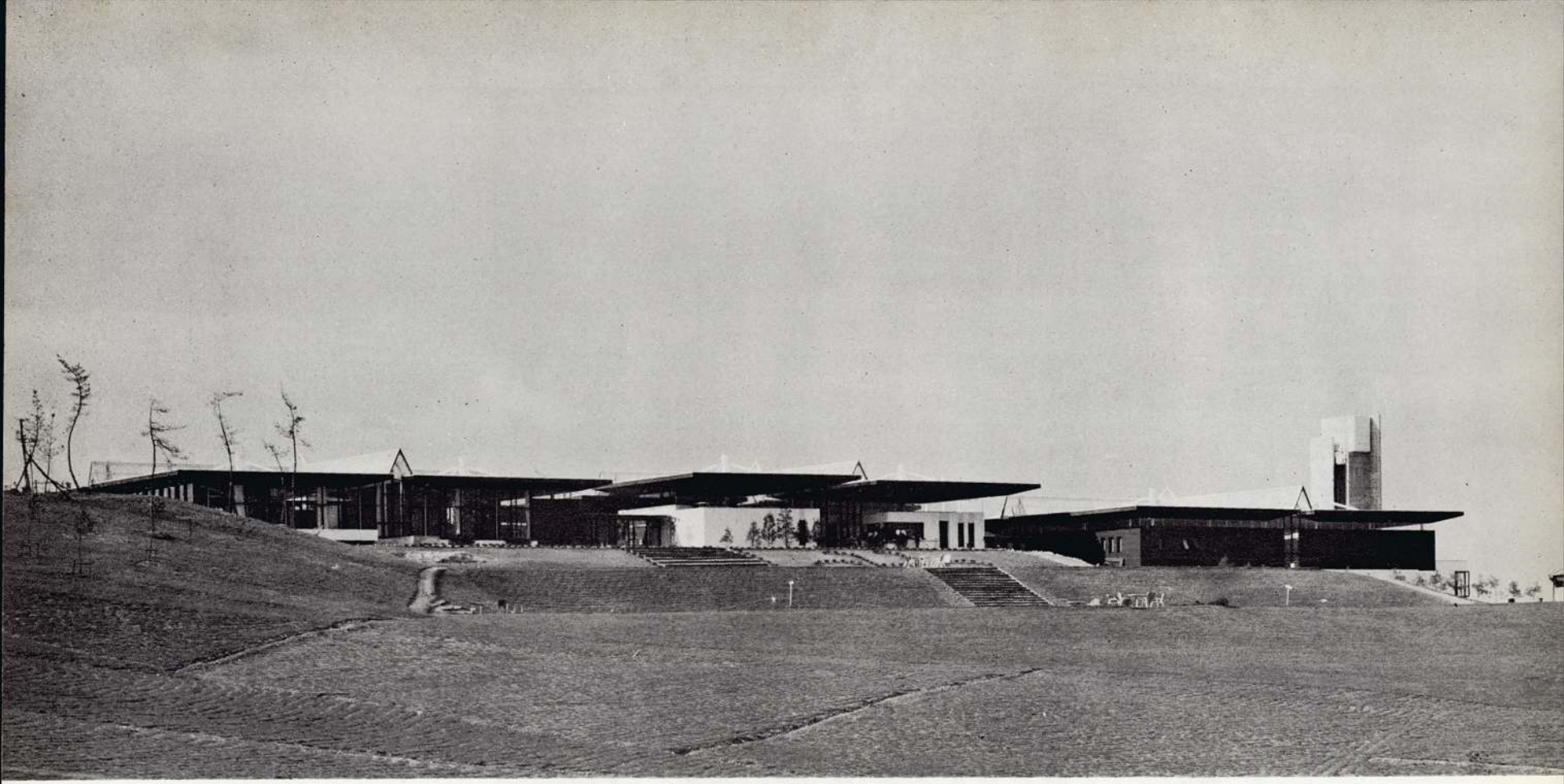
設　計　小林得志建築事務所



施　工	鹿島建設株式会社
所在地	大阪市西区靭1丁目102
敷地面積	666.5㎡
建築面積	616.7㎡
延面積	6,020.2㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造
工　期	昭和38年11月～昭和40年2月

辰巳ビルディング

設　計　株式会社　東畑建築事務所



播磨カントリークラブクラブハウス

施　工	株式会社 原　戸　組
所在地	兵庫県小野市樫山字室山
敷地面積	892,566.00㎡
建築面積	2,194.00㎡
延面積	2,152.00㎡
構造規模	鉄骨造，一部鉄筋コンクリート造
工　期	昭和40年4月～昭和40年10月

昭和40年中に竣工した新建築

設計・監理　株式会社 大阪建築事務所

昭和40年中に竣工した新建築

広島ステーションビル

設　計　株式会社　安井建築設計事務所

施　工	大林組・藤田
所在地	広島市松原町2番37号
敷地面積	19,166㎡
建築面積	4,937㎡
延面積	28,545㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階，地上7階
工　期	昭和39年4月～昭和40年12月



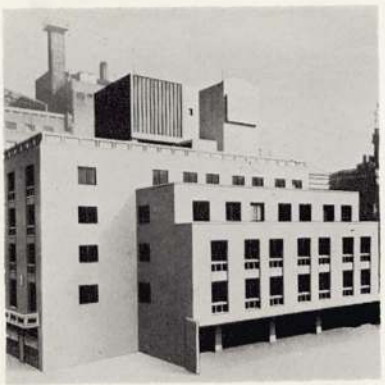
スケッチブック

写真と概要をお送りください。
凡　例：a.所在地　b.建築面積　c.延面積　d.構造規模　e.工　期



82. 同志社記念館

設計：富家建築設計事務所
施工：清水建設KK
a．京都市上京区烏丸通上立売西入
c．8,283㎡
d．RC造，一部SRC，B1，5F
e．昭和39年7月～昭和40年6月



83. 中央電気倶楽部（増築）

設計：KK 双星社 竹腰建築事務所
施工：KK 大林組
a．大阪市北区堂島中2丁目9番地
b．729㎡
c．3,845㎡
d．RC，B1，5F，P2
e．昭和39年10月～昭和40年11月



84. よみうりテレビ放送株式会社（増築）

設計・施工：清水建設KK
a．大阪市北区岩井町2－74
c．3,392㎡
d．RC，B1，5F
e．昭和39年11月～昭和40年10月



85. 帝塚山大学（1期）

設計：KK A・R・I建築事務所
施工：大成建設KK 大阪支店
a．奈良市三碓町2075の3
b．2,453.94㎡
c．7,842.44㎡
d．SRC，B1，9F，F2
e．昭和39年10月～昭和40年8月
特徴：日本唯一の女子教養学部をもつ大学舎。



86. 調布市立第四中学校（第1期）

設計：共同設計KK
施工：榎本建設KK
a．調布市若葉町2－14
b．712,154㎡
c．2,458,798㎡
d．RC，4F
e．昭和39年9月～昭和40年3月



87. 京都新聞本社（増改築）

設計：富家建築設計事務所
施工：清水建設KK
a．京都市中京区烏丸夷川上ル
b．812㎡
c．6,854㎡
d．SRC，B1，9F
e．昭和38年8月～昭和40年9月



88. 久保田鉄工健康保険組合保養寮

設計：日建設計工務KK大阪事務所
施工：KK 近畿建設
a．大阪府河内長野市長野町177の4
b．1,095.16㎡
c．1,557.39㎡
d．RC，3F
e．昭和40年3月～昭和40年11月
特徴：独立性の高い和室17室の他，各種娯楽室を有する"屋上庭園あり。



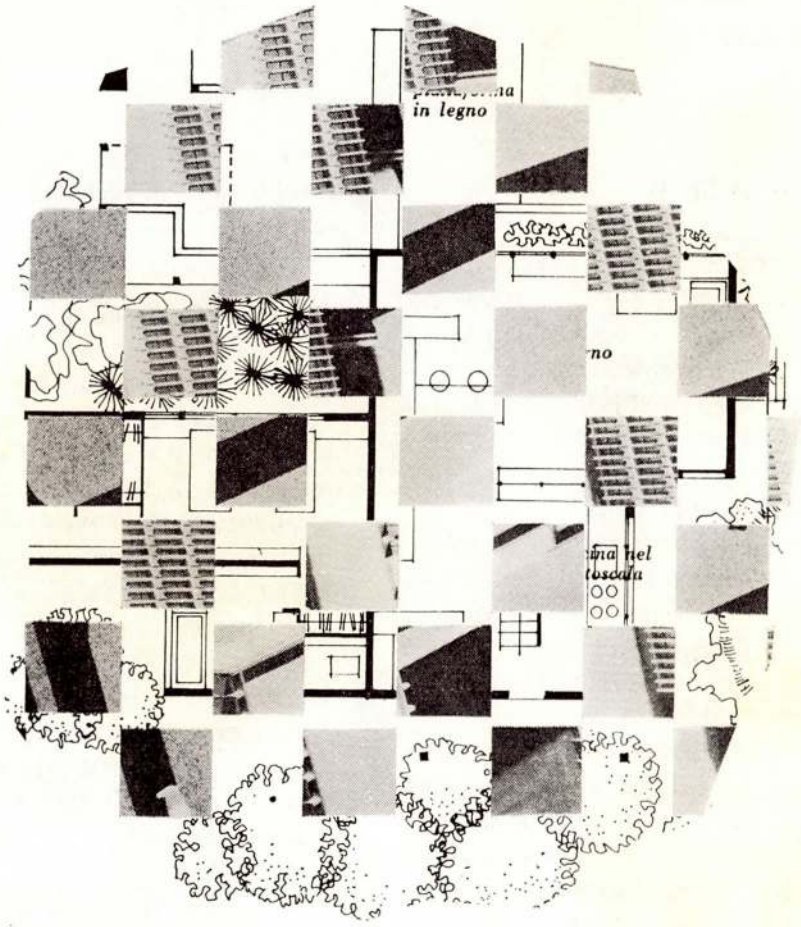
89. 兵庫県立洲本高等学校

設計：兵庫県建築部営繕課
施工：KK 進藤組
a．洲本市上物部
b．2,657.60㎡
c．8,141.86㎡
d．RC，4F，一部2F
e．昭和38年1月～昭和40年9月
（次号，作品作風に紹介）



90. 桜橋東洋ビル

設計・監理：東洋不動産KK
施工：KK 大林組
a．大阪市北区曽根崎新地3－51
b．1,446.56㎡
c．19,686.24㎡
d．SRC，B4，9F，P3
e．昭和39年2月～昭和40年12月
（次号，作品作風に紹介）



1 都市住居の歴史

・町屋の変遷……とくに大阪の町屋の歴史

2 現段階の都市住居

・都市住居の型……文化住宅・マンション・パンション・etc.
・大阪市内にある借家例
・都市住居と建築行政
・都市環境と住居

3 都市住居の今後の方向

・今后の都市住居の方向……郊外社会の否定
・未来の都市住居

町家の変遷—とくに大阪の町家の歴史私観

工博・大阪工業大学教授
玉置豊次郎

町家の生い立ち

日本の歴史時代は隋唐の影響をうけて始まった。ところが隋唐が強力な中央集権であったから，日本もそれに倣った。中央集権が強力であると地方都市は育成されることがない。それで昔は都の外には太宰府平泉鎌倉がそれぞれ時代を違えて存在しただけで，他には目星しい都市らしいものはなかった。これはヨーロッパと大変違うところであって，ヨーロッパでは早くからギリシャ，ローマの殖民市が無数に発達していた。

日本に地方都市が出来たのは桃山時代からである。信長，秀吉，家康が諸候を全国に封じた。この諸候は文字通り一国の主であって，その領国の統治に全責任を持たされていたので，各諸候は領国統治の府として，枢要の地に居城を営んでその周辺に城下町を展開せしめた。この城下町こそが町家の始まりである。

戦国時代には全国5,000城と称されていたが，実際はもっと多かった。ところが，徳川幕府になって各大名に支城を破却せしめて一国一城の制を厳重に令行したので，全国に大名の数と同じだけの地方都市ができることになった。しかもそれが桃山から江戸始めにかけて，わずか50年程の間に全部できるのである。これは世界の都市建設史上異数の出来事であった。

京都は桓武天皇以来の都であったが，応仁の乱で大部分が焼かれて，その時，市民が地方へ四散したために殆んど復興されなかった。信長が都へ入ったときわずかに焼け残ったところも故あって焼払ってしまった。秀吉が漸く京都の復興を計るが，それは秀吉の大阪建設より8年ほど遅れている。したがって今の京都も桃山の産である。

城下町以外に港町や門前町宿場があるが，例外を除いて規模の点では城下町におよばないから，あまり問題にはならない。

明治の終り頃から自然発生的の町が全国的にできたので，そこでは事情が違うが，城下町の場合はどこもほとんど相前後してできているので，町を造るときお互に模倣の仕合いをやっていて，北は弘前から南は鹿児島まで町造りも家造りも皆大体同じである。もちろん細部にはそれぞれの面白い地方色が見られたが，原則は皆かわらない。

城下町の構成

初期にできた城下町の場合は侍屋敷も町人の家も寺も混在していたが，色々な弊害がでるのでまず侍屋敷の区域と町人町の区域をはっきり区別するようになる。そしてそれを犯すことは絶対に許されないようになる。やがて寺も町はずれに集められて一団をなして寺町ができるようになる。ただし真宗の寺だけは例外の優待をうけて町中に残ることを認められた。

城下町の規模は完全にその大名の石数に比例した。大大名の下では大城下が発展し，小名のところでは大きな町は期待できなかった。

大大名では士分が沢山にいたから侍屋敷の数も多かった。だいたい侍屋敷の区域と町人町は面積で7分3分くらいである。江戸は各大名の上中下屋敷があって，それに旗本八万旗の分を入れると，8割以上が侍屋敷の敷地になっていた。

これが今日まで尾を引いて，昔の侍屋敷が住居地になり，町人町が商業地になっている。それで熊本，金沢，仙台などの大大名のいたところでは，侍屋敷が多くて広い庭に木がたくさん植えられていたので，森の都といわれたゆえんである。それに引き換えて，大阪は天領で侍屋敷がなくて全市ほとんどが町人町であったから，今日旧市内には住宅地は少しもなくて緑が見られない。8割が武家屋敷であった東京とは大変な違いである。青森は名前は美しいが，ここも港町だけで，屋敷町はごくわずかであったから，日本一殺風景な町である。堺も同じである。歴史を無視して現在を完全に把握しようとしてもそれは無理である。

城下町の町割

殿様の城に接した枢要の地に侍屋敷が配置されて，士分の特に高いものは城廓の中に屋敷を賜うこともある

が，与力や同心など地位の 低いものは 町外れに 配された。町人町は城下の街道筋を中心に区画された。

侍屋敷は優先的に良い場所を欲しいだけ取ることになっていたので，特に規則立った町割が造られない場合もあったが，過半の城下では大きく格子型に町割されていた。一方町人町では，二三の例外を除いて全国ほとんどが碁盤割や格子割にきちんと区画されていた。

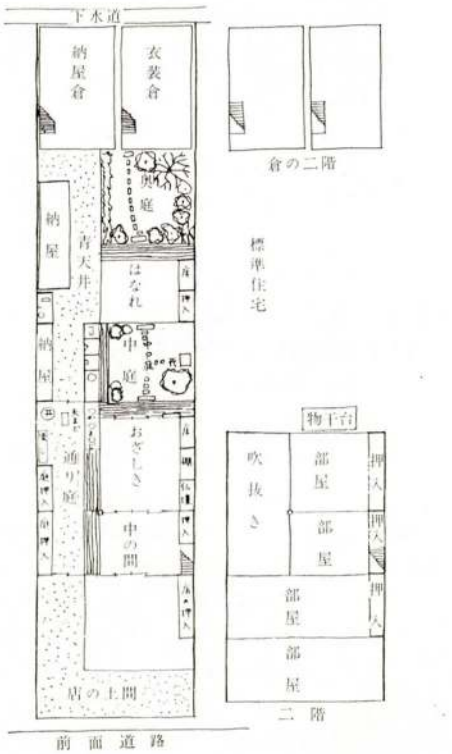
大阪の船場島の内や江戸，駿府（静岡），名古屋，熊本などの町人町は正方形に町割されたが，たいていの所は長方形である。それで近所同志では敷地の奥行は皆同じである。ほとんどの城下町では最初に家を建てた者は皆土地をただでもらった。欲しいだけ縄張りをしたらよいと言うことであったから，間口は家毎に違うのが普通である。今日坪何十万円とする所でも皆ただであった。土地の低い所では地揚げ用の土もただで貰えることになっていた。江戸の日本橋，京橋，築地の辺は特に低かったので，神田山の土を幕府が所々に運んで積み上げていたのを町人が自分の敷地へまた運ぶのであった。

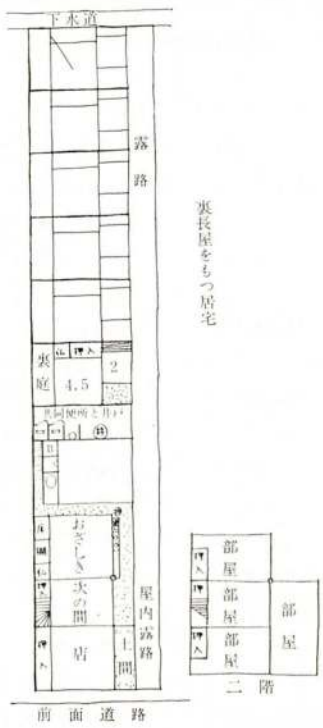
昔土地がただで貰えたと聞くと，今時の人はびっくりしたりうらやましく思うだろうが，実は突然に城を造って城下町を展開しても，侍分の家はすぐ建っても町人がきてくれないので，どの城下でも町人集めには大変な苦労をしている。色々餌を与えて釣らねばならなかった。これも今日東京や大阪へ人が集り過ぎて困っている話と比較すると嘘のようであるが，いつの世でもどこの国ででも，偉大なる人が壮大な都市計画をやった場合には人集めに苦労しているが，愚かなる政治家が都市対策をおろそかにしていると必ず多過ぎる市民に手を焼くのである。これは皆で考えて貰らわねばならない問題である。

ちなみに侍屋敷には町名がつかなくて，町人町にだけ町名がついた。町人という名前のできたゆえんである。今全市に町名がついているが，これは明治以降につけ直したからである。今大阪の心斎橋筋は南北の通りであるが，ご維新前は心斎町は長堀に沿った東西の町で，私の生家は昔の心斎町にある。時代の急変と空襲とで近所の古い家は皆なくなって，私の生家は島の内の一番古い家の一軒になってしまった。色々昔の面白いものがあったが，空襲でみな焼けてしまった。

町家の建築

大阪の侍屋敷は城代で赴任してくる大名のお伴の士分





の家だけであったから，数が少なくて問題にはならない。それで町人町にできた町家を考えてみることにする。

町家の建築で一番大きな特質は居宅建築と借家建築が，はっきり違っていたことである。居宅建築と借家建築とではまず敷地の大きさ，建物の規模仕事の良し悪しがまるで違っていた。そして大阪では居宅の表通りに面して建てられて，借家は露路の中に建てられる習はしであった。大家の場合には自分の敷地内には居宅だけしか建てないが，普通では自分の敷地のうち表通りに面した部分に居宅を造って，その横に露路をとって，敷地の奥に露路に面して借家を建てた。この露路の巾はたいてい4尺から6尺位のものであって，露路の深さによって借家の数は3軒から12・3軒位まであった。露路はろーじと発音されていて露次とも露地とも書かれていたが，どれが本当の字かは判明していない。

借家は原則的には住いだけでここでは商売はきかなかった。島の内の露地の中には，てかけさんとか，琴や三味線のお師匠さんや自前の芸者などが住んでいた。

居宅では商売をしている家の場合も商売をしていない家の場合も，平面はほとんど変らなかった。ただ表(おもて)が開放的であるか戸が締まっているかの相違であった。商売をしていない家をしもたやと呼んでいた。しもたやは貸金や貸家で生活している家のことであるが，数は決して少ないことはなかった。

居宅の平面は別図のようであって，敷地の間口の大小奥行の大小にかかわらず，平面計画はほとんど同じであった。ただ敷地の奥行が少ないときには土蔵がなかった。大きな敷地では土蔵が3戸前（戸前は土蔵の単位）ある家も少なくなかった。子供のとき悪いことをしたといっては，その都度土蔵の中に閉ぢ込められることになっていた。私は毎日のように入れられたので，しまいにふとんに小便を掛けることを覚えたので，それからは入れられなくなった。

離れ座敷は通常老夫婦の住いで，ご隠居さん（老夫婦をいうときと老夫だけをいうときがあった）とお家さん（老婦）の居室で仏壇が床脇にあった。奥座敷は若夫婦の住いで且那はんとご寮人さん（ごりょんさん）の居間である。子供はたいてい二階住いが多く，長男が兄ぼんさん，次男が中ぼんさん，三男が小ぼんさんで長女がとうさん，次女が中いとさん，三女が小いとさんである。これは下男，下女の用語であるが，家のもの同志では中はんとかこいさんとか呼んでいた。谷崎潤一郎さんの細雪がよくこの伝統をつたえている。しかし今日では，もうこんな言葉がはやらなくなった。下女，下男がいなくなったので，自然消滅するのだろう。昔は商売をしている家とか，大きな家では下男，下女がたくさんいた。下男は店の間に，下女は二階の表の間あたりで寝ていた。下男は番頭さんと丁稚（でっち）である。丁稚は通常ぼんさんと呼んでいた。下女の名前はたいていの家ではお松どん，お梅どん，お竹どんである。大阪にお松どんが何千人といた。これ等の下男，下女が今日では会社の社員さんに昇格して，自宅から通勤するようになっている。

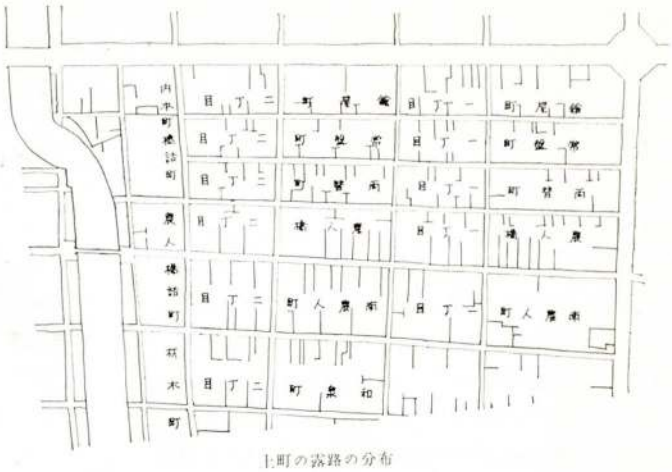
どの家もみな通り庭である。通り庭の奥が台所で，お釜はんと流しと井戸があった。お釜はんの横の上り框で家の者が順番に食事をするのである。早めしでないとあとがつかえるのである。それで早起き，早めし，早寝は昔の礼儀作法でででもあった。この台所は吹抜けで天窓がついていた。座敷との取合いに太い大黒柱があって，吹抜けに大きな牛梁が掛っていた。この大黒柱の太さが家の格式を代表するようなものであったから，競って美事な大きな木材が選ばれた。ともかく台所の吹抜けは町家の偉観であった。なぜどの家もみな通り庭であったかということについて，江戸中期に軍学者という者がたくさんいて，これらの人はいざ事だというときに槍を振り廻すために，どうしても天井の高い広い場所が必要だからだと説明しているが，この軍学者には思いつきの意見が多くてたいてい嘘である。便所の汲みとりのためには，この通り庭はぜひ必要だったのである。併せて商売をしている家では，奥の蔵に商品を入れていたから，そのためにも使われていた。便所は家の者と使用人とは別々で，上の便所，下の便所と呼んでいた。しかし風呂は別々ではなかったようである。

二階の室は極端に天井が低かった。軒近くになると，頭がつかえる位であった。三階建の家は一軒もなかった。これは火災防止の関係で禁じられていたからである。二階を低くすることも防火に関係していたと考えられる。近所が火事だとみんな大屋根（二階の部分の屋根のこと）に上って火事場へ瓦を投げて消火していた。

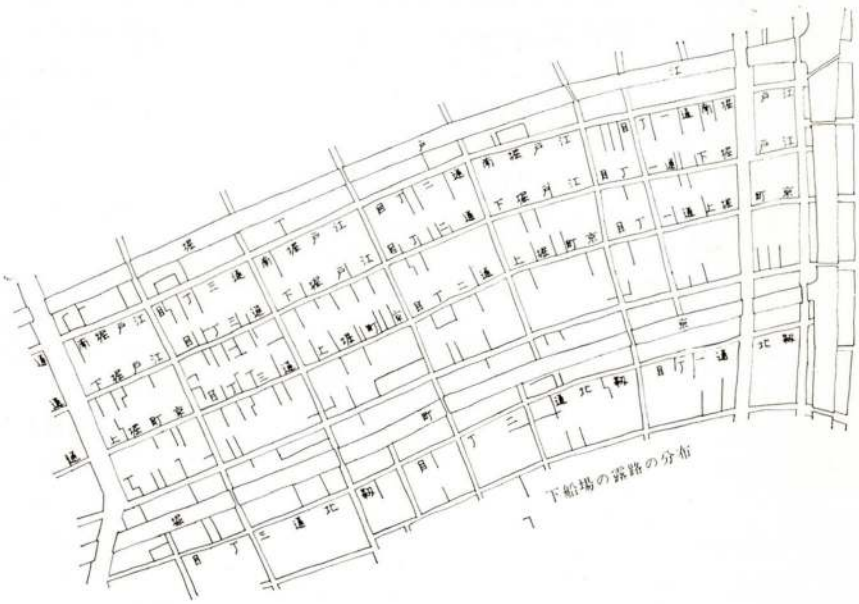
屋根は江戸中期までは板葺であったらしい。土蔵だけが本瓦葺であった。江戸中期に桟瓦が発明されてから桟瓦に葺き替えたらしい。しかし全部本瓦葺の所もあったらしく，天王寺や堺は江戸始めから大火に遭っていないが，ここでは全部の家が始めから本瓦葺であったらしい。これは全国的に大変珍らしいことである。

大阪には川がたくさんあった。この川沿いの敷地には土蔵が並んでいて，いかにも商都大阪らしく美事なもので，地方では見られない景観であった。記録によると川沿いの敷地には住いを建てて火を燃すことを禁じている。しかもこのお触れは度々でている。なぜ川沿いに住いを建てることを禁じたのか，その理由が永らく解せなかったが，役所勤めをしていた頃，火事場をたびたび見に行って漸く判った。浜側の火事と岡側の火事を比較す

ると，浜側の火事は大変火勢が強くて大火になりやすいのである。子供の頃，たいていの家では，風呂場の釜の下に水を入れた鉢の類を置いていたが，火の粉を消すだけでなく，火勢を盛んにすることができると聞いたことがある。それで浜側の住いを禁じたものと思われる。自然土蔵が併ぶことになったのだろう。



上町の露路の分布



下船場の露路の分布

今この川も次々に埋められて段段寂しくなってきて，しかも大変汚なくなってしまったが，以前はもちろんこんなことはなかった。私の父の子供の頃というと明治10年代であるが，底はきれいな川砂でよく泳いだといっていた。私の頃もまだ魚がたくさんにいて，夏になると毎日網で魚を掬った。それで私の兄弟はみんな川にはまって溺れかけた経験をもっている。事実，土左ヱ門（溺死者）がよく川に流れていた。毛間の閘門ができてから大阪の川が汚なくなった。それまで流れが大変急で，四国九州辺からくる船が川をさかのぼれないので，上げ潮になるまで潮待ちをするのだといっていた。大阪をきれいにするためには毛間の閘門を改築するのが一番の近道であると私は思っているが，水道の水源のこともあって簡単には行かないのだろう。

話が横にそれたので元へ戻して，借家の建築に移る。借家は下世話の通り９尺２間でほとんどが平家で２階建はまずなかった。後に改造して２階になったものもあるが，古くは平家建である。そして全部が共同便所と共同井戸である。便所と井戸はたいてい隣同志である。便所は長屋の人が順番に掃除を受け持った。井戸端会議という言葉はもちろんここから始まったのである。借家の場合には原則として通り庭がない。便所が外にあって汲み取りの通路を必要としないからである。これを見ても軍学者の説明がおかしいことが判る。

さて居宅の数と借家の数との割合であるが，戸数では借家が過半を占めていた。したがって人数も借家人の方が多いわけである。上図のように大阪には露路の数が大変にたくさんあった。敷地の奥行が深過ぎるので，それを持てあまして奥に借家を造ったというのでなくて，表（おも）てに居宅を造り裏に借家を造るというのが一般の慣習であったのである。船場島の内は大閤さんのときにできて敷地の奥行が深いのであるが，ここでは露路が少なくて，松平忠明以後にできた上町や下船場（江戸堀，京町堀，阿波堀の界隈のことをいった）では奥行がずっと浅いのであるが，むしろここの方に露路が断然多い。結局船場島の内は大阪の中心で大きな家が多くて大きく商売をしていて，土蔵を必要としたので，借家を建てる余地がなかったが，上町や下船場では中商売以下であったか

ら，借家の家賃収入を当にしたかったのであろう。

ところで町人というのは居宅住いの人だけのことであって，一般に借家人は町人に入っていなかったのである。公租公課は町人には掛るが，借家人には原則として掛らなかったのである。それで町人と借家人とは事毎に別扱いであった。結婚も町人は町人同志で借家人は借家人同志であって，普通では町人と借家人の間で血縁が結ばれることはなかった。これも時代である。

今と較べて習慣の相違はまだまだある。宗旨の違う家同志の結婚も喜ばなかった。特にもんと(真宗)の家では他の宗旨との血縁を嫌やがった。肉類を食べることはもちろん，お釈迦さまの教えでご法度である。私が牛肉を食べさしてもらったのは中学時代であって，それも自分の家の中ではなかった。朝はお粥と漬物だけである。これは大阪中全部がそうであって，私の家だけではない。鴻池さんも住友さんもそうであることをよく聞かされていた。これらの大家には奉公人がたくさんいたから，大家の家の中のことはこの奉公人の口を通じて，市内に全部筒抜けであった。短い期間に生活様式がよくも大きく変ったものである。この調子で行くと我々の生活はまだまだ大きく進展して行く可能性は充分にある。これからの人も長生きすると面白いことが次々に見られることだろう。

また話を建築に戻して，昔は大火が頻々としてあった。今の人が想像もできないくらいに大火があった。江戸の話は特に有名であるが，江戸に限らず京都にも大阪にも大火が多かった。私はこの大火の瓦版をたくさんにもっているが，その瓦版の数がそれを証明している。それで今日想像もできないくらい頻繁に起った大火に当然，建築的な対策が講ぜられたに違いないと思われるのであるが，やはり当時としては勢一杯のことはしていたようである。さきの土蔵はもちろん，浜側に住いを禁じたのもそのためのものであるが，その外に大阪湾を取り囲む一帯，すなわち西は兵庫から西宮，尼崎，大阪，堺岸和田にかけてほとんど総ての家が火止木造という構造になっていた。これはかじきづくりと読む。文字通り防火建築である。火事で恐ろしいのは延焼して大火になることである。そこで最も延焼しやすいのは軒先から軒先へである。この軒先を防火的にしたものであるが，それも表側の二階だけであった。ここが一番危険だと見たのだろうと思う。そしてこの二階の軒下の両端に袖壁をつけて，軒下を火が走るのを喰い止めようとした。そしてこの袖壁も，軒裏も，外壁も，窓の格子も，全部土塗りにして，木部を一切外部に出さないようにした。表(おもて)の一階の軒下や裏の軒下はそのままで，表(おもて)の二階だけを処置したのでは片手落のように思われるが，この構造は例外なくすべての家で守られ通してきたことは美事であった。

以上大阪を中心に町家の建築の話をしてきたが，最初に断ってある通り，これは大阪に限らずに全国の城下町にだいたい共通するのである。すなわちどの城下でも居宅より借家の方が多かった。住宅問題を研究している人がしばしば，借家は資本主義の所産である，だから搾取を目的に建設されたのだというようなことを言っているが，実際は資本主義という言葉ができる前から借家はたくさん建てられていた。露路の数は大阪は断然多かったようであるが，他の城下にもあった。名古屋ではこれを閑所と呼んでいた。町家の平面も各城下ともだいたい同じであって，もちろん通り庭である。大黒柱もあった。大黒柱だけは町家ばかりでなく，農家にもみなあった。二階の低いのも全国共通である。三階建は公儀で禁じられていたから，これも全国原則的にない。公儀というのは幕府の命令であって，全国一律に施行された命令である。土蔵も全城下で造られていた。北は青森から南は鹿児島に至るまで，みな土蔵があった。しかしなんといっても大阪に一番たくさん建てられた。たくさんな川の両岸はほとんど土蔵で埋まった外に，船場島の内の奥行の深い敷地では，敷地の奥に隣近所の土蔵が，数十棟目白押しに併んでいた。大阪湾沿岸都市の火止木造に相当する構造も地方にあった。表(おもて)の二階の軒裏を塗った所は多く，袖壁を木枠で造っていた所もたくさんある。長野善光寺さんの門前町は町ぐるみ土蔵造りである。町からの延焼で善光寺が焼けたことがあるので，寺が融資して町全体を土蔵造にせしめたものであって，非常に貴重な史料であるが，今日店の改造が多くなって土蔵造の土壁がだいぶはがされたが，それでもまだ残っている所があって何んとか保存したいものである。

大阪の軒切りという都市計画

明治の終りから大正にかけて，大阪の旧市では軒切りという大都市計画が施行された。いま考えるとこれは大変な仕事であったが，実に無難に施行された。しかしこれで大阪の町家の様相が一変するのであった。

そのいきさつはこうである。太閤さんが大阪の町割をされたときや，松平忠明がその後，大阪の大拡張をしたときの大阪の道路の巾員がそれぞれいくらであったかは全然資料がないので判明しない。しかしその後，町人などが家の前に庇をつけては道路を狭めようとする傾向のあったのは事実である。たびたびのお触れがでて，おだ

れに壁つけて家に取り込むことを禁じている。この禁令は何回となく出ている。おだれというのは家の前に造られた土庇のことであって，今日，越後あたりでいうがんぎのようなものらしい。雁木に壁がつくとはっきり店の間が広くなるが，それだけ道は狭くなる。それで軒並に禁を犯して両側から道を狭くしたというのである。そこで明治の終り頃，東京で行われていた市区改正を大阪でもやろうという気運が盛り上ってきていたが，市区改正としてではなく，単独にその侵した部分を元の道路に返せ，つまり軒を切れということになった。事実，軒切り前の大阪の道路は大変に狭かった。私は井池筋を通って小学校に通うたが，向うから四輪の荷馬車が一台くるとそれで道巾一杯であって，私などは軒下に身をよけたのである。井池筋では荷車の行き違いができないどころか，人が軒下に入らねばならないほど狭かった。言い換えると車一台分の巾しかない道がたくさんにあった。それが大阪のドまんなかのことである。つまり両側から侵かされて狭くなったというのである。しかしいくら侵かされたかは判らない。たぶん土地台帳の地積と実地とでは実地の方が広いので，それを基に計算でもしたのかも判らないが，東西の道路を全部一律に四間三分，南北の道路も一律に三間三分を基準にして，旧幕時代の全市域に渉って軒を切らしたのである。全市の各町毎に期間を指定して，その期間中に工事を完了せしめたのである。私が中学に通う時，いつも心斎橋筋を通っていたが，たしか2年生か3年生の頃，心斎橋から戎橋まで全部の家が板囲いをして一斉に工事を始めた。駄々をこねて邪魔するような家は一軒もなかった。両側は板塀の連続で，どの家も大工さんがたくさん入って店の改造をやっていた。全市の軒切りに何年掛ったかは知らないが，ともかく見る見るうちに道が拡がった。たしか補償もなかったように聞いている。

この軒切りでどの道も10尺前後拡くなった。今の心斎橋筋は狭いものであるが，昔はまだ今より10尺も狭かったのである。軒切り前に，明治天皇が心斎橋筋を人力車でお通りになったが，道路の両側に人が一列並ぶのがやっとであった。軒切りが完成すると町が素晴らしく立派になったように思えた。道が広くなっただけでなく，両側の家がまったくよそおいを異にしたからである。それまでの表構えは道路沿いに木格子が並んで上げ店がついていて，どちらかの端に防火用の水槽があって，その上に手桶が積み重ねてあった。もちろん二階が低くて落ちついているといいたいが，実は陰気な感じがした。それが表構えを石やタイルで装飾するようになり，窓や出入口も広くなり，二階の軒を高くした家も多く，前から較べると大変明るくなった。そのかわり，幕府時代の浪速情緒は大部分の町並で消えてしまって近代化へ転換した。それでもその時はまだ和風であって，張ぼての安物の洋風がのさばるようなことはなかった。

空襲後の激変

空襲で市の大部分が壊滅した。心斎橋から千日前の歌舞伎座や南海の高島屋まで何一つさえぎるものがなくて，みな焼けてしまった。この時，私が設計しておいた生家の浜倉と父が組合長をしていた衛生組合会館は，ともに木造であったが猛火の中で無事焼け残った。こんなことはもちろん，全市通じての例外であって，いづれにしても空襲で昔の大阪は消えた。

一番大きな変化は何千とあった全市の露路が復興後にはなくなったことである。何千という数の露路の中の何万という借家が，大阪の大きな異色であったが，終にこれは完全に消え去ってしまった。なにぶん戦後の色々な緊急措置令や財産税で，地主や家主は徹底的に叩きのめされた。これまで財産であった借家が，逆に借金の原因になり苦痛の種になった。それで焼跡へは誰一人，二度と借家を建てようとする阿呆は一人もいなかった。それで敷地一杯に居宅を拡張さした。言い換えると裏借家が追い出された結果になった。これまで借家の人口の方が居宅の人口より多かったのに，その借家人が焼跡に帰らないのである。それで空襲直後はもちろん，全国どの都市も人口は減じているが，そのほとんどが昭和30年には戦前の昭和15年の国勢調査の人口に戻っている。ところが大阪に限って，昭和35年の国勢調査でも15年に較べてまだずいぶんたりない。今度の昭和40年の国勢調査の結果を見ても，なお10万人以上たりないのである。これは大阪の町家がよその都市に比較にならん大きな変り方をしたことを意味する。旧幕時代の区域では人口密度が半分以下に減じ，一戸当りの建築面積が非常に増したことになる。借家人は追い出されて，これが今日他の都市よりも住宅問題を困難にしているが，一方誰れの努力もなしに自然に都市の大改造がされたことになった。船場，島の内，上町，下船場の各商店の面積は裏長屋を取り込んで倍増して，経済素地を強化できたのである。

一方船場では私の役所時代に建築線指定で東西道路も，南北道路も4メートルほど広くなるようにされていたので，いま各ビル共，その通り後退して建っている。これで今まで5階しか建てられなかったのが，全域7階，8階建ができるようになった。昔，荷馬車一台がやっとであったのが大変に変ってきた。もちろんまだまだ不満足であるけれどもパリやロンドン並に軒が揃えられるのである。

わずかの期間に大阪の町家は大きく転換したものだ。

都市住居の型

―文化住宅・マンション・パンション・etc―

大阪市立大学助教授　工博
野々村　五四男

編集者の与えられたテーマは「文化住宅・マンション・パンション等々といわれる都市住居の型」である。編集者のいうような定型化した住居の型がありとするならば，まずそのような定型化を導く背後の社会的，経済的な要因の存在を明らかにしなければならない。

1. 最近における住宅建設量

わが国の最近における住宅建設量をみると，**表1**に示したごとく，近年きわめて著しい伸びを示している。すなわち，昭和35年の建設戸数は30年の約52%増を示し，38年では，実に30年の95.7%増と約2倍ちかい建設量を示し，戦後の建設戸数の累計は915万戸に達している。

しかも，これら住宅建設の状況を地域別にみれば，東京，大阪などの大都市を含む6大都府県の占める割合が，30年以降毎年の全国建設戸数の約半数を占めている。

しかし，これら建設戸数の中で，いわゆる民間自力建設住宅の占める割合は，例年，建設戸数の約65%前後を占め，とくに昭和35年以降一段と上昇の傾向を示している。民間住宅に多い調査洩れを考えれば，実際はさらに高率を示すのではないかと思われる。

先日急逝した河野一郎氏が，建設大臣の当時政府施策住宅の建設計画の説明にあたって「住宅は，衣・食と同様に，本質的には個人が建てるべきものであり，政府はむしろ，そのための宅地供給を主として行なうべきである」と述べているごとく，このような考え方が一般にわが国住宅政策の基礎となり，常に国民の自力建設に大きく依存しているのが特徴的である。

しかし，現在の民間自力建設住宅に関する問題点は，大都市における民間自力建設住宅の中において，大きい比率を占めると思われる民間借家住宅と民間建売住宅の大半が，きわめて狭小・粗悪にして，しかも公共施策住宅と対比すれば，それらが高家賃・高権利金あるいは高い分譲価格であり，何ら特別の指導や補助のないままに，劣悪な住環境と住生活の再生産を拡大しているということである。

2. 住宅需要の分析

他方，住宅需要の傾向をみれば，そこには前記の建設量を上回る，最近における広汎な需要の存在が考えられ

表1　最近における住宅建設戸数の推移（単位千戸）

	政府施策住宅						民間自力建設住宅		住宅建設総戸数
	公営住宅	改良住宅	公庫住宅	公団住宅	厚生年金住宅等	小計	実数	総戸数に対する割合	
昭和20～29年までの計	445		264		389	1,098	2,830	70%	3,928
昭和30年	52		54	20	26	152	250	62	402
31	47		73	23	23	166	280	63	446
32	47		83	35	25	190	283	60	473
33	47		92	30	25	194	306	61	503
34	53		102	30	32	217	350	62	567
35	53	2	109	30	25	219	392	64	611
36	53	4	105	32	37	231	458	67	689
37	54	4.5	110	33	54	255	482	65	737
38	56	4.5	128	34	65	287	500	64	787
計	907	15	1,120	267	700	3,009	6,134	67%	9,134

（注）昭39年「建設白書」より算定

表2　全国および東京・大阪における人口，世帯数の変動

		昭和30年	昭和35年	増加数	増加率
人口（単位千人）	全国	89,276千人	93,347千人	4,071千人	4.6%
	東京都	8,039	9,625	1,587	19.7
	大阪府	4,620	5,496	876	19.0
世帯数（普通世帯）	全国	17,383千世帯	19,571千世帯	2,188千世帯	12.6%
	東京都	1,665	2,183	518	31.2
	大阪府	986	1,233	247	25.1

（注）資料は国勢調査による

表3　一般世帯の家族形態別分布（農家・非農家別，市・町村別）

	総数	農家・非農家別		市・町村別		
		農家	非農家	町村	市	大都市
核家族	65.1%	34.9%	75.3%	55.0%	67.9%	78.2%
拡大家族	34.9	65.1	24.7	45.0	32.1	21.8

（注）「厚生の指標」（39年9月号）より。小山隆氏が昭和35年度厚生行政基礎調査に基ずき，昭和35・4・15現在，全国世帯の約1/1000の抽出率により17,783世帯について分析を行なったもの

る。

住宅は，いうまでもなく家庭生活の基礎的施設であり，住生活の本質からいって，普通世帯は少なくとも一つの住宅に対する需要単位でなければならない。しかるにわが国の普通世帯数は，近年，人口増加率を遙かに上回る増加を示しており，東京，大阪においてはその傾向が一段と激しいことは，**表2**に示すとおりである。そしてその結果，当然世帯規模は急激に縮小の傾向をみせている。たとえば，大阪府においては昭和30年に4.51人，35年に4.21人，昭和39年は3.87人と縮小の速度をはやめている。

これらの原因としては，最近の生活意識の近代化による小家族への欲求（産児制限）の一般的傾向もあるが，世帯数の増加を結果的にもたらすものとしては，まず，人口の大都市への集中現象をあげなければならない。大都市集中人口の大半は（東京の場合は，全国大学生の49%と短大生の34.4%，各種学校の18.3%が集中し，これらのうち地方から毎年上京してくる大学入学の膨大な移入人口(注)を考慮にいれなければならないが），地方農村あるいは中小都市から移入する15～20才のいわゆる若年労働者である。彼らが最初に定着する住居は，住み込みあるいは会社・商店の寮，下宿，間借りなどという形式で，いわゆる準世帯を形成する。やがて都会になれると，単独でまたは友だちと一緒に，一応独立した住生活の可能な木造アパートなどを指向し，やがて適齢に達して経済的条件が整えば，結婚していわゆる普通世帯を形成する。そして，当分は共稼ぎをつづけ，その間いくらかでもプライバシーのある，より上質の住宅を要求する。

以上のごとく，彼らの大都市への移動は，移動と同時に故郷の世帯規模の縮小をもたらし，都会で新しく普通世帯を形成すれば，普通世帯数の増加とともに二重に世帯規模の縮小に影響したことになる。

いま一つの原因としては，結婚した男女が親と別れて，別の住宅で生活するという大都市の家族に一般的な傾向である。わが国古来の家族制度は，新民法の制定により法的には消滅したが，近年におけるわが国経済の高度成長は，所得の上昇と女子就業者の増加をもたらし，男女の別なく家族の各人に世帯分化のための経済的な裏付けを与えることにより，急速にその崩壊を具体化させ，さらには，戦後の住宅の狭小が生活意識の近代化と相まって，これに拍車をかけていると考えられる。

3．借家志向層の増大傾向

世帯細分化のもっとも大きい原因である前記二つのケースにおける，新世帯形成の場合の住宅の新規需要は，住宅取得費の関係から当然借家志向に傾斜することが考えられる。そして，これらの借家志向者は，公共賃貸住宅への入居資格を具備している場合は，家賃が低廉にして比較的良質である公共賃貸住宅に殺倒する。(注1)

しかるに，公共賃貸住宅の根幹をなす公営・公団住宅の建設戸数は，表1にみるごとく昭和30年の7万2千戸，昭和38年の9万戸と8年間に約20%の増に過ぎない。したがって，公営住宅の入居倍率は，昭和30年以降平均30～40倍であり，公団住宅も32年の平均8倍から37年の53倍と激化している。（大阪市営住宅の昭和38年度競争率の最高は198.5倍を記録している。）

このように膨大な借家志向層は，その期待する公共賃貸住宅への入居が全く困難なため，その大部分は，やむ

表4　最近における新築住宅の所有関係比率の推移

年次	持家	借家	給与住宅	その他
昭和30年度	65.5%	22.7%	7.0%	4.9%
31	58.6	27.3	6.6	7.5
32	59.7	28.2	6.6	5.4
33	55.8	32.7	6.1	5.4
34	53.7	36.0	5.9	4.4
35	55.0	34.4	7.1	3.5
36	49.6	39.9	7.6	2.9
37	44.9	44.6	6.7	3.8
38	44.4	44.6	6.8	4.2

（注）建設省「建築統計年報」による

（注）東京都「教育統計概要」による昭和38年度の実数

（注1）筆者が兵庫県住宅課の委託により，昭和39年9月阪神間の2都市の住宅需要調査を行なった際，どの都市においても借家志向の七，八割は公共賃貸住宅へ期待をよせている。

をえず民間借家に向かわざるをえない。こうした需要の激増に刺戟されて，当然民間借家の建設が活発に行なわれるようになる基調が存在する。

ここで，新設住宅の所有関係比率の推移をみると表4に示すごとく，持家の比率は年々低下し，これとは相対的に借家の比率は遂年上昇をつづけ，昭和37年には，それらがついに同率となり，38年には借家の比率が持家を上回るに至っている。このような傾向は，大都市においてとくに著しく，6大都府県における新築住宅の借家率は，昭和30年以降例年60%以上を占め，大阪においてはこの傾向がもっとも激しい。すなわち昭和37年の新設住宅のうち，69.8%が借家となっており（民間借家の無届による建築は，昨今きわめて多いといわれており，実数はこれより遙かに高いものと思われる），また，昭和36年の大阪府住宅需要実態調査の結果によれば，現有戸数の半数ちかくが借家となっている。そして，これら借家率の増大を支えている新築借家の大半が，前記のことから，その大部分が民間借家で占められていることは容易に想像できる。

しかるに，これら民間借家は，わが国の住宅政策が常に民間自力建設に依存し，また公共賃貸住宅の宝くじ的入居倍率にもかかわらず，税制による一部の免税措置のほか，何らの補助も指導も行なわれることなく，全くの放置の状態にまかされている。しかも戦前には，都市住居の大半が借家であったことから考えて，大都市の居住者の大部分は借家生活が一般的であった(注2)が，終戦後は種々の要因からこれらの民間借家の供給が止まり，また借家が居住者の持家に転換されるなどにより，民間借家の占める割合が急激に低下したために民間借家層は限られた部分に傾斜させられたこと，また民間借家は，前記のごとく政府の借家施策の貧困を埋めるために出現したなどの理由により，その大半は低所得者を中心とする庶民階層に対応するものでなければならないという基本的な条件をおわされている。さらには，建築資材や建築労務の高騰，そして止まるところを知らぬ地価の暴騰にも対処しなければならない。

すなわち，何らの補助も指導もなく，しかも建築経済上のあらゆる不利な条件にもかかわらず，怒濤のようにおしよせる現実のこれら大量需要のみが，民間借家の建設を促進せしめる何よりのモメントであった。

ここに，古い伝統をもつ戦前の大阪の借家とは，規模においても質においても，全く異なった「借家の住居型」を出現せしめる最も大きい社会的，経済的要因がある。

(注2) 昭和16年，厚生省「大都市住宅調査」の結果によれば，大都市の借家率は約70%を占め，大阪の借家率は全国最高で89.2%を示している。

4. 「文化住宅」の出現とその契機

前節で明らかなごとく，さいきんの民間借家は，低額所得者を中心とする大都市庶民階層を対象にしたものであり，しかも，地価の高騰に対処するためには①敷地を高密度に利用することが何よりも優先しなければならぬこと，②できるだけ地価が安く，しかも需要の集中を予想される立地条件であること，③高騰した建築単価を切り詰めるためには，できるだけ簡単な構造であること，④いわゆる生活革新の風潮に対して，名実ともに最小限の文化性を備えていること等々の，相矛盾する諸条件を満足するものでなければならない。

しかるに，これら困難の諸条件を克服して，しかも新しい「借家住居型」を成育せしめるような，古くから培養された社会的土壌が大阪には存在していた。そして，その土壌の中にそれらの種子は，すでに戦前に播かれていた。すなわち，戦前の借家の大部分は長屋建であり，裏長屋さえも多数存在していた(注1)。他方，いわゆる木造民間アパートも新市街地に逐次建設されていた（その大半は，戦時中軍需動員法により軍需労働者用住宅に転用された）。これら民間アパートの原型は，在来の下宿・寮などの平面とほとんど変らず，屋外への出入口・便所・廊下・階段を共用する以外に，さらに共用の炊事施設が付加された1室＝1住戸のまさしく一種の集合住宅であった。しかし，この原型では，居住者の食事はほとんど外食にたよるしかなく，独立した家庭生活を営むためには十分な住居とはいえない。

このような，戦前から大阪の土壌の中に播かれていた種子も，借家供給のほとんど不可能にちかい終戦直後約10年間の日の当たらぬ時代を経て，前述の社会的，経済

(注1) 住宅営団調査報告（昭和21年）中沢誠一郎「建築敷地の零細化とその防止対策」，また前掲昭和16年住宅調査の結果においても，大阪における借家は他都市と比べて長屋建が圧倒的に多く，2戸建以上が91%，3戸建以上が73%にして，長屋建が大阪の借家住居型の典型であった。

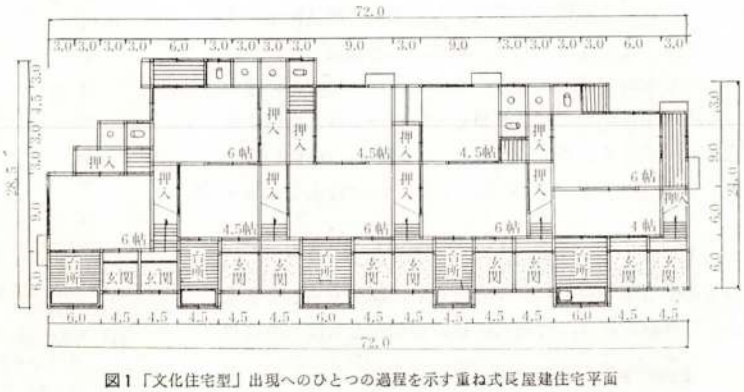


図1「文化住宅型」出現へのひとつの過程を示す重ね式長屋建住宅平面



写真1　典型的な文化住宅

的要因という陽光を浴びるとともに種子の中で眠っていた胚芽は，急に新しい活動の息吹きを始めた。

そして，それが新しい各種の成長の変化の過程のなかで，戦前の2階建長屋式借家型と2階建民間アパート型の相互からの混血融合作用が行われた。すなわち，一方で，1住戸2室以上で炊事施設・便所を専用化し，廊下・階段・外部への出入口を共用とする民間アパートの出現。他方では，長屋の2階と階下とそれぞれ別個に数戸づつの住戸を構成し，2階の住戸は，各々専用の玄関と階段をもつ，2階建重ね式住宅（**図1**参照）が出現した。これらは，建物自体は在来の2階建との区別がしがたく，しかも2倍の住戸数を包含しうる型式のものであった。

こうして，①の条件である敷地の高密度利用に成功した。しかし前者は，専用の外部への出入口をもたぬ点でアパートとよびえても完全な住宅とは称しがたく，後者もまた，③の建築単価を切りつめるためには，なお構造の上に一工夫を要する点があった。

やがて，この両者が完全に結合して，2階建木造片廊下フラット型集合住宅ともいうべき，全くの重ね建て長屋住宅形式が出現した。この全く新しく開発された住居型に対して，何らかの名称が必要であった。そこで④の文化性のために，まず実質より名を先にして，ずばり「文化住宅」と名づけられた(注2)。（写真1参照）

このようにして，住宅政策の貧困のため大阪の社会的風土から生まれた「文化住宅」は，明治の接客空間の洋風化に端を発した，玄関脇きに洋館の応接間をもった大正時代の中流住宅にみるいわゆる「文化住宅」とは，全くその系譜を異にするものである。

そして，これら「文化住宅」が雨後の竹の子のように続々と出現し始めた。そのもっとも代表的な簇生地域として有名であるのが，阪急線庄内と京阪線門真地域である。すなわち，全くの農地のまん中に開業した庄内駅（昭和26・5・15開業）の付近は，淀川右岸神崎川流域の低湿地帯であり，比較的地価が安く，しかも梅田へ10分，需要の集中は必至である。また交通の便利の割に開発のおくれていた門真は，蓮根の産地で有名な低湿地で地価は比較的安い。すなわち，いずれも②の条件を完全に備えた地域である。「一夜明ければ二戸三戸」，「石を投げれば文化に当たる」といわれるごとく，道路・排水などの公共施設の未整備状態を尻目に，ブンカブンカと建築せられた。そして現在では，淀屋橋への延長により②の条件をもつに至った京阪線門真以遠の地域，複線化の完成目前（昭和43年3月完成予定）の片町沿線がこれら「文化住宅」の建築業者と経営業者の格好の舞台となっている(注3)。

5. パンション・マンション・コーポラス等々の出現

「文化住宅」がある程度の戸数を占め，社会の目にもとまるようになった頃，それはわが国のその後の経済の

(注2)　「文化住宅」と最初に命名した御仁が誰であるか，そしてまた「文化住宅」のもつ文化性については筆者の努力にかかわらず知ることができなかった。しかし，命名者の居住者心理をついた頭のよさと商魂のたくましさに対しては，千万の敬服を惜しむものではない。



写真2　蓮池と高圧線とアパートの混在（門真市で）

高度成長にともなう，いわゆる生活革新の進行とともに，公共施策住宅を含めて全般的な住戸規模の拡大，各種住宅設備（ステンレス流し台・換気扇・水洗便所・ガス風呂など）の普及発展がもたらされた頃でもあった。このような一連の状勢に応ずるごとく，ガス風呂・水洗便所・完備したダイニングキッチンをもつ「文化住宅」が，比較的環境のよい住宅地にも建ち始めていた。それは，一面からいえば民間借家志向層の増大のみならず階層的な拡大を示すものであり，他面からは経営の発展を意味している。

一方，東京においてはちょうどその頃，デラックス鉄筋アパートが一流不動産会社や金融資本をバックとした住宅会社によって建て始められ，とくに昭和35年以降においては，ある程度の数にまで成長し，市場に定着したものとなっていた。そしてこれらはマンション・パンション・レジデンス等々の名称をつけていた(注)。（大阪におけるこれらデラックスアパートの出現は後述するごとく，相当おくれて出現をみせている）

大阪における前記のガス風呂・水洗便所・完備したD・K（実際はD・KというよりKにちかいものである）をもつ「文化住宅」の経営者たちは，その「文化的住宅設備」を一段とP・Rする必要があった。こうして彼らの文化住宅は「パンション」・「マンション」・「コーポラス」などの名称がつけられた。

このようにして，マンション・パンション・ハウス・ハイツなど，さまざまの名称が思いのままに用いられるようになった。

すなわち，これらマンション・パンションなどさまざまの名称によって規定された，それぞれの住居型の形成は全くなく，きわめて恣意的であり，その建築形態はほとんどが「文化住宅型」が大半であり，なかには規模・構造に多少の変化を与えたり，程度の低い中層の鉄筋コンクリート造や軽量鉄骨造を採用したものが若干見いだされるくらいのものである。



写真3　デラックスアパートのSマンション（阪急沿線夙川にて）

6. デラックス鉄筋アパートの出現

東京においてある程度の経営の安定を示した鉄筋コンクリート造の中高層高級デラックス民間アパートが，大阪にも当然出現した。しかし，それは東京に比べて，45年もおくれてのことであった。すなわち，大阪における出現は，ここ1，2年前からであり，それらはグリル・理容室・美容室を完備し，9坪から16坪くらいの部屋であり（部屋代7万円から13万円）各種の家具も備えた

（注a）東京における木造民間借宅の形態はリブレースの木造アパート型が多く，大阪の「文化住宅型」はほとんど見出せない。（昭和40年度建築学会「下総薫ほか：東京における民間アパートの特質：」より）

（注）　日本住宅協会「住宅年鑑1964」

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事
アスファルト専門工事
アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事
大阪耐酸工業所
大阪市北区浮田町82番地　電話大阪(371)1333番



写真4　郊外の駅付近に建つ民間施設付住宅Tパンション（阪和線S駅前にて）

 もので，高級アパートというより長期宿泊用の高級ホテルにちかいものであった(注)。

しかし，昨年頃より急激に阪急沿線などの高級住宅地に「マンション」・「ハイツ」・「ビラ」といった名称でさかんに出現し始め，一部には一流不動産会社による分譲住宅式のものさえ現われている。それらの大半は建設中ないしは竣工後日浅く居住者の満室のものは，きわめて少ない。筆者の調査した，満室の夙川にあるSマンション，芦屋のAマンションは，権利金がそれぞれ80万円と130万円，家賃は2.4万円，3万円であり，住戸はさいきん建設の公団市街地高層アパートの２ＤＫ程度である。利用者は単身大阪赴任の大会社の重役・部長クラス，社長二生，阪神駐在外国商社員，職業野球選手などが多く，正常の家庭生活は少ない。

戦後の地盤沈下が大きいといわれる人口550万の大阪と，わが国における権力と資本の管理中枢機能の集中と，あらゆるドミナンスを掌握している人口1,000万の東京との，大都市のもつそれぞれの性格とスケールの相違を考えるとき，大阪におけるこれらデラックスアパートが，東京ほどの需要をみるようになるのは，まだしばらく先のことではないだろうか。

次に，住宅公団などの市街地施設住宅（いわゆるゲタバキ住宅）をモデルとして１階を店舗とした木造あるいは鉄筋中層の「マンション」，「パンション」なども都心の住宅地，郊外電車の駅前などに若干建っている。都心に近いものは地価の関係で高い権利金と家賃のものが多く，その利用者は医師・歯科医師（昼間病院勤務し夜間のみ営業），関西の有名タレント，都心のバーのマダムなど「夜の商売族」が大半で，この場合も正常の家庭生活の行なわれているのは少ない。

7. 民間建売住宅の定型化

分譲住宅の供給，とくに民間企業による建売住宅も，ここ数年来著しく活発となり，一部には新しい動きがみられる。民間建売住宅には，持家志向層を対象とした住宅金融公庫・信託銀行などの融資付のもので，戦前からの伝統をもつ私鉄，一流不動産または住宅会社，あるいは中堅宅地経営業者などを主とする比較的高級建売住宅がある。

いまひとつは，公団住宅への当選希望の喪失，あるいは民間借家の高権利・高家賃よりはむしろ持家といった借家志向層からの転向組，持家意識の強い庶民層などを対象として，中小宅地経営業者，建売業者と宅地建物取引業者のタイアップなどにより供給される狭小建売住宅であり，これには相互銀行・信用金庫・信用組合などの

(注)　大阪府住宅建設促進協議会「住宅建設No. 8」水島恒子ミ大阪のデラックスのレベルミ

建築基準法にフリーパスのガラス屋根

特許　内外式
電動ベンチレーター

屋上強制換気装置のパイオニヤ
ご信頼におこたえできる
行届いた設計施工

内外建材株式会社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）ＴＥＬ(441)3983・4396
工場　大阪市城東区天王田町１の141　ＴＥＬ（962)1149

内外式スカイライト
工場・プラットホーム・
体育館・アーケードに最適

内外式 連続採光換気装置
コンチニアスベンチレーター
筒型各種ベンチレーター
設計　施工



写真5 長屋建建売住宅（京阪沿線枚方にて）

提携がみられる場合も多い。

前者は，建築家の設計によるいわゆる中流の独立住宅型に属し，郊外住宅地に一団地を形成しつつ，宅地分譲をかねて建設分譲されるものが多く，社会的信用と経営の安定をえているものである。

これに対して後者は，その需要層の性格から借家で述べた同じような条件が必要であった。また資本の零細性から，これらは業者の単独または共同によって郊外の駅に比較的近い農地の宅地化を行ない（この場合農地を売収，一旦自己所有地として土地付建売住宅として分譲するものと，地主から権利金で借り受け，宅地造成の上借地の建売住宅として分譲するものに分けられる。いずれの場合も道路など共用部分は均分して敷地坪数に含めて分譲することが多い），狭い敷地いっぱいに，専門の建売大工により建築せられたきわめて粗造の狭小住宅である。むろん，前掲借家の場合の④の条件のために，ガス風呂（都市ガスのない地域では，中心施設からの共同配管によるプロパンガス代用）を設けるほか，購買欲を誘うため外観などにはとくに意をそそぎ，ときには畳寸法を極小にして畳数をかせぐ場合もみられる。この種の建売住宅は，建物の区分所有権の法律化（注）により，分譲価格を切り下げるため2戸建・3戸建ときには4戸建などの長屋建型式が，最近はきわめて多いことが特徴的である。しかも，分譲価格の半額ないしは6割くらいの頭金で分譲，残金は前記金融機関が肩代りして集金する方法も一般化しようとしている。

また，この種の建売業者は一部の悪質業者を排除するために，住宅取引センターや業者の協会などの連絡組織を設立し，社会的信用と経営の安定化をはかろうとする動きもみられる。

すなわち，民間借家の「文化住宅型」への定型化とは対照的に，狭小建売住宅の長屋建住居型への定型化をみようとしている。

（注） 昭和37年4月「建物の区分などに関する法律」が公布せられ，一棟の建物を区分して各区分毎に所有権が認められるようになった。鉄筋の高級分譲住宅などの場合もこの法律により，各住戸は区分所有，共用部分は共有として登記せられる。

8. 結　び

以上，最近における都市住居の型を展望したが，自己建設や分譲住宅などにみる各種構造の独立住居型，政府施策住宅・給与住宅，前記高級マンションなどにみる中高層耐火構造の集合住居型，施設付集合住居型，民間借家にみる重ね建式の「文化住宅型」，狭小建売住宅を中心とした木造長屋建住居型，そして従来からの民間木造アパート型に分類せられる。

住居型とは何の関連もなく，たくみに居住者心理をついて，きわめて恣意的に用いられているマンション〔注＝Mansion（英）邸宅〕，パンション〔注＝Pension（仏）下宿屋〕，コーポラス〔注＝Corporate House（英）を混合した新造語〕，ハイツ〔注＝戸山 Height（米）からの新造語〕，レジデンス〔注＝Pesidence（英）住宅〕ハウス〔注＝House（英）家〕，アビタシオン〔注＝Habitation（仏）住宅〕，ビラ〔注＝Villa（英）別荘〕などは外国語または外国語系の新造語による名称である。

そして，このような事実は，日本語の混乱時代が生んだ社会現象のひとつと考えるべきではなく，わが国の住宅政策の貧困そのものを象徴している悲しむべき事実であることを知らなければならない。

大阪市内にある借家例について

政岡土地KK社長
政　岡　基　次

1. まえがき

賃貸住宅を大別すると，まず，①都道府県が経営する公営住宅，②住宅公団や住宅協会などの経営する準公営のもの，③官公庁がもつ給与住宅，いわゆる官公舎，④民間の手によって経営されるものの４つに分けられる。この民営賃住宅を，さらに分類すると，ⓐ会社などがその職員を収容するための給与住宅，いわゆる社宅と，ⓑ純粋に家賃によって経営を行なって行くものとがある。このⓑの中には，会社などの経営になる内容のすぐれたものも一部あるが，それなどは家賃も敷金も相当に高く，高級なもので一般の庶民を対象としたものとは考えにくいものが多い。これを除いた大多数の民営の借家は，木造が圧倒的に多く，それについで軽量鉄骨造によるものがあり，いずれも小規模な内容の貧弱なものである。

ここでは，この最後にかかげた民営の賃貸住宅を，実例によって説明することにする。これらの家はそのほとんどが零細な資金によるものであって，営利を目的としながらも，家賃は借り手の支払い能力に制約されながら，きわめて切りつめた計画のもとに実施されているもので，その切りつめ方は，一定の限度を越えているといっても過言ではないものがある。これらは公団住宅などの供給が盛んになれば，自然に駆逐されるか，あるいは改善せざるを得なくなるものであろうが，広い地域にわたって地の利を得ているなどのために将来も存続し，住宅不足の緩和に大きく役立つものと思われる。

戦後は戦前に比べて，民間の借家の状態は激変した。その変貌の主なものを拾ってみると，①まず何といっても空家がほとんどないこと，②借地がほとんど影をひそめ，借家を建てるためには，まず土地を自ら取得しなければならなくなったこと。もし借地があっても，その賃借権を買うために多額の投資を必要とするようになった。③京阪神間でも京間がだんだんすたれ，江戸間（田舎間）がこれにかわってきた。④それに伴って大阪で発達した裸貸し（内部の規格寸法に合った畳や建具は借家人持ち）が消滅した。⑤敷金が増大した。⑥建築基準法が守られなくなり，特に建ぺい率において甚しい。⑦下水道の発達と公団住宅などの影響により，水洗便所が普及しかけた，などを挙げることができる。

田舎間が京間に取ってかわってきた原因についてはいろいろあろうが，公営や公団のものが京間制によらぬために，一般の借手が狭い江戸間に抵抗を感じなくなったことや，京間は田舎間に比し面積が18%内外大きくなる（次に示す例１の住宅では，占用部分について18.7%増）ため，敷地の負担が増大し，建築費も増大するにもかかわらず，家の大きさは安易にただ６帖や４帖半と言う畳数で取引きが行われ，京間でも田舎間でも家賃に差がつけにくいことなどを挙げることができる。

以下実例について説明を進める。

2. 例１――木造アパート

図１は南大阪にある一例で，39年の秋に竣工したものである。敷地は住居地域で，周囲の環境は住居に適している。木造瓦葺２階建ての京間による家で，廊下部分は階段とも軽量鉄骨造ビニール波板葺である。図のような２Ｋの家が14戸と，他に２ＤＫが１戸，表道路に面して店舗２室が配されている。建物の延面積は546,864m²で，そ

図１　２Ｋアパート

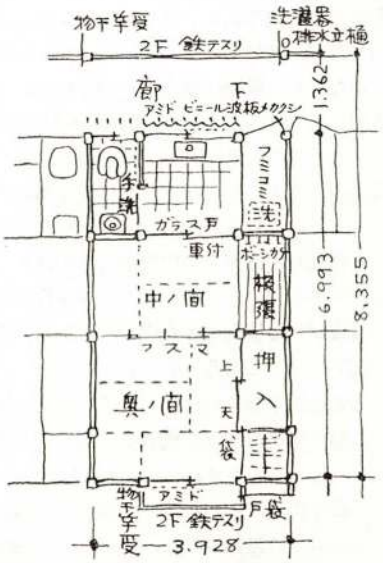


表1　内　部　仕　上　表

	床	巾　木	腰	壁	天　井	そ　の　他
表　ノ　間	Pタイル	木	—	プリント合板 大壁	石膏ボード E.P.	1.8m巾ステンレス流，アミ戸，ガス瞬間湯沸器， ビニール波板目隠
フミコミ	色モルタル 水勾配付	色モルタル	—	同　上	同　上	洗濯機排水ノタメ1Fハ廊下外ヘ溝ヲ，2Fハ竪樋付
手　洗	プラスチック タイル	木	—	耐水合板 大壁O.P.	合　板 O.P.	洋風水洗大便器，洗面器，紙ホルダー，マドアミ張
中　ノ　間	タタミ 一部アピトン	一部木	—	大津 真カベ	石膏ボード E.P.竿縁入	ポーシカケ
奥　ノ　間	タタミ	—	和紙貼	ノリツチ 真カベ	同　上	マドアミ戸，雨戸，2F金テスリ物干竿カケ
廊　下	モルタル 水勾配付	色モルタル	—	ラスモルタル カキ落シ大壁	ビニール波板	物干竿カケ，2F鉄テスリ，洗濯排水竪樋付

の内賃貸できる有効面積は443,784m²(有効率0.8115)，この2K(廊下を除く)の全有効面積に対する比は0.0609（かりに分担率と呼ぶ）である。内部仕上は表1のとおりである。便所は浄化槽を経て公下水に放流し，洗濯場は共用のものは設けず，各自の電気洗濯機（置き場は踏み込み，排水は1階は廊下沿の側溝へ，2階は廊下の鉄柱に取付けた竪樋にホースで排水）によっており，乾燥は廊下の鉄柱と奥の間の窓に取付けた物干竿受けによっている。ガス・電気・水道は各戸に計量器を備え，使用料は各人がガス会社等それぞれの供給先へ直接支払うことになっている。

土地の面積は120.12坪で，前から所有していたものである。

家賃は月額6,800円で，1月に満たぬものは日割計算によっている。この方法は最も公正なもので，普通には半月分をもって区切る例も多い。家賃の他に共益費として200円/月がかかる。共益費は廊下などの共用部分の電灯や浄化槽の動力費・清掃費・消毒剤費などに当てられている。

敷金は25万円である。戦前は普通家賃の3月分が普通であったが，戦後は著しく増加し，10カ月以上のものが普通になった。敷金の割合は一定したものではなく，その土地土地によってちがっているのが実情のようである。比較的生活程度の高い所ほど敷金は高く，逆に程度の低い所は安く，そのかわりに家賃は割高になっているように見受けられる。敷金が戦前に比して高くなったことは，それだけ借家人の信用が失墜したと言うわけではなく，家主の資金不足を補うことが主目的であって，これには貸ビルの権利金とか協力費とが先例を開いたと見ることもできるであろう。

この敷金は1年以内に家を明ける場合はその2割を，1年を超えて後に明ける場合は1割を差引き，借家人に返還される。もちろん滞納家賃や，借家人が弁償しなければならない債務があれば，それを差引かれることは当然である。この減額制度は，これも普通一般に行なわれていることで，1年超でも2割とする例もある。この減額は一種の権利金と考えられるが，実際は空家の防止策と，空家になった場合の諸掛り——その期間の家賃の埋め合わせ，新入居申込者の調査費，畳や襖・壁などの修理費などに当てられるものである。途中で借家人がかわった場合の修理は戦前にも行われたが，最近は維持管理に関する要求度が高まり，前住者が使ってうすよごれした家では，新入居者は承知しなくなった。

借家人の入居中の畳・建具類などの修理は，借家人の負担である。これは戦前は家主の負担とするものが普通で，特に空家の多かった昭和の初めころはそうであった。畳や襖のように脆弱なものは，居住者の注意によってその損傷の度合いが著しく異り，また一方修理をする時期の判定も家主と店子との間において往々にしてくいちがったため，大阪では戦前裸貸しの制度が発達した。しかし今は京間の制度が乱れたために消滅し，この制度の復活は今後もあり得ないであろう。

それではこのような家は，採算上どのようになっているかを分析してみよう。

土地は評価をかりに7.5万円/坪とすると，それに総面積を乗じ，前述の分担率0.0609をかけると，1戸当りの金額が求められる。

すなわち，75,000円/坪×120.12坪×0.0609＝548,918円

新たに買った場合は別に登録税や不動産取得税が必要であるが，この場合は以前から所有しているために不要である。家屋は建設当時の価額8,910,400円（坪当り53,863円）でこれに前掲の分担率を乗じて，542,937.40円/戸を得る。登録税は抵当権の設定などのために必要な場合以外は，普通には登記しないため，この例では零である。不動産取得税も1構え150万円未満のこの種小住宅には課税されない。

この物件に要する経費は，次のように算出される。

土地に対する固定資産税と都市計画税は，課税標準額の$\frac{1.6}{100}$で，課税標準額は3年毎に更改され，現時点では4,120円/坪で，上記評価額の約1/18である。

$$4,120円/坪 \times 120.12坪 \times 0.0609 \times \frac{1.6}{100} = 482円$$

家屋については，

$$542,937円 \times \frac{1.6}{100} = 8,687円$$

但し3年間は½に減じられるが，ここでは全額として計算する。また課税標準は普通建築費より若干低いが，かりに建築費をとる。

火災保険料は，1,000円につき2.7円（大阪市3等地基本料率）

$$542,937円 \times \frac{2.7}{1,000} = 1,465.93円$$

修繕費は，かりに建築費の2％とすると，

$$542,937円 \times \frac{2}{100} = 10,859円$$

管理費については，特定の管理人を置いていないので，かりに計上しないこととすると，以上を合計して

支出合計　21,494円/年・戸 ……(A)

となる。

一方収入の方は，家賃と敷金に対する利息である。

家賃　6,800円/月×12月＝81,600円

金利については，かりに銀行の1年定期預金の率の5.5％とすると，

$$敷金利息\quad 250,000円 \times \frac{5.5}{100} = 13,750円$$

以上を合計して，

収入合計　95,350円/年・戸 ……(B)

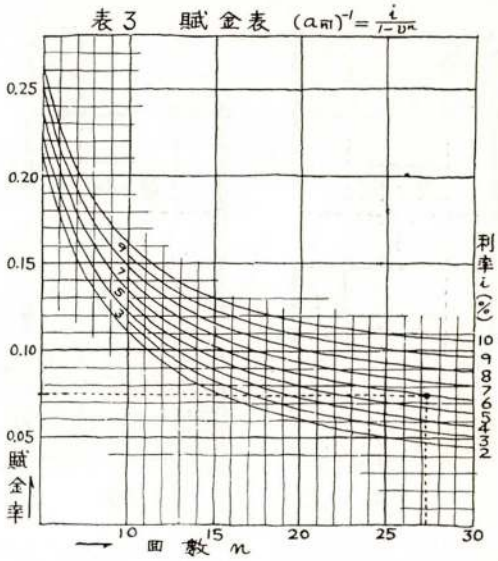
差引見掛けの利益(B)—(A)　73,856円/年・戸 ……(C)

そこで，かりに6％の利回りとして試算すると，土地に関しては，548,918円×0.06＝32,935円

これを(C)から引くと，40,921円となり，これが家屋に対する償却と利益である。この値と建築費との比を求めると，40,921円÷542,937円＝0.075369を得，これから

表2　各種貯金利回表

	種類		期間	年利率（％）	備考
信託	貸付信託		2年 5年	6.5 7.37	1口1万円
	金銭信託		1年以上 2年〃 5年〃	5.5 6.3 7.07	5,000円以上
銀行預金	普通預金		出入自由	2.19	10円以上
	定期預金		3月 6月 1年	4 5 5.5	100円以上
郵便貯金	通常貯金		出入自由	3.6	10円以上
	定額貯金		1年 2年超	5 5.5	
債券	金融債	割引債	1年	6.23	
		利付債	5年	7.3	
	一流事業債		7年	7.48	利率年7.3分であるが100円を99.5円で売出



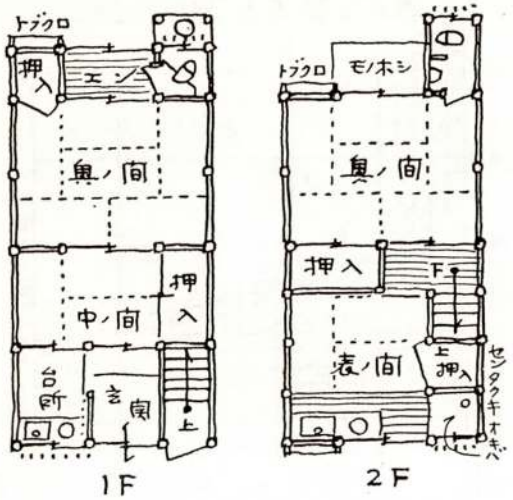
賦金表（表3）によって償却年数を求めると27.3（賦金率0.075から右に進み利率6％の曲線との交点を下へ下ってn≒27.3)を得る。すなわち，家屋の償却年数を27.3年にすると，この物件の利回りは6％を期待できる。かりに5.5％として試算すると償却年数21年強を得る。しかし家全体としては，道路に面して2つの店舗があるから，これよりは少し高利回となっているであろう。またこの家の家賃などは，比隣類似の家に比べて苦干安いように見受けられる。

以上の償却で注意しなければならないことは，建築費全額を償却していること，すなわち残骸価格を零としていることと，元利合計を一定にして年賦金として計算していることで，定率法や定額法とは異っていることである。

3.　例2——木造のいわゆる文化アパート

各戸に独立の階段を持っている重層の木造アパートの例で，その一例を図2に示す。このアパートは，木造瓦葺2階建，3軒長屋で上下階で6戸になっており，田舎間，汲取便所付きである。ガス・水道・電気は例1に同じく，各戸に別々に計量器がついている。周囲の環境は例1に劣り，附近は小住宅が密集している。2階の家は表の間に洗濯機の置場があり，排水設備がしてある。干場は1階は裏のわずかな空地で，2階は下階の屋根上へ物干場を設けている。この建物は昭和36年に建っているが，利回り計算に当っては，家賃は新入居者のものによるために，建物も現在新しく建てたものとしての評価によることとする。土地は32.50坪で借地であるが，地主に対する保証金はなく，借地権が5万円/坪で一般に取引きされている。地代は910円/月（@28円/坪）。家屋は

図2　文化アパート



42万円/戸（5.5万円/坪弱としての平均値）と評価する。家賃は6,500円/月・戸で，年額78,000円/戸である。敷金は15万円をとっている。以下例1にならって計算を進める。

地　代

$$32.5\text{坪} \times 28\text{円/坪} \times 12\text{月} \times \frac{1}{6\text{戸}} = 1,820\text{円}$$

固定資産税と都市計画税（家屋分）

$$420,000\text{円} \times \frac{1.6}{100} = 6,720\text{円}$$

火災保険料（大阪市3等地，住宅物件C構造）

$$420,000 \times \frac{2}{1,000} = 840\text{円}$$

修繕費　$42,000 \times \frac{2}{100} = 8,400$円

管理費　（かりに零とする）

	支出合計	17,780円
家　賃	6,500円/月×12＝78,000円	
敷金利息	$150,000\text{円} \times \frac{5.5}{100} = 8,250$円	
	収入合計	86,250円
	差引見掛の利益	68,470円

かりに8％の利率で試算すると，土地の権利金に対して

$$50,000\text{円/坪} \times 32.50\text{坪} \times \frac{1}{6\text{戸}} \times 0.08 = 21,600\text{円/戸}$$

これを買掛の利益から差引いた46,870円は，家屋の償却と利益の合計である。これと建築費との比

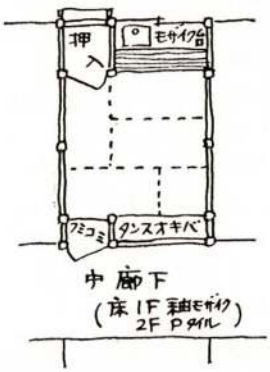
46,870円÷420,000円＝0.1159

から，表3によってn＝16.4年を得る。かりに8.5%を期待すると18.8年，9％とすると22.5年となる。

4.　例3——貸し部屋

間貸しのアパートの例を図3に示す。敷地は商店街に接し，日常の生活にはきわめて便利な所であるが，周囲には飲食店などが多く，住環境としてはあまりよくない。木造瓦葺2階建ての田舎間による建物で，道路に面する部分には店舗が4室あり，図3に示す部屋の他に，畳部分が6帖あるものと，4帖半と3帖の2室のものがあり敷地一杯に建っていて，採光も不十分である。子供の入居については制限しているようである。便所は各階に共用のものがあり，浄化槽を経て公下水へ放流している。洗濯は便所にタイル張りの洗濯流し台があり，そこで行なわれる。干物は屋根の上にある。電気・ガスは子メーターが付いていて，使用量に従って家主が徴集する。水道は人頭割で，月々の全使用料をその時の入居者の数によって割付けている。敷地は借地で，地主に対する保証金は多いが，賃借権は坪12万円で売買されている。建物は延151.50坪，昭和37年に建ったものであるが，例2のとうり坪当り単価を5.4万円とする

図3　貸　部　屋




日本科学技術博物館

●特許吹付タイル・内装外装用化粧材
セラスキン
●建造物の外壁面に!!陶器の壁紙
セラクロス
山本窯業化工株式会社
大阪市東淀川区西淡路町3－176　TEL(322)4851～4
東京出張所・東京都港区西新橋2丁目21の6　TEL(431)7106～7
瀬戸工場・愛知県瀬戸市大字山口字南山138　TEL瀬戸8847

と818.1万円で，前掲の分担率は0.0301であるから，この部屋の受け持つ建築費は246,248円となる。家賃は6,000円/月，敷金は5.5万円で解約時の減額は例1に同じである。共益費は2人までは月500円，3人以上1,500円である。

以下前例にならって計算を進める。

地　代

$36円/坪 \times 91.41坪 \times 12月 \times 0.0301 = 1,189円$

固定資産税と都市計画税（家屋分）

$$246,248円 \times \frac{1.6}{100} = 3,940円$$

火災保険料（大阪市3等地，基本料率に職業割増をして）

$$246,248円 \times \frac{3.7}{1,000} = 911円$$

修繕費　$246,248円 \times \frac{2}{100} = 4,925円$

管理費（別に管理人をおかず，家主がその中に住んで店を開いているのでかりに零とする）

	支出合計	10,965円
家　賃	$5,000円/月 \times 12月$	=60,000円
敷金利息	$55,000円 \times \frac{5.5}{100}$	=3,025円
	収入合計	63,025円
	差引見掛の利益	52,060円

かりに利率を8％として試算すると，土地の権利金に対して，

$120,000円/坪 \times 91.41坪 \times 0.0301 \times 0.08 = 26,414円$

これを買掛の利益から差引いたもの

$52,060円 - 26,414円 = 25,647円$

が，家屋に対する利潤と償却費になる。賦金率は，

$25,647円 \div 246,248円 = 0.10415$

となり，表3からnを求めると19年弱を得る。

この建物は，前述のように道路に面した部分は4室の店舗になっているから，全体としてはこれよりも若干有利に回っているであろう。

5. あ と が き

以上3つの例に見るように，管理費を零と仮定しても借家の利回りは住宅に関しては比較的低率のものであって，当節のように高金利では，銀行からの借入金の利息（年8分は日歩2銭1厘9毛）には追付くことができず，いわんや株主からの出資による会社組織では，法人税や事業税を差引いて，満足のゆくような配当はとうてい期待できない。つまるところ零細な個人資金による経営によらざるを得ない。それも土地を持っているか，土地の賃借権を持っている場合には比較的容易であるが，新たにこれを求めてまでも取組むには魅力が少ない。

償却年数については，表3に見るように，nが増すにつれて曲線は横に寝ることになり，30年を越えると賦金率の減少はきわめて鈍くなる。このことは堅固な建物にして年数を増しても，賦金率はその割に減少せず，その減少率よりも建築費の増加率が多ければ，結局家賃は安くならない結果となる。また償却を終えた後に，まだ建物の寿命があって，さらに家賃が物価の上昇について増額されて経営されておれば有利であるが，往々にして低家賃のままで取残される例が多い。そこで新しく建て直して再出発をするのが当然であるが，当今では住宅不足と居住者の力が強いために，それも意のままにはならない。家主の方が全くお手あげの状態で，家は荒れるにまかせ，倒壊を待っているようなものさえ見かける。このようなものについては，償却は零までで止めず，立退き費までを準備する必要があるのかも知れない。

公営的なもので賃貸住宅の全部が満たされるならば，それは結構なことであるが，多分それは不可能なことであろうから，その不足分はどうしても民営で補わなければならない。そのためには質的に合格するような住宅が，一般庶民の支払える家賃で，しかも家主側には適正利潤が得られ，安定した無理のない経営ができるように，あらゆる角度から検討された政策の樹立が必要である。



建築行政と都市住宅 —行政側の意見を聞く—

「建築行政と都市住宅」について，民間の住宅建設業者と建築行政者とで座談会を開き，それを整理の上集録する企画であったが，予定していた民間の住宅建設業者（豊中市庄内地区の某業者2名）が座談会当日出席されなかったのでやむなく，行政側にのみ意見を聞くようなことになってしまった。この点，当初の意図に反した編集となったのは残念であるが，建築行政と都市住宅や都市計画との関連について，下記のとおり編集委員より質問し，それに行政側として（ときには，個人的意見もまじえて）お答えしていただき，あるていど問題点をだすことができた。

と　き　昭和40年11月25日
答える人　行政側　**吉村　卯**氏（大阪府建築部指導課推進係長）
問う人　編集委員　**高橋久栄**氏（大阪府建築部住宅開発課）

行政指導

問い　現在大阪の人口は665万人ですが，昭和38年10月の統計調査では，人口620万人，世帯数が139万世帯，そのうち住宅難世帯が37万9000世帯で全体の27.03%となっております。一方，住宅戸数では134万6000戸，内訳は公営，公団，協会という公共団体住宅は11万7000戸，民営は借家が57万戸と鉄筋アパートの5倍近くを占めております。特に近年民営借家の建設は異常なほど多く，約年間9万戸のうち67%の6万戸は民営借家であり，都市住居にとっては不可欠のもので大きなウェイトを占めております。民営借家は立地の条件もよく，簡単に入居できる魅力もありますが，反面十分の立地造成も行なわれず公共施設の不足，人口密度も高く防災保健衛生上好ましくはないなど多くの問題を惹起しております。今日はこの大きな社会問題となっているアーバンスプロールをなんとか行政指導で食いとめる方法はないものか。まず建築基準法の観点から行政指導についてお話を伺いたいと思います。

吉村　基準法だけでスプロール現象の防止は非常にむずかしい。基準法はあくまでも個々の建築物が対象で，それ以上のものとなると，ひとつの町づくりとなり，ひとつの都市計画となる。年間25万人以上の人口が大阪府下に集まってくる。それにともなって建物が要求されるが，都市施設がともなわない状態で，スプロール化を食いとめるということは，ひとり基準法のみの問題ではないと思いますね。住宅地についていえば，役所の立場からは予算の点で安い土地を取得する。その土地から発生する住宅市街地化については，当初から一定の計画があればいいわけだが，そうでないため団地の周辺がスプロール化してしまう。この点については，公共団体の行なう現在の住宅政策は根本的に考え直さなければならないと思います。

都市対策の矛盾

問い　公共団体が団地の開発をするときは，広域的に計画を立てねばいけないということですね。

吉村　都市計画のもとに団地計画がなされねばいけないということですな。たとえば，用途地域制が布かれたから，そのなかに住宅を建てればよいというのではない。住宅団地，工業団地とそれぞれふさわしい環境をつくる。そのお手伝いをするのが建築基準法と，こういうことになります。大事なことなんです。これは都市計画の真の目的であり，現在は公共団体が団地をつくっても，その周辺は放任状態で，それをシンにして民間で無計画な住宅をつくる。それがためにスプロール現象を起こしているからです。これにはなんらの制約もなく，そこまで基準法が立入ることもできません。建築基準法に矛盾があるんではなくて，この法律におっかぶせるような都市対策に矛盾があるというわけです。

道路と建築基準法

問い　建築基準法は建物だけにして，道路，下水など公共施設はほかの法律で決定しなければいけないということですね。たとえば，前面の道路何メートルときめるのは建築基準法では，おかしいという理屈ですね。

吉村　そうではないのできめなければいけないことですが，建築基準法で定められている4メートル以上ということだけでは町ができないということです。たとえば，区画整理で行なう街区は，住宅地では80メートルから140～150メートルになります。そのなかの宅地づくり

は，基準法で行なえるが，大きな町という面的な形態はこりゃ都市計画で行なわなければならない。そのなかのブロックに対しては基準法で行なう。ということは前面道路の問題でも4メートルをとらなければいけない。なにを基準においているかというと，それは街区内の問題です。街区のなかの人が自分らで使うために高い地価を払って，道をつくっているので，それが延々と延びて，やがては市道とつながり，あるいはまたがって遠くへ伸びてゆく。ところで必然的に街区の人の使用する以外に他の方面の人も使い，あげくには工場が建ったりしてバタコウやトラックが通行し，またアパートができると，そのアパートの住人が平気で通り，そのうえ自動車で公然と乗りつける。

これではなんのための私道か。高い税金も払っているのに，通行止めの棒杭を打つか，子供の遊び場にした方がマシだとの苦情も出ています。どうしてそんなことが起こるか。道路に提供したところは固定資産税は自分らで払っている。市に交渉しても容易には買いあげてはくれないし，タダで渡すといっても，あとの維持管理の面から，市道として認定はしてくれない。

結論は街画線となる道路は，公共団体で行なわなければいけない。いちばんの問題は，根本的な対策に入らなければいけないが，その前段としては都市計画でどこまでできるのか，われわれのいう都市計画は国の補助，府県の補助でやれる都市計画であって，その都市計画ではだいたい500メートル四方くらい，もちろん例外はありますよ。それが実際にはなされてはいないのです。500メートルまたは1キロ平方のなかの部分，これは誰れがやるんか。それがいま建築基準法という法律がさせられている。ということは基準法がそこまで背延びをさせられているわけです。そうすると建築基準法と都市計画法のそれぞれの範囲には相当大きな，なにもできない帯が流れているわけです。その帯は当然地方公共団体が行なわなければいけないのですが，遺憾ながら現在の自治体では財源がなくてやむを得ず放任されているというわけです。

民間への補助方策

問い　基準法を適用して現在の都市計画法のなかでの民間の助成方策みたいなものは考えられないものかどうか，お示しねがいたい。

吉村　現在町づくりの法律としては，土地区画整理法と，同じような法律で昭和40年8月に制定された住宅地造成事業に関する法律，この2つがありますが，区画整理事業に対する援助をもっとふやすことが，その促進上もっとも適当と考えられる。以前の土地区画整理事業はそれをやることによって数倍ないしは数十倍の地価の高騰が得られるということをひとつの促進剤としてあった。しかし現在は高い土地の一部を道路や公園のために提供しなくても持っているだけで地価は飛躍をするという気持ちのほうが大きいんです。大都市周辺の土地の所有者に区画整理を行なわせるためには，公園や道路のための減歩の何%かは公共団体が負担をし，また事業の補助もする。そうしてもうかるための区画整理じゃない。町をよくするための区画整理であるということをよく知らしめるようにすべきだ。しかし，現在は一文おしみのぜに失ないというとおり，将来改造のために大きなカネを注ぎこなければならないという現状です。

問い　先行投資の話が出たが，住宅地造成事業の法律も区画整理と同じになるとよくいわれますが，これについては。

吉村　民間にいいものをつくらすのが目的で，まず考えられるのは補助と税金の面の考慮が必要です。

問い　現在は建築基準法も区画整理法も育成でなく規制の法律だとよくいわれます。たとえば道路率を何パーセント出すとはっきりいえないものですか。

吉村　補助金政策というものは民間のものにはあまり出していない。民間投資を上手に利用して都市をつくるということにおいては，反省の要があると思いますね。

問い　基準法どおり道路幅員4メートルを守れば補助金を出すとすれば，門真，庄内などあんな都市形成にはならなかったと思いますが。

吉村　法を守れば補助金を出すということはおかしい。市街地化が予想される地域は，まず建築を禁止して，公共投資，民間投資を行なって，街区を形成してから建築を許すとすべきでしょうな。都市は原因があって発生する。それにはウェイトによる順序がある。それによって都市施設をつくればいまのような総花的な政策とならなかったと思う。現状よりそうわるくならないところ，急速に発展するところとの区別をはっきり都市計画で定める必要がある。

問い　市街地周辺や丘陵地など，急速に発展するところは区別してなんらかの手を打つべきですね。

吉村　建築基準法でやるべきものか，都市計画でやるべきものか，これが大きな問題です。建築基準法は都市計画を実現さすためのひとつの方法で，主体はなんといっても都市計画なんです。

問い　民間の建売りなんかは道路まで買わされていますね。それが大きなわざわいとなっていますね。

吉村　基準法を完全に守ったからといってもそれでよい町ができたとはいえない。それは最低ですから。基準法自体はいいもので決してわるくはない。ただその法律が町つくりのために背伸びをさせられている。都市計画の分野までやらされているというところに大きな問題があると思う。

市民の求める対策を

問い　基準法は建物が対象ですが，たとえば何平方米以上とキメの細かい規制は，基準法ではできないもんでしょうか。

吉村　行政はもっと大きな主観で市民はなにを求めているかを見つめないといかんと思う。それには市民がねがっているものがあるわけで，まず市民の都市に対してのねがいをもとに発足しなければ，ああしなさい，こうしなさいだけではちょっとおかしい。よいことはよくわかっているが，いったいそれは誰の手でやってもらうのかと，こうなるのですが，市民が希望する対策を市民の胸の内から引ぱり出してやるということが大事です。刑法というキツイ法律があっても，年末には市民は拍子木たたいて回っています。まかせきるというよりも，みずから守るということが必要ですね。

問い　狭小過密といえば，いまの門真，庄内は大部分それですが，いまのお話ではそれ以外の周辺とか，将来それの予想される地域を先きに手を打ったほうがいいということですね。

吉村　いまの段階で考えれば，悪化の予想される地域に先きに公共投資を行なうべきだと申しあげたんです。矛盾があるかもわからんが。

問い　都心の高密度のところの高層化より，いまの市街地化のおそれのあるところから先きに手をつけたらいいということですね。

吉村　あとで修正しなくてもよいものをつくらなければいかんということですね。

公共性のあるもの

問い　民間アパートの木造の３階建はもちろん違反ですが，それをあえてしなくてもすむような，企業のなりたつような補助金制度とか，税制面の考慮はございませんか。

吉村　補助は公共性のあるものとなっているから，個人の利益に対しては無理でしょうな。公共団体の団地経営は都市計画で決定し収用権もあり税金の免除もあります。工業団地は都市計画も税金の免除も従来はなかった。中小企業なんかの団地は通産省あたりで援助をしています。だいたい住宅はそれ自体で利益を得るものではないが，工場や商店の場合はむりのようです。しかし町がよくなるためには，融資は考えるべきでしょう。

問い　住宅は全体の65%は公共で建てると政府はいっておりますが，現在は全く逆である。いまの中小企業団地のように，ある程度はそういう補助制度をやってもいいと思います。

吉村　家は簡単に建つが，町の形態はなかなか整えられない。宅地内は自分の好きなように建てられるが，道路のつくりかえは至難な事業である。公共団地のやっている住宅政策はその区域内は考えられているが，民間企業が行なう小規模の建売の場合はその点危険がある。宅地の造成をもっと真剣に考えないといけないと思う。

問い　道路とか公園の公共施設はちゃんと公共団体で行ない，住宅は建てかえができるから個人にやらせるということは……。

吉村　よい町をつくるためには，街区を形成する道路は公共団体で都市施設として行なわなければならないということです。個人が建てる住宅は現在ある融資制度でよいのではないか。

民間住宅業者への要望・警告

問い　最後に民間業者への要望とか，警告について。

吉村　日本に法律はたくさんあるが，土地の規制の法律はない。それがいちばん都市計画を困難にしているといわれている。将来の都市計画は容積と用途とそれに併せて土地の評価を，極論すれば，土地価格を定めてしまうということも考えられるのではないか。これとても定められた土地価格＋αの金額が売買について回るだろうが。

問い　違反建築の建てられたあとの処理は摘発をされてそれからどうされるのですか。

吉村　摘発もやっているが罰金刑や体刑をかしても建物の実体は違反として残ります。そこに基準法の弱さがあります。最終の目的は建物を良好な状態に直させる以外にはない。代執行というのがあるが，これにはその違反が著しく公益に反すると認められるときということで，この尺度がなかなか出せないという問題がある。

都市計画では道路とか公園とかは事業化というものがあり，それに伴う収用権があるが，建築基準法では土地，建物はあくまでも所有者に権利があり，非常にやりにくい。じゃどうすればいいのかというと，不特定のものが利用しかつ使用する違反建物に対しては営業停止を，また違反建築物にはガス，水道，電気などの供給をしない，というような強い方策を考える必要があると思います。



都市環境と住居

大阪市大教授・工博
石　堂　正三郎

1

産業の発展，集中化，都市化に伴っての，また，既存都市では自動車の急激な増加などに付随してのいわゆる公害による都市環境の悪化の問題はわが国だけではなく現代の世界各国の共通の悩みである。この都市環境の悪化現象は一般に増大しつつあり，都市に生活する市民にとって大きな脅威であると考えられる。公害が市民の健康，生活にいろいろの影をなげている実態が学会などでも近年数多く報告されており，何とか対策を講じてこれ以上の悪化を防止し，都市環境の好適化のための方策の樹立と進展をと強く希望されているのが現状である。

「住居」はいうまでもなく一日の労働で消耗されたエネルギーを補充し，疲労をいやし，明日のための労働力を再生産するための場であり，次代のための子女の育成のための場でもある。したがって「住居」のおかれる環境はその目的に相応しい条件を具備しておるべきことは不可欠なことである。しかし都市の現状は，また，新産業都市として開発されつつある地域の現況はどうであろうか。少くとも環境条件に関しては問題が多いといわねばならない。二，三の都市における問題点を引用しながら都市環境の再開発，あるいはその是正のために考えなおしてみたいと思うのである。

従来はこうした都市環境，公害などの問題は建築設計あるいは建築技術者の問題ではなく，医学あるいは行政の問題と考えられ，建築に関係している人々からは比較的無関心に放置されていたのではないだろうか。建築家は個々の建築の問題に専念すべきで都市，地域といった広い領域の問題には公衆衛生学や近年は衛生工学なども発足しているとの論もあろうが，私はやはり建築家も地域社会，都市の悩んでいる諸問題につねに目を向けているべきであろうと考える。

たとえば工場の排気計画では工場内に発生する粉塵や有害ガスの問題にしても，これをうまく捕捉して外に完全に排出できれば排気計画は成功という考え方では片付けられない段階になっている。大気中に放出して稀釈すれば問題は解決したとはいえないのである。工場や煙突が増加すれば個々の排出量は小さくとも，その総量は大きいものになり，集中地区，あるいは気象現象との関連で思いがけない濃度になったり，被害が発生したりすることも当然なのである。昭和37年に制定された「ばい煙規制法」もこの点に問題を残しているといわれる。すなわち個々の排気煙道内の煤塵量を排出基準として規制しているが，これが集積されれば大きな汚染質の放出になるわけであるが，その環境基準については現在は規定されてはいないのである。

建築の工事現場の騒音振動についても周辺の居住者への影響を考えれば騒音振動の少ない工法，技術の開発が当然要求されるし，また，それが技術者の大きな義務である。金銭的な補償で片づけるのは問題の解決ではなく根本的な間違いであろう。

大都市において市民の生活に累を及ぼしている障害がどのように陳情されているかを東京都と大阪府の例で示すと **表1** のようである[1]。東京都の場合は昭和24年～36年の12年間の総計 9,748件に対して 昭和37年一年で計 3,250 件である。これは東京の環境条件が都民の生活のためには一層悪化していることを示し，また，都民の関心が高まっている結果であろう。陳情件数の中で騒音振動の比率が東京，大阪ともに64%程で非常に高い。これは大気汚染，水汚染などと違ってその発生源がはっきりわかるためであろう。

表1 大都市の公害陳情件数

	東京都			大阪府	
	昭.24～36年総計		昭.37年度	昭.29～37年総計	
	件数	比率(%)	件数	件数	比率(%)
大気汚染	2,951	30.3	工場 956 都市 566	2,358	31.1
水汚染	177	1.8	不明	313	4.1
騒音振動	6,326	64.9	工場 1,184 都市 544	4,905	64.8
その他	294	3.0	—	—	—
総計	9,748	100.0	工場 2,140 都市 1,110	7,576	100.0

（備考）東京都「都市公害の概況」（37年12月）および
大阪府「大阪府公害施策の概要」（37年度）より

表2 諸都市の降下煤塵量(ton/km²/月)

都市名	測定期間	煤塵量	都市名	測定期間	煤塵量
Pittsburgh (米)	1938	23.5	川崎市工業地区	1961	48.56
London (英) (southwork)	1945~49	(W)42.39 (S)24.43	Birmingham (英)	—	40.0
London (英) (Westminster)	〃	(W)11.39 (S) 9.51	Liverpool (英)	—	58.0
東京都麹町	1954~56	26.2	Baltimore (米)	—	45.7
東京都杉並区	〃	10.1	Leningrad (ソ連)	—	24.6
大阪市大正区	1961	81.28	Voroshilovsk(ソ連)	—	30.4
大阪市住吉区	〃	12.45	Stalino (ソ連)	—	31.3
宇部市工業地区	1950~55	118.77	Khar'kov (ソ連)	—	38.0
宇部市住居地区	〃	27.54			

(備考) (W):冬季, (S):夏季の平均

2

公害とはどのように定義すべきか，これについてわが国では，人の健康をそこなうおそれがありまたは環境を汚染する原因となるもので一定の基準をこえるものと考えられ，その内容としては大気汚染，水質汚濁，騒音振動，地盤沈下，悪臭などあげられている。ある法学者の意見で「公害とは不特定多数の加害者と被害者があり，その因果関係がよくわからない場合が公害と考えられるので，特定の工場からの騒音，悪臭などによる被害は private nuisance というべきである」との説をうかがったことがある。私ども素人には法学的な公害理論もさることながら，現実に市民の生活，健康に悪影響を及ぼしている都市環境の悪化への対策，処置などが具体的に問題なのである。

このいわゆる公害の中で現在最も大きく問題視されているのは大気汚染と騒音の二つが主要なものであろう。大気汚染の問題はまず英国で石炭使用が盛んになった13世紀頃から問題になったといわれる。それが1952年のロンドンの Smog 事件といわれる4,000人の市民が5日間の濃い Smog の停溜のために死亡したショッキングな事件にまで悪化した。英国ではこれに対処するために1956年に Clean Air Act を制定し，煙突からの煤塵の排出基準などをきめた。このように大都市，産業都市の大気の清浄化対策を進めていたが1962年にまた Smog に見舞われ750人が死亡したとされている。この時には Smoke は前回よりずっと低濃度であったが，亜硫酸ガス濃度はほとんど同じであったという。Clean Air Act によって煤塵は確かに低減したが，亜硫酸ガスその他による汚染は依然として問題を残しているということである。

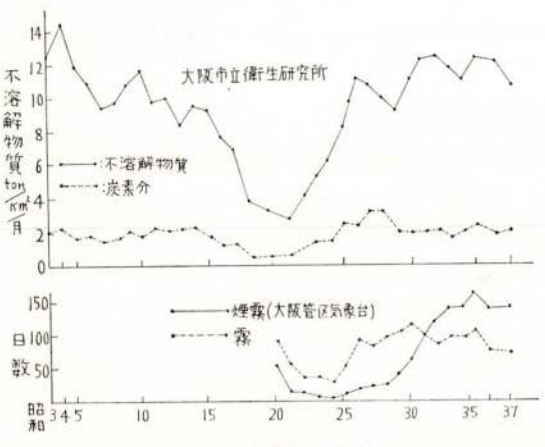


図1 大阪市の降下煤塵中〝不溶解物質〟および霧，煙霧日数の逐年変化

降下煤塵量によって示される各国の都市の大気汚染の状況を示すと**表2**のようである[2]。内外の文献による都市に1月間に降下している煤塵量であるが，外国のものには測定条件が詳細でないものもあるので都市全体としての比較は無理であるが，大気汚染が各国ともに共通した都市環境の大きな問題であることは否定し得ない。こうした公害による障害は ロンドンの Smog 事件のような大きな事件にもなり得るが，低濃度でも慢性的の健康障害を惹起しつつあることが実証されている。また，たとえば太陽からの光，熱もこれで大きく阻害される。リーズ市では周辺の清浄な田舎に比較して50%の日光強度しかなく，ロンドンでは非工業地帯に比して日光の損失は38%にもなっていると，太陽の恵みの少ない都市の苦悩が示されている。

3

わが国の大気汚染の現況を二，三例について述べてみると，以下のようなことになる。大阪市では相当以前から降下煤塵量を主とした汚染の実態測定が継続されている。図1は，大阪市衛生局資料による昭和3年~37年の降下煤塵中の不溶解物質(すす，灰，土砂など)の逐年変化である。昭和20年を中心に前後数年間は生産活動の停滞を反映して煤塵量は非常に少なくなっていたが，産業の復興とともに戦前と同じ程度になった。昭和37年にややは

減少の傾向を示しはじめている。これについては世論，工場などの自制にもよるかもしれないが，使用燃料の変化が大きい要素になっていると考えられる。**図2**に示すように亜硫酸ガス濃度の逐年変化を見ると35年～36年に比較して37年～38年とその増大傾向が明らかなのである。これは次に述べる宇部市の場合と同様に従来の石炭使用が石油系に代ってきたことにもよると考えられている。

宇部市は地方の産業都市として戦後急速に発展したが，工場から排出される煤塵に悩まされた一つの典型であろう。市，事業所，大学などが協力して結成された対策委員会がこれに対処し，現在までにあげた成果と残された問題を山口大学の野瀬教授の報告などから引用してみよう(3)。宇部市の工場などで使用されている石炭は灰分40%程の粗悪炭である。その月平均使用量は昭和37年には15万トンにも達している。したがってその燃焼の結果の降下煤塵量も莫大なものになるのは当然である。これに対処するために発足した前記の委員会により市全域の煤塵降下の実態が測定され，一方において煙道への集塵装置の設備が勧奨されてきた。昭和25年～37年の間に計36台の装置が累計費用約10億円をかけて設備された。その結果は**図3**に示すように降下煤塵量は最高年の⅓に，石炭消費量の増大と対比すると⅙までの大巾な低減化の成果を得ている。これに比例して市民のトラコーマ，ジフテリアの罹患率は減少し，気管支炎心臓疾患による死亡率が減少してい

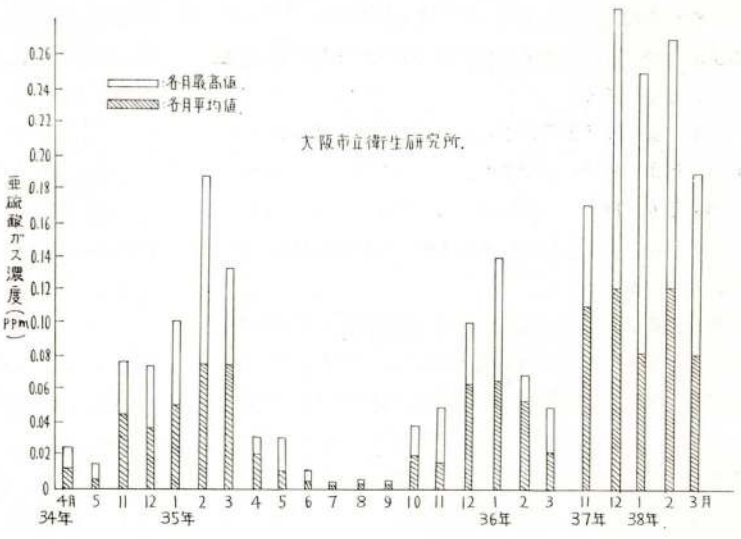


図2　大阪市の亜硫酸ガス濃度の午前9時における各月平均および最高値

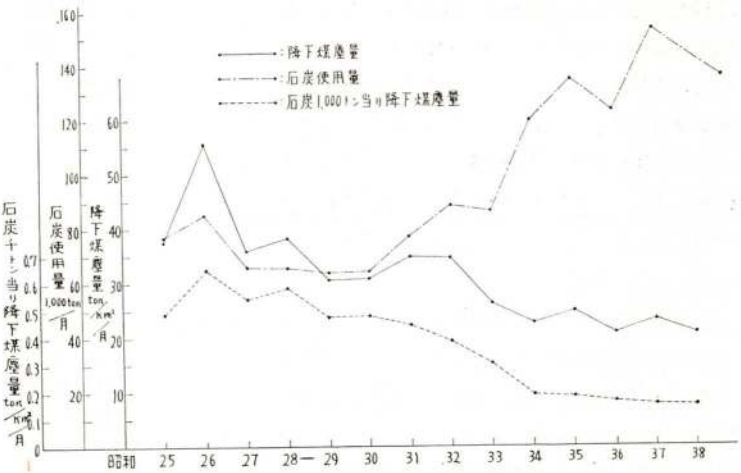


図3　宇部市の年度別月平均降下煤塵量の推移

Taniyama
送風機
株式会社 谷山鐵工所
営業品目
●LAF形　リミットロード送風機
●TAF形　可変式軸流送風機
●SL形　ストリームライン送風機
●CL形　セントリーライン送風機
●プレートフイン・ヒーター・クーラー
本社工場／大阪市城東区野江東之町二丁目一番地
電話　大阪（931）代7803～9
東京出張所／東京都文京区湯島四丁目六番十七号
電話　東京（811）3435・3440

るという。しかし一面，昭和32年から実施している亜硫酸ガス濃度の測定結果では，その濃度は減少していない，むしろ増大しているという。これは燃料としての重油使用の増加，石炭燃焼の硫黄分の除去の困難さに基因しているのである。

以上のように宇部市の場合には降下煤塵対策は成果をあげ，市民の健康にも効果があったのであるが，増大しつつある亜硫酸ガス対策が新しい問題となっている。すなわちロンドンと同様に大気汚染の性格が変化してきているのである。

四日市市の大気汚染は，宇部市とは相違した石油系燃焼により発生する汚染質が主体である。その公害について三重大学の山口教授などが主になり測定研究が行なわれている。その報告(4)を要約すると以下のような現実が浮び上ってくる。昭和34年頃から石油コンビナートとして発展した市域内に約12社が稼働開始した昭和35年頃から大気汚染による市民の健康障害が発生した。昭和38年から第二コンビナート3社が運転をはじめ被害が拡大したといわれる。これらの工場から放出される汚染質は石油系燃焼による亜硫酸ガス，無水硫酸，硫化水素，炭化水素化合物などである。降下煤塵はそう問題ではない。これら汚染質がコンビナートに近接した地区の住民の健康に障害を支えつつあり，いわゆる四日市喘息，気管支炎などの発生率は非汚染地区の2～3倍になっているという。また，その発生は季節風による汚染質の流入地区に明らかに多いなどとコンビナート地区の計画に影響されていることを示している。

以上のような都市，新産業都市などの大気汚染の実態と市民への障害が解明されるにつれて，その対策の必要にせまられ，昭和37年に「ばい煙規制法」が制定され，38年9月からまず京浜，阪神，北九州の三大工業地域が指定された。この地域の既設の煤塵発生施設は2年以内に法律できめた基準以内の汚染物排出におさえなければならなくなった。その具体的な煤塵の排出基準は燃料，炉などの種類により相違するが，標準状態（0°C，1気圧における状態に換算して）1 m³ 中に含まれる粉塵量として0.5～2.0 g の間でそれぞれきめられている。しかし，これは市中の煙突すべてに適用されるのではなく，また個々の煙突についてである。したがって工場が密集し，煙突が集中している地区では個々の排出濃度は基準内にあっても数多くなれば当然大気汚染の大きい原因になるなどの問題を残している。

以上都市環境の諸問題のうち大気汚染について現状や問題点を述べたが，他にも騒音振動，水質汚濁なども都市住民には身近かな，住生活に影をなげかけている問題である。

都市の発展，産業の進展に伴っての都市環境の悪化は避け得ない問題である。ただそれはあくまで市民の生活，健康に累を及ぼさない限度におさえられるべきものである。ドイツでは汚染できる権利と辛抱しなければならない義務としての濃度をきめているとのことであるが，それがしっかりした科学的な裏付けによったものであり，また，それ以内に厳重に守られれば市民にも納得されるであろう。都市の再開発計画も大都市を中心に計画実施されつつあるが，その中に都市環境の問題も大きく考慮されてほしいのである。（40.11.15）

文　献

(1)：庄司光，他：恐るべき公害，岩波新書，昭和39年より引用

(2)：通産省立地政策課他編集：大気汚染便覧，昭和38年
寺部本次訳：大気汚染測定法，技報堂，昭和35年
G.V. Sheleikhovskii : Smoke Pollution of Towns, 1961より引用抄録

(3)：野瀬善勝：大気汚染研究全国協議会第5回総会抄録集，昭和39年

(4)：吉田克己，他：産業環境工学，3：3，1963などの資料による。

✳特許
小俣式
防火シャッター全般
●設計
●製作
●施工
小俣シャッター工業株式会社
大阪支店
大阪市北区若松町30　電話（341）9004．9016．4825
本社　東京都北区田端町　事務所及本工場　埼玉県与野市

今後の都市住居の方向
—郊外社会の否定—

大阪市立大学講師
住田昌二

はじめに

今日のように都市の様相が加速度的に変容し，しかも，困乱と矛盾が深まっている状況下では，都市の住まいの適確な展望を行なうことは，きわめてむずかしい。現実追随や，単なる批判だけではどうにもならない。現状のアンティテーゼを，巾広くさまざまな角度から構想することが重要となって来ている。そして，確かにそのような意図から，都市のヴィジョンが，きわめて数多く提案されているが，概してＳＦばりの非歴史的なものが多い。形態的な追求に留まっていて，生活発展像が欠落していては問題にならないと思う。

そのような点を反省し，将来の都市住居像をヴィジュアルに示すところまでは行かないが，住居の発展を規定している条件を検討し，その方向についてのラフ・スケッチを一つの考え方として示したい。私は，都市の住まいがよくなっていくためには，何よりもわれわれが小市民的な住居観の呪縛から解放されねばならないと考えている。本論をそういう点から読んでいただければ幸いである。なお，ここでは，都市住居を主として大都市の場合を対象として論ずる。

郊外化の再検討

大都市の住居がどのような発展をたどるかをみるにあたって，まず，近年とみに激しい郊外膨張現象の要因を考察しておく必要があろう。

私は，小学校の頃，大阪市は煙と水の都であると教わった。昭和10年代はまだ，大阪の煙は経済繁栄のシンボルであり，運河の水も，街のたたずまいにうるおいをそえていた。しかし，今日では，その煙のために灰色の空と化し，河はすっかり濁って悪臭を放っている。大気の汚染，汚水，悪臭，騒音といった公害が次から次へと発生し，今日の大都市の姿は，人間の住居環境としての魅力をすっかり失ってしまっている。このような都市環境の悪化が，都市の内部から郊外への転住に拍車をかけている要因を創り出していることは確かである。

郊外化を惹起している今一つの要因として，すでによく指摘されていることであるが，地価の騰貴があげられる。公共団地や，個人住宅の宅地取得は，大都市周辺はもちろん，既成の郊外住宅地でも，著しい地価騰貴のためきわめて困難となり，安価な宅地を求めて，より郊外へと蚕食的に拡がっていく。都市圏は年々平板的に膨張する。また，地価の上昇は，大都市内部の宅地の利用形態を変質させた。戦後の都市の住宅は，長屋形式が圧倒的に多かったが，地代の上昇は，最近の住宅供給を，必然的に低質な住宅水準，高密な住居形式に向わしめた。すなわち，＜長屋＞から＜民間アパート＞への変貌がそれである。

都市の借家住まいは高家賃となり，粗悪な住宅で，過密居住を強いられる。低賃金の家計では出血的な家賃支出になるにもかかわらず，それに値する住生活の代償が得られない。庶民の都市生活は割に合わなくなってきている。こういう事情が，本格的な借家層までも，持家志向に転換させ，膨大な持家需要を潜在せしめている。今や，＜郊外の庭つきの小住宅＞での＜モダン・リビング＞が，小市民の生活の現想像となっているのである。

戦前の大阪市を例にとれば，大まかにいって８割までが借家居住者であり，なお若干の借家が空き，空屋率が３～５％で住み替えが割に円滑にいっていた。そのような住宅事情では，生活程度に応じて好みに合った土地柄の，格好な住宅を選ぶことができた。退職金が入ったとか，大世帯の家族とかが持家を建てる以外には，あえて自分の家を持つより，借家に入った方が利口であったのである。こういう点に照して今日の状況をみると，住宅難が住居観をも倒錯させていることがわかろうというものである。

ここまでは，都市居住者の郊外・持家志向について，

一般に行なわれている解釈である。しかし，更に別の意図が，持家意識を助長していることを指摘しておく必要があるようだ。わが国は今や高度大量消費時代に入ったといわれている。そういう掛声のもとで，生活消費財が次々と売られて行き，国民の生活水準は受動的に否応なしに高められつつある。このような大量消費生活の到達点として＜持家生活＞がシンボル操作されてはいないか，すなわち＜電化製品→自動車→住居＞という系列的な欲求培養が，資本主義の高度化と対応して，消費スケールを拡大させていく。保守政権は，福祉国家を説き，国民の中間階層化を唱えはじめた。そして賃貸住宅政策は宅地政策（＝持家政策）に切りかわりつつある。ジャーナリズムは，よろしくこの宣伝に一役買い，国民に＜郊外生活＞像を，間断なく植えつけている。これをもって建築家は瞑すべきか？

このような，蚕食的な都市圏膨張の実像と，小市民的な郊外生活の虚像とが織り重なって＜郊外化＞は正当性？を確立するのである。

しかし，このような郊外化が，居住形態の正常な発展方向であると思われない。特にフイジカルな点からみて，そのマイナス面を要約すれば次のごとくである。まず第一の点は，郊外の拡大化にともなって，人口流動量がますます激化することである。職場の移動をともなわない住居の郊外化であるから，通勤圏が拡大し交通需要が増加する。放射形態を前提とした都市パターンでは，遠心化はそれだけ都心への重圧を意味する。散漫な生活圏の膨張は非能率的である。第二に，今日においても著しく整備のおくれている生活環境は，蚕食的な郊外拡散化によって，一層悪化するのではないかと考えられる。

粗放的な開発は，生活需要を拡散し，施設密度をそれだけ稀薄化し，投資を不経済にする。これらの点からみて，今日の都市圏の構成は，非能率，不経済な形となってきており，郊外化は，再検討の段階になっていると考えられる。

高密度居住形態の方向

郊外化のアンティテーゼを考えるにあたっては，現在進行している人口移動の傾向を認識しておく必要がある。きわめてはっきりしているのは，農村が全国的な規模で解体していることである。近年ぼう大な人口が，農村から都市へ移動している。そしてこれらの人口の流入先は，主として大都市内部である。都市内部の居住者は郊外に流出して，逆に農村を浸食している。このようなダイナミクスによって，わが国の人口配置は再編成されていきつつあるが，総体的には，定住構造は，農村部より都市部へ偏在しつつある。更に交通条件の革新によって＜都市圏＞の連担現象が，ベルト地帯化という形でおこってきている。

しかし，このような都市圏の膨張は，国土的な土地利用からみて，一定の方向に制約されているといえよう。国土の自然的な形態は，山地が76%を占めることからみて，居住可能地域は著しく限定されている。1960年の国勢調査によれば，人口が集中している地域の面積は全国土のわずか1.05%に過ぎないのに対し，その地域の人口は43.7%に達している。すなわち，わが国は，今日でも他国に類のない稠密度居住形態を創出しているといえる。狭い国土，莫大な人口に対して，国土を有効に利用する点からみれば，このような自然的，社会的条件の特殊性は，今後の都市開発においても墨守されるべきであって，ベター面の郊外開発や，農村を食い荒す地域開発は，国土のムダ使いである。

地域開発についていえば，今日までの実績からすでにある程度の結論が出ているように思う。すなわち，量的にみて，大都市への人口集中に打勝つ地方分散ができないし，質的にみて，大都市との地域格差が是正し得ないということである。＜集中＞の反対概念としての人口の＜分散＞政策は，国土計画的にみて，きわめてまずい方法であり，現在のような体制では，分散化が進行するとしても，自然景観を破壊するような結果しかもたらさないであろう。

これからみて，今後の国土利用は，都市と農村が極立った対比を示し，人口は，都市化地域に集積されるのが妥当な方向である。都市地域の居住形態は，一層高密度化するだろうと考えられるのである。都市が全体的に高密化していく過程では，都心―郊外という形に分極化された定住パターンは，自ずから解消されねばならない。その段階では＜郊外開発＞，＜都市再開発＞といった現在の計画体系は，最早役に立たなくなることを考えておかねばならないだろう。

生産点コミュニティの構想

今までの考察は，主として土地利用の妥当性という点から論を進めてきた。もちろん，わが国の定住構造は，容易にはこのような形に変革していかないであろう。また，そのような路線を設定しても，さまざまな妨害条件が介在している。しかしより重要な点は，今日の都市社会においてシンボライズされた＜郊外生活＞を否定して，どのような地域生活像を構想するかにある。

郊外化の今日的意味は，前節でみたが，これを歴史的にみれば，suburbia は，資本主義の発展の産物ということになろう。つまり資本主義的な生産様式が，生産と再生産の場を空間的に分離したのである。そして資本主義が高度化していく過程で，生産の場はますます地域分化を押し進め，住居の空間構成も，労働者層のさまざまな

階層分化を反映して，スラムから郊外までの傾斜的構成を創出した。したがって今日の地域社会は，就業生活を切離した家庭生活中心の構成となっている。趣味や，娯楽を通じてのさまざまな集団活動が発生しているとしても本質的には，居住者層は，家庭単位に解体し，かっての地縁的・血縁的紐帯に代る結合関係は見出し得なくなっている。今日の計画家は，団地社会の近隣関係の培養に懸命になっており，この考え方は＜近隣住区理論＞に集約されている。しかし，この理論が居住者の結合性を高めようとすることに力点を置いているのは，いささか見当違いの気がする。近隣住区論の成果は生活需要充足のための＜サービス単位的住区＞の域を出ていないと考えられる。居住者層の本当の近隣関係は，生活の目的である労働を通じて形成されるのであり，その意味において，労働生活を軸としたコミュニティへ転化していかねばならない。郊外住宅地は 生産と 分離した，つまりは＜消費コミュニティ＞に過ぎない。生産と再生産を空間的に一つの環におさめた地域共同体が，これからの都市生活の目標となろう。消費点コミュニティから生産点コミュニティへの転換によって，はじめて郊外生活を止揚する新しい都市生活像を獲得できると考える。

それはフィジカルには＜都心―郊外＞という放射状地域構成を否定することである。都市圏全体は，労働―休養の サイクル の完結した地域集団 の連続体 となっていく。通勤ラッシュがなく，昼食は自室に食べに帰り，ともに働き，ともに遊ぶ生活のイメージが，都市生活にも復帰しなければならないと思う。

今後の都市住居の計画的観点

今日の都市計画理論は，端的にいって＜用途地域論＞と＜密度論＞に集約されている。これらの理論は更に極言すれば，職・住分離を前提とした都市の地域構成に対応しているものであり，形態的には都心―郊外という生活圏パターンを志向しているといえよう。したがって今後の都市の発展段階で，このようなパターンが否定されるならば，これらの計画理論は再検討が必要となる。

用途地域論は，すでに現在でも陳腐化している。これは都市の発展を誘導する能力がなく，規制するという形の機能が主であり，結果的には，現状追随的に困乱した混合土地利用を是認することに終っている。しかし，本質的にはこの理論が，職場と住居の分離という形の地域の純化を基本にしているところに問題がある。商・工・緑・住という形の地域構成の専用化を目標とするが，現状において一般的な＜商・住＞，＜工・住＞という混合した土地利用を結果的に認めざるを得ないという矛盾を生じている。更に地域の専用化といっても，どの程度の地域規模でそれを考えるか，住区単位でまとめるのか，分区単位でまとめるのか，つまり，住区理論と対応した形で理論化されていない。「そこには工場があるから」ととかが，現実には決定的となっている。混合地域を単純に否定するのでなく，むしろ，それが今日において支配的な土地利用型であることを認め，これを＜職・住＞のバランスのとれた地域構成に誘導することが今後の課題であると考える。その意味から，事業所の立地性向を住居との関係から再検討することが重要である。大都市は第３次産業の都市になるという考え方が支配的であるが，そのような＜虚栄＞で大都市を埋めつくすのは，まことに馬鹿げているという他はない。産業分類にいうなら製造業の立地動向の把握が決定的に重要である。

密度理論については，生活的な観点から批判される。この理論には，現実の居住地分化の投影であるのだが，人口密度・戸数密度が低いほど環境水準が高いという価値判断がついてまわっている。そして，今日の都市に支配的な住居形式である＜民間アパート＞の存在は，単純に否定されようとする。密度論が方法的に有効なのは，人口・住居密度が，地域生活様式を量化した指標になっていることである。つまり，一定の密度によって，一定の生活内容が住居形式に具現化し，密度の差異の検討を通じて，生活形態を地域的に調整しようとするところに狙いがある。そして，現在の密度論が操作している人口密度の上限は，せいぜい 300人/ha 位までの範囲であって，低密度域の計画技術しか体系化できていない。高密度化するほど，ネット密度とグロス密度のふれ幅が大きくなり，同じ密度でもネットとグロスの相違によって，密度に集約されるべき生活様式は全然異なったものとなるのであり，その辺に密度論の限界がある。

グロス1000人/ha に達するような民間アパート地域の存在は，考えようによっては，生活様式の高密度化の一つの到達点である。（だから民間アパートがよろしいというのではない）この地域の存在を改めて認識することから，新しい高密度生活様式を創造していくことが，計画理論に先行しなければならないと考える。大阪の都市住居は，歴史的に高密居住形態を創出してきており，地域生活様式が，それに対応して存在してきた。たとえば＜露路＞という空間には＜生活＞があったのである。形態的な解決だけでは，最早計画理論は前進し得ない。

高密居住形態への移行は，一方では，地域・建築の空間利用の共用化・社会化をおし進めることである。今日の住居は＜家族＞生活の容器であり，家族単位の住居という原則が確立している。しかし，すでに家族規模は縮少化しているし，別居生活形態が多くなるといった傾向が見られはじめ，家族単位のプラン・タイプは，必ずしも現実的でなくなっている。単身居住者は，今日でも大都市など多いが，将来ますます増大していくことが考え

られ，単身者の住居形態は，生活を社会化する方向で理論化されていくべきだと考える。また，今日の小住宅のプランは，食寝型から居間型へ転換しつつあるが，この方向は，空間的にはレクリエションを内部化する行き方であり，地域共同体の創造という観点に立つならば＜だんらん＞のあり方は，外部化していく方が，その豊かさは，より大きくなるのではなかろうか。そのどちらをとるかで，住居のプラン・タイプは全然異ったものになる。

＜コート・ハウス＞が都市住居の新しいタイプとして登場してきた。これは大都市の環境悪化に対処しようとする所に狙いがあり，その意図は評価されるべきであろうが，しかし，その計画姿勢は，個人住宅単位の＜生活防衛＞対策であるところに限界がありはしないか，今日の大都市の生活環境の悪化の克服を考えるとき，このような受動的な姿勢をとれる居住者層は限られており，その意味において，都市住居の主流とはなりえないと思われる。生活環境の革新は，住空間の社会化を軸とした集団的な住居形式の創造にかかっている。＜戸建て＞単位の計画方法は，現実的な力を持ち得ないだろう。このように観て来て，都市住居のプラン・タイプは，新たな理念で＜型系列＞を創られるべき時点に来ていると考える。

今後の都市の計画的観点として，今一つ付言しておかねばならぬ重要な点に，大都市交通をどう考えるかという問題がある。結論的にいって高密度居住形態を志向するなら，あくまでヒューマン・スケールの都市であらねばならないだろう。モータリゼイションは，文明史的に＜電車→自動車＞という形で正当化されようとしているが，その背後には＜電化製品→自動車＞という形の消費の拡大化を狙う体制的な要求があることをみないわけにはいかない。アメリカとは全く異ったわが国のような特殊な国土空間条件では，乗用車は door to door の効果的な用具となり得ず，大人の玩具となり下りはしないか。したがってマス・トランスポーテーションによる交通体系が，依然重要な地位を占めよう。しかし，従来の放射的な郊外鉄道による沿線開発にかわって，自足的な地域生活体の居住パターンを構想するとき，どのような＜大量交通＞体系を考えるかが，計画のあり方を大きく規定することになろう。

人間疎外論の克服

「人間性に基ずく都市計画！」というスローガンが漠然と，けれども根強くプランナーに存在している。それは現状の大都市の居住環境がきわめて非人間的であることへの批判であり，現在の都市発展に不可避的な公害の増大，都市生活の浪費的形態が，人間性をスポイルする点をついている。その限りでは，当然のことであるが，この主張には別の側面がある。

つまり，現代の＜機械＞文明の現われとしての都市形態が人間を疎外している面に対して，人間性を回復せよといういい方である。そのような観方からは当然，居住環境の高密化という方向づけに対して非難が存在する。しかし，ここで考えてみなければならないのは，疎外の本質は機械化，装置化に象徴される人工環境からの疎外ではなくて，そういう環境に対するかかわり合い方——すなわち，物質生活が疎外されているということにあろう。更に，つきつめていえば＜労働＞が疎外されることである。科学・技術の生活のとり入れ方には無限の可能性があり，資本の論理がそれを歪めることはあっても，本質的には，人間を非人間化するものではない。そういう観点から，科学・技術の成果を都市構築の中に，生活の仕組みの中に積極的に取り入れ，都市生活を変革していかねばならない。

今日の都市計画が突き当っている壁は，住宅問題，交通問題，公害問題などの個別の問題を，別々に臨床的に解決できない点にある。一つの問題の解決は，都市問題全体の解決を意味する。逆にいえば全体的解決のための唯一のテーマをいかに持ち得るかということである。そしてかりに，今日の都市問題がフィジカルに解決できないとしても依然として問題は残る。「豊かな生活とは何か」という点が。われわれのヴィジョンは，それに答えるものでなければならない。

鈴木式防火シヤタア
株式会社 鈴木シヤタア商会
大阪市北区茶屋町33 電話 (371) 41·51～6
北陸営業所 金沢市長田町119 電話 ㉑ 2287

未来の都市住居

坂倉準三建築研究所大阪事務所長
西沢文隆

人口は増加する

〝先を見通す〟という悪魔をパンドラの箱の中に閉じ込めることのできたことは人間にとってまことに幸せであった。未来に対する判断を下すためのデーターはつねに完全でない以上，予言はつねにはづれる。『人口は等比級数的に増え，食量は等差級数的にしか増えないから人類はやがて行きづまるだろう』というマルサスの予言もみごとはづれた。しかし世界の人口は今世紀に入って急に増大した。有史以来，今世紀の初めまでに14億になった人口が，現在ではすでに30億といわれ，4～50年で倍加すると言われるから，今世紀末には60億，21C末には240億，600年後には12兆2,880億～98兆3,040億ということになる。地球の可住面積は4,000万km^2といわれるから26C半では3.2m^2/1人～0.4m^2/1人というスリラー的数字がでてくる。現在，非可住と考えられる砂漠，氷雪地帯，高山，森林，両極，海湖などを入れた地球全面積は51,000万km^2であるから，これらの利用を考えればそのようなことにはなるまいし，人口増も計算通りにはゆくまい。コルビュジェのプラン・ボワザンが1,000人/haすなわち10m^2/1人であることを思えば恐るるにたりないと言えるかも知れない。それよりも先に人類は己の出す排泄物によって，窒息するかも知れないのである。ただ今の所，人類の文明は人間の増加とともに順調に加速度的発展を遂げつつある。原子エネルギーはまだ完全に使いこなされていないから，やがて問題の廃液までも使われるようになるだろう。太陽熱や地熱の利用も開発されよう。交通機関についてもどのような発達を示すか想像もつかない。

イカルスが意図したように，一人一人が羽を生やして飛び廻れる時代がこないとは言えない。そのようなことにでもなれば，住居形式は全く異るものにならざるを得ないだろう。しかし，今はそのような空想はやめよう。ＳＦ作家ではないのだから。今の私達にできることといえば，ここ10年～20年の未来にどう処置すべきかという程度のことではなかろうか。

世界的都市化――均質化へ

20Cは都市文明の時代だと言われる。人口は都市へ都市へと集中する。イギリスにおいては1961年度に80.8%が都市人口であるといわれる。西ドイツが71.1%，アメリカが64%。世界各国共，田舎の人口は減少の一途をたどり，都市では3～5%宛毎年人口が増加する。それほど増加せぬ所もあるから，多い都市では6～7%増と言うことになる。

そのように人口増をきたす都市の魅力とは一体何なのだろう。仕事がある。暇がもてる。遊べる。等々，いろいろ指摘されようが，最も人を魅きつける所のものは人が一杯集っているということにあるのではないか。雑踏の中で，大多数の中の無名の一人として，全く自由に泳ぎ廻ることができるし，何時誰にでも会うことができる。雑踏と混沌の中に身を泳がせ，己に合った職業を撰び，働き，緊張と刺戟と競争の渦巻く中から文明が進歩する。神は村を造り，人は都市を造ったと言われる。自然の中につつましく寄り添う村と，自然に背を向け混沌の火花を散らす社会生活との相違であり，人は本来神に反して都市を愛する性向を有するものであるらしい。明日の生活を目指して都市へ都市へと蝟集する人間。都市の中心は膨張した都市の圧力に窒息死するかといえば決してそんなことはない。その周辺を何とか切り開いて，自ら増殖する。中心部の周辺に住んでいた人々は住むに耐えなくなって，郊外へと分散して行く。都市は次第に働き，遊び，交歓するだけの機能に変って行く。過大都市の誤りが論じられ，都市の疎開が叫ばれ実行されても，終にはその疎開地をも含めたさらに過大な都市へと成長する。

都市はむしろいくらでも拡りうるものとして考え直さなければならぬという考えが支配し始めた。ニューヨーク―ボストンを一帯とするメガロポリス(Megalopolis)に対し，東京―名古屋―阪神を結ぶ東海道メガロポリスが話題に上る状況である。ドキシアデス（Doxiades）によれば，メガロポリスも次第に網目状に結ばれて，地球を覆いつくすエキユメノポリス（Ecumenopolis）の時代がやってくるだろうと言う。田園はこの網目の間に

島のように残るであろう——かって都市が田園の中に島のように存在していたように——というのである。

このような世界都市を想像するまでもなく，わが国では近い将来都市の網で覆いつくされるかも知れない。都市が田園へ拡散するだけではない。田園自身も都市化されて行く。オーストラリアではすでに多数の農民が都市に住み，周囲の田園へ自動車で通っているという。わが国でもプロパンと電化製品の発達によって，服装から食事に至るまでほとんど都市生活と変る所がない。かつて国のバイタリティは田園によって養われた。今はかつての意味の神に繋がる田園は存在しない。都市の混沌の中にこそ新しい神が見出さるべきであり，これからの推進力となるバイタリティもそこ自身で涵養さるべきであろう。そこにあるものは全世界的ユニバーサルな，均質な世界であり，人間はコスモポリタン化され，文化は均質へとむかう。生物のみエントロピー増大の原理に反しうるも，その生命をたたえた人間の社会そのものがエントロピー増大の原理にはまり込んで行きそうに見える。文明は均質化するだろう。少くとも文化は均質化させたくない。かつて人類の文化は異文化の衝突の火花から，不死鳥のように再生しつづけたのであった。

家庭の重要性

世界が均質の方向をたどるとき，その中でなお文化を護持しうるものは何か。民族的個性と個人的個性の二つだけではなかろうか。歴史的伝統とは過去の遺産そのものではなく，それが造られる過程で祖先が死斗の中で受止めた受止め方である。建築で言えば，過去の形態そのものではなく空間の把握法である。個人的個性のバックをなすものは家庭と社会である。人間が現実に生きている二つの世界ハレ（晴）とケ（褻）の空間であり，そこに人間が育ち発展する場である。人間が真にくつろげるのがハレの空間かケの空間かは別として，全く自分を解きほぐし，また自分一個人に立返るのは概ね家庭にあろう。戦後家族制度は崩壊し，よい意味でも悪い意味でも，家の伝統は消え去りつつある。家庭もそのまま放置すれば，やがて崩壊する危険をはらんでいると見る。『日常社会関係やその諸規則の中から〝永続性〟ということばを取り除いてしまうことを考える方が論理的であるように思われる。所有権，賃貸借，結婚等々は……短期契約になるだろう』というヨナ・フリードマンは冷静無比に物をみつめているだけである。

私達はなりゆきを冷静無比に見つめていてよいのだろうか。科学すらも個人の極端な個性が必然とされていることを忘却していないだろうか。社会もわれわれの手で築き上げて行くべきものであると同様，家庭も育て上げることが必要であり，家庭まで崩壊しないですんだことは人類にとって，まことに幸いなことであったと思う。

このように見るとき，それではこれからの家庭はいかなるものであるべきかというと，現在とあまり変りのないものと私は考える。家族制度の崩壊した現在では，夫婦とその子供達だけが家庭を構成する。父母はたとえ一人になっても別に自分の家庭を持つであろう。子供が小さい間は，家庭はまったく一体である。大きくなるにつれて次第に独立の存在となり，小型の社会生活が行われることになる。各人は（たとえ夫婦と言えどもなんらかの形で）自分一人になれる部屋が必要である。全く一人で己れに帰る時間が必要だからである。居間や食堂は家族が親しく団欒する場であり，家庭内のサロンである。世代の異ったもの，個性の異ったものがたがいに心をさらけ出し，ぶつかりあわせる場である。若いものはよって成長し，年上のものは若返る。家庭が眠りに帰るだけになりつつある現状は打破しなければならない。缶詰や科学食品が家庭の厨房へ大きくのさばってきても，新鮮な食事の味いは人間の生きがいとして珍重されるべく，料理することは楽しみとして生き残るであろう。ホテルの代用としての客間は住いから消え去るし，住いを楽しくする設備環境の進歩によって，各室の面積のバランスは変るかも知れないが，その他の部屋はみな生き残るものと考えられる。

多層住居の必然性とその構造

都市の都市たる所以は人間の密集にある限り，拡散された都市形態というものは考えられない。一寸出れば繁華街に身を没することができ，しかも，太陽と緑に恵れようと思えば，高層アパート形式が都市の住居形態として最も適していることは論をまたない。ただ，現在のアパートは欧米のも含めて，本当に十分に住めるだけの空間が与えられていないから，たとえバラックでもよい，独立住居こそ理想形態であると思わせるのである。マルセィユのユニテ・ダビタシオンのように，不完全ながらショッピングから，ホテル，幼稚園にいたるまで完備した一近隣住区をピロティの上に高くかかげてみても，依然としてアパートであって，一戸建住居の集合とは言い難い。もっと太陽と緑に恵れたいという人間の欲求があるはずである。一戸建が快適さを十分に採り入れながら，しかも都市的な生活空間を造り出したいという意欲がきつくあらわれ出したのは，まだ最近のことである。少くとも多層住居にした方が，より密度高く住みながら太陽の恩恵にも浴し，設備の共同化が進めばより経済的により快適に住むことができるし，アプローチのためのスペースもかなり節約できるはずである。

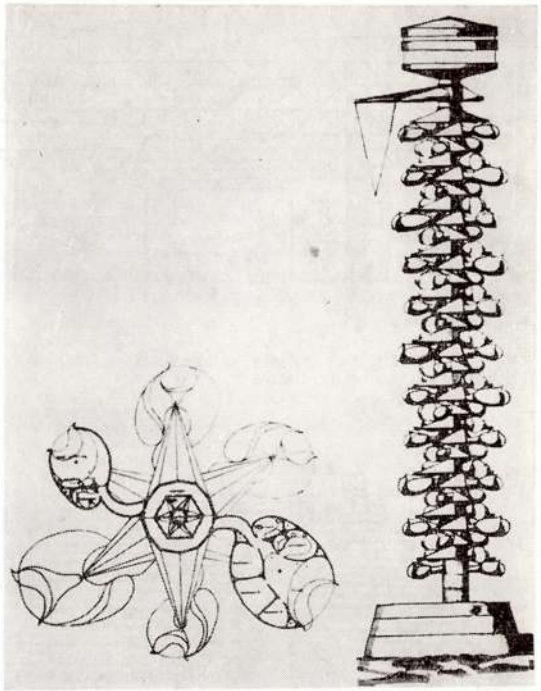
多層住居への試みはいろいろと試案が出されている。

今迄は都市自体が2次元的であった。地面のみがアプローチの面であった。都市では，地下，1階，2階と人と車のアプローチを階によって分け初めた。車も2層，3層と多層的になる。こうなってこそ立体都市と呼びうるのである。住居ももちろん，その意味で立体化されるだろう。マルセィユのユニテの3階置きに適される廊下は第8の道と呼ばれたけれども，それは完全に外界から遮断された道であり，むしろ中廊下と呼ぶにふさわしい空間である。道は外光と雨風に曝されるものでありたい。これからの道はもっと建物と密接に多層にからみ合うものとなろう。今迄の道路が下に諸設備の導管を秘めていた（わが都市にはそれさえ缺如したものが多い――）ように，垂直に水平にと走る道路は，設備動脈を内包するものとなろう。――動脈としての道路の役割を不用にするような，自律的なユニットが発明されるまでは（すでにジェネラル・エレクトリックス社が発表した自律的な家では，太陽電池による冷暖房，給湯，無線電話，ゴミは気化焼却により，給排水設備を除いては，全く都市から独立しうる体のものであるという）。またエアー・クッションによる交通が発達してくれば，道路さへ不要になるかも知れないというSF的構想もあるが，蝶々のように窓から窓へ人々が飛ぶようになれば，住いのプライバシーは危機に曝され，ブリューゲルの天使墜落の絵のように，狂気と混乱の世界が訪れるかも知れない。道は秩序を与え，詩を与えてくれる。未来の世界にも秩序は必要であるから道路はぜひ存続させたい。

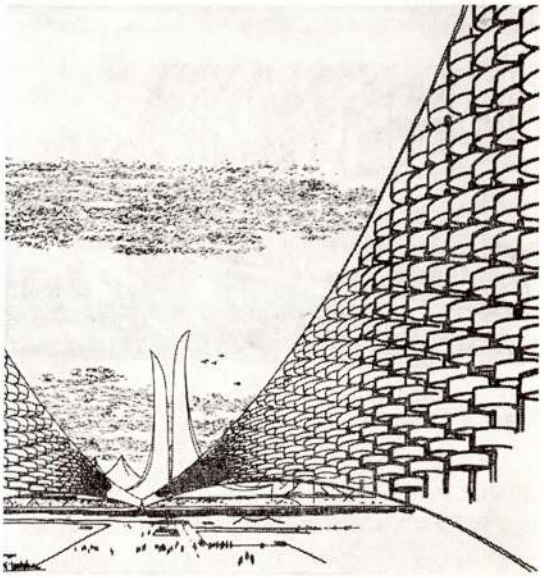
未来への夢を盛った色々の提案

道路を構造体として多層住居を組立てようという考えは，すべての未来の住居提案の根本をなしている。アーサー・クワンビーのクラスター・ブロックと名づけられる摩天楼はコンクリートの構造柱を軸として，プラスチックの三つの異ったタイプのユニットを螺旋状に引掛けて行ったものであり，菊竹氏の海上都市案（1959）はコンクリートシリンダーの表面に8タイプの鉄製シリンダー状の可動住居を吊込んだもの，同氏の可動ブロック案ではHPのコンクリート製船にマストを立て，それに帆を張るように垂直のステンレスパイプの網を掛け，そこにできる三角面にソロバン玉を差し込むようにして可動住居をはめ込んで行くもの，黒川氏の垂直壁都市では壁の両側にヤジロベー式に一方に住居空間，他方に労働空間をしつらえて，人は壁を通って二つの空間を通う仕掛けになっている。

これら明快なプロジエは発案者自身もそのまま実現しようとは考えていないように見える。そこに住む住人は宇宙感覚は満喫できてもおよそ人間的でない。人間的生活は，地上で遠いリクリェーション地に求めればよいと



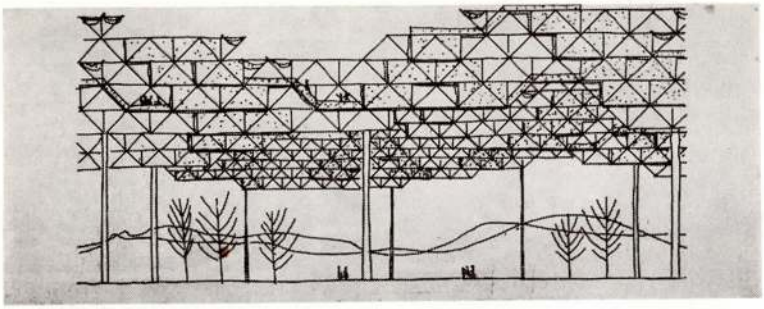
クラスター・ブロック案　アーサー・クワンビー
導管をなすコンクリート柱に3種類のプラスチック製住居ユニットを螺旋状にぶら下げていく。移転するときはユニットごと引越そうという。



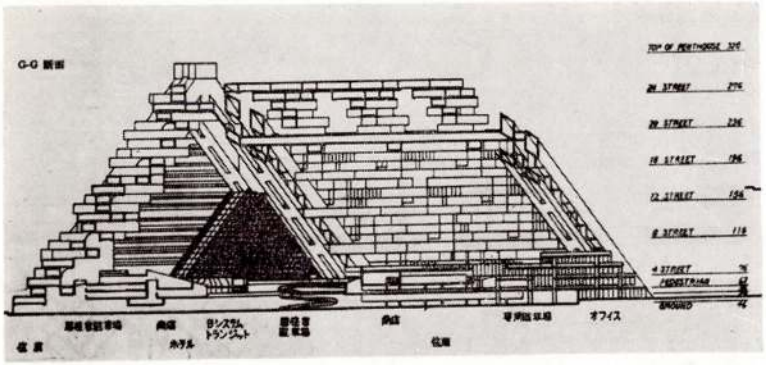
ムーバブル・ブロック案（1959）菊竹清訓
住居ユニットはソロバン玉のように，竪のパイプに取付けられる。鉄板製の外皮をもつ8種の住居単位。各々は着色されて魚の鱗のごとく輝く。

いうことらしい。

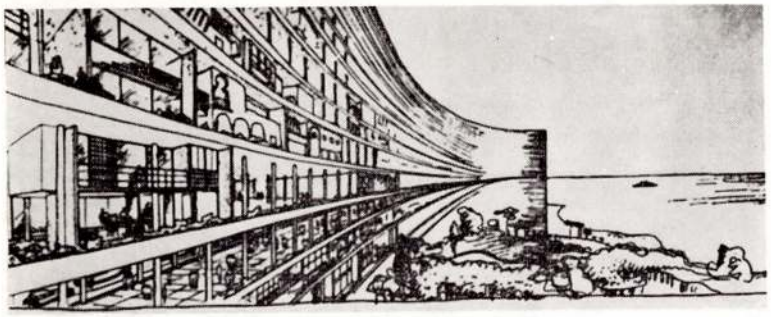
構造体をなす柱や壁を人工台地として住居単位をぶら下げて行こうという案に対し，構造架構体を与えて，そこへ住居を挿入しようという案がある。ヨナ・フリードマン（Yona Friedman）の架橋都市（La Ville Pont）や空間都市（La Ville Spatiale）では，地上15M以



空間都市案　ヨナ・フリードマン
5m立方ユニットのスペースフレーム。この間に都市をはめこんでいくというのだが。住居空間も解放された大地も陰鬱なものになりそうである。



Habitat '67　モッシュ・サフディ，ダヴィッド，パロット，ブールヴァ
変化ある住居の凹凸する組合せ。各々が緑のテレスをもち，風も吹き通る。



アルジェの都市案　ル・コルビュジェ
架構体のなかに各自好みの家を。

上の所にスペース・フレームを組み，非常に間隔を広くとって，アット・ランダムに建てた導管のピロティによってこれを支へ，この架構体の中へ道路と建築物を組み込んで行こうという。海洋を渡り，古い都市の上空に高々と支えられた空中都市である。5m×5m×5mというフレームのユニットは小さすぎないか。恐らく完全にただ一人で住むことが考えられているようである。これを6層に架構した中で適当に空隙部分を残して，大地にまで十分太陽をとどかせようというのであるが，果してそのようにしようと思えば，デッサンで見るように案外つまらぬ空間になってしまいそうである。

ワルター・ヨナス（Walter Jonas）は〝漏斗〟案を出した。漏斗状の架構体の外側を自動車交通の動線とし，その内面の階段状部分に，住居空間をはめ込んで行こうとするものである。ここでは，各住戸はツバメの巣のように段状の棚にひっかかる。それぞれはU字型をなしていて中庭を抱くものである。ユニットは10m×10m，高さ3mというから一応住いうるスペースと見てよい。漏斗一ケ当り720戸，2,000人これを6個四角に連ねて1万2,000の都市が想定されている。

これがあまりにも原型的であるのを嫌って，リオネール・ミラボー（Lionel Mirabaud）とクロード・パラン（Claude Parent）が漏斗を6等分し，一つ置きに抜きとって，高さを変え花弁のような案を造った。ここでは人は地平線を遙かに望むことができる開放された空間の中に生きられる。そのかわり前者が自動車の騒音から隔離された全くの別天地に住えたのに対し，音は直接住居へはね返ってくる。このため，車を地下へもぐり込ませようというのである。アプローチは平面的になって都市空間としては逆向であろう。

ポール・メーモン（Paul Maymont）の空中都市は直径20mの中空中央支柱の頂上から巨大なPSコンクリートのケーブルを円錐形に張り渡し，このケーブルをたよりに，交通，広場，住居，商店街劇場などを，これに吊り下げようというものであるが，形に魅力がないし，スラブをどのように取付けて行くのかも定かでない。

Habitat' 67

モントリオール博のモニュマンである Habitat '67 は，立体骨組に支えられた住居群である。水平に対して60°をなし，たがいに支え合う大架構体はエレヴェーター，階段および設備の主動線であり，水平力を支えるこの斜の菱形面にFCコンクリート製の住居単位を凸凹よ

ろしく積み上げて行く。住居単位は水密コンクリートで打たれ，屋根は防水を施され，それ自身も構造体として垂直力を受ける。各戸および背後に4層置きに通るブリッヂ・ストリート（その下に設備導管が水平に走り，それ自身は強いケーブルで，ポスト・テンションがかけられている）は大架構とテンションをかけて緊結している。ここでは各種のタイプの住居型をうまく組合せて，各階ではみ出した屋根がそれぞれ上階の緑のテレスとなる。しかも，この菱型面は住戸で全くふさがれることなく，風と太陽が吹抜けうるスペースを心細かく配置させている。ガレーヂ，娯楽場，商店，ホテルなど近隣住区として必要な施設はすべて大架構の下の空間に納められる。

この住居群は夢ではなく'67 Montreal 博には，この地上にまさに実現するのだ。それはバビロンのハンギング・ガーデンを想起させるほどの快いものである。'67に実現させるものとしては，このように隅々まで建築家の手で処理されることが最も現実的であろう。ただこれからの住空間の造り方として，このように，各住居単位自身が構造体となって組み込まれてしまう所に疑問を感じる。建築家が架構する部分と，住む人自身，造るなりまた建築家の手助けを借りるとしても，住む人が自分の好みを自由に表現できるような余地を残すべきではないだろうか。

人工敷地

そこで最も現実的で明日にでも建設可能なものとして，大架構体に支えられたスラブ——人工敷地を提供することにしてはどうだろうかと言うことである。大架構は水平，垂直の道として，また当分は設備導線のためのスペースとして考えて置く必要があろう。あらゆる住宅供給組織はこのような人工敷地を造ればよい。この考えは，すでに1930年にコルビュジェがアルジェの都市計画案で画いて見せてくれた。万里の長城のように大きくカーブしてうねる壮大な建築，その中央階に車道が建築の全長にわたって走っており，この道は海に突出した事務所街の屋上へと通じている。各階は二層分の高さがあって，大きい手摺によりファサードを支配せしめている。住居者は自分の好みに応じて自分の家を架構していけばよい。

アルジェではサラマン風の家を好む人もあろうかと，ユーモアをまじえてサラマン建築を画いている。アルジェのように太陽の強烈な所では，このように造っても問題はあるまいが，わが国のようなしっとりとした風土の所ではもっとデリケートな神経が必要であろう。少くとも Habitat '67 に示されたようなデリケートでエアリー（airy）な空間が与えられる必要があろう。

そのためには人工敷地もこのように単純明快であってはなるまい。その中で何をされても全体が住居群として健全に生きるためには，太陽と風と雨を十分考慮して，階高の高い所や吹抜などを造り十二分に自然の恩恵を受けうるだけの敷地としておかなければならぬ。この人工敷地には，空地率に対する厳重な規則も必要であるし，土地が細分化されぬような非分割規定も必要である。

各人好みの家を造ると言っても，藁屋根の家もあればプラスチックの家もあるというのでは，あまり好ましい家庭にならぬであろう。そこにはなんらかのシステムが必要である。かつて木と土と草屋根で架構されたわが国の村落は美くしいものであった。弁柄塗の軸部と土壁と瓦屋根でできた京の町屋もこよなく美くしいものであった。それは材料の統一と構造システムの一貫があったからである。新らしく生れでる集合住宅は立体的な美くしい村でなければならない。人はプレファブ化された安くて性能の優れた部品によって，その好みに合った住居を人工敷地に組込むことになろうが，その各部材はすべて自然材料に優るとも劣らぬものでなければなるまい。現在の自動車が売出されているように定った型のものではなく，部品を買ってきて，自分の好みの自動車を組立てることができたらどんなにか楽しいだろうように，プレファブ材料は，組立可能な部品として売出されるべきである。さらにこの二次的架構によりファサードを乱れぬだけのものを建築家の一次架構に持たせる必要がある。

私のコート・ハウスへの試みも立体敷地においてこそ生きるべきである。ここで志すものは，Habitat '67に示されるような西欧式ないし潜函式の住居ではなく，上下スラブの間に挟まれた airy な，プライバシィのある住居形態である。そこに緑と風はちりばめられるであろう。都市の中に緑を導入することは私の念願である。それは都市を田園化さすためではなく，都市の人間の生活をうるおいのあるものとするためである。緑は遠く眺めるものではなく，直に皮膚に感じるものでなければならない。しかしその緑は生気あふれる自然ではなく，人間に馴化された自然と考える。

人間に馴化されない自然に接するためには，そのために残した原野へ出て行くがよい。今述べた都市住居自身もあくまで都市化された住居である。人間の体内に渦巻く原始的情感を満足させることはないであろう。人間が人間たるためには，この原始的情感も失ってはならない。余暇を利用したヴィラが成立しうる所以である。

住宅の建設資金

大阪府建築部　大橋孝則

1. 住宅建設資金の条件

わが国の住宅事情はまだ不安定で深刻な住宅難に悩んでいる人々が多く，そのため政府は現在新住宅建設5カ年計画を策定中であり，5カ年間に760万戸の住宅建設を行なうことによって一世帯一住宅を適切な形で実現することを目標にしておりますが，それには莫大な資金を必要とし，政府施策住宅340万戸の建設費だけで6兆4千億円といわれています。

住宅建設を進めるためには大量の資金を必要としますが，どのような性質の資金でもよいというわけではありません。手元に遊んでいる資金で建設するのは，むしろ例外的で公的住宅であれ，民間住宅であれ，大部分は借入金で建設することになるでしょう。そのためには持家であれば償還可能の条件の資金でなければなりませんし，貸家の場合には家賃収入と見合って経営採算のとれるような条件の資金でなければなりません。個人が持家を建てる場合を考えますと，大多数の人々にとってそれは一生一度の大金の投資ということになりましょう。したがってこれを返済するためには短期間では無理で，借主としてはできるだけ長期かつ低利の償還条件のものがよいわけです。ところが，資金の貸主としては，できるだけ短期で好利廻りの条件を歓迎しますから住宅資金というものはなかなか調達しにくいということになりましょう。この点日本は諸外国に比べて高利ですから住宅建設資金の調達は一層困難となっています。更に住宅は持家はもちろんのこと，現在では貸家であってもそれほど利潤を目的とした投資の対象にはなりにくい状況です。ここにも資金調達の難かしさがあります。

2. 政府施策住宅の資金

住宅建設を促進するためには，大量の資金を低利かつ長期償還の条件で投資する必要があり，わが国の住宅政策も大体この線に沿って進められています。公営住宅についてみますと，国の補助金が第1種住宅で½第2種住宅で⅔出ますから（実際にはややこれより低い），建設を行なう市町村からみると，1種で年利3%，2種で2%で償還期間20年（木造）～70年（耐火）の資金を使えることになります。公庫住宅の貸付金利はおおむね5.5%ですが，緊急性の薄いものではこれより高利となり，償還期間は個人住宅で18～50年となっています。公団住宅は賃貸住宅で4.1%，70年償還，分譲住宅で7.5%，20年償還となっております。このほか厚生年金住宅をはじめいろいろありますが，何れも低利かつ長期の資金となっています。また，以上によってみましても，賃貸住宅と分譲住宅（持家）を比較してみますと，賃貸住宅の方が遙かに優遇されていることが分ります。これは，賃貸住宅階層が低所得の勤労階層を対象としていることと，入居者の流動性を考慮しているからで，賃貸住宅の方がより社会資本的性質を強く持っているからです。このように政府施策住宅は，低利を目的としていますが，標準建設費が安くおさえられているため名目資金コストと実質資金コストとの間に差違があるため，賃貸住宅では家賃高を招き問題点となっています。

3. 民間住宅の資金

純然たる民間の住宅資金融資としては，金融機関による種々の融資がありますが，大別して3種類位にわけられ，第一にインスタントローン的なもので耐久消費材の購入や増改築の費用を貸付けるもので，銀行に一定の預金があるか，確実に返済できる収入のある人に対して貸付けるもの。第二に積立方式によるもので毎月一定額の積立てを行なった人に対して建設費の不足分を貸付けるもの。第三に建売業者と提携するもので，提携プレハブ住宅会社などの住宅を購入する人に対し，購入資金の一部を貸付けるものがあります。返済方法は金融機関により，また融資の種類によって異なりますが，償還期間は最高8年程度で，政府施策住宅に比べると，きわめて短期といえます。

次に金利ですが，大体年利10%前後とみてよいでしょう。中にはアドオン方式で年6%と称しているものがありますが，これは利息を先取りするもので，実質的には年利1割を超えています。このほか，民間の住宅融資として各企業が従業員に対して融資する制度をとっている所がありますが，これらは最近の企業における持家政策えの転換を反映して借主に対してかなり好条件となっており，なかには住宅資金を積立てさせ，これに高金利の預金利息をつけて持家を奨励しているものもあります。

× × ×

以上を総括しますと，諸外国では市中金利が安いため政府施策によらなくてもかなりの住宅建設が適正に行なわれておりますが，わが国においてはこの点で民間住宅の伸びがゆがめられ，量は建っても質が無視される危険をはらんでいるといえましょう。

「住宅よろず相談展」を開催して

住宅委員会

1

経済の成長にともなう産業と人口の都市集中による住宅需要の大都市への著しい偏在，近年における家族の細分化傾向による住宅需要単位の絶対数の急激な増大，生活水準の上昇と生活意識の変化にともなう住生活の改善向上への欲求の高まり，一向に留まることのない地価の高騰による宅地取得難と，そのためによる都市周辺農地の急速な宅地化によっておこる住環境の悪化など，最近における住宅の問題は，つぎつぎと新しい局面をみせている。

われわれ住宅委員会は，これらの問題の解決にいささかでも寄与するための具体的な方法について，一両年来，月例委員会においていつも議題としてとりあげてきた。しかし，直接建築にたずさわる人々を会員とする協会であるために，却って困難な条件も伏在して，方法の実現をはばまれてきた。

協会の使命が，「近代的ビル」や「モダン住宅」の建築を通じて社会に貢献する以外に，一般庶民住宅の改善向上に直接役立つこともまた，「建築と社会」なる会誌名に象徴せられているように，社会との連繋を高め，社会に貢献する協会のひとつの大きい目的である，との考から委員全員の熱意が凝結して，昭和39年夏，阪神百貨店の一室を借り受け，住宅に関してあらゆる悩みをもつ人々のための住宅相談所を開設し，住まいについての百般の問題について専門的な相談に応じた。

幸に，２日間の短い期間ではあったが，両日とも満員の盛況で予想外の好評を受けることができた。

昭和40年度に入って，前年より住宅委員を留任した海上委員長・委員の諸氏を中心として，引き続いて，住宅相談所の開設を計画していた年度始めの５月頃，たまたま前年の実績を知る会場先の阪神百貨店から，黒谷副委員長を通じて，８階ホールの無償提供とともに，住宅相談を中軸とした住宅展覧会の開催の依頼を申入れてきた。委員会では，この申入れについて種々検討し，数次にわたる阪神百貨店との交渉の結果，７月８日より６日間８階ホールにおいて「よろず住宅相談展」の名称のもとに，住宅相談所を中核とした住宅展を開催することに決定した。

それから，開催予定の７月８日までの約２カ月間，会場の構成，展示の作成，協力業者との交渉，弁護士会・公共住宅建設機関への協力要請など，委員諸氏の連日の会合と奔走によって，予定通り７月９日阪神百貨店８階ホールにおいて，出席の東畑会長ならびに海上委員長の手により開会式のテープを切り，５日間（中元売出し期間中の休日の代替として８日を臨時休業することに決定したことによる）の「住宅よろず相談展」を開催した。

2

会場構成は，図のごとく，円卓式の「住宅相談所」をセンターにして，その周囲に新建材・住宅設備・プレファブ住宅・分譲住宅などの展示とコーナー，千里ニュータウンなどにおける新しい集団住宅の紹介パネルなどをレイ・アウトした。

会期中，入場者は連日満員できわめて好評であり，とくに，われわれの意図した住まいに困っている人々に対して，あらゆる相談を受ける「よろず住宅相談所」に対する相談利用者数は，別表に示したごとく1,437名，相談件数1,722件に達し，きわめて盛況であった。

相談利用者は，神戸・京都など他府県在住者もかなり多く，また比較的社会的地位の安定したと思われる30代・40代の年令層のホワイトカラーの人々がめだって多く，その相談内容もきわめて具体的で，真面目なものであった。

女性が約23パーセントもあり，主婦が10パーセントを占めているごとく，若い主婦や婚約中の女性の相談者も相当多く，生活意識の変化による住生活改善への意欲の意外に高いことを感ぜられた。

相談利用者の一般的な特徴点をあげれば，普通の住宅展に付設された住宅相談所の利用者と異なり，とくに相談所を利用するために来場したと思われる人が大半であり，相談についてきわめて真剣であることである。例えば，新築の計画のある場合は，必ず図面を持参して，専門的なアドバイスを要求するとか，分譲住宅購入希望の場合は，平面図はもちろん地理的条件などの資料もそろえ，雨天や夜間にも現地を調査した上でのアドバイスを求めるとか，すべての項目に共通的に質問の内容がきわめて具体的であることである。

なかには，相談の結果を家族と相談して，さらに翌日には家族揃って相談にくる人，相談内容に対してアドバイスを与えられた結果，さらに

表1　1日別相談利用者数

	第1日 7月9日(金曜)	第2日 7月10日(土曜)	第3日 7月11日(日曜)	第4日 7月12日(月曜)	第5日 7月13日(火曜)	合計
相談者実数	255人	329人	367人	227人	259人	1,437人
同割合	17.7%	22.9%	25.5%	15.8%	18.1%	100.0%

表2　相談利用者現住所別

地域別	実数	百分比
大阪市内	526	37.0%
府下	643	44.5
他府県	268	18.5
計	1,437	100.0

表3　相談利用者の職業別

職業別	実数	百分比
公務員	81	6.1%
会社員	656	45.7
自由業	29	2.1
自営業主	126	8.8
無職	73	5.0
主婦	142	9.9
その他	24	1.6
不詳	298	20.8
計	1,437	100.0

表4　相談利用者の男女別

男	1,090	76.5%
女	347	23.5
計	1,437	100.0

表5　相談利用者の年令階層別

20才代	195	13.5%
30〃	502	34.9
40〃	355	24.6
50〃	254	17.9
60才以上	91	6.3
不詳	40	2.8
計	1,437	100.0

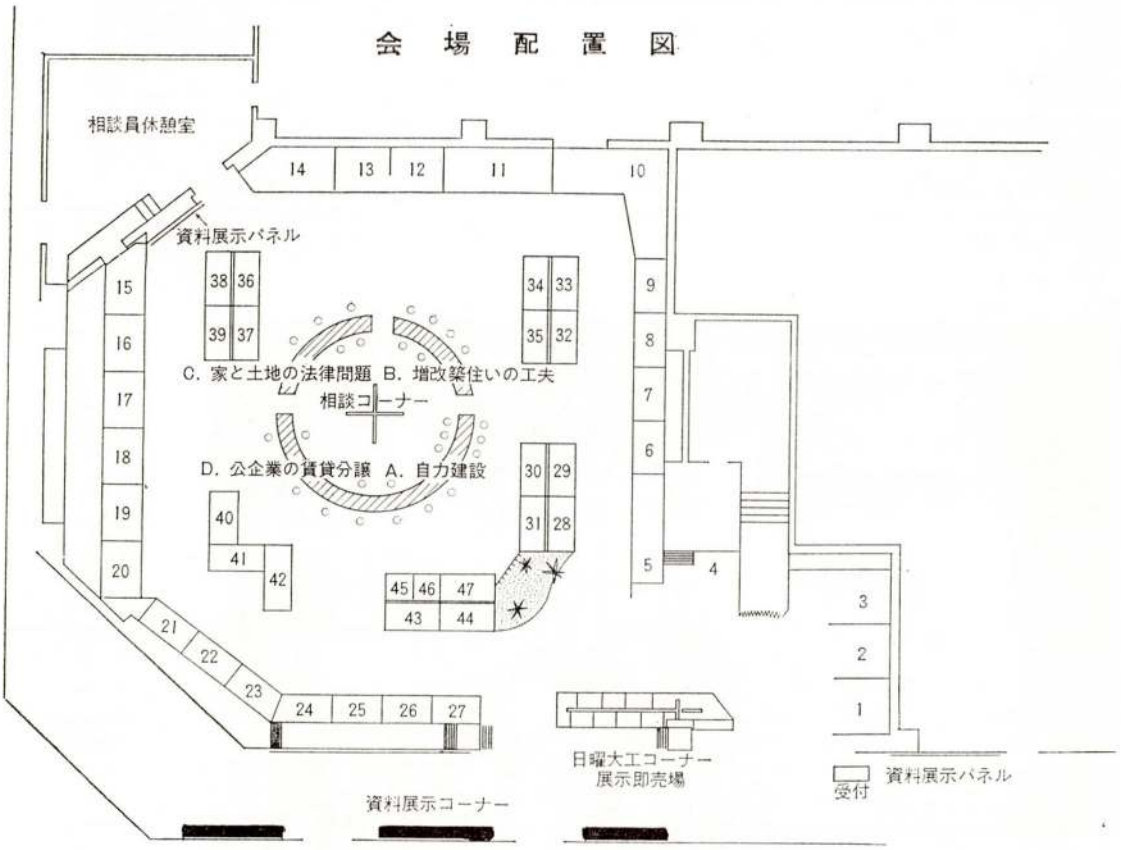
表6　周知方法別周知割合

ポスターで	新聞	ラジオ	人から聞く	その他	計
40(42.0%)	42(43.6%)	—	4 (4.2%)	10(10.2%)	96(100.0%)

表7　項目別相談利用件数

政府施策の賃貸・分譲住宅，民間分譲住宅などに関するもの			自己建設に関するもの			保全・改築などに関するもの		
項目別	件数	百分比	項目別	件数	百分比	項目別	件数	百比分
府，市営・公団・協会などの賃貸住宅	183	10.6%	設計に関するもの	109	6.3%	住宅保全	15	0.9%
府営・公団・協会などの分譲住宅	76	4.5	建築基準法関係	101	5.9	増築	88	5.1
民間分譲住宅	13	0.7	構造・材料	75	4.3	改築	61	3.5
分譲宅地に関するもの	119	6.8	建設費	104	6.1	模様替	16	0.9
住宅金融公庫関係	271	15.6	工事に関するもの	22	1.3	台所一般	3	0.2
その他	128	7.4	立地条件などに関するもの	22	1.3	住い方	10	0.6
小計	790	45.6%	公租公課	87	5.1	防災	6	0.4
一般法律に関する事項(不動産登記に関するものを含む)	135	8.0	プレファブ関係	25	1.4	設備管理	18	1.1
			その他	19	1.1	その他	16	0.9
小計	135	8.0%	小計	564	32.8	小計	233	13.6
			合計	1,722件		(100.0%)		

(注) 民間分譲住宅会社およびプレファブ住宅会社は相談所以外に展示コーナーを設けたため，民間分譲住宅・プレファブ住宅に関する相談件数は少ない。



新しい相談項目をもって翌日来場してくるといった人もかなりあったようである。

また，住まいに関する種々の法律関係（建築基準法以外）の相談利用者も意外に多く，賛助協力を賜わった弁護士会関係の相談員の方に大いに感謝するとともに，住まいに関する問題領域のひろさを痛感したものである。

さらにまた，住まいに関するあらゆる問題についてのガイド・ブックとして，小冊子「住まいの手引」を出版委員会の協力を得て，野々村副委員長を編集委員長として委員諸氏の執筆によって，「よろず住宅相談展」と抱き合って発行，会場において頒売，多大の好評を得た。

3

以上のごとく，「よろず相談住宅展」は，新しい住まいに関する種々の啓蒙活動はもちろん，委員会の当初からの目的であった住宅に困窮している人，住宅に関する種々のなやみをもつ人々にとって，少なからず役立つことができたものと確信している。

新聞（昭和40年９月９日付朝日・産経などの各紙）の報ずるところによれば，政府当局は，住まいに関するあらゆる相談に応ずるために「住宅よろず相談所」（産経新聞による）を昭和41年より各都度道府県，大都市などの各地方公共団体に開設するための予算措置を行なったとのことである。

われわれの生活の基地ともいうべき住まいは食や衣とちがって，それはあまりに多方面の知識が必要である。ここに住居が食や衣に比べて一番進歩がおくれる原因の一つがある。住まいに関するよろず相談所の必要性をかねがね痛感してきたわれわれは，国による「住宅よろず相談所」の開設が単なる新聞報道に終ることなく，一日もはやく実現することを祈って擱筆する次第である。

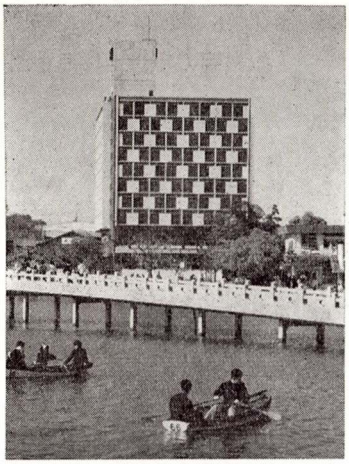
（野々村記）

1. 福岡市大濠市街地住宅

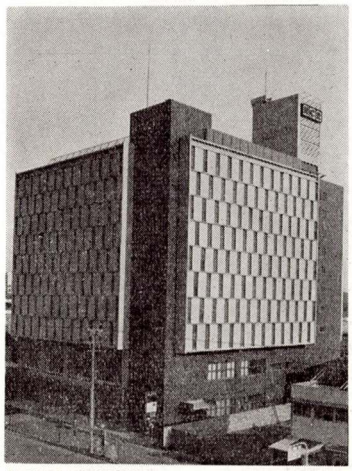
・建　設　地　福岡市大濠公園2区41番
・地域地区　住居，準防火
・敷地面積　1,242.19㎡
・建物規模　鉄筋コンクリート造　地下1階 地上10階建
　施設　地下1階～地上2階　1,786.04㎡
　住宅　地上3階～10階　5,155.82㎡
　延　6,941.86㎡
・工　　期　昭和39年2月～昭和40年3月
・施設譲受人　福岡市大濠公園2区41番　安部辰五郎
・設 計 者　福岡市上餌町10　岡田的場設計事務所
・施設利用　貸事務所
・入 居 者　ナショナル金銭登録(株)，一部病院，洋裁学院
・工 事 費　施設　87,198,840円　住宅　148,171,290円　計　235,370,130円
・施工業者　建築(株)大林組　管　三晃商会　電気(株)平和電興社　空調　三晃商会



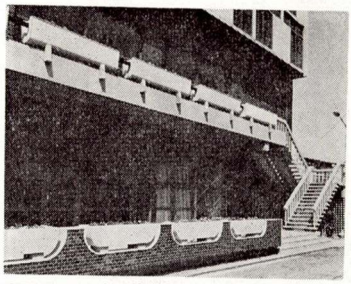
南面および西面外観



南　面

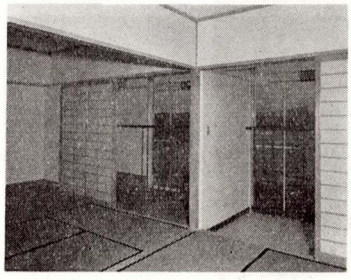


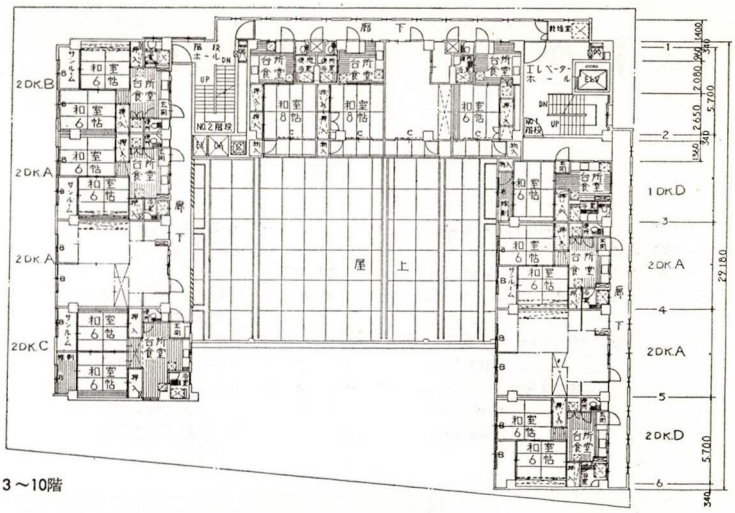
北面および西面外観



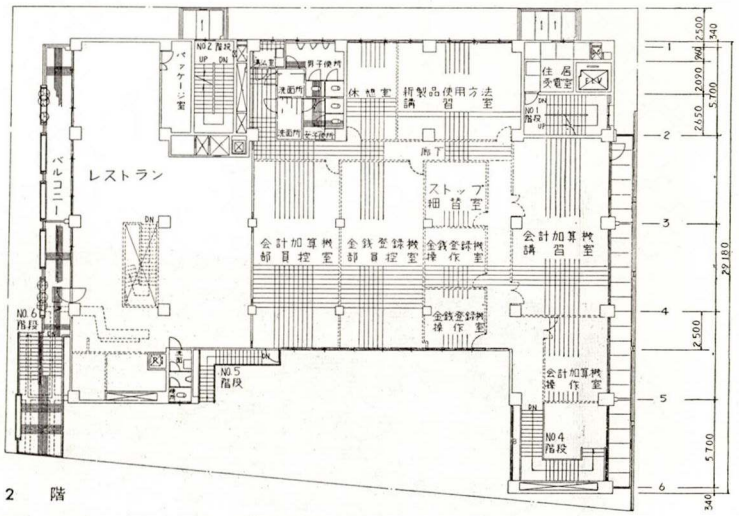
南面テラスおよび外部階段

南棟・２ＤＫ和室

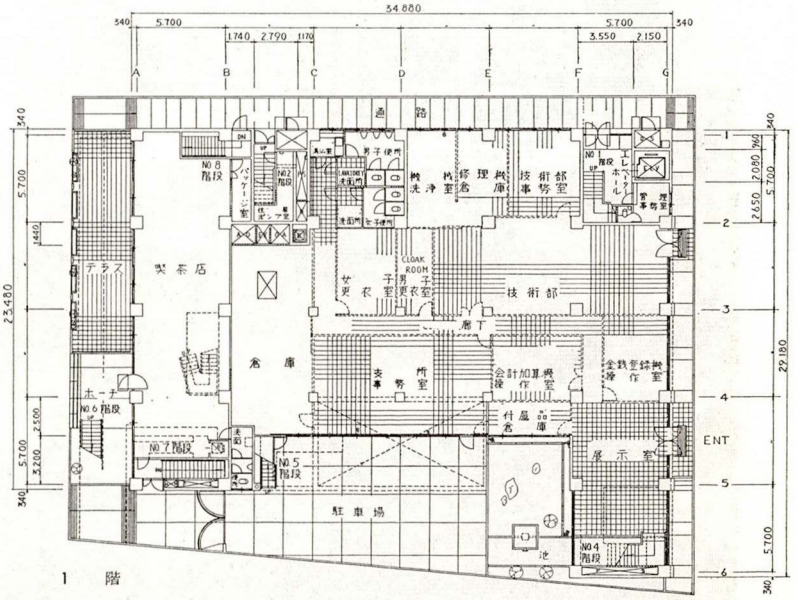




3～10階



2　階



1　階

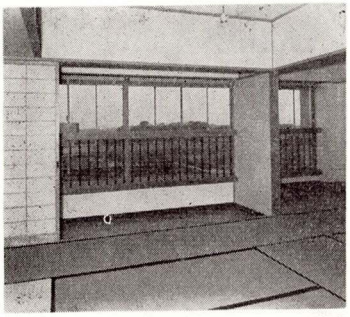
2. 福岡市大名市街地住宅

・建　設　地　福岡市大名町172—3
・地域地区　商業，準防火
・敷地面積　1,400.24㎡
・建物規模　鉄筋コンクリート造
地下1階　地上9階建
施設　地下1階～地上2階
3,010.99㎡
住宅　地上3階～9階
4,355.14㎡
計　7,366.13㎡

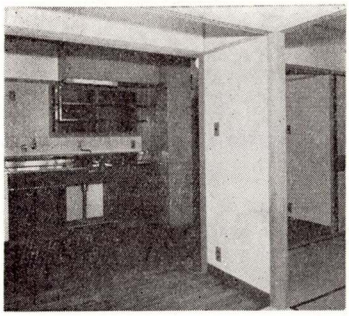
・工　　期　昭和39年3月～昭和40年5月末
・施設譲受人　寿不動産(株)
・施設利用　自家使用　地下車庫
1階PR室，倉庫，
2階事務所
・設　計　者　安井建築設計事務所
・工　事　費　施設 123,898,230円
住宅 120,424,510円
計 244,322,740円

・施工業者　建築　(株)大林組
管　(株)大橋商会
電気　大阪電気暖房(株)
空調　朝日工業社



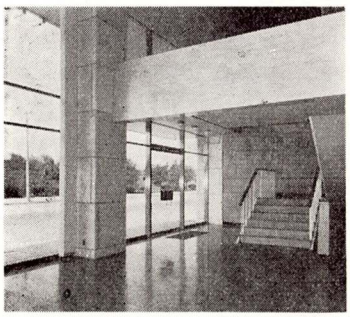


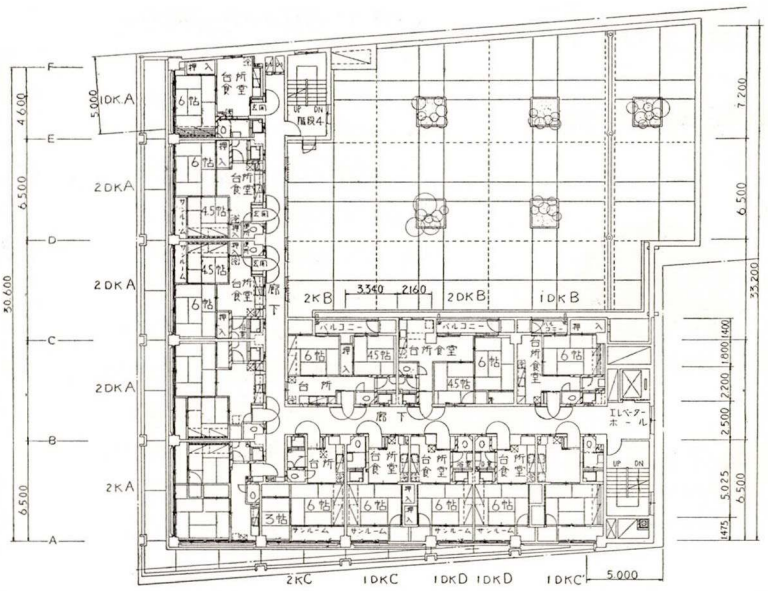
2KC



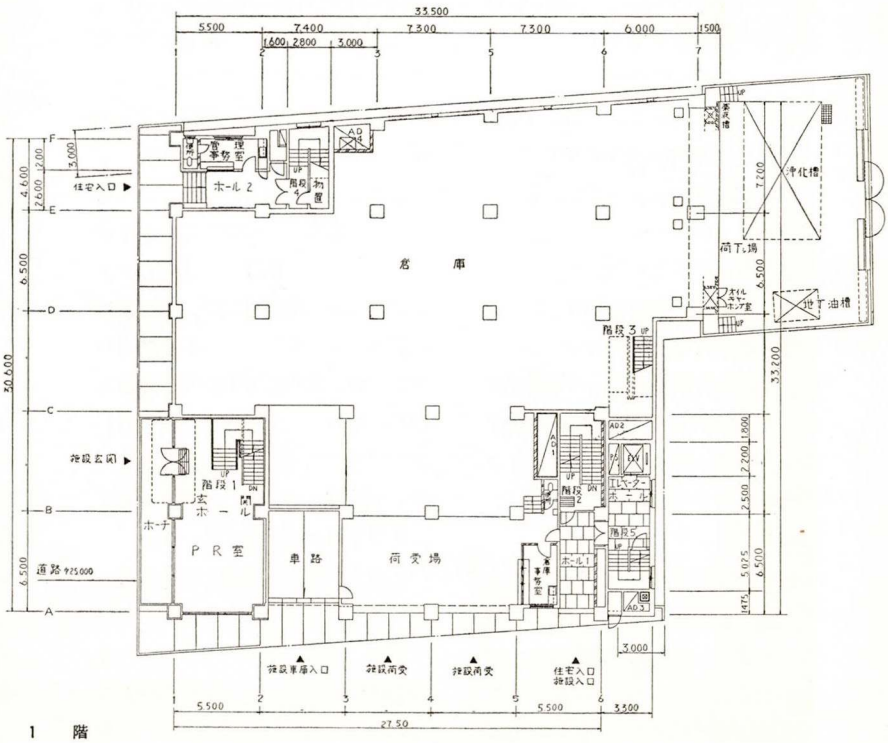
2DK—A

サントリー玄関





3～9階



1　階

第10回
火災報知機工



友田正太郎 氏（41才）
（東京火災報知機KK）

火災報知設備は戦前は主として文化財および顕著な建物の保護のためにのみ設けられていたが，戦後は都市復興と建物の近代化につれて広く設けられるようになった。特に昭和36年4月1日より消防法の改正に伴なって設置が義務づけされたものである。したがって最近のビルその他の建物には，比較的小規模なもの（たとえば事務所建築においては1,000^{2}m以下）を除いては，すべて設けられているものである。

そもそも火災報知設備には火災の早期発見とその報知を目的としたもので次の三種類がある。

①自動火災報知設備……自動的に火災の発生を知らせるもので感知器，発信機，受信機よりなる。感知器には分布型（空気管式など），スポット型とがある。

②消防通報設備……手動により火災の発生を消防機関に報知させるもので発信機，受信機で構成されている。

③公設報知設備……上記の消防通知設備を市町村が公共の用に供するものである。

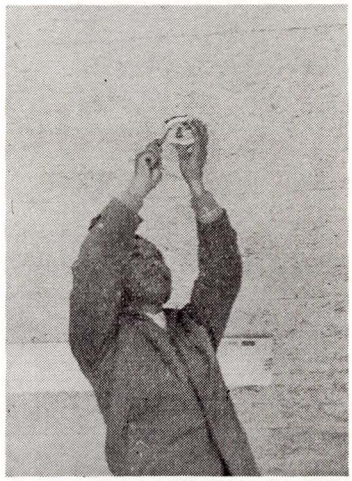
ここに紹介する友田正太郎氏は，報知設備を日本で最も手広く行なっている会社の一つである東京火災報知機株式会社の代表的技能工である。氏はこの種の設備が非常に少なかった昭和25年より，この仕事を専門に手がけている人である。作業内容は電気工事とよくにていて，配管，入線，空気管配管，機器取付，テスト，消防検査立会などのことを行なう。この作業は末端作業であって建築の仕上工事との関係に困難な問題が起りがちである。一般に広く使用されるものは，自動火災報知のうち，分布型感知機を用いる空気管式のもので，この場合には特に建物との取合部分が多い。

「技術的に簡単に見えますが，建築の仕上工事が終った後露出で，空気管配管を行なうのには仕上った天井などを傷つけたり，汚したりしないように神経を使います」といわれる。なるほど空気管配管は外径2.0㎜，内径1.6㎜の銅管を天井面に走らせるもので，施主，建築設計者などよりできるだけ目立たないよう要求されている。銅管の支持にはステップルという金物を用い，管の接続は銅スリーブを用いてハンダ仕上げする。細い管内に空気が流れるので抵抗，漏れ，ツマリなどの起らないよう入念な作業が必要とされている。やはりこの道で一人前になるには数年を要すると聞いている。

スポット型は差動式と定温式のものがあり直径約10cmの円形のもので配管，配線，感知機取付などの作業が行なわれるがテストを除いて普通の電工技能とほとんど変りがない。

友田氏が手がけた建物には，京都御所，新歌舞伎座，関電ビル，大阪神ビルと数多いが，特に印象深かったものを尋ねると，「やはり国宝の建物です。建物を傷つけないようまた施工不備であってはならないと神経を集中します。テストが終ってホットしますが，竣工後も保守管理が十分であるよう願っています」

最後にこれからの改良点について聞くと，「現在のテスト方法は燃焼皿といってハダカ火を使用する原始的なものです。これは消防関係者も認めてやっているわけですが，テスト中に火災にならないとも限りません。この点は早く改良して欲しいですね」ごもっともである。特に既設ビルに増築する場合には既設建物も報知機を設置する必要がある。この場合には事故が起りやすいと聞いているが，ますます需要の増してゆくこの種の作業に早く科学的，合理的なテスト方法を友田氏とともに考えてみたいものである。



感知器を取付けるところ

（宮脇　毅記）

読者の頁

投稿を歓迎します。ハガキでお寄せ下さい。けいさいの分には粗品進呈。

新刊紹介

現代建築辞典：ウォルフガング・ペーント編，日本語版監修浜口隆一・神代雄一郎，鹿島研究所出版会発行，B5判，339頁，定価3,800円。とにかく見てよし，読んでよしの辞典である。近代建築をつくりあげてきた千人以上におよぶ建築家たちとその作品や建築運動・思潮をしるだけでも値打のある辞典であるが，今まで，一見バラバラにみえていた近代建築の創造の過程が，この本をみているうちに，結びあわさってくるような感じのする本である。

建築家の実務：クリントン・H・カウギル他共著，鹿島研究所出版会訳，鹿島研究所出版会発行，B5判，343頁，定価3,200円。建築家のプラクティス（職務）は社会的責任と結びついている。その意味でこの本が，建設産業の記述から始めているのも当を得ている。建築産業のなかでしめる建築設計組織がどういうものであり，かつ設計事務所なり建築家が行なういろいろな実務について，かなりくわしく資料をつけてのべている。最後に，仮想例による解説として，ある建築士が4人で建築事務所を開設してから，大きくなっていく過程のなかでの実務の紹介がでてくるが，これなどは独立して事務所を開いている若い建築家にとっても大いに興味のあるところだろう。ただし，このアメリカの実例と日本とはかなりちがっていることはいうまでもない。

カーテンウォールとその材料：中川中夫・菊池純一郎著，技術書院発行，A4判，250頁，定価600円。かねて建築材料と施工法とを結びつけた解説書が要望されていたが，本書は，そのシリーズのひとつとして企画され出版されたもの。「カーテンウォールの設計基準および設計法」から「材料」「工法」にいたるまで解説されている。最後にカーテンウォール施工例として，方立型式，パネル型式，腰部と窓部分離型式，バルコニ型式にわけて，20例を紹介している。ただPCパネルの紹介が少ないのは当然だろうが，これは，今後の増補にまたねばならないのかも知れない。

商店街再開発：総監修／石原舜介，科学技術センター（東京）発行，B5判，247頁，定価1,100円。商店街の再開発がいわれてからもうだいぶ年月がたち，あちこちでその事業がみられるが，本書はそうした日本の現実の上にたった商店街再開発の現時点における総括を試みている。内容は，マスタープラン，再開発の診断，開発の手法，再開発の組織づくり，建築設計商店街の交通施設計画と設計，商店街の施設設計，再開発後の経営，共同店舗ビルの管理運営の各章にわかれ，それぞれ第一線のベテランが執筆を担当している。

フランスの都市計画：加藤邦男著，鹿島研究所出版会発行，A6判，202頁，定価900円。この本を通読して感じた点は第一に，フランス社会のマルサス的精神にねざしているという行政的な流れと，建築家たちの都市計画への提案の流れとがどう結びあっていくかである。第二に，マスタープラン詳細プラン，簡略プランという都市計画プランと「優先都市化地区」（ZUP）「長期整備地区」などの開発計画の実際上との間の矛盾はどうだろうかという点である。そのほか，住宅政策，土地政策や住宅集合体（アグロメラシオン）という記述にも大いに興味をそそられた。
最後に，フランスの新らしいいくつかの都市計画の提案紹介に続いて，著者がフランス滞在中に，実際にその計画に参画したマルチーグ ZUP（マルセーユ近郊の新都市）を紹介している。日本の都市計画と建築を考える上にとって，示唆の多い本である。

日本近代建築史ノート：村松貞次郎著，世界書院発行，B6判，349頁，定価880円
副題に＜西洋館を建てた人々＞とあるように，この本は，明治時代や大正時代に，西洋の建築技術をわが国に導入し，こんにちの近代建築の基礎をつくった建築家たちの開拓者精神とその人間像をうきぼりにしている。清水喜助父子，立石清重，林忠恕，辰野金吾，妻木頼黄，曽弥達蔵片山東熊，伊藤為吉，小島憲之，横河民輔，遠藤於菟，佐野利器，武田五一，中条精一郎，佐藤功一，伊東忠太，後藤慶二，コンドルを通じての近代建築史の読物である。欲をいわせてもらえば，片岡安をとりあげてほしいものである。とくに都市計画と建築という面では先駆者と思うがいかが。

北京シンポジウムと京都の科学者たち：1968年北京科学シンポジウム京都実行委員会編（京大人文科学研究所井上研究室気付），B5判，170頁，頒価350円。1964年北京シンポジウムに参加した京都地区の学術各分野の参加運動の正確な記録であり，総括である。「自国に根をおろした科学」を創造し，「人民に奉仕する科学」を発展させるための科学者，技術者の運動史でもある。建築分野での参加報告もある。

（M）



クラスメート

8

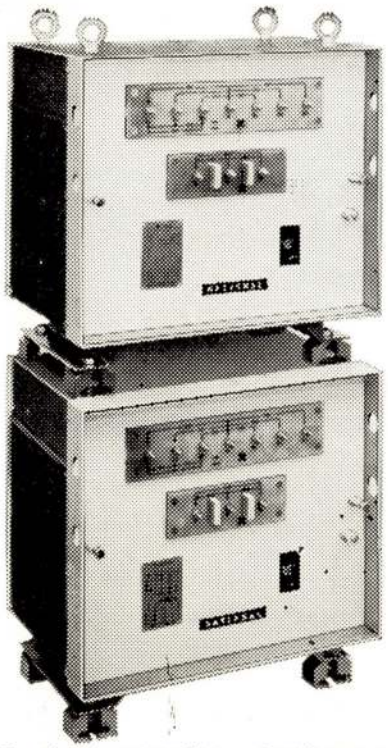
左より（敬称略）
西　村　栄　一（大阪市建築部長）
宮　崎　義　夫（(合)宮崎工務店代表社員）
野々村　五四男（工博・大阪市大助教授）
森　口　　清（兵庫県建築部長）
池　田　達　雄（関西大学経理局営繕課長）
大阪市建築部長室にて

日大工学部建築学科昭和10，11年卒。佐野利器工学部長，笠原敏郎建築学教室主任教授，当時新進気鋭の故小野薫，故河野輝夫，渡辺要ら諸先生の下で，10年クラス30名，11年26名のわれわれは，全く楽しいそれぞれの学生々活を送った。またすでに軍事教練が必修科目となってはいたが，秋の富士山麓野外演習後は，伊豆の湯けむりの中で配属将校の大佐ドノ自ら指揮をとって，高吟放歌するといったよき時代でもあった。しかし，卒業時は全くの就職難時代。

10年組，**西村**は卒業の年大阪市に勤務，今日まで30年，戦後は主として住宅建設に尽してきた。現在は，大阪市建築局の建築出身最高責任者として頑張っている。**宮崎**は，おやじの工務店に就職，社長業はゴルフにかぎるのか最近は連日ゴルフのようで，われわれの羨望の的である。**野々村**も卒業と同時に大阪市へ就職戦争にかりだされて帰ってからは大阪理工科大学（近大の前身）などを経て，市大創立とともに住居学教室で今日に至っている。数年前，病気で療養生活をつづけたが，現在は全く健康。住友金属を最近退職した**宇井**八太郎（酒井鉄工所工事部長）は欠席。

11年組，**森口**は，卒業と同時に大阪府に入り，一時本省勤務に変わったが，京都府建築課長に転出，福岡県をへて兵庫県に転じ，初代建築部長として幅広い活躍をしている。**池田**は卒業の年に大阪市へ勤務。営繕・学校建設課長を経て昨年その経験をかわれ，関西大学経理局に招かれて退職。現在大学の建設関係を担当している。

（野々村記）



400V級分岐式配電方式の合理化に……

技術面、経済面をプラスし
用途に適した独自の設計!!

ナショナル

電源分岐室用

乾式トランス

TC—HST 三相5・10KVA乾式(H種絶縁)積重ね式変圧器
一次電圧 400V級 二次電圧 210V—105 結線方式 △—人(二次側三相線式)

■最近、建築物が高層化し、大型化すると共に単位面積当りの電力使用量が増大し、従来の100V 200V 配電が技術的にも、経済的にも妥当性がない事が実証されて以来、その打開策として関係各方面のご研究により、400V 級配電がいよいよ完全な実用化の段階に入ってまいりました。

■しかし乍ら、コンセント回路及び各種照明等に単相100V、200Vはどうしても必要でありますので、400V より降圧する変圧器が必要となります

■こゝで当社は建築業者殿、電気工事業者殿を始め各ご需要家殿より広くご指導を仰ぎ種々の点でご満足いただける三相H種絶縁乾式、二巻線変圧器(一次△形、400V級、二次人形、二次側電圧は線間121V、105V同時使用可能)を開発いたしました

■標準定格仕様

定格		連続
絶縁階級		B種又はH種
相数		三相
周波数		50% 又は 60%
容量		5, 10KVA
結線方式		一次△、二次人結線(中性点引出形)
電圧	一次側	50%・415V (但し、従来の製作例としては 60%・460V 50% 420V、60% 440Vが多い)
	二次側	線間・210V—(182)V 相間・(121)V—105V

■構造上の特長

(イ)並列運転が出来るようインピーダンス電圧をそろえています。

(ロ)増設の場合据付面積を少なくするため積重ねが可能な設計としています。

(ハ)このため5KVAと10KVAの2機種を標準化し、大量生産による価格の合理化を計っております。

(ニ)必要に応じて防震ゴムも取付けられるよう特別なベースを設けております。

(ホ)並列運転をした場合の変圧器の保護を考慮して、ノーヒューズ・ブレーカーが取付けられる構造としております。

ナショナル 松下電器

お問合せは…大阪守口局区内・松下電器・変圧器事業部

北海道特機営業所…TEL 札 幌 (24) 9271
仙台特機営業所…TEL 仙 台 (25) 8111
東京特機営業所…TEL 東 京 (561) 8461
横浜特機出張所…TEL 横 浜 (68) 0743
静岡特機出張所…TEL 静 岡 (54) 1241
北陸特機営業所…TEL 富 山 (2) 8561
新潟特機出張所…TEL 新 潟 (5) 0171
名古屋特機営業所…TEL 名古屋 (95) 6211
大阪特機営業所…TEL 大 阪 (362) 5151
広島特機営業所…TEL 広 島 (41) 5111
四国特機営業所…TEL 高 松 (2) 1194
九州特機営業所…TEL 福 岡 (28) 3331
北九州特機出張所…TEL 小 倉 (53) 5121
南九州特機出張所…TEL 熊 本 (4) 1101

マルエス

日新

永久防水材
マルエス印
ルーフィング

信用第一
最高の品質

メルタン
ルーフィング

国内の気温較差の著しい所に於ても能くその苛酷な条件に抗して老化せず　特に寒冷地に於ける投術的困難は殆んど解決されたと云っても過言ではありません

特許
ビニエス
タイル

お部屋のポイントは床材から

明るい配色……
落ちついたムード

マルエスルーフイング製造元

日新工業株式会社

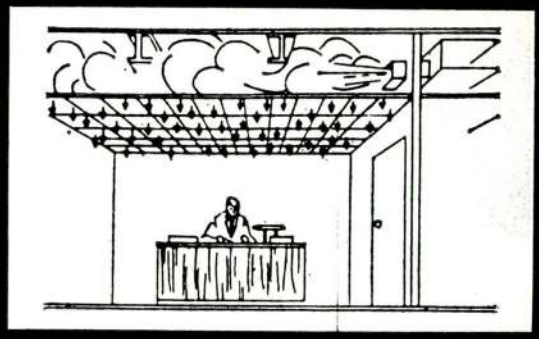
本　社　東京都足立区千住東町93　TEL東京(888)2101～9
大阪支店　大阪市西区新町北通1丁目40　TEL大阪(531)5281～3
出張所　名古屋 TEL名古屋(73)2135・広島 TEL中(2)1019
九　州 TEL福　岡(5)0768・札幌 TEL　(5)6885

ABC商会の建材

全く新しい通気方式
ベンチレーティング吸音板

● ダクト網と放散器のいらない画期的な吸音板

● 不燃防水性鉱物質繊維の経済的な吸音板



7倍に伸びる美装防水塗料

モーランコート

屋上防水／各種コンクリート槽の防水／隧道防水／壁面防水／排水ピットの防水／上下水道管の内張り

1．弾力性に富んでいます
2．色彩が豊富です
3．防水性は完璧です
4．耐候性にすぐれています
5．建築を軽量化します
6．輻射熱を反射します
7．難燃性です
8．広範囲に使用できます
9．施工が簡単です
10．補修が容易です

● 建設材料の総合コンサルタント

(株)ABC商会

大阪市西区京町堀1－126　TEL(443)0731(代　表)
本社　東京都千代田区永田町2－77　TEL(580)1411(大代表)



近代建築の
要求に生まれた

伊奈のデヤータイル

大阪神ビルにご採用
デヤータイル二丁掛

伊奈製陶株式會社

本　　社	愛知県常滑市字扇面新田	電(5)2700(代)
東京事務所	東京都中央区西八丁堀2－8	電(551)6371(代)
大阪事務所	大阪市西区新町南通り1－23	電(531)5731(代)
名古屋事務所	名古屋駅前　大名古屋ビル内	電(56)3328(代)
九州事務所	福岡市天神3－1の16号	電(74)9080
札幌事務所	札幌市大通り西7－2	電(23)3806

コンクリートの亀裂と硬化乾燥収縮

大阪市立大学助教授 下鳥正孝

§1 コンクリートの亀裂の発生原因

コンクリート構造物に亀裂を発生させると考えられる原因を大別すると，外的要因によるものと内的要因によるものに分けられよう。

外的要因としては，地震などの災害によるもの，構造物の部分的な温度差などにもとずく二次応力によるもの，あるいはまた構造物の基礎の不同沈下によるものなどが考えられる。一方内的要因としては，コンクリートが比重の異る材料で構成されていることから起る，沈みにより生ずるもの，それに材料が持つ宿命的性質であるコンクリートの硬化乾燥収縮によるもの，あるいは鉄筋コンクリート構造物などにあっては，鋼材の発錆膨脹によるものなどが考えられる。

これらの原因により生じた亀裂の中で，災害により生じたと思われるものと，沈みによると思われるもの，あるいは鋼材の発錆膨脹によると思われる亀裂は，その様相よりして，発生の原因，時期などの究明がある程度はでき得るのに対して，その他の原因によると思われる亀裂は，発生原因，時期などを明確に定め得ない場合が多いように考えられる。

上述の事柄からもわかるように，コンクリート構造物の亀裂は，ある種のものを除いては，外的要因によるものか内的要因によるものかの判別さえも困難である場合が少なくない。このような事態はまた内的亀裂要因の中のコンクリートの硬化乾燥収縮が常用のコンクリートを使用する限り，宿命的な材料の持つ性質であって，潜在的な影響力を他の亀裂原因に及ぼし，その他の亀裂原因による亀裂をも誘発する下地を作ることが考えられ，状態を一層複雑化させる。

それ故本文においては，コンクリートの亀裂一般に大きな影響を及ぼす硬化乾燥収縮について述べることにする。

§2 コンクリートの乾燥

固体物質は大体吸水　湿すれば膨脹し乾燥すると収縮する性質を持っている。この収縮が拘束されると，物質には，その収縮歪に応じた引張力が作用するようになり，その引張力が物質の引張強度を越えた場合，亀裂を生じたり破断したりする。あるいはまた収縮歪が物質の引張破断時の歪を越えた時に亀裂や破断が生ずるともいえる。

コンクリートは衆知のごとく水，セメント，骨材を主要な構成材料としており，コンクリートを作るために使用された水は骨材中に含まれた水分も同様に，コンクリート中に自由水，毛管水，吸着水，吸蔵水，結合水などとなって分布し，時とともにその存在状態を変化させる。大気中のコンクリートの水分は，その時の各種の条件に応じて一部は空気中へ蒸発し，一部はセメントゲルから結晶物質に変化する際に結合水として水分を固定し硬化を進行させる。強度の増加は概ねこれに平行的であるとされる。

コンクリート中の結合水などは容易な方法では取りさることはできない。

コンクリート中の水分の蒸発は，自由水，毛管水，吸着水の順で漸次拡散進行し，気象条件（温度，湿度）に平衡する含水量に至って止むのである。この時の含水量を，その条件における平衡含水量といい，それまでに蒸発した水分を，その条件における自由水分ともいう。

平衡含水量は気象条件が変れば，それにともなって変化し，コンクリートは吸湿または乾燥する。一般に平衡水分は湿度が高まれば増加し，温度が高まると減少するが，温度の影響は湿度の影響に比して小さい。

結合水への移行は蒸発に比して極めて長期間にわたりつづけられる。

一般に前者により生ずるコンクリートの収縮が乾燥収

縮といわれ，後者によるものを硬化収縮というが，実際には両者は切り離せない。乾燥収縮の原因は毛管水，吸着水の蒸発により生じ，骨材中の水分もそれにともない蒸発し収縮することによるといわれ，硬化収縮はセメント水和物がゲルまたは結晶物質に変化することによるといわれる。

上述のような乾燥の過程は，コンクリート構造物においては気象条件はもとより形状寸法，使用材料，調合，養生法などにより異なり，それにともなって収縮量もまた変化する。次にこれらによる硬化乾燥収縮への影響を述べる。

§3　コンクリートの硬化乾燥収縮

気象状態がコンクリートの収縮に及ぼす影響の程度は，湿度70%における収縮量を1とすると，湿度45%では1.5，乾燥状態では2程度に収縮量は増加する。

形状の大小と硬化乾燥収縮との関係は硬練りコンクリートを用いた実験結果によると，10cm 角柱の気乾収縮量を1（4.68×10^{-4}）とした場合，20cm角柱では0.5～0.6，30cm角柱では0.4～0.5程度の収縮量を示す。一般的に部材寸法の小さいもの程，表面積の大きいもの程，収縮量は大きくなる。

次に使用材料と収縮量の関係であるが，コンクリートの収縮の主因をなすセメントペーストの収縮量は普通セメントで材令28日，温度20°C，湿度70%の状態でW/C 60%のものでは30×10^{-4}程度，湿度が45%となるとこの値の約1.5倍程度になる。

衆知のごとく，セメントの種類が変れば収縮量もまた変化する。モルタルによる比較実験例によれば，普通セメントの気乾収縮量(15.9×10^{-4}材令13週)を1とすると早強0.85，中庸熱0.76，高炉1.1～1.55，シリカ1.12，フライアッシュセメントで0.76の収縮量となっている。これより混合セメントの収縮量は概ね大きいといえる。また同一種類のセメントにおいても粉末度の細いもの程収縮量は大きくなるといわれ，また，ペーストのW/Cの大きいもの程，収縮量も大きくなる。

一方，骨材の収縮量はセメントペーストの収縮量に比して，川砂，川砂利においては$2\sim3\times10^{-4}$程度（砂岩$2\sim5\times10^{-4}$，花崗岩1.5×10^{-4}，頁岩0.9×10^{-4}）と石質による相違はあるも，一般には少ない値である。また天然の軽量骨材の浅間軽石では約0.3×10^{-4}程度と思われる。

それではコンクリートの収縮を抑制する骨材の弾性係数はというと，花崗岩では約6×10^5kg/cm²，砂岩で2×10^5kg/cm²程度，大島軽石で0.15×10^5kg/cm²，浅間で0.11×10^5kg/cm²程度である。

これらを混合してコンクリートとした時の気乾収縮量は，普通コンクリートにあっては$5\sim7\times10^{-4}$程度，軽量コンクリートにおいては大島軽石，川砂使用のもので$6\sim8\times10^{-4}$，浅間，川砂で$8\sim10\times10^{-4}$，浅間軽砂，軽砂利使用のもので$10\sim13\times10^{-4}$程度である。また，人工軽量骨材の膨脹頁岩を使用した軽量コンクリートの収縮は，材令60日程度においては，普通コンクリートと大差はなく，むしろ少ないものもあるという。しかし長期材令においては普通コンクリートより大きくなるともいわれる。筆者もこの種の実験を行なったが，短期，長期材令の収縮とも，普通コンクリートと大差はないようであった。

砕石コンクリートの収縮量は普通コンクリートに比較し，約1割程度収縮量は少ないという。

また，粗粒な骨材を使用したコンクリートの収縮は細粒な骨材を使用したコンクリートの収縮に比し，一定スランプの条件のものでは収縮量は少ない。

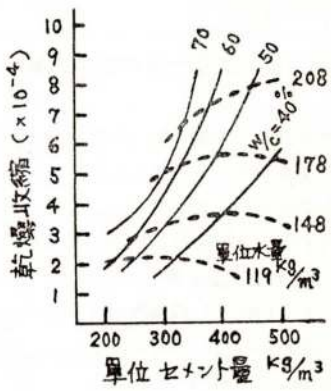


図 - 1

調合と収縮量の関係は，図-1 に1例を示した。この図においても，一般によく知られたペースト量が増せば収縮量も比例的に増加することを見ることができる。しかし更にセメント量の増加にともなうペースト量が増加した際，収縮量がある単位水量のものにおいては，減少していることにも注意さるべきものと考える。一般にペースト量の増加は，セメント量の増加にともなうものと水量の増加によるものとがあるが，収縮に与える影響は概ね後者の方が著しい。

セメントペーストの増加は収縮を増加させるが，これは見方を変えると骨材量の減少が収縮を増大させることとなる。筆者は後者の考え方がより一般的であると考えている。（すなわちセメントペーストは本質的に収縮する材料で，コンクリートの収縮は混合する骨材の量ならびに弾性性質，保水性，などより定まるとする）

AEコンクリートの収縮は，普通コンクリートに比して同一スランプの場合はわずかに大きい。その量は混入空気量の百分率程度である。

§4　コンクリートの亀裂の発生

§2で述べたごとく，収縮歪によって起る引張力が材料の引張強度F_tを越えるか，または収縮歪が最大引張歪

より大きくなると，亀裂や破断を生ずる。

コンクリートの引張強度と最大引張歪の関係は 図-2 のごとくであって，強張の増加にともない引張歪も増加する。しかし，常用の強度範囲における最大引張り歪は，普通コンクリートで1～1.2×10⁻⁴，軽量コンクリートで1.5～2×10⁻⁴程度と見られよう。しかしてこの値は静的引張り載荷試験によるものであって，収縮による引

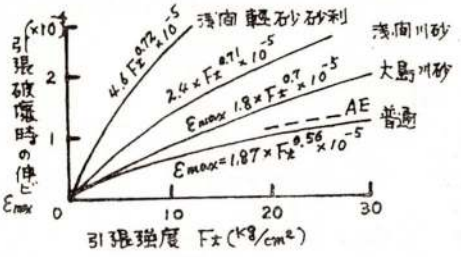


図 - 2

張力は比較的長期間にわたって増大することから，クリープ現象を生じて最大引張り歪は増大する。クリープ現象による伸び量は普通コンクリートで約1.5×10⁻⁴，軽量コンクリートで約2×10⁻⁴程度といわれる。この伸び量はコンクリートが低強度のもの程，養生しないもの程，多くなるともいわれる。

普通のコンクリート構造物のコンクリートは，自由に収縮できない。たとえば床などのコンクリートの収縮は，床の鉄筋による抑制あるいは梁，壁などとの収縮量の差などによる抑制を受ける。普通程度の鉄筋量（1～2%）の構造物においては，前者による抑制力は後者より少ない。

今，コンクリートの自由収縮量をε_s，抑制された状態での収縮量をε'_s，引張りコンクリートの最大伸び量をε_t，引張クリープによる伸びの量をε_cとした場合，下式によって亀裂の発生条件が示される。

すなわち　$\alpha\varepsilon_s \geq \varepsilon_t + \varepsilon_c$　　$\alpha = 1 - \varepsilon'_s/\varepsilon_s$

αは収縮抑制の程度により異る。$\varepsilon_t+\varepsilon_c$が$\alpha\varepsilon_s$より大きければ亀裂は発生しない。$\varepsilon_t$を1.0～1.2×10⁻⁴，$\varepsilon_c$を1.5×10⁻⁴とすると，$\alpha\varepsilon_s \geq 2.5\sim3\times10^{-4}$となり，$\varepsilon_s$を5～7×10⁻⁴とした場合，$\alpha$は0.5を越えると亀裂が生ずることになる。鉄筋コンクリートの梁などにおいては，αの値はおよそ0.2～0.3程度となり，亀裂の危険性は少ないといえる。

§5　鉄筋コンクリート構造物における亀裂の型式

硬化乾燥収縮性の亀裂の発生箇所は既往の調査結果によれば，スラブにあっては概ねその中央付近に，建物の桁行方向に直角に亀裂が入る場合が多いようで，桁部分に近づくにしたがい，亀裂巾は小さくなってくる。梁，桁に平行な亀裂は，応力的には生じやすい条件下にあるが，鉄筋量が多いゆえか亀裂巾は小さい。

壁体における亀裂は大体において垂直かまたは斜方向に生ずる。水平方向の亀裂の大部分はコンクリートの打ち継ぎ部分に起きている。外壁の亀裂にあっては年間の温湿度変化の影響も加る。冬期においては 図-3 の(a)図のごとき変形をしやすく，夏期においては(b)図のごとく変形することが考えられ，それぞれ図示のごとき方向の亀裂が発生しやすいことになる。また開口部における亀裂は隅角部に起きやすい。

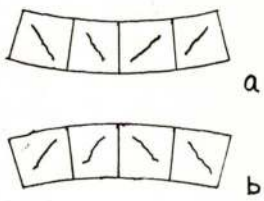


図 - 3

特に注意すべきは庇部分において，桁行方向に直角に亀裂が生じやすいことであって，庇部分の桁行方向には配筋の少ないこともあって亀裂が分散せず目立つようになるものと考えられる。

§6　亀裂の防止について

コンクリートの亀裂の防止に関してはいろいろと考究されている。一つはコンクリートの硬化乾燥収縮の減少に関するもの，他の一つはコンクリートの引張り伸び量の増加を計るものなどである。

前者の方法としては，膨脹セメント，膨脹混和剤，養生方法，収縮抑制の構造法などの研究があり，後者にぞくするものとしては，引張り伸び量増加混和剤，骨材の種類，養生法などの研究が行なわれている。しかしながら現在の所，亀裂の防止については適切な方法がいまだ確立されていないというべきであろう。それゆえ実際的な対策としては今までの研究結果にもとずいて，できるだけ単位水量の少ない硬練りのコンクリートを密実に打ち込み，急激な乾燥を避けるとともに，適当に配筋量を増したり，または異形鉄筋を使用したりして，たとえ亀裂が生じたとしても大きなひび割れになることを防止するとともに，ひび割れの分散を計るのが最良の方法と考えられる。

上述のようにコンクリートの亀裂の防止には現在の所適確な方法が見当らないが，この事柄は構造物の防水性，耐久性などにも関連することゆえ，充分な考慮が望ましい。

難しい問題でもあり浅学な筆者では充分意をつくせなかった所が多いが，何分の参考になれば幸いである。

若い建築家は語る（工高生デザインコンクール10周年記念）

昭和40年10月27日　於大阪ガスビル食堂

出席者　（　）内は入選回・出身校・勤務先

井上　純一氏
（第2回・都島工高・不動建設）

谷口　修氏
（第3回・西野田工高・清水建設）

浅井　謙史氏
（第4回・都島工高・日建設計）

沼田　修一氏
（第5回・伏見高・東畑事務所）

有馬　隆三氏
（第7回・堺市立工業・村野森事務所）

逸　昭浩氏
（第8回・都島第二工業・渡部事務所）

司会　杉本　裕氏
（松田平田設計事務所大阪出張所長
日本建築協会教育委員会委員）

日本建築協会では，全国の工業高等学校建築科生徒を対象に，設計技能の向上に資するため，昭和30年より毎年設計課題を変えて『工高生デザインコンクール』を催しております。この座談会は10周年を記念して催したものであります。なお参考に第1回〜第10回までの設計課題は次の通りです。

第1回　これからの住宅
第2回　観光案内
第3回　学校図書館
第4回　公園内に建つ公衆休憩所
第5回　駅前に建つポリスボックス
第6回　ガソリンスタンド
第7回　公園に建つ野外音楽堂
第8回　湖畔に建つ学生のためのボートハウス
第9回　有料道路のゲート
第10回　市民のためのスポーツハウス

司会　今日の座談会は話題を「工高生デザインコンクール入選の頃」と，今の仕事に関してと，未来への希望といった順で自由に話していただきます。

入選の頃

A　入選の前年に佳作に入りましたので，今年こそはと3カ月程前から準備に入ったことを覚えております。資料を集め下書を100枚程書き，その中から学校の先生の意見もうかがって，締切日の夜から翌朝までかかってまとめました。全精力を集中したので入選は問題でなく，特にできがよかったとも思いませんでした，入選したと知らされた時も喜びより満足感の方で一杯でした。工高生活3年の中で最もよい時だったと思います。

B　ぼくは定時制の方でしたので，昼は建設会社の現場で働いており時間の制約には苦しみました。職場の先輩にコンクールに入選した人がおられたので主として指導を受け，締切りぎりぎりに提出しました。自信はまるでありませんでした。

C　私の場合は，課題が学校の宿題として与えられました。特に応募する気はなかったんですが入選しました。その時にはじめて喜びを味わいました。

D　私の場合は，夏休みの宿題ではなく授業の課題で，一応出したもののまた考えて2案出しました。自分ではよいと思った方は通らず，だめだろうと思った方が入選しました（笑い）。だから特にコンクールに応募したのが入選した，という充実感はありませんでした。

E　私は資料を集めるのに苦労しました。先生も頑張れと励ましてくれ，締切前2，3日でまとめました。

F　私の場合は，学校が特に課題といったような扱いをしなかったので，私自身の課題だと思ってやりました。そのため学校の先生にも見てもらわず，先輩の援助も受けず自力でやったわけです。そして入選し自信を持ちました。これは今でも大きなプラスだと思っております。

C　デザインコンクールは，たしかに勉強になる。これからも大いにやった方がよいと思う。

A　大いにやっていただきたいですね。

D　工高では技術的なことを主として教えているけど「建築とはなにか」というような本質的なことを知りたいと思いました。応募作品を作ることでこの問題について考えさせられました。教課にないなら課外教育として本質的なことを学びたいと思いました。

E　工業高校の教育は中堅技術者の養成であるとされておりますが，私は自分の考えでもって建築と取り組みたい。

今の仕事について思うこと

A　卒業して実社会に入ってみると現実はきびしいと感じました。これは自分が甘かったと思います。そこでファイトを燃やしました。そして建築の本質をもっとつきつめていきたい。社会人としての建築家でありたいと思います。

D　仕事に当って一番苦しむことは本質的な課題の追求



浅井氏　　有馬氏



井上氏　　谷口氏

です。これは「日々の戦い」で安易な妥協はしたくありません。夢を持ち続けたいと思います。

C　私の場合は仕事の量がきわめて多く質的によいものができないのが不満です。

E　私の場合でも商業ベースにとらわれすぎるのが不満です。

B　コンペを自分でやった時は，1から10まで自分の思った通りに行きます。それが設計事務所となると作品の写真を見ただけでも大体どこの事務所のものか名前を見なくてもわかります。そこで私は設計事務所の特定のカラーを希望して入所した場合は別として，その設計事務所と自分のカラーとがにていない事務所に入所した場合には，そこの所長なりあるいはチーフデザイナーなりと自分の考えが全然違った場合には，自分がこれがよいと思ってもパッと変えられてしまったら，とても図面を画く気になれませんね（笑い）。自分では精一杯考えたものがパッと変えられて，こうやれと示されたものをまるで写すような感じで画かなければならないときは，仕事をする意欲が半減するような気持がします。

司会　なぜ直されるかと思うでしょう。

B　構造の場合ですと答が一応数字になって出ますね。数字というか梁とか柱とかの大きさで表われるので，なるほど自分の考えたものでは不充分だということもわかりますが，デザインの場合はやはり人それぞれに好みというものがありますから，もし10人の人が皆このデザインはいけないというのならわかるけど，このデザインがはっきり悪いとはなかなかいえないし，また直されても承服しにくいこともあります。けれども一つの組織の中で働いていると，だんだんそのカラーに染まって行く，これは必然的なことだと思っています。けれども自分を偽わってもそうなっていくことは，そんなことにならない方がよいと思いますね（笑い）。

F　だいたい建築の仕事，特に設計の仕事というものは，この世の中の総てが結集されることだと思います。それを設計するにはやはり個性とか感情とか，あるいは社会的な問題，技術的な問題にも影響されます。やっぱりよい仕事をするためには，社会的な立場で考える必要があります。建築を本当に設計することができるためには一生かかると思うんです，私はそう思っています。だから私は今設計を自分の思い通りにするということより，若いうちに自分の夢をえがいて，それに近づこうとする努力が今は一番大切だと思います。自分が組織の中で思う通りに設計できないことがかならずしも最大の不満ではないと思う。今はそこまでの段階になっていないと思います。でもやっぱり自分の思う通りの作品を作りたいとは思いますが，今の所ではそれをあまり強く考えるのは行き過ぎだと思います。

建築の作品というものは，設計者の人間性というものが一番よく盛り込まれていると思います。そういう意味でわれわれはまだ人生経験も浅いし，今のところはまだ本当の建築というものは設計できないと思うんです。だけれどもやはり自分の思うものを表現したい。そこでウップンを家に帰ってから自分勝手な課題を作って自分の思う通りのものを図面にしてみるわけです。自分で作品を作ってみたい。それはもちろん学生時代には夢のような図面を画きます。しかし，今は夢をある程度現実化するように一生懸命やっております。

司会　今の立場での勉強の話になりましたが。

A　私たちの年令ではまあ少なくとも10年はみっちりと叩かれねばあかんやろうなと思います。勉強というのは，20代のうちはキリキリ舞いをするほど叩かれることが，結局は一番大事なことではないかと思います。もっとも今は叩かれて叩かれて劣等感に悩んでおりますが，しかし，自分には今が一番大事なときなんだといい聞かせております。

司会　劣等感とはどういうことです。



沼田氏　　遠　氏



杉本氏

A　自分の能力に対する，技術的なものも含めて，要求に対して自分の能力がこれ以上進まないんではないかと。

B　私は劣等感とは思いませんが，自分の考え方を少しでも取り入れてもらいたいとは思います。

C　たとえば，建築の色を例にとりますと，先輩と感覚的な話をしたら負けます。けれどもなぜこの色にしたかということを，筋を通して話をした場合は随分認めてもらえる。壁をベイジュにした場合庇の裏は，自分は白でゆくとした場合，なぜ白にしたと聞かれて影の部分だから同じくベイジュでは，色が濃くなりすぎてよくないから白にしたといえばわかってもらえるわけです。こういう場合はよろしいけれど，感覚的な問題だとどうしても負けになりますね。これは経験が不足だからだと思います。たとえば，自分の意見を通させてもらった部分があって，実際に出来上ったときに，やはりこれは先輩のいう通りにした方がよかったなと思うことがありますから。

E　実際私もそうですね。色なんか一応決めさせてもらえるわけですけれど，変えられる場合もあります。自信を持って決めたんだから，やっぱり自分の色の方がよいなと思う（笑い）。またいわれた通りに納得することもあります。私の行っている事務所では仕事に対して1人，2人でやるという場合は少なくて，部分的に働らくことが多い。上の人は全体を見ておりますから，その話をよく聞いてその方針に従がわないといけないと思います。そうでないと建物に統一がとれませんから。いいたいことはいいますけれど。

F　私は自分の今働らいている所では勉強中であると感じています。

司会　建築の設計をするために集まって仕事をする場合，その中の個人はどうあるべきだと思いますか。

F　個性の集まりが組織であり，よい組織はその人たちの個性のよさだというふうに思っております。よい個性を持ったメンバーが集まってよい作品が作られるということでいいんじゃないかと思います。

A　ひとつの建築を作る場合は，ひとつの大きな筋を一本通さなくてはいけない。その筋の判断はあくまでも1人の人間がしなければいけないと思います。数人でひとつの仕事をまとめる場合でも本質的には1人の人間がまとめなければならない。各人は多少同じ考えの所もあるけれども，多少皆違うので，思想的に1人の人がまとめないとバラバラなものになって統一がとれないから，あくまでも1人でまとめなくてはいけない。

D　そう思いますね。工高生デザインコンクールに応募したときは，建築に対する自分の考えというものがはっきりしていなかった。今の自分の気持とは変っているとは思いますが，変っているかどうか，もともとなかったのかも知れません。

C　工高生のときにはまだほんとうには摑めていないんじゃないか，工高生のときの作品はそこまで考えて作ったかどうかは疑問ですね。

A　学生時代にはそこまで自分の考えというものは持っていないと思う。その時代に影響される。まわりの環境が一番大きいと思う。工高生デザインコンクールの作品を作ることは自分の環境を作り出したと思います。

D　コンクールはひとつの契機になった。自分の歩みが決まったように思います。

A　コンクールの件なんですが，私の場合は入選したことが非常に支えになって，まあそのために設計の道に進もうという決意が生まれたんです。作品を作ったときは入選は問題にしないで始めた。しかし，入選したことが決意を支える力として非常に大きく働らいたと思います。

未来への夢について

F　現在働らいている所は，将来自分にとってプラスになると思えない。将来自分で独立してやってゆく上ではむしろマイナスに――といってよいかどうかわからないが――なるような感じがする。

司会　ということは建築観に差があるということ？

F　いえいえ，なにか時代的な何かがズレているような感じで——，ただ1人の人が事務所全体を切りまわしていますが，そういう時代はおそらくもう終りで，後は組織で仕事をする。

D　やはり形の上ではただ1人の人が建築の創作に当たるべきで——こういった話はやはり建築観の相違から起こると思うんです。それと組織とは別に関係はないと思う。私の働らいている所は組織されているとはいわれますが，やはり個人プレーでして，まあちゃんとした組織体としてのよさが発揮できないと思う。あくまで小さな集まりとして動いているんじゃないかと，決して組織体としては動いていないという感じがあります。形としては5つのグループがあって，そのグループにも随分差があるんで，同じような形のグループでありながらそれが集まって完全なピラミッド型であるようで実はそうでなく，並列したような形になっていたり。私の考えでは，私の所ではピラミッド型でなく並列型で仕事を進めていた方がよいんだと思うんです。その場合数人が集まっていますから，うんと話し合ってひとつのものに絞ってゆき，絞ったものをそのヘッドになる人が中心になってまとめ上げてゆくのが望ましいと思うんです。そしてもうひとつのゆき方として，デザイナーとドラフトマンに分けてやるべきじゃないかと思いますけれど。もちろんデザイナーでデテールなんかは知っていなくてはいけないと思いますが，現代は相当高度に分化しておりますし，なまはんかなものではだめだと思います。やっぱりひとつのことに突込むためには区分して絞らなければならないと思うんです。

E　私もそう思います。企画とドラフト，それと設備と構造というものに一応分けられて，そのチーフになる人が集まって議論してひとつのものに絞ってゆくという。そういう形になった場合でも，結局は企画をする人というものはそれらを統合して一番上に立つわけなんです。その人は高度の技術とひとつの世界観を持った人でなくてはならないと思います。私の所の場合でも形は一応分けてあるけれど，どうもチーフの人たちのデザインの方が先き走ってしまって，後から構造なり設備なりをおっつけるということになってしまう。デザインをする時にひとつの方法論なり，何なり中心となるものを持っていればそうならないでゆけると思いますが。方法さえみつければうまくゆくと思うんです。

C　私は量をこなすにはそういうシステムでよろしいと思う。私の所でも話としてはいろいろ出ますがなかなかできない。なぜというとドラフトマンとデザイナーとに分れますからね。皆デザイナーになりたいですからね。現状はそうなっていませんがこれからの傾向としては量をこなすにはこういう方法がよいじゃないかと思います。そしてこれは量の問題に対応するだけの方法ではないと思うんですが。

E　昔でいうと有名な先生である1人の人が個人で仕事をする，そういった時代は過ぎた。皆でディスカッションして仕事を進めていくというような方法がよいんだといわれてますけれど，私はその考えに共鳴するんです。個人プレイの時代は過ぎたと，皆のよいところを全部総合したものが，これからの建築じゃないかと思うんです。これは建築の問題だけではなく都市計画にもつながることだと思います。デザインそのものは個性的であってよいと思うんですが，いわゆる社会学者とか，心理学者とか哲学者とか，いろいろな分野の人たちが参加して都市計画に協力する。ただ単に建築家とか都市計画家とかデザイナーだけではなくてね，交通の問題もあるし。だからそういうものを総合してひとつのものにまとめるというと，そのより天才的な人間が必要になるかも分らない。その所はやっぱり皆で助け合ってひとつにすることになるかな？　その辺のところはまだ分りません。

D　今のところ私の所は質より量です。懇切に施主に接したり，親切に設計して上げたいと思っても，とてもそんな状態ではありません。期日までに仕上げること，質よりもコストを下げることに集中しています。私としてはこんなことは建築の本質に対する冒瀆だと思うんですが。まあ小さな所ではどうしてもこういう無理押しがありますから，本質的な建築の設計をしたいと思っても，とてもそんなことはできない状態なんです。しかしその中で少しでも夢を持っていきたいと思っております。

司会　都市の話が出たので，建築家と都市の問題について話してください。

D　都市計画についても，いろんな人がいろいろな意見をいうのですし，また現在いろいろな問題があるので，これと建築を結びつけることはむずかしいと思いますが，ただバラバラの考え方の人々が勝手に都市計画をやったんでは困るんです。動いてゆく社会にある時点においてとらえて，何かに当てはめながらも，それを構成する要素については自由であるというようなところで，組立てられていくんじゃないかと思います。ただ大きなものをとらえる場合でも，建築学だけではだめで，経済学も必要だろうし，人文地理学もあるだろうし，そういうものが集合したものから出発しなければならない。単に夢を追った都市計画というものだけではだめなんで，もっと現実に即したものが出てこなくてはいけないと思うんです。私自身まだ勉強中なんですが，都市のイメージを探している段階なんです。

B　私はそんな直接に，具体的には考えてみたことはな

いけれど，単なる都市理想像の造型では夢でしかないと思います。やはり経済の裏付けがないと夢の実現はできないと思いますね。現実にある都市とは何の関係もない所にパーッと都市を建設してしまう場合と，今の古い都市の上に段々に新らしい都市を建設し，下はそのまま古い都市であるということも考えられるし。夢のような大計画ではなしに小さい所から予定を建てて，まあ大阪の道路とか，現在のものを段々に整備してゆくということが一番大事なことではないですか。

F　たとえば東京湾上に新都市を建てる。その場合に建築家が今の銀座のような価値のあるものを作ってやることが使命だと思います。経済的に価値のあるものであるなら東京湾上でもよいと思うんです。建築家の使命のなかには経済性のあるものを作ることがあると思います。

E　東京も，もう行詰って来ると思います。建築界もそれにつれ行詰って来ると思うんです。これの打開策として都市計画を考えてもらいたいと思う。また東京という所に総てが集中してしまうと交通の問題なんか重大になる。大阪にしても道路というものは，いわば無人地帯ですね。人間というものは考えてないです。建築家が考えるより先に道路ができてしまっています。もっと人間を意識した都市計画でありたいし，海上都市，富士山麓都市もおもしろいと思いますが，自然も残しておきたいと思います。

A　私のはもっと視野が狭いんですが，いまアパートの設計をしていますが，10階程で100戸程のものですと，たとえ1階おきでも，2階おきでもよいから，公衆便所を造りたい，というのはもしこれが平家の町であれば，当然公衆便所はあるはずです。郵便，新聞配達とか，訪ねて来た人のために必要ですから。各戸のことだけではなく全体として考えなければと思い，意見をいったのですが，子供のようなことをいうとしかられたんです。しかし，建物を町の要素として考えることは絶対に必要ではないかと思います。

「鉄道」という映画を見たんですが，階段の所で上の階の主人が降りて来て下の階の未亡人に「奥さん，お早う」という辺で涙がポロポロ出たんです。ああいう人間の心のふれ合いが生かされるような建築でなくてはならないと思います。それをどのように形に現わすかということは今のところ自分でもつかめていないんですが，人間の心のふれ合いが建築に反映しなかったら，とてもやり切れないんじゃないか。そしてこれが都市計画に対しても持っている気持です。もう一度自分たちは人間である，という意識を持ってものごとを考えなければならない。アパートに洗濯物がズラっと干してあるのも，建築家が何か解決しなければと思いますが，経済性と相反するので弱っています。

F　人間性を豊かにした建築というものは，現在の経済機構ではおそらく実現不可能であると思う。今は強いもの勝ちの社会ですから時代が変らないとむずかしい。

司会　都市が変遷するというが，その中の古いものが破壊されてゆくということについて。

D　世界がひとつの共同体であると考えてみると，日本はその中にあって，大阪はまたその中にある，という有機的なつながりがあるものだと思われるんです。そしてその中でものは流れ，成長してゆく，ギリシヤのアクロポリスにしても残さねばならないものは，本当に限られたものであると思う。あくまで生きているのは人間で，建築もまた人間とともに生きているので，その中で保存されなければならないものはきわめて限られてしまう。個々に生きている人間が大切なのであって，建築の保存はまた別の方法があると思う。アクロポリスは社会的なものを持っていた。そこでわれわれも残されたものからそれを感じる。それと同じものが現代に生きているはずだと思う。そこに建築の本質があると思うしそれを創作しなければならない。これがわれわれの「日々の戦い」であると思うんです。

B　今の建築には感動するようなものが少ないんです。もっと人間性を持った感動を与えるような建築がほしいんです。最近何か工業化，工業化といわれますが，すべての建築には当てはまらないと思うんです。経済性にのみ重点を置いた建物はとにかく，そうでない建物には何か感動を与えるようなものがほしい。私は北欧の建築が好きですが，日本でも材料の使い方をもっと考えて，あのような自然と人間とが結びついたものが必要だと思います。

E　個人の存在ですが，サラリーマン的になってしまって自分の先を読んでしまったような傾向が今の若い者にあるといわれますが，そんなものではだめです。学校でも要領よく教えて，卒業したら大きい所に入るといった傾向が強いと思います。建築の方でもそういったことがありますが，あまり組織といったようなものにたよらず，ただ宗教的ともいえるようなひとつのものに打込んでいくことが非常に必要だと思います。建築家のすべてがそうなることは無理だと思いますが，そういう建築家も必要であると思うんです。もっと人間として希望を，夢を，若い人は持たなければいけないと思います。

（おわり）

日本建築協会月間の動き（昭和40年11月分）

定時評議員会

25日　4時―4時半　於会館集会室
出席者　評議員　五十嵐，小林正副議長外9名
　　委任状出席者　64名　計　75名
　　理事　東畑会長外2理事
議事　昭和41年度評議員選出数決定に関する件

理事会

11日　3時半―5時半　於会館集会室
出席者　東畑，塚本正副会長外9理事
議事（1）定時評議員会開催の件
（2）忘年懇親会開催の件
（3）創立50周年記念事業特別委員会設置の件
（4）会員名簿発行委員会設置の件
（5）会の後援名義使用の件
（6）新年観劇会開催の件
（7）建築6団体合同新年交礼会開催の件
（8）「建築と社会」の広告料収入確保の件
（9）入退会者承認の件
（10）報告事項

事業委員会

忘年懇親会小委員会

2日　正午―2時　於会館集会室
出席者　政岡主査外8名　大閤園係員，芸能者2名
忘年懇親会の企画について打合

委員会

9日　5時半―8時　於会館集会室
出席者　増井委員長外13名
議事（1）新年観劇会の企画について
（2）忘年懇親会の企画について
（3）創立50周年記念事業について

新年観劇打合会

15日　正午―2時　於会館集会室
出席者　建築協会　5名
　　建築士会　3名
新年観劇会について打合

忘年懇親会進行係打合会

16日　5時半―7時　於大閤園
出席者　谷川委員外4名
進行プログラムの検討その他打合

各種説明会の反省と懇談会

19日　6時―8時半　於広田家
出席者　政岡，岡本両副委員長外6委員
各種説明会の状況報告並びに今後の企画について懇談

編集委員会

小委員会（表紙デザイン）

5日　正午―1時半　於会館集会室
出席者　好川委員外2名
正月号よりの表紙デザインについて協議

設備特集編集幹事会

10日　3時―6時　於会館集会室
出席者　宮脇幹事外3名
設備特集編集について協議

委員会

12日　4時―7時　於会館集会室
出席者　長谷川委員外8名
議事（1）12月号＝医療施設特集経過報告
（2）正月号＝都市住居特集経過報告
（3）2月号＝地下街特集経過報告
（4）表紙デザイン報告
（5）3月号＝空調設備特集企画（幹事会案報告）
（6）4月号，5月号の特集テーマ決定（4月号＝建築金物特集，5月号＝建築法規特集と決定）
（7）4月号建築金物特集幹事会の件
（8）5月号＝建築法規特集幹事会の件
（9）その他

小委員会（作品作風）

12日　7時―9時　於会館集会室
出席者　長谷川委員長外3名
議事（1）作品作風選択基準の件
（2）2月号の作品作風欄に掲載の作品について協議

小委員会（第2回広告企画）

12日　3時―4時　於会館集会室
出席者　長谷川委員長外4名
モニター制，設備特集広告，作品作風関係特別広告，付録について

小委員会（表紙デザイン）

24日　正午―2時　於会館集会室
出席者　深谷委員外3名
正月号表紙デザインについて協議

都市住居と建築行政座談会

25日　2時―4時半　於会館集会室
出席者　吉村卯氏と高橋委員
正月号に掲載予定

法規委員会

委員会

24日　3時―5時　於会館集会室
出席者　佐野委員長外16名
議事（1）万国博の建築規制の問題
（2）建築基準法改正案について（大阪府建築士会案）
（3）法規特集幹事選出の件

住宅委員会

幹事会

17日　5時半—8時　於会館集会室
出席者　黒谷副委員長外3委員
次期住宅展について協議

委員会

4日　1時半—6時　於千里ニュータウン
出席者　海上委員長外14委員
千里ニュータウンの新住宅を見学後今後の議題について検討

出版委員会

木造建築図書企画打合会

5日　4時—7時　於会館集会室
出席者　小林，長沢幹事外15名
木造建築図書企画について打合

委員会

12日　5時半—7時半　於会館集会室
出席者　野中，片山副委員長外11名
議事（1）協会選書出版企画について
（2）木造建築図書企画について
（3）各部会の出版企画について
（4）各編集委員会の作業について

新鉄骨構造計算と実例編集委員会

18日　3時—9時　於会館集会室
出席者　鷲尾委員長外15名
新鉄骨構造計算と実例編集について協議

基礎工法と実例編集委員会

22日　4時—8時　於中央電気倶楽部
出席者　山肩委員長外15名
基礎工法と実例編集について協議

建材委員会

委員会

26日　3時—5時半　於会館集会室
出席者　（委員側）政岡，橋本正副委員長外5委員
（業者側）田島，東リノ，松下電工
「床材の製造から施工まで」映画，スライド映写後懇談

実務に直結した建築工事説明会「鉄骨構造」

19日　2時—5時　於大阪科学技術センター
聴講者　118名
フジコルテン鋼
富士製鉄株式会社　北川　一智氏
同　上　藤田健次郎氏
スミフレームV
住友金属工業株式会社　西田　芳弘氏
住金鋼材工業株式会社　塩原　正典氏
ダンネットならびに複式折版長尺屋根
大同鋼板株式会社　松本　昭平氏
旭スチール工業株式会社　玉木　久三氏

見学会

関西電力，学園と総合運動場施設見学会

設計・監理　株式会社　新日本技術コンサルタント
施　工　株式会社　竹中工務店
総合運動場
設計・監理　株式会社　新日本技術コンサルタント
施工（土地造成）　ブルドーザ工事株式会社
（建物および施設）株式会社　大林組
18日　1時—6時
大林組，竹中工務店ご提供のバスによって実施
参加者　40名

新建材見学会

（1）東洋リノリューム工場
（2）松下電工工場
19日　正午—6時
参加者　政岡委員長外7委員

桜橋東洋ビル見学会

設計・監理　東洋不動産株式会社
施　工　株式会社　大林組
27日　1時半—3時
大阪府建築士会と共催にて実施参加者両会80名

都市住宅研修会打合

2日　3時—5時　於日本建築学会近畿支部
出席者　日本建築協会外6団体
都市住宅研修会について打合

編集後記：明けましておめでとうございます。ことしでこの「建築と社会」も第47集を数えます。皆様のご声援のたまものと感謝いたしております。ことしもよろしくお願い申しあげます。さて，本号は「都市住居特集」として，①都市住居の歴史，②現段階における都市住居，③将来の都市住居の三つに分けて，それぞれのエキスパートから論じてもらいました。企画にご協力いただいた幹事は，長谷川哲之助，高橋久栄，住田昌二，松本大平，それに住宅委員会より，海上静一，宮後健，中間康之助，山本茂の各氏です。次号は「地下街特集」の予定。

杭

株式会社　武智工務所

取締役会長　福留並喜

大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話(202)3233・3234

天井・間仕切には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・

耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工

株式会社　奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町六〇番地
電話北㈹四一三一～四

屋根浪板
谷樋には
大島化学のひふくてっぱんを
固定式通風器 連続式換気装置にも
耐酸スタンダードメタル
カラースタンダードメタル
PATENT Standard
大島応用化学工業株式会社
本社 大阪市城東区野江東之町4の104 (931)7071—3
支店 新居浜・東京・名古屋・四日市・広島・富山

田中式
スカイライト・ベンチレーター
スチールサッシュ・ドアー
スチールシャッター・オペレーター
TNK 田中工業株式会社大阪出張所
大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2～89
TEL 大阪(411)6341(代表) (411)6342
本社 東京第一工場 東京都墨田区錦糸町1～25
東京第二工場 東京都墨田区吾嬬町東4～122
小倉工場 福岡県小倉市赤坂上の宿37
川崎工場 神奈川県川崎市東渡田3～43
札幌出張所 北海道札幌市北大通東4丁目4
盛岡代理店 岩手県盛岡市木伏49・東北建設(株)
名古屋代理店 愛知県名古屋市西区桜木町308
米子代理店 鳥取県米子市祇園町2～93・吉田工務店
TEL 東京(623)代表0106～0108・(622)0790
TEL 東京(611)2118～9
TEL 小倉(52) 2833・2834
TEL 川崎②7594～5
TEL 札幌③ 6762・0515
TEL 盛岡② 7642
TEL 名古屋 (57) 7641
TEL 米子② 4683

信用ある技術と伝統の
アスファルト工事
専業大店
株式会社久保商店
大阪市北区真砂町五番地
電話 大阪(三四一)二〇七～八・四八三六～七

賀　正

建設業者有志

株式会社 **淺沼組**

取締役社長　淺沼猪之吉

本　社・大阪市天王寺区東高津町８番地の１電話代表(762)0251～9番
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・福岡
営業所・秋田・水戸・千葉・立川・横浜・新潟・北陸・静岡・
岐阜・津・奈良・京都・郡山・和歌山・神戸・高松・
広島・新居浜

株式会社 **新工務所**（アタラシ）

取締役社長　新順一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三　・　電話代表大阪(341) 9151番
支　店・東京都千代田区神田猿楽町二丁目七・電話代表東京(291)3741番
営業所・神戸市葺合区八幡通五丁目六松井ビル内・電話神戸(22) 3316番

安藤建設株式会社大阪支店

関西駐在専務取締役　堀田源一郎
大阪支店長　鎌田幸二郎
大阪市西区江戸堀北通一丁目七番地　電話 代表 (441)3788・9365
本社・東京都中央区八重洲四丁目七番地　電話大代表(272) 7411
支店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・沼津・
札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社 **大林組**

取締役社長　大林芳郎

本　店・大阪市東区京橋三丁目七五番地
電　話　大代表 (941) 861番
支　店・東京・札幌・仙台・横浜・名古屋・岡山・広島・福岡・高松
出張所・神戸

株式会社 **奥村組**

社長 奥村太四郎

大阪市阿倍野区松崎町1の51 電話 大阪(621)1101(大代表)
支店 東京・名古屋・広島・高松・北九州

鹿島建設株式会社

会長 鹿島守之助

本社 東京都中央区八重洲五の三
大阪支店 大阪市東区瓦町五の七一(瓦町ビル)
電話 大阪(202)代 7461・8166

株式会社 **神崎組大阪支店**

取締役支店長 佐伯武男

大阪市北区曾根崎新地1丁目21
電話 (341) 7371～4番
本店・姫路市北条口86－3 電話代表姫路(23)2021－3

株式会社 **熊谷組大阪支店**

常務取締役支店長 泉治郎一

大阪市西区西道頓堀通二丁目一番地電話(538)1841番(代表)
本社 東京都新宿区筑土八幡町二二番地 電話(260)2111番(大代表)
支店 東京建築・東京土木・北関東・名古屋・広島・四国・福岡・札幌・仙台

株式会社 鴻池組

本店 大阪市此花区伝法町北3—67
電話 代表(462)1631番
支店 東京・名古屋・福岡・広島・松江

佐藤工業株式会社

取締役社長　佐藤欣治・取締役大阪支店長　勇内英次

本　社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話　東京（661）1231（代表）
・富山市桜木町1番11号　電話　富山（3）6531（代表）
大阪支店・大阪市東区北浜一ノ二五　電話　大阪（203）7221（代表）
支　店・東京・名古屋・富山・札幌・福岡・仙台

清水建設株式会社

社長　清水　康雄
本　社・東京都中央区宝町二ノ一
常務取締役支店長　白井　周二
大阪支店・大阪市西区土佐堀通り二ノ二
電話（443）5431　大代表

島藤建設工業株式会社　大阪支店

支店長　月野　定吉

本　社　東京都渋谷区大和田町77番地　電話東京（462）2121～8
支　店　大阪市北区茶屋町31番地の2　電話大阪（371）8001・9814・8848
（313）4853

住友建設株式会社　大阪支店

取締役支店長　柳田信吉
大阪市東区北浜五丁目二二番地（新住友ビル2号館）
電話（202）代表7421番
本店　東京都新宿区荒木町一三番地
電話（353）代表5111番

株式会社　錢高組

取締役社長　錢高輝之

本　店　大阪市西区阿波座上通三丁目二番地　電話大阪（531）6431番（大代表）
支　店　札幌・仙台・東京・名古屋・福岡
営業所　青森・秋田・盛岡・前橋・新潟・千葉・横浜・静岡・津
京都・神戸・岡山・広島・徳島・高松・松山・北九州・熊本・長崎・大分

大成建設株式会社

常務取締役
支店長　稲田芳郎

大阪支店　大阪市東区南本町4丁目20番地　TEL大阪（252）1131大代表

大鐵工業株式会社

代表取締役社長　伊藤正恵
大阪市北区茶屋町38番地
電話　㊱1711～5番
支店　天王寺・津・名古屋・米子・福知山

大日本土木株式会社大阪支店

取締役支店長　山田豊

大阪市北区堂島北町九番地　電話㊵代表5931
本社・岐阜市長住町二丁目三番地　電話岐阜②代表6141～6145番
支店・東京・名古屋
営業所・神戸・京都・和歌山・奈良・福山

株式会社竹中工務店

取締役社長　竹中錬一

本店　大阪市東区本町4丁目27　電話大阪(252)1201番(大代表)
営業所　札幌・仙台・東京・横浜・静岡・名古屋・富山
京都・神戸・岡山・広島・高松・北九州・福岡

鉄建建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　勝田頼春

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地（天六阪急ビル）
電話（358）0321(代表)
本社　東京都千代田区神田三崎町二丁目六番地
電話東京（262）3411

戸田建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　芝地　光

大阪市北区真砂町三二番地　電話㊱5951－8番
本　社・東京都中央区日本橋本町1丁目16番地の2
大阪支店営業所・京　都・神　戸・福　井・金　沢・富　山

飛島建設株式会社大阪支店

取締役支店長　新島幸雄

大阪市東区島町2丁目28番地　電話(762)8582（代表）
本　社　東京都千代田区九段二丁目三番地

西松建設株式会社関西支店

常務取締役支店長　蛯原逸雄

本　社　東京都港区芝西久保桜川町13番地
電話東京大代表(502)0211番
支　店　大阪市東区釣鐘町2丁目41番地
電話大阪大代表(942)1131番

株式会社 間組大阪支店

取締役支店長　遠藤巖

大阪市東区横堀町二丁目七〇番地　電話(203)代表2821
本店・東京都港区赤坂青山南町一丁目一番地　電話東京(402)代表8171
支店・仙　台・名古屋・大　阪・福　岡

株式会社 藤木工務店

本　店・大阪市東区両替町一丁目一三　電話(942)1461(代)
支　店・東京都新宿区三栄町二三番地
岡山県倉敷市旭町六六〇
香川県高松市丸ノ内十一番地ノ十二
出張所・福岡・京都・名古屋・津・岡山・新居浜・徳島

株式会社 藤田組大阪支店

常務取締役
支店長　村島良雄

大阪市北区堂島中二丁目三八番地　電話(362)代表7671
本　社・東京都渋谷区千駄ヶ谷四ノ六
支　店・横浜・名古屋・大阪・広島・九州・札幌

前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　島田光富

支　店　大阪市東区石町2丁目7番地　電話大阪㊊局9356～9358番
本　社　東京都千代田区富士見町2丁目3番地　電話東京(265)5551番(代表)

真柄建設株式会社大阪支店

常務取締役
支店長　漆村重一

大阪市天王寺区生玉寺町六番地の七　電話大阪(771)代表1272番
本　社　金沢市彦三町1丁目13番43号　電話金沢代表(31)1266番
支　店　東京・大阪・名古屋
営業所　金沢・富山・福井・大津・京都・岡崎・神戸

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄吉

本　社・大阪市北区空心町一丁目七〇番地　電話代表大阪(352)1131
支　店・東京・札幌・名古屋・広島・福岡

三井建設株式会社大阪支店

常務取締役
支店長　竹内慶久

大阪支社　大阪市北区絹笠町一五番地　電話大阪(361)代表7651
本　社　東京都中央区日本橋室町二ノ一(三井ビル)　電話東京(270)大代表8651
支店所在地　札幌・横浜・名古屋・広島・福岡・大阪
大阪支店管轄営業所　京都・神戸・和歌山・滋賀・徳島

村上建設株式会社 大阪支店

取締役 大阪支店長　山本芝鶴

大阪支店　大阪市北区富田町三五番地　電話大阪(312)0871～6(361)7887
営業所　神戸・岡山・福井・高松・広島
本・社　東京都千代田区九段四丁目六番地　電話東京(265)6661～9

株式会社 森組

取締役社長　森幸治

本社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話（231）8283～7番
（支店）東京・名古屋（営業所）奈良・和歌山・尼崎・神戸・岡山

株式会社 森本組

代表取締役社長　森本積善

本社　大阪市天王寺区夕陽ヶ丘町三番地
電話　大阪（771）0353～0357
支店　名古屋・広島
営業所　東京・松江
出張所　神戸・奈良・夜久野・紀南・由良・河合・多治見・読書・宮川・九頭竜・興津・上松・伊勢・木曽川・安芸

株式会社 あめりか屋

取締役社長　前野慶太郎

大阪市北区堂島上二丁目十一番地　電話代表(344)8231・(344)8234

株式会社 青山工務店

代表取締役　湯原来

守口市八雲南拾番200番地
電話　大阪（993）3951～4

株式会社 **近畿建設**

代表取締役　川崎　敬三

本　　社　大阪市西区靱本町４の１０３　電話　大阪（532)0081～5
名古屋営業所　名古屋市中区矢場町１の37(山市ビル)電話名古屋(251)　８９２２
滋賀県出張所　滋賀県栗田郡栗東町上鉤中教田１７１電話近江守山(07758)3565

株式会社 **金剛組**

代表取締役　金剛　利隆

大阪市天王寺区椎寺町六六　電話（771)9751～3・2654・9998

三和建設株式会社

代表取締役　森本多三郎

本　　社　大阪市東淀川区加島町四三一　ＴＥＬ（301)代表６６３６～９
東京支店　東京都港区西新橋二丁目十九　ＴＥＬ東京（431）2720・6814
京都営業所　京都市右京区西大路五条上ル　ＴＥＬ京都代表（84）８８９７
東京工場　川口市仁志町一～二四一　ＴＥＬ川口４１００
高槻工作所　高槻市大字唐崎九九　ＴＥＬ高槻（５）６０１３

東海興業株式會社大阪支店

常務取締役 大阪駐在　幸木貞夫　　常務取締役 大阪支店長　小松英二

大阪市北区梅田町２７(サンケイビル)　ＴＥＬ（313）代表0451番
神戸出張所　ＴＥＬ（23）5100番　京都出張所　ＴＥＬ（35）6747番

NITTO **日東建設株式会社**

社長　長久保　俊夫

取締役大阪支店長　榎　宝一

本　　社　東京都千代田区平河町一丁目二ノ十二電話大代表(265)4281
大阪支店　大阪市北区末広町12(新末広ビル)　電話（351)0623～6

株式会社 井上組

取締役社長 井上福蔵

本社 大阪市都島区東野田町二丁目一五番地 大阪(351)0530(352)4031～4
出張所 神戸市生田区加納町三丁目一番地 電話葺合(22)0914

株式会社 今西組

取締役社長 今西壽雄

本社 大阪市天王寺区上本町七丁目二番地ノ一 電話(771)7231・8231・8351
支店 東京都新宿区内藤町一番地 電話(341)4476
出張所 神戸市生田区下山手通四丁目四番地ノ一 電話(33)6060
出張所 埼玉県所沢市大字中富字北見元秋津分990番地 電話所沢(22)6263

株式会社 岡組

取締役社長 岡三郎

本社 大阪市北区堂山町89 電話(312)0456(代表)0777(代表)
東京支店 東京都港区赤坂青山南町6丁目118 電話(404)6111(代表)
名古屋支店 名古屋市中区矢場町1丁目37(山市ビル) 電話(251)9705
営業所 神戸・尼ヶ崎・福岡

栗本建設工業株式会社

取締役社長 中積治一

本社 大阪市西区北堀江通一丁目三一番地 電話(531)代表5801
出張所 東京・神戸・西宮・和歌山・松山

株式会社 小坂井組

代表取締役 小坂井正夫

本店 大阪市北区太融寺町五六番地 電話(341)9331~4・4664
営業所 京都市・西宮市・大東市



大洋建設工業株式会社

取締役社長　木戸口信義

（本　店）大阪市天王寺区北河堀町五四番地　電話大阪㈹代表2672・3880
（支　店）和歌山（営業所）東京・京都・堺（出張所）泉大津・河内長野



株式会社 大末組

取締役社長　山本末男

本　社	大阪市南区大和町1番地	電話(211)代0555・代6343
松原工場	大阪府松原市丹南町635の1	電話松原 ⑧ 4050
東京支店	東京都千代田区神田駿河台2の9	電話 (293) 代5301
名古屋支店	名古屋市中区矢場町3の35(ハセビル)	電話 (261) 代5421
営業所	滋賀・和歌山・岡山・神戸・奈良・堺	



株式会社 西田工務店

取締役社長　西田義郎

本　社　岸和田市加守町626　電話岸和田貝塚③代表2881
大阪営業所　大阪市浪速区元町4丁目227　電話 (632) 代表4001
出張所　和歌山・東京

総合建設



株式会社 長谷川工務店

ビル経営

取締役社長　長谷川武彦

本　社　大阪市東区本町1の18　TEL (261) 代表7631
東京支店　東京都渋谷区栄通1の5　TEL (463) 代表5451
名古屋出張所　名古屋市中区伊倉町4の1（河越ビル）TFL (20) 7956～8
神戸出張所　神戸市葺合区坂口通7の1　TEL (23) 7238



不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

本　社	大阪市南区鰻谷仲之町57番地	電話 大阪	(271) 4771
東京支社	東京都中央区銀座西4丁目1番地	電話 東京	(567) 1751
名古屋支店	名古屋市中区南大津通5丁目11番地	電話 名古屋	(251) 7551
北海道支店	札幌市北四条西4丁目1番地	電話 札幌	(26) 6526
九州支店	北九州市八幡区白川町1丁目2番地の1	電話 八幡	(68) 5867
営業所	仙台・千葉・横浜・茨木・神戸・新潟		

水野建設株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　水　野　　正　三
大阪市北区太融寺町120　電話大阪(341)(代) 3931～3933
工作所　同北区鶴野町71　寝　屋　川　市　高　宮
本　店　京都市下京区西七条市部町17電話(37)8052・8277・5360・7422・7425
営業所　横　浜　市・平　塚　市

望月建設株式会社

取締役社長　望　月　小　太　郎

本　社　大阪市北区堂島上一ノ一八　電話(341) 614～5・(363)95代表
工作所　豊中市島江一丁目一　電話(392) 4831～2番

株式会社 盛工務店

代表取締役　盛　　道　雄

本　社・大阪市旭区赤川町二丁目五六〇番地
電　話　大阪(921) 3471(代表)
営業所・神戸市・福岡市・西宮市

長谷川組株式会社

取締役社長　長　谷　川　為　一

本　社　大阪市天王寺区大道町四丁目一三〇
電　話(771)(代表) 4148・4149・4140
工作場　大阪市天王寺区大道二丁目三二九
電　話(771) 9044番

阪神土木工業株式会社

取締役会長　泉　谷　平　次　郎
取締役社長　藤　原　正　一

本　社　大阪市北区梅田町93番地　電話(312)5691～5
西宮営業所　西宮市池田町35番地　電話　西宮(2)3433
神戸営業所　神戸市灘区御影町上東802　電話　神戸(8)5362
出張所　芦屋・尼崎・京都・川西・寝屋川

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎

本社　大阪市西区阿波座上通四丁目八番地　電話大阪（541）5534番代表
支店　東京都新宿区淀橋四四一番地　電話東京（377）5171番代表

矢島建設株式会社

取締役社長　矢島浩三

本　社　東京都中央区銀座七丁目五番地　電話東京(572)代1436
大阪支店　大阪市南区北炭屋町八番地　電話大阪(271)代5837
取締役副社長　仁平信也
支店長
支店・営業所　仙台・名古屋・福岡・蒲郡・和歌山

株式会社 米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米田良男

本　社　大阪市天王寺区逢坂上ノ町7　TEL（771）代表7771

賀正

建材業者有志

株式会社 エバレヂン工業所

特許　第421051号
エバレヂン合成樹脂防水剤
製造販売及防水工事施工

本　社　大阪市東区北浜2丁目25（武田ビル）
電話（203）7071～5
東京事務所　東京都中央区日本橋村松町32田中ビル
電話（851）8808
四国支店　高松市浜ノ町33　電話②7713

室内装飾施工及資材卸・床材・壁貼材・ブラインド
カーテン・レール・室内清掃用品敷物類・その他

大阪装飾株式会社

代表取締役　蜷川智造
大阪市西区京町堀2丁目64番地　電話大阪(441) 0931-3　資材部専用(443) 4725-6番
東京営業所　東京都文京区本郷3丁目5番地　電話　東京(813) 6784・5番

奉仕感謝の店

株式会社 川岸窯業商店

代表取締役　川岸繁夫

大阪市西区靱本町2丁目98　電話 (532)代0461

綜合建材

関西建材株式会社

代表取締役　藤中昭男
大阪市浪速区幸町通三丁目　電話 (561)代 5361
京都市中京区壬生御所ノ内町一八　電話 (81) 0061・0062

冷・煖房・換気・温調設備・水道・衛生・厨房・病院
上下水道・各種配管・汽缶・機械設備・設計施工

株式会社 清水工業所

代表取締役　清水愛明

大阪市北区堂山町58　電話大阪(361) 2691(代)～4・(361) 9619・7340
東京出張所　東京都江東区北砂町4丁目948ノ4　電話東京(646) 6511～4番
群馬出張所　群馬県邑楽郡大泉町大字下小泉1980番地　電話大泉⑥3394～5番

セメント防水急結剤 シンケン
着色顔料　チェリーカラー
室内装飾繊維壁材製造発売

(株)新興建材工業所

代表取締役社長　福頼圭蔵
本社　大阪市西区四ッ橋　電話(541) 5757～9 (538) 2951～5
支店　明石市西王寺町1丁目39　電話 (91) 5852・5146
支店　福岡市上牟田八田町26番地の1　電話 (65) 3245 (64) 0852
営業所　東京都葛飾区堀切町2の67　電話(691) 4686

田中式温水缶及ガス風呂

田中風呂製作所

代表者　田中照雄

大阪市浪速区元町1—747　電話(641) 5313・8128

工場　守口市大宮通四丁目25

防水には プルーフテックス プルーフコートの併用を

何れも合成ゴム、合成樹脂系のエマルジョンで簡単に施工ができ完全防水の目的が果せます。

耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80　電話　(361)　0178

各種防水工事全般

セメント防水ダイニチ液・樹脂防水ユーエスボンド

アスファルト応用工事全般・防水・舗装・他

吹付壁・コーキング類・床・其他特殊防水工事

大日特殊建材工業株式会社

大阪市城東区今福中2—32　TEL (931) 1560・(958) 3890

サンキョーアルミ

住宅サッシ 3K レディメイド アルミサッシ

発売元 安田レール株式会社

大阪市南区末吉橋通り一丁目七(251)7091代表～8番

東京出張所　東京都千代田区神田富山町（松崎ビル)(254)0426番

床、壁、天井、内装材一式

丸駒建材株式会社

本　社　大阪市西区北堀江通1丁目10番地　電話大阪(541) 代6151～3・3947番
(531) 代3005～6・0685番
8403番

堺営業所　堺市神南辺町2ノ9　電話．堺 ② 1430番

岡崎橋倉庫　大阪市西区京町堀4ノ79　電話大阪(441) 4277番

各種冷暖用機器専門製作

木村工機株式会社

代表取締役　木村悦造

本　　社　大阪市東区上本町一丁目一三番地　電話(761)6921番(代表)
東京営業所　東京都千代田区神田和泉町一番地ノ一(直江ビル)　電話(851)4619・4629・4696番
名古屋出張所　名古屋市南区白雲町六四番地　電話(821)562・9番
福岡出張所　福岡市塩原七四〇番地　電話(54)2698番
工　　場　大阪府八尾市久宝寺一七八一番地　電話(2)0621番(代表)

日本アスファルト防水工業協同組合員

防水工事 { 熱工法…アスファルト防水 / 冷工法…レオパノール防水 / 塗膜工法…N．Sパール防水 } 責任施工

日新工材株式会社

代表取締役　井場　績

大阪市西区新町北通り1－17　TEL(541)3785～3786・2721

謹賀新年

昭和41年元旦

社団法人 日本建築材料協会

大阪市西区京町堀1丁目170番地
電話　大阪　(443)代0345番

支部および常設展示場

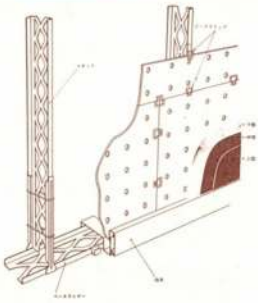
大阪市西区京町堀1丁目170　TEL (443)代0345
広島市鉄砲町108　TEL (21)　5469
高松市中野町881の1　TEL (3)　7657
福岡市住吉松月町293　TEL (3)　1259
東京都中央区日本橋本町4の4　TEL (663) 6709

マンテン® の新製品　軽い燃えない安い亀裂が生じない！

エコニースタッド®

KMS式耐火
軽量鉄骨間仕切





その他
マンテンの金属建材

SK式金属下地ネールロック
落し込み式天井吊金具モノーレイング
可動間仕切ムービーパネル
簡易組立材シャープアングル

発売元 住友商事株式会社　大阪建材部 東京建設建材部

マンテン® 株式会社 満点製作所

本　社　大阪市南区日本橋筋3丁目2番地　電話 大阪(632) 1151(代)
東京営業所　電話東京(682)3241(代)　名古屋出張所 電話名古屋(261)3529

スチール
アルミ
ステンレス

サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター

三高式オペレーター・ドアーハンガー



TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所

本社工場　尼ケ崎市神崎五反田280　電話 大阪（401）6158・6159
9463・7939（491）3200

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長 城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪㈣局7575(代表)
京都市東山区大和大路正面上ル電話京都56局4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局 5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長 菅谷三郎

本店 大阪市西区江戸堀1－60 電話(441)8231 大代
支店 東京・名古屋・福岡
出張所 京都・神戸・岡山・高松・広島・熊本
札幌・仙台・新潟・富山・金沢・福井

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並旋工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪 (443) 5041～5番

東京本社 東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京 (270) 7411番 (代表)

札幌営業所	札幌市南大通西4丁目1 札幌道銀ビル	電話 札幌㉒5756
金沢営業所	金沢市高岡町2番16号	電話 金沢㉑2074
福井出張所	福井市城之橋下町一〇	電話 福井②2436
高松出張所	高松市二番丁九	電話 高松②5195
岡山出張所	岡山市大供松ノ木三八〇ノ一	電話 岡山㉔5486

創業 大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 斎藤省三商店

東京店 東京駅前丸ビル6階676区
電話 東京(201)3761・3762・3763・3764
大阪店 大阪市西区土佐堀通 大同ビル616号
電話 大阪(443)3361～6
札幌店 札幌市北十条西18丁目36番地
電話 札幌(61)4371～3
名古屋店 名古屋市中区南大津通一丁目 千代田ビル522号
電話 中局(261)0641～3

冷暖房
給排水、衛生水道
電気
厨房

6Sサッシ
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長 大前玉男
取締役支店長 樋口勝栄

大阪市東区北浜2丁目22番地 電話大阪(202)代表3071
本店 東京都千代田区有楽町1丁目10番地
支店 出張所 名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山、金沢、静岡、高松、
工場 鶴見、相模、六郷、高浜、中山、古賀

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備

大阪市西区土佐堀通1丁目14 電話 441—5171
支店 — 東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所 — 広島

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11 電話大阪㊸3531番

空気調和装置・塗装設備
設計施工

株式会社 建材社

大阪支店

大阪市北区中ノ島二丁目 (新朝日ビル5階)
電話 大阪㉝3721(代)
本社及東京支店 東京都中央区銀座西6丁目3 (朝日ビル8階)
営業所 名古屋市中区菅原町2丁目 (センタービル)
連絡所 広島・北陸・札幌

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社 大阪市西区京町堀1丁目62 電話 (443)代表 8161～9
出張所 東京都北区上十条1丁目10 電話 (911) 3941
名古屋市中村区牧野町1の6 電話 (54) 0966
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1 電話 (34) 1778・4386
広島市袋町6番4号 電話 (21) 7575・7588

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社 大阪市北区富田町16 電話(341)代表7031
支店 東京都千代田区神田小川町2丁目1桧ビル電話(292)代表7751
福岡市大名1丁目8番12号電話(76)代表3795
出張所 名古屋市中区新栄町2丁目1電話(941)5966
福井市西宝永町2丁目113電話(2)1596
松江市東本町4丁目147電話(2)5098
広島市紙屋町1丁目2番22号電話(21)代表4535

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地
大阪支店　大阪市北区梅田8番地（新阪急ビル8階）
電話　大阪（312）4521（代表）

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25（新大ビル）
電話　大阪（341）8356
本社　東京都中央区日本橋本石町4－2（三井第二別館）
支店　東京・名古屋　出張所　九州
工場　埼玉県北足立郡・東京都足立区

暖冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 **栄興商会**

取締役社長　中山敏正

本店　大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話　大阪㊺3391～5番
支店　東京都新宿区荒木町一九番地
電話　（351）2177～8番
神戸出張所　神戸市生田区下山手通八丁目三三　電話元町④3035番
仙台出張所　仙台市東四番丁四五　電話②5136番

暖房・冷房・水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工

株式会社 **朝日工業社**

大阪市東淀川区加島町357　電話㊷2271～9（代）
東京支社　東京都港区芝浜松町2－7　電（434）6171（大代表）
支店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話大阪㊶（代表）0977 0978～9・0970
本社　東京都千代田区丸ノ内3－2（新東京ビル）
電話　（211）8511・8561（代）
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話　7332
名古屋出張所　名古屋市東区東門前町3－6
電話　⑨2893

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役　市川繁雄

本社　京都市中京区両替町通り姉小路上ル
電話㉒（代表）7975・（夜間専用）5532
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1-37（天満橋北詰）
電話（352）3501～3
四日市営業所　四日市市浜田西末広町電話㊸7431～3
津営業所　津市栄町2－111電話⑧3610

暖冷房・空気調和・環境衛生工事一切
設計施工

日本熱学工業株式会社

社長　牛田正郎

本社　大阪市北区万才町50
大阪事業本部　電話　大代表（312）8671
東京事業本部　東京都新宿区三栄町18
電話（341）7171～5.1622.1624.5315
名古屋事業本部　名古屋市中区城代町7
電話（23）4690・3520
各事業部　京滋、下関、新潟、金沢

給水　衛生　空気調和設備
設計施工

平山工業株式会社

取締役社長　平山京平

大阪市西区江戸堀2丁目2番地
電話　大阪（441）代1994　（443）代0331

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区天満橋筋4－71
電話　㊾2808・2809・2800・2134
本社　東京都文京区元町2丁目17番地
電話　（811）（代表）6294
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

温湿度調整装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪営業所　大阪市東区高麗橋5－45（興銀ビル別館）
電　大阪代（202）7745番
本社・工場　東京都北区神谷3の10の3
電　東京代（901）3191番
本社・分室　東京都港区芝佐久間町1の46（大同ビル）
電　東京代（501）3156番
営業所　名古屋・仙台　連絡所　福岡

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

取締役社長 西村庄市

大阪市北区野崎町六九
電話・大阪(313)代表3456
東京支店 東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(551)8330・8303
営業所 名古屋・神戸・岡山・広島 北九州

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長 浅海正雄

本社 大阪市北区老松町1丁目22
電話 大阪(362)8701
東京支社 東京都港区赤坂溜池町1
電話(481)8621～4・3573
営業所 名古屋・札幌・旭川・福岡

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英

大阪市北区永楽町8番地（日産生命館）
電話 大阪㈹ 代表 1234～9
支社 東京・名古屋
出張所 舞鶴・広島・八幡・福岡・富山

電気工事設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長 今村騰

本社 大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話 大阪代表㈹ 8131～7
支店 東京・名古屋・四日市・神戸・御
営業所 坊・新宮・松山・京都・草津

空調衛生設備用各種自動制御盤
監視盤・グラフィック盤・指示計器盤
端子盤・高低圧受配電盤・分電盤
各種フロートスイッチ・其の他
各種自動装置用電気機器設計製作

森井電業株式会社

取締役社長 森井定勝
専務取締役 佐野春吉

本社 東京都港区芝三田綱町一番地
電話 東京(451)代表9611
支店 大阪市北区常安町十六番地
電話 大阪(443)代表8381・夜間(441)0502
出張所 名古屋・広島・福岡・仙台
工場 東京・大阪・福岡・名古屋

各種電気工事設計施工

株式会社 **ヤマト電気商会**

本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(341)代3056
東京営業所 東京都港区芝田村町5－29 相馬ビル5階
電話 東京(434)3848・(431)8435
出張所 大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納伝三

本社 大阪市北区絹笠町五〇（堂ビル三階）
電話(312)1471(代)
支店 東京都中央区明石町15（辻孝ビル）
電話(542)5641
営業所 名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(99)5131～3
出張所 小松市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事 ℇ 設計施工

朝陽電気株式会社

取締役社長 山本博三

本社 大阪市北区中之島三丁目三番地
朝日ビルディング（6階）
電話大阪大代表(231)9531番
営業所 大阪市西区土佐堀通り四丁目八番地
電話大阪代表(448)1361番
営業所 京都市中京区西ノ京中合町20ノ11
電話京都代表(81)9296番

電気工事設計施工

江東電気株式会社

取締役社長 猪飼幸次郎

本社 大阪市生野区勝山通9丁目72
電話(716)4035(代)～8
支社 東京都新宿区淀橋533
電話 東京(371)6203
出張所 金沢・名古屋・高知・広島

電気工事・設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中本正明

本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
資材倉庫 大阪市城東区野江東之町三丁目一一 電話大阪931)7004

電気工事設計施工
並架線金具製作販売
（日本工業規格表示工場）
八千代電設工業株式会社
取締役社長 梶本秀尾
大阪市東区森之宮東之町
電話大阪 ㊾ 6531（代）～8
支店 名古屋
営業所 東京
出張所 岡山・北九州

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役 林 敏夫
本社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電話 ㊱ 3671（代）
支店 東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話 ㊲ 1478（代）
出張所 川崎・相模原・堺・福山

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
大阪支社
支社長 姉川正男
大阪市東区高麗橋五丁目二八番地
電話 大阪（202）0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目8番地
支社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所 旭川・白河・横浜・静岡・富山

株式会社 **矢橋大理石商店**
大阪出張所
大阪市東区高麗橋二丁目九 野村ビル五階
電話 大阪 ㉑ 4257—8番

電気工事設計施工
富士電業株式会社
取締役社長 田中実
本社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

青写真とマイクロフイルム
株式会社 **内外写真**
製図・トレース・複写写真
大阪市北区堂島北町16 TEL ㊱ 9055（代表）

PAINTING CONTRACTOR
塗装工事請負
株式会社 **林塗装店**
TEL. 大阪 ㉛ 1756—7・東京 ㉙ 1335

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
耐風雨緩勾配用瓦……大和瓦
美術建築内外装用タイル……大仏タイル
株式会社 **大佛**
本社 京都市東山区今熊野大仏池田町9の9 (56)3555 3725
大阪営業所 大阪市北区空心町1丁目28 (351)0703
名古屋営業所 名古屋市瑞穂区堀田通1丁目30 (88)2703
東京営業所 東京都渋谷区上原1丁目29の4 (467)1641

営業品目
●樹脂防水ゴーレヂン
●樹脂防水ゴーレックス
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
合同特許建材工業株式会社
本社・営業所・大阪市東住吉区駒川町3—54 電(791)代7814～6
代理店・東京都品川区東大崎3の239 電東京（491）9698

陶管・練瓦・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール


株式会社
三幸商會
大阪市北区与力町一ノ一〇
電話 大阪(358) 4031

特約販売・工事店

東洋キヤリア工業株式会社
東洋ゴム工業株式会社
(株)大阪パッキング製造所
大洋産業株式会社

販売　工事

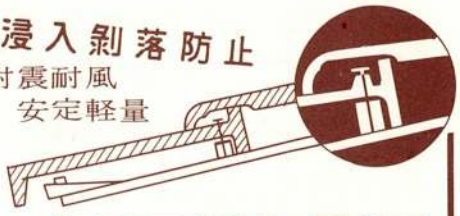
各種保温保冷材料　冷暖房工事
各種冷暖房機器　防熱防音工事
冷凍機・石綿製品　各種配管工事
各種樹脂加工品　設計施工

日本冷熱工産株式会社
取締役社長　石川良興
本社及大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1の16（石川ビル）
電話大阪(443)3661～5
九州支社及長崎営業所　長崎市茂里町13番地　電話(4)0092・0308
営業所及出張所　広島・福岡・小倉・大分・徳島・舞鶴・東京

特許　白蟻

松平式白蟻殺滅予防所
奈良市南城戸南方町28　電話奈良4098
（近日移転先）
奈良市登大路二番町（博物館前）　電話奈良4098
出張所　奈良市春日町尾田組内　電話6011・6012
本部　高知県宿毛市宿毛町2639

雨水浸入剥落防止
耐震耐風
安定軽量



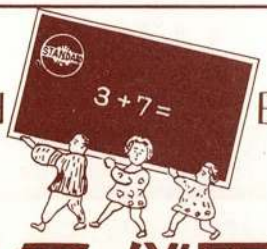
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量水止付（空葺）瓦

大阪市浪速区元町一丁目参番地　ナニワ瓦株式会社

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店



株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話大阪(341)2403・3904



Standard　Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地　電話大阪(717)4561~2

奉仕感謝の店
タイル　衛生陶器
株式会社 川岸窯業商店
大阪市西区靱本町2丁目98　靱本町電停前
電話大阪・(532)0461～4番

クトク

クトクの新建材

プリント合板　ビニオン
プリント合板　リズムウッド
ビニール合板　ビニライト
ポリエステル化粧板　ポリプライ
立体加工合板　クトクランマー
工芸合板　アジロ合板
合成接着剤　フルータイン
その他　新建材一式

浪速合板株式会社
大阪市浪速区幸町通3の20　TEL（561）2201（代）
東京出張所　東京都江東区深川平久町1の13　TEL（644）8432

タイル

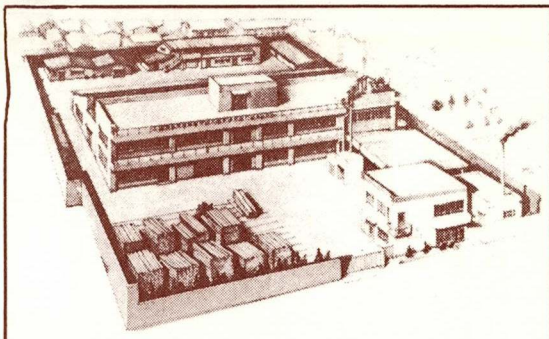
衛生陶器

エスロンタイル

サンウェーブ
流し台・調理台

株式会社 平田タイル

大阪市西区阿波座中通1
電話 (532) 1234代表



FUTABAYA DECORATORS, LTD.

建築物船舶等造作工事
家具建具・室内装飾工事 設計施工
内外装飾織物・敷物類一式

(創業大正7年)

二葉屋装備工業 株式会社

取締役社長 若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
(天六電停西北2丁)
電話・大阪 (371) 3321～3・3630

網入光り波型ガラス (スレート小波 / スレート大波) 長サ965㍉ 1,818㍉

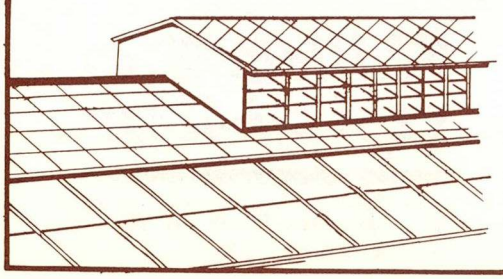
ダイニチ・アーモライト 波板・平板

(硝子繊維強化ポリエステル板) 各種波、寸法 (長尺物有)

製造販売 **大日本硝子工業株式会社**

大阪支店 大阪市北区玉江町2ノ4 (三菱倉庫ビル) 電話㊶1389・3389・3281
本社 神奈川県相模原市小山字久保224 電㉒3101～4

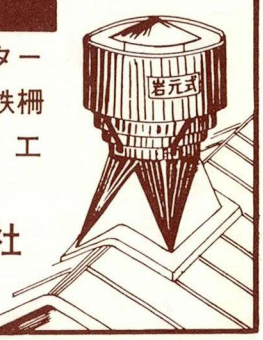
岩元式 **スカイライト** 並 **固定筒型 コンチニアス ベンチレーター**



サッシュ、ドアー、シャッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工

カタログ進呈

岩元工業株式会社
本社 大阪市東成区東今里町4の40
電話(981)0616～0618



T K K

アルミニウム
ステンレス　　カーテンウオール
ブロンズ

東京カーテンオール工業株式会社

（旧社名東京鋼板工業株式会社

本社及工場　東京都荒川区尾久町５ノ１０００
電話（891）８１３１～８
大阪支店　大阪市北区富田町１８番地 島根ビル
電話（361）９１５４～７
名古屋支店　名古屋市東区久屋町５の９（住商ビル）　2578～9
福岡出張所　福岡市橋口町15番地の1（サンビル3階）㉔ ８８２５

内外

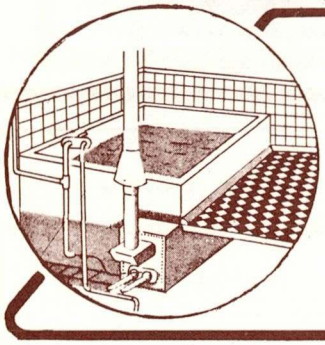
責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト・モルタル工事

N.G.C.式

米国パブコ・コンパウンドアスファルト
米国バイヤライト・コンパウンドアスファルト
販売

内外工業株式会社

本社　大阪市阿陪野区旭町一ノ五一　電話（641）3434～6 夜間（631）0810
工場　大阪市東住吉区桑津町 三ノ一六



田中のガス風呂

ミリオンポリバス浴槽

清

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂・温水鑵

大阪ガス会社指定

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町１丁目747　(641)5313・8128

窓掛、緞帳、日際、壁紙　室内装飾　絨氈、舗床材一般
東洋リノリユームの　東リカーペット　発売元

亀井株式会社

大阪市東区南久宝寺町四丁目（心斎橋筋）
電話 大阪（251）1353（代）～6・9996

製造発売元・責任施工

特許ニツポン防水液
ニツポン防水液B号
ニツポン急結液壱号
ニツポン耐寒剤
ニツポン防水目地材
ビルコート
標準セメント防水剤

特許 ニッポン セメント防水剤
国立大阪工業試験所御創製 ○強度増加 ○絶対防水 ○硬化促進

黒川化学のセメント防水

有限会社 黒川化学工業所
本店 工場　神戸市東灘区住吉町反高林 TEL (85) 2723

電気工事 設計
計装工事 施工

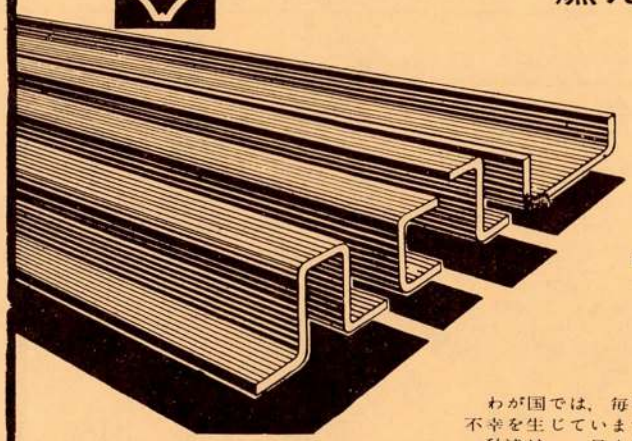
高度な技術・安全な施工

近畿電氣工事株式會社

取締役会長 佐藤 太
取締役社長 大森久司

本店 大阪市北区南扇町11 電話(大代表)大阪312—1281
支店＊支社 大阪北・大阪南・京都・神戸・姫路・奈良
和歌山・滋賀＊名古屋・広島・東京

燃えない家を造りましょう





わが国では，毎年火災のために400億円に近い莫大な損失と，大きな不幸を生じています。
私達は，一日も早くこのようなことから解放されなければなりません
そのためには燃えない建築材料が必要です。
当社では，この要望に応えるために，最適の建築材料として，すでに欧米で大量に使用されている「軽量形鋼」を，当社川崎製鋼所の新鋭設備で生産しております。
この「軽量形鋼」は，軽くて丈夫な「薄鋼板」を冷間成型して，各種の形鋼を大量に生産するもので価格も低廉です。

富士製鐵の輕量形鋼

運　搬　機　械

エレベータ・コンベヤー
ホイスト・リフト・クレーン・エスカレータ

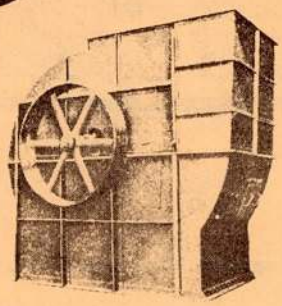
設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K.K.

本　　社　大阪市大淀区天神橋筋六丁目　天六阪急ビル
電話　大阪（351）4927㈹
東京営業所　東京都台東区上野3丁目10番10号
電話　東京（832）5241㈹
工　　場　大阪市東淀川区小松中通5丁目6番地電話(328)0363(代)

KANDAN　煖冷房温湿度調整

設計　施工



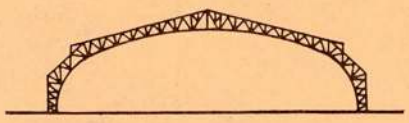
各種送排風機

設計　製作

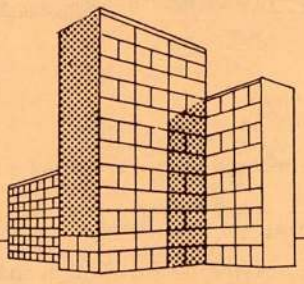
関西煖房工業株式会社

本　社　大阪市住吉区万代東6ノ3　電話 大阪(672)1281(大代表)
堺工場　堺市浜寺石津町中2ノ200　電話 堺（3）7301(代　表)
和泉工場　和泉市観音寺町220　電話 和泉 (41)4151(代　表)
出張所　名古屋・広　島・福　岡・徳　島

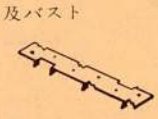
綜合建築設計への道

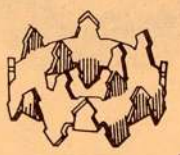


設計部　1．各種鉄骨・鉄筋コンクリート造建築の設計監理
2．ダイヤモンドトラス・ジグザグトラス・平行トラス等各種大張間鉄骨造の設計監理

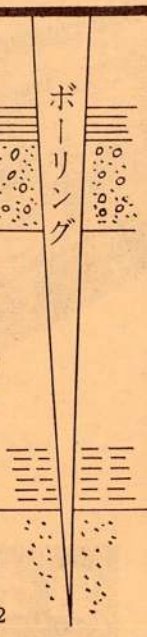


金物部　1．耐震耐風木材接合金具の製造販売
PAT．O式（織本式）ヂベル及クランプ
2．鉄筋の接手及末端定着金具
PAT．パコ及パスト





地質部　ボーリング・建築物基礎工事の為の土質調査



株式会社　**織本建築事務所**　所長 織本道三郎
（旧織本建築設計々算事務所・織本特殊構造研究所・合体）
東京都中央区日本橋かきがら町3の2　電話(671) 6443・7007・7062

内　装　資　材
専　門　店

建　材　の　室谷

室谷商事株式会社

本　社　神戸市生田区北長狭通４－１（英和ビル）
直通電話　神戸（33）0881～３
支　店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル５階 502号室)
直通電話　大阪（312）2031～４
倉　庫　神戸市葺合区八幡通１－５（電話㉒2923）

全国で好評の……
新興の繊維壁！

〈新発売〉
和室・洋室にピッタリの 美しい調和です！

龍鳳・桃山壁・昭和壁

●清　流　●錦上壁Ｋ　●パビロン壁
●大和壁　●日本壁　●カセロンウォール
●新興壁　●新日本壁　●チエリーウォール
●ほたる　●蛍光壁　●スーパーウォール
●錦上壁　●いすゞかべ

●防錆剤エバコン　●耐湿剤オートン　●化学糊スーパーシンケン糊
（全国有名建材店にあります）



株式会社 新興建材工業所
大阪市西区四ツ橋　電話(541)5756～9



陸屋根防水には

特許 絶縁工法を

カッパー防水帯

コーパータイト

特許 奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8の3　電話 (571)2703～4・2370・4064・0264
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話 (811)3660

●御申越次第カタログ進呈

新しい時代の
燃えない建築資材

切らずにそのまま張り上げられる豊富なサイズのへり折り石膏ボード：

ニュータイガーボード

キレツがでない——あくがでない——施工が早い——塗りよい石膏プラスター：

YNプラスター



吉野石膏株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25（新大ビル）
TEL（341）2556～9番
本　社　東京都千代田区神田司町2－13（和光ビル）
TEL（231）6681（代表）
支店　福岡　営業所　札幌・仙台・名古屋・広島
関係会社　菱化吉野石膏・チッソ吉野石膏
宇部吉野石膏・住鉱吉野石膏

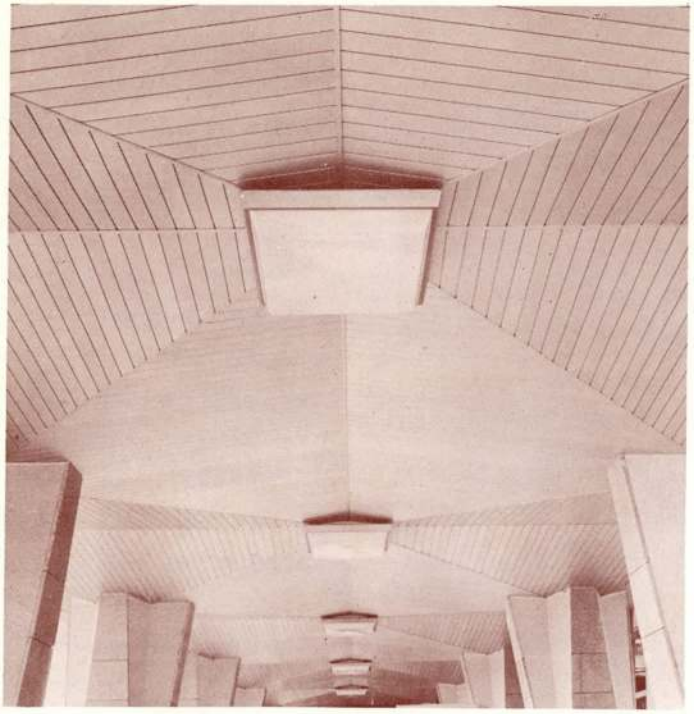
（カタログ進呈）

広告目次 (50音順) 建築と社会 昭和41年 Vol. 47 No. 1

ア kk朝日工業社 …… 141
浅海電気kk …… 142
イ インシナー工業kk …… 7
伊奈製陶kk …… 112
岩元工業kk …… 146
エ kkＡＢＣ商会 …… 111
kk栄興商会 …… 141
永和工業kk …… 5
オ オリエンタルメタル製造kk……21
小田正kk ……36
小俣シャッター工業kk ……88
kk大阪城口研究所 …… 140
大阪耐酸工業所 ……74
大阪電気暖房kk …… 140
大島応用化学工業kk …… 123
kk奥村重兵衛商店 ……122・152
奥山化工業kk …… 150
kk織本建築事務所 …… 148
カ 亀井kk …… 146
kk川岸窯業商店 …… 144
関西煖房工業kk …… 148
関西三星タイル会 ……表 4
キ 近畿工業kk ……22
近畿電気工事kk …… 147
ク 工藤電気kk …… 142
kk久保商店 …… 123
栗原工業kk …… 142
(有)黒川化学工業所 …… 146
ケ kk建材社 …… 140
コ kkゴール… ……35
江東電気kk …… 142
合同特許建材工業kk …… 143
サ 斎久工業kk …… 140
kk斎藤省三商店 …… 140
三栄建材工業kk ……22
三機工業kk …… 140
kk三幸商会 …… 143
kk三晃商会 …… 140
kk三興社 …… 143
三宝電機kk …… 142
シ シポレックス販売kk ……37
敷島金物kk …… 3
kk新興建材工業所…… 149
ス 須賀工業kk …… 140
kk鈴木シヤタア商会 ……92
住友金属工業kk …… 8
タ ダイケンサッシkk …… 152
田島応用化工kk ……表 2
田中工業kk …… 123
kk田中風呂製作所 …… 146
田辺工業kk ……84
第一企業kk …… 141
第一工業kk …… 141
大日本硝子工業kk …… 145
kk大　仏 …… 143
高砂熱学工業kk …… 141
kk武智工務所 …… 122
kk谷山鉄工所 ……87
チ 中央電気工業kk …… 142
朝陽電気kk …… 142
ト 東京カーテンオール工業kk …… 146
東光電気工事kk …… 143
東洋キヤリア工業kk …… 141
東洋リノリュームkk …… 1
ナ ナニワ瓦kk …… 144
内外建材kk ……75
内外工業kk …… 146
中本電気kk …… 142
浪速合板kk …… 144
ニ kkニッカナ …… 3
日新工業kk …… 110
日本アスファルト防水工業協同組合…… 6
日本エレベータ工業kk …… 148
日本管工業kk …… 141
日本建鉄kk ……表 3
kk日本シヤッター製作所…表 3
kk日本セメント防水剤製造所……表 3
日本綜合防水kk…… 2
日本ドアーチエック製造kk……21
日本熱学工業kk …… 141
日本冷熱工産kk …… 144
kk西原衛生工業所 …… 140
ハ kk林塗装店 …… 143
ヒ 美素工業kk ……24
美素建物管理kk ……24
kk平川鉄工所 ……表 2
kk平田タイル …… 145
平山工業kk …… 141
フ フタバ黒板 …… 144
二葉屋装備工業kk …… 145
富士製鉄kk …… 147
富士電業kk …… 143
マ 松下電器産業kk …… 109
松平式白蟻殺滅予防所 …… 144
kk満点製作所 …… 139
ミ ミヅシマ工業kk …… 2
kk三高製作所 …… 139
水谷ペイントkk ……81
湊商事kk …… 4
ム 室谷商事kk …… 149
モ 森井電業kk …… 142
ヤ kkヤマト電気商会 …… 142
八千代電設工業kk …… 143
kk矢橋大理石商店 …… 143
山田工業kk …… 140
山本窯業化工kk ……80
ユ kk油脂化工社 ……表 3
ヨ kk吉田芳雄商店 …… 144
吉野石膏kk …… 150
リ 理研鋼機kk …… 141

◎恒例の**賀正広告**（5日会・10日会その他）は紙面の都合上，目次は省略させていただきます。ただし124頁から138頁まで記載してあります。

アルミニウム天井　　鉄鋼会館



日進式ボード下地　　新阪急ビル



ボード下地や　アルミニウムの
仕事につきましては　何卒
奥村重兵衛商店に　ご照会下さい

大阪市北区木幡町60番地
K.K.奥村重兵衛商店
電話　大阪 ㊱ 4131(代)
福岡出張所 電話 福岡 ② 6460


大阪証券会館

モダンな
都市美を
創る……

ダイケンの

カーテンウォール

▶米国ヴァリーメタル社と技術提携◀

◆営業品目◆
アルミ
ステンレス　サッシ／ドア
スチール
防潮パネル
アルミレディーメード
サッシ／ドア

ダイケンサッシ株式会社

本社・工場	堺市松屋町1－6	TEL ㊳ 1141
営業部	大阪市西区靱本町1－109(富士ビル)	(532) 1141
鳳工場	堺市平岡町48	TEL (7) 1565～6
東京営業所	東京都千代田区平河町1－1	TEL (261) 6641
名古屋営業所	名古屋市東区東新町4(イースタンビル)	(94)3911
福岡営業所	福岡市舞鶴2丁目1の24	TEL (74) 5406
金沢営業所	金沢市下新町13	TEL (31) 3427～8
長野代理店	長野市吉田東町1251	TEL (3) 2729

日本建鉄の

PS型レデイメードサッシ

アルミサッシドア

日本建鉄株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2－8　TEL.東京（201）0341(代)
大阪支店　大阪市北区梅田町47(新阪神ビル)　TEL.大阪（361）6758(代)

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

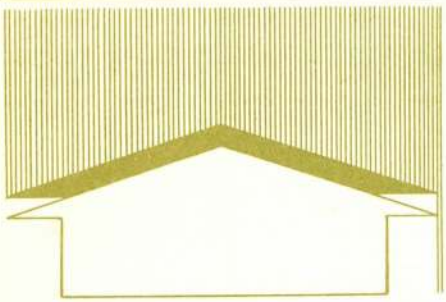
ウォータイトB号



株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28－1　電話　宝塚（6）2153
大阪事務所　大阪市東区船越町2－31（船越ビル）　電話（941）2626(直通)
出張所電話　東京（431）8648・名古屋㉜1331
ウォータイト式防水工事代行店電話　大三工業高松②8697　安藤工事　仙台㉓0721・札幌⑤7171　福岡③5765　豊永建材　広島⑥6371

型仕様書贈呈



モルタル・コンクリート用

マノール

●防水工事責任施工

製品

●セメント混和剤のトップ……

ご一報次第カタログ進呈します

防水剤
急結剤
A　号
接着剤
剥離剤

株式会社 油脂化工社

本　社　東京都品川区大井1－15　電話(771)0195(代表)
大阪営業所　大阪市東区西平2－48　電話(971)4765・0063

防火シヤッター

甲種
乙種

☆電動式
☆手動式
☆バランス
☆パイプ

株式會社 日本シヤッター製作所

本社工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地
電話（大阪）(301) 代3656～9番
工場　東京　福岡　支店営業所　名古屋　高松　岡山　高知
代行販売店　全国主要都市ニアリ

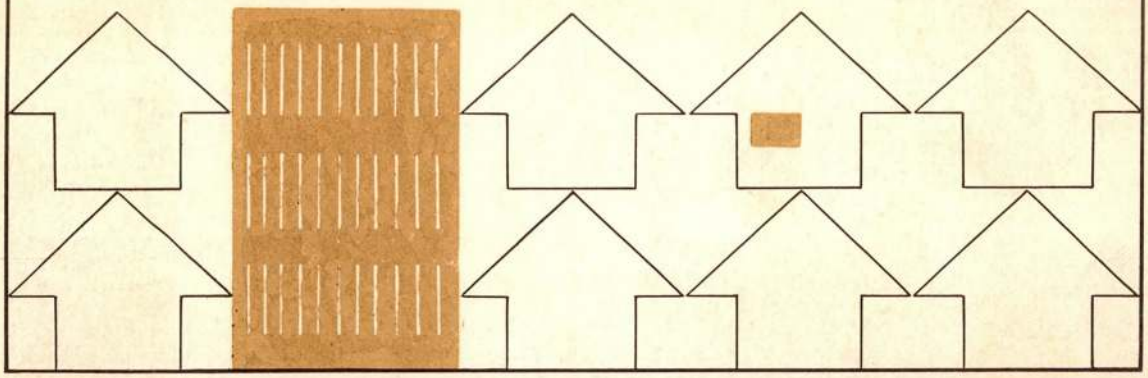
昭和二十四年三月十九日　第三種郵便物認可　昭和四十一年一月二十日印刷　昭和四十一年一月廿五日発行（毎月廿五日発行）

総てのビルに住宅に法定不燃建材を

朝日フレキシブルボード
姉妹品　朝日カラーボード
朝日スレート
大浪7．5山・小浪
吹付石綿 朝日プロベスト

建設省認定工場 不燃 NO.3012

ASK
朝日石綿工業株式会社
大阪支店　大阪市北区神山町四三 電話 大阪 (38) 8521代表
本社　東京銀座七
営業所　東京、横浜、名古屋、岡山、新居浜、門司、札幌
工場　東京、横浜、山梨、名古屋、大阪、岡山、門司、宮城



三星の床材
ソフトンタイル

株式会社 木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話(441) 5408・5486(443) 2700

株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5
電話(341) 0207～8・4836～7

三友工業株式会社大阪支店
大阪市西区南堀江大通1の19 電話 (541) 6161～4

合名会社 利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20(道頓堀電停前) 電話(211) 0571～4
販売部分室 電話(211) 6923・0575
京都営業所 京都市中京区河原町夷川下ル (23) 3277・3279

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話(632) 0121～4

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話 ㊧ 2697・2140・9151

株式会社 タテバヤシ商店
京都市下京区大宮通四条下ル
電話 (81) 0871～2

岡田建材株式会社
名古屋市西区桜木町3－8
電話 (571) 7461－3

株式会社 名建商会
名古屋市中区宮出町4.1ノ2
電話 (261) 3671～2・3848

日東物産株式会社
本社・名古屋市中区東瓦町39 電話(261)2501代表
岐阜出張所・岐阜市竹屋町27 電話③2201・2360

青盛建材株式会社
本社・広島市鉄砲町5番16号 電話代表(21)2281
岡山・岡山市東田町3 電話代表(23)8285
福岡・福岡市万行寺前町14 電話代表(2)5668
松江・松江市西津田町258 電話 ② 6796

関西三星タイル会員

売価 一部 金二〇〇円（送料共）

ご入会のお申込は……
「建築と社会」発行所　社団法人 日本建築協会 大阪市東区北浜3－37　電話大阪(231)9648・9649・9640
振替口座大阪 3 9 9 7 5 番